

# 上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(5)

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・  
中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵  
文化財発掘調査報告書 8分冊中の第5分冊

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第36集 —

## 図 表 編

1991

群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(5)

前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・  
中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵  
文化財発掘調査報告書 8分冊中の第5分冊

一 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第36集一

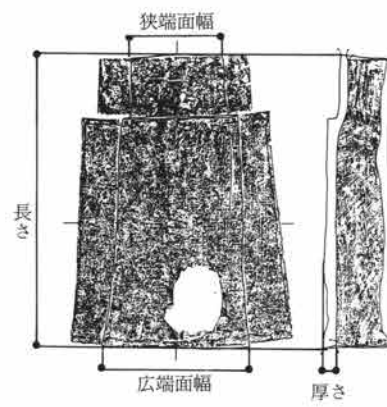
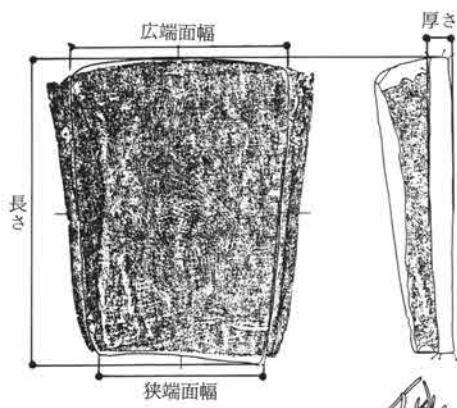
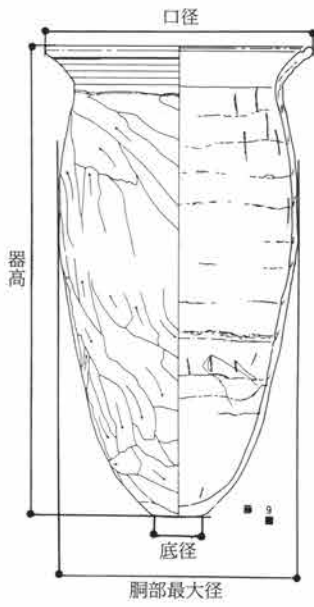
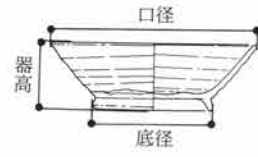
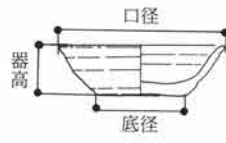
## 図 表 編

1991

群馬県教育委員会  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団







秋大



## 遺構観察表

住居跡一覧表 (A・B・C・D区)

区・住	平面形状	規 模	基準辺	摘 要	区・住	平面形状	規 模	基準辺	摘 要
D・1	隅丸矩形	3.03 × 3.17	北		C・19	矩形状	3.70+ $\alpha$ ×3.57	不分明	
D・2	長方形	3.28 × 4.06	西		C・20	縦長方形	2.90 × 2.20	西	
D・3	長方形	3.42 × 2.39	南		C・21	長方形	4.08 × 4.97	西	
D・4	隅丸矩形	3.00 × 2.48	東		C・22	縦長方形	4.03 × 2.93	北	
D・5	不整長方形	(3.08) × 4.37	西		C・23	—			
D・6	不整長方形	3.30 × 4.03	南		C・24	縦長方形	3.25 × 2.27	北	
D・7	長方形	3.50 × 3.53	北		C・25	縦長方形	3.53 × 2.97	南か	
D・8	不整長方形	3.07 × 3.36	西		C・26	横長方形	3.27 × 2.22	西	
D・9	不整長方形	4.02 × 4.80	西		C・28	縦長方形	4.92 × 3.68	北・西	
D・10	隅丸方形	4.11 × 3.58	西		C・27	梯形	2.9? × 2.83	南	
D・11	不整方形状	3.62 × 3.50	南		C・29	横長方形	3.15 × 4.38	東・北	
D・12	隅丸長方形	3.78 × 4.16	北		C・34	横長方形か	3.15×(2.75+ $\alpha$ )	西	
D・13	隅丸長方形	(2.00) × 2.58	南		C・37	矩形	2.70 × 2.50	南	
D・14	不整五角形	5.51 × 4.15	南		C・38	長方形か	1.80+ $\alpha$ ×3.00	不詳	
D・15	不整方形	3.88 × 3.83	西		C・39	—			
D・16	不整方形	4.58 × 3.88	南		C・40	—			
D・17	隅丸長方形	3.18 × 4.48	西		C・41	不整形か	2.95+ $\alpha$ ×4.36	南	
D・18	不整方形	3.35 × 3.79	北		C・42	横長方形	2.63 × 3.68	西	
D・19	不整方形	(2.73) × 2.90			C・43	矩形気味	3.20 × 3.45	南・北	
D・20	不整形	3.03 × 2.28	東		C・44	梯形	3.85 × 3.30	西	
D・21	隅丸長方形	2.63 × 2.94	南		C・45	正方形	2.42 × 2.40	西	
D・22	不整方形	4.80 × 4.96	西		C・46	矩形	2.87 × 3.10	北・西	
D・23	不整長方形	3.43 × 3.89	西		C・47	—			
D・24	正方形	3.35 × 3.18	南		C・48	不明分	4.50×3.50+ $\alpha$	不分明	
D・25	不整方形	(3.58) × 3.60	南		C・49	不明分	1.05+ $\alpha$ ×3.36	不分明	
D・26	梯台状	4.13 × 3.39	北		C・50	矩形	3.80 × 4.50	北	
D・27	隅丸長方形	3.83 × 3.92	北		C・51	—			
D・28	不整長方形	5.10 × 3.68	北		C・53	矩形	2.44 × 2.74	西・南	
D・29	不整方形	4.08 × 4.00	南か		C・54	—			
D・30	隅丸長方形	3.90 × 4.19	北		C・55	横長方形	3.72 × 4.27	南	
D・31	不整長方形	4.73 × 4.27	西		C・56	正方形	3.23 × 3.50	北	
D・36	梯形成	3.92 × (4.77)	北か		C・57	横長方形	2.75 × 3.47	南	
D・37	不整長方形	3.40 × 3.64	北		C・58	横長方形	3.47 × 4.30	西・北	
D・38	隅丸長方形	2.63 × 3.57	西		C・62	横長方形	2.50 × 3.37	西	
D・39	不整方形	2.79 × (3.10)	北		C・63	縦長方形	3.0? × 2.70	不分明	
D・40	不整長方形	3.68 × 4.63	南		C・65	横長方形	3.33 × 4.83	西・東か	
D・41	隅丸長方形	3.13 × 3.70	西		C・66	横長方形	2.50 × 3.00	南	
D・42	不整方形	3.47 × 3.68	西		C・67	正方形	3.30 × 2.73	西か	
D・43	隅丸長方形	2.95 × 3.51	西か		C・68	梯形	3.50 × 3.70	南・北	
D・44	不整方形	4.55 × 4.55	北か		C・70	梯形	2.75 × 2.97	不分明	
D・46	不整長方形	4.00 × 3.29	南		C・71	縦長方形	2.95+ $\alpha$ ×2.82	南か	
D・47	隅丸長方形	(3.58) × 4.72	西		C・72	正方形	3.86 × 3.95	西か	
C・1	矩形	4.39 × 4.59	南		C・140	縦長方形	4.93 × 3.30	北か	
C・2	不整長方形	3.77 × 3.78	北か		C・83	—			
C・3	不整形	4.38 × 4.58	北		C・73	横長方形	3.86 × 4.55	東・北	
C・4	隅丸方形	(2.08) × 3.37			C・74	横長方形	3.15(3.65)×4.69	北	
C・5	隅丸方形	4.08 × 3.59	北		C・76	梯形	3.8×3.6・4.65	南	
C・6	不整方形	4.27 × 4.38	西		C・77	横長方形	3.32 × 4.55	南・西	
C・7	隅丸長方形	2.19 × 2.53	北		C・81	正方形か	4.86? × 4.20+ $\alpha$	不分明	
C・8	長方形	4.50 × 6.13	西		C・78	矩形	(3.08) × (4.00)	北か	
C・9	不詳	X × 5.25	北か		C・79	正方形	4.18 × 4.08	北・西	
C・10	不詳	X × 3.20	不詳		C・80	矩形	4.87+ $\alpha$ ×3.80	北か	
C・11	不整長方形	3.87 × 2.95	北		C・82	梯形	3.80(2.83)×2.87	南か	
C・12	矩形	3.06 × 2.80	南か		C・84	矩形	3.08 × 3.60	西か	
C・13	長方形	4.00 × 2.83	南か		C・85	—			
C・14	正方形基調	3.80 × 3.80	南		C・86	—			
C・15	正方形基調	3.08 × 3.20	西		C・87	—			
C・16	矩形	2.93 × 3.35	西		C・88	—			
C・17	長方形か	2.75×2.8+ $\alpha$	西		C・107	横長方形	2.60×2.86+ $\alpha$	北・東	
C・18	正方形基調	2.80 × 2.90	東		C・108	矩形か	3.38×3.00+ $\alpha$	北	

遺構観察表

区・住	平面形状	規 模	基準辺	摘 要	区・住	平面形状	規 模	基準辺	摘 要
C・89	—				B・28	正方形	3.15 × 3.20	西	
C・100	—				B・29	横長方形	1.80+ $\alpha$ ×2.57	不分明	
C・110	—				B・30	正方形	2.28 × 2.60	不分明	
C・120	—				B・32	不分明	— × —	不分明	
C・96	縦長方形	3.90 × 3.10	北・南		B・34	不分明	— × 3.67?	不分明	
C・97	横長方形	3.10 × 4.15	不分明		B・31	正方形か	2.26+ $\alpha$ ×3.86	不分明	
C・99	矩形か	2.70×2.20+ $\alpha$	不分明		B・33	不分明	2.30+ $\alpha$ ×2.80	不分明	
C・149	横長方形	3.00 × 3.80	西か		B・35	横長方形	(2.35)×(3.1)	不分明	
C・104	横長方形	2.65+ $\alpha$ ×3.42	不分明		B・38	縦長方形	3.23 × 2.80	北か	
C・105	正方形	2.67×2.70	西		B・39	隅丸方形	3.65 × 4.12	不分明	
C・106	—				B・40	不整形	(3.70)×3.30	北	
C・121	—				B・41	縦長方形か	3.50×1.68+ $\alpha$	不分明	
C・127	—				B・42	不分明	2.40×1.00+ $\alpha$	西か	
C・128	—				B・44	横長方形	2.40 × 3.00	西	
C・129	—				B・45	横長方形	3.72×3.30+ $\alpha$	不分明	
C・133	—				B・49	矩形	3.30 × 3.18	西	
C・109	正方形か	3.30×3.15+ $\alpha$	西か		B・50	縦長方形	3.60 × 2.83	北	
C・103	長横長方形	2.94×7.10+ $\alpha$	東か		B・51	横長方形	6.00 × 4.35	東か	
C・147	—				B・53	横長方形	2.84 × 4.23	西か	
C・113	矩形	3.58 × 3.10	東か		B・54	矩形状	4.60 × 5.80	南か	
C・114	不詳	2.92×2.30+ $\alpha$	西・北		B・55	不詳	2.40+ $\alpha$ ×4.23	南か	
C・115	矩形か	2.91+ $\alpha$ ×3.58	北か		B・56	矩形状	3.10 × 3.60	南か	
C・116	矩形	3.3×2.96~3.3	北・西		B・57	横長方形	4.14 × 4.80	西	
C・137	—				B・58	横長方形基調	3.83 × 4.60	南	
C・118	—				B・59	横長方形基調	3.52 × 4.80	東	
C・119	—				B・60	横長方形	3.60×4.30	不分明	
C・123	—				B・61	不詳	1.20+ $\alpha$ ×3.20 (3.50)	不分明	
C・124	矩形	3.00 × (2.80)	西		B・62	横長方形	2.34×3.97	西か	
C・134	矩形	2.16 × 1.89	西・南		B・64	矩形	4.80×4.32	北	
C・135	正方形	3.16 × 3.30	北か		B・68	正方形	3.10 × 3.16	北	
C・138	正方形	2.55×2.45+ $\alpha$	不分明		B・65	不分明	5.12×3.12+ $\alpha$	北	
C・142	正方形か	2.85×1.93+ $\alpha$	不分明		B・67	縦長方形	(4.28)×3.30	不詳	
C・143	縦長方形	4.08 × 3.37	北		B・73	長方形基調	4.64 × 3.82	東	
C・145	—				B・74	横長方形	3.20 × 3.74	西か	
C・144	梯形	5.20 × 5.80	西		B・75	横長方形	2.89 × 3.72	西	
C・146	—				B・76	横長方形	2.65 × 3.44	西	
C・148	横長方形	3.08×4.20+ $\alpha$	西か		B・77	正方形基調	3.33 × 3.50	南	
C・150	不分明	3.92×1.86+ $\alpha$	北か		B・78	縦長方形	4.46 × 3.48	不分明	
C・151	—				B・79	横長方形	2.70 × 3.46	南・西	
C・152	縦長方形	2.90 × 2.38	不分明		B・80	矩形	3.64 × 3.80	南・東	
C・153	縦長方形	3.20 × 2.7?	不分明		B・81	正方形基調	3.35×3.50	北	
B・1	横長方形	3.00 × 3.60	西・南		B・82	横長方形	3.76 × 5.26	西・北	
B・2	横長方形	2.50 × 3.62	西		B・83	正方形基調	4.30 × 4.40	南	
B・3	縦長方形	3.70 × 2.72	南		B・85	横長方形	3.12 × 4.30	東か	
B・4	梯形	3.7×4.3・3.0	西		B・86	横長方形	3.42 × 4.52	東・南	
B・5	正方形	4.32×3.9(5.1)	北西		B・87	縦長方形	6.08 × 4.53	不分明	
B・6	横長方形	2.60 × 3.20	西か		B・88	横長方形	2.85 × 3.50	不分明	
B・7	縦長方形	4.48 × 3.60	南		B・108	横長方形形状	2.45 × 3.60	北か	
B・8	縦長方形	3.25 × 2.55	北		B・89	横長方形	2.92 × 4.43	不分明	
B・9	—				B・90	縦長方形	3.74 × 2.67	北	
B・10	正方形基調	3.00 × 3.15	東		B・91	横長方形	2.60 × 3.30	西	
B・11	正方形	3.68 × 3.72	西		B・92	横長方形形状	3.85 × 4.60	南か	
B・13	横長方形	2.84 × (3.84)	不分明		B・93	横長方形	3.06 × 4.06	東	
B・14	横長方形	3.50 × 4.90	西		B・94	正方形形状	3.60 × 3.10	西・北	
B・15	横長方形	2.78 × 3.65	西か		B・109	—			
B・16	横長方形	3.10 × 4.38	北		B・95	横長方形	3.60 × 4.52	西	
B・17	横長方形	2.7×3.5(3.0)	西		B・96	横長方形	2.20 × 3.18	北・西	
B・18	横長方形	2.53 × 3.80	北か		B・97	—			
B・19	不分明	3.23 × X	不分明		B・98	不整形	3.86 × 2.82	南	
B・20	横長方形	2.68 × 3.55	北・西		B・99	正方形	4.20×3.62+ $\alpha$	北か	
B・21	不分明	2.00+ $\alpha$ ×3.20	不分明		B・100	—			
B・22	横長方形	3.00 × 4.16	不分明		B・127	縦長方形	3.73 × 3.06	不詳	
B・23	不分明	2.40+ $\alpha$ ×3.59	西・北		B・182	—			
B・24	横長方形	3.20 × 5.00	西		B・101	—			
B・25	不分明	1.60+ $\alpha$ ×2.43			B・102	横長方形	3.84×4.84+ $\alpha$	南	
B・27	—								

住居跡一覧表 (A・B・C・D区)

区・住	平面形状	規 模	基準辺	摘 要	区・住	平面形状	規 模	基準辺	摘 要
B・103	横長方形	2.67 × 3.10	北		B・172	—			
B・104	横長方形	2.60 × 3.58	南		B・173	—			
B・105	横長方形形状	2.70 × 3.48	西		B・174	不分明	1.96+ $\alpha$ ×3.83	不分明	
B・106	矩形状	2.70 × 3.34	西		B・175	不分明	2.32+ $\alpha$ ×4.55	不分明	
B・107	横長方形形状	2.50 × 3.45	不詳		B・181	—			
B・110	横長方形	2.14 × 3.12	西か		B・183	—			
B・111	横長方形形状	2.40 × 3.22	南		B・184	特殊か	3.78+ $\alpha$ ×3.20	南か	
B・112	—				B・185	—			
B・113	横長方形か	3.76×2.60+ $\alpha$	南か		A・21	矩形	2.90 × 3.08	南か	
B・114	—				A・22	横長方形	3.63 × 5.52	西	
B・115	横長方形	2.35 × 3.15	西・南		A・23	矩形	3.35 × 3.75	西	
B・116	横長方形	2.54 × (3.00)	西か		A・26	正方形	4.64 × 4.80	西・北	
B・117	矩形状	2.77 × 3.41	不詳		A・118	正方形	3.80 × 3.27	南・北	
B・118	横長方形	2.90 × 3.77	西		A・119	—			
B・119	矩形	3.20 × 3.65			A・155	矩形	2.77 × 3.26	北・西	
B・120	横長方形	3.65 × 5.93	不分明		A・156	正方形	4.08 × 4.23	西・北	
129					A・157	縦長方形	4.50	× 3.66	北
B・122	横長方形基調	2.91 × 3.76	西		A・158	特殊形	4.00 × 4.87 3.50	東・北	
B・123	横長方形	2.36×3.50+ $\alpha$	不詳		A・159	正方形基調	3.10 × 3.47	北	
B・121	—				A・160	横長方形	2.80 × 3.95	西か	
B・124	縦長方形	7.20 × 3.84	不分明		A・161	正方形基調	5.15 × 5.57	西	
B・125	横長方形	4.32 × 5.72	西		A・162	正方形基調	3.60 × 3.40	西か	
B・126	横長方形	2.98 × 4.02	不分明		A・163	—			
B・149	横長方形か	2.83 × 3.60?	不分明		A・164	横長方形か	3.15×2.67+ $\alpha$		
B・128	矩形	3.20 × 3.45	東・南		A・165	縦長方形	4.00 × 2.80	南か	
B・130	縦長方形	3.30 × 3.45	南か		A・166	縦長方形	4.20 × 3.34	不分明	
B・131	横長方形	3.83 × 6.06	北か		A・174	横長方形	2.84 × 3.50	西	
B・132	不分明	1.60+ $\alpha$ ×4.02	不分明		A・175	正方形か	2.60×1.96+ $\alpha$	北か	
B・133	矩形	3.41 × 3.00	北か		A・176	正方形基調	3.20 × 3.54	北か	
B・134	横長方形	3.70 × 4.80	東		A・177	縦長方形	3.16 × 2.56	南・北	
B・135	矩形	3.28 × 2.95	西か		A・178	矩形	2.90 × 3.39	南	
B・136	縦長方形	2.10 × 2.56	南か		A・179	正方形基調	5.00 × 4.40	西南	
B・137	横長方形	2.58×3.60+ $\alpha$	東か		A・180	矩形	3.20 × 3.80	不分明	
B・138	矩形	3.50 × 4.00	西		A・181	矩形	2.80 × 2.50	南	
B・139	梯形	2.90 × 3.40	西		A・182	横長方形	3.70 × 5.25	北	
B・140	—				A・186	不分明	2.46+ $\alpha$ ×2.45+ $\alpha$	南か	
B・153	横長方形	(2.55)×(3.65)	不分明		A・187	縦長方形基調	4.30 × 3.56	南	
B・141	縦長方形	3.83 × 2.86	不分明		A・200	正方形	3.60 × 3.80	北か	
B・142	横長方形	3.03 × 4.30	全壁か		A・188	横長方形	2.34 × 3.55	西	
B・143	横長方形	(3.50)×(5.10)	不分明		A・189	正方形基調か	3.10+ $\alpha$ ×3.94	不分明	
B・151	—				A・190	正方形基調	2.75 × 2.90	北・西・南	
B・144	縦長方形	4.58 × 3.53	北か		A・191	正方形	2.95 × 2.93	南	
B・145	不分明	4.04+ $\alpha$ ×4.50	北か		A・192	横長方形	4.40 × 6.24	西	
B・146	矩形か	3.62×3.75+ $\alpha$			A・193	縦長方形	4.10 × 3.72	不分明	
B・147	不分明	2.53+ $\alpha$ ×5.00	南か		A・194	縦長方形基調	2.70 × 2.20	不分明	
B・148	正方形	(3.40)× 3.40	不分明		A・195	正方形	5.70 × 5.40	西	
B・150	横長方形	3.42 × 4.67	北・西		A・196	正方形か	4.80×3.00+ $\alpha$ (4.80)	西	
B・152	横長方形か	3.95+ $\alpha$ ×4.50	東・北		A・197	横長方形	3.21 × 2.00	南	
B・158	—				A・198	不分明	1.80+ $\alpha$ ×3.98	西か	
B・180	矩形	(6.00)× 7.03	四壁か		A・199	正方形	5.50 × 5.40	不分明 (南か)	
B・160	横長方形	3.20 × 4.05	西		A・201	縦長方形	2.65 × 1.95	西か	
B・161	横長方形か	3.00×2.90+ $\alpha$	南か		A・202	横長方形	3.70 × 2.40	南か	
B・161B	横長方形	3.22 × 3.90	西・北		A・204	横長方形	? × ?	不分明	
B・162	横方形か	2.50×3.83+ $\alpha$	南か		A・207	縦長方形	7.18 × 6.15	南	
B・162B	横長方形	3.50 × 4.50	西・東		A・208	正方形	4.50 × 4.60	四壁	
B・163	正方形状か	2.80×2.80+ $\alpha$	不分明						
B・164	矩形か	4.26×4.44+ $\alpha$	北・東						
B・165	横長方形	4.32×5.60+ $\alpha$	不分明						
B・166	正方形	4.20 × 4.30	北か						
B・167	横長方形	2.60×3.45+ $\alpha$ (4.00)	西						
B・168	正方形	3.50 × 3.70	南か						
B・169	矩方形	3.30×3.50+ $\alpha$ (3.80)	西						
B・170	不分明	3.95×2.05+ $\alpha$							
B・171	正方形	4.00 × 4.20	西						

遺構観察表

B区土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方向	規模 (単位cm)			備考
				長	幅	深度	
B区第31号土坑	41-B-42	円形	N-60°-S	39	32	29	
B区第32号土坑	43-B-42	不整円形	N-51°-S	72	63	26	
B区第34号土坑	37-B-38	//		(87)	68	52	
B区第35号土坑	36-B-38			(165)	(127)	51	
B区第36号土坑	37-B-38	不整円形		154	(150)	44	
B区第37号土坑	36-B-39			(112)	(77)	57	
B区第38号土坑	36-B-39			(102)	(74)	54	
B区第39号土坑	17-B-39	円形	N-132°-S	110	92	54	須恵器・埴・蓋
B区第45号土坑	31-B-37	隋円形	N-19°-S	130	100	23	
B区第58号土坑	31-B-43	円形		28	24	12	
B区第59号土坑	31-B-44	//		34	33	17	
B区第63号土坑	44-B-34	//		57	50	12	
B区第80号土坑	43-B-44	//		92	84	11	土師器・埴
B区第96号土坑	41-B-20			(67)	——	14	第1分冊で縄文扱いの土坑・土師器・埴・甕。須恵器・埴・石器
B区第101号土坑	18-B-43	円形		136	135	36	第1分冊で縄文扱いの土坑。須恵器埴・甕・蓋
B区第104号土坑	17-B-43	不整円形		72	60	27	
B区第109号土坑	41-B-14	不整方形	N-12°-S	126	108	12	第1分冊で縄文扱いの土坑。須恵器・埴
B区第120号土坑	44-B-20	円形		(58)	(58)	21	須恵器・埴・甕
B区第144号土坑	1-B-39		N-57°-S	166	130	12	第1分冊で縄文扱いの土坑。
B区第147号土坑	00-B-35			200	——	16	第1分冊で縄文扱いの土坑。土師器・埴
B区第148号土坑	4-B-37		N-109°-S	(144)	129	32	第1分冊で縄文扱いの土坑。土師器・埴
B区第150号土坑	5-B-34	隋円形	N-0°-S	247	177	54	第1分冊で縄文扱いの土坑。須恵器・埴・甕・羽釜
B区第163号土坑	19-B-51	円形	N-41°-S	64	50	12	第1分冊で縄文扱いの土坑。土師器・埴。須恵器・蓋

A区土坑一覧表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方向	規模 (単位cm)			備考
				長	幅	深度	
A区第4号土坑	26-A-27	方形	N-89°-S	201	172	27	須恵器・埴
A区第8号土坑	18-A-26	円形		160	100	56	瓦
A区第9号土坑	18-A-27	不整円形	N-69°-S	58	42	55	
A区第11号土坑	32-A-25	円形		113	106	44	第1分冊で縄文扱いの土坑。
A区第55号土坑	27-A-50	隋円形	N-163°-S	113	70	42	
A区第67号土坑	37-A-34	隅丸方形	N-131°-S	164	128	26	第1分冊で縄文扱いの土坑。
A区第142号土坑	35-A-38	隋円形	N-18°-S	122	97	71	土師器・甕
A区第143号土坑	29-A-41			98	(75)	10	
A区第144号土坑	29-A-40	円形	N-6°-S	86	82	11	須恵器・埴
A区第145号土坑	28-A-40	//		111	106	4	
A区第178号土坑	48-A-37	//		111	102	27	第1分冊で縄文扱いの土坑。土師器・甕
A区第183号土坑	49-A-36		N-142°-S	397	(288)	28	第1分冊で縄文扱いの土坑。
A区第225号土坑	43-A-42			206	168	15	
A区第241号土坑	30-A-26	方形	N-3°-S	96	90	9	
A区第256号土坑	45-A-38	円形		47	44		須恵器・埴
A区第261号土坑	40-A-29	隋円形	N-75°-S	103	82	37	
A区第265号土坑	40-A-32	不整円形	N-56°-S	80	66	61	
A区第266号土坑	41-A-31	//	N-116°-S	85	66	69	
A区第272号土坑	34-A-39	//	N-15°-S	94	72	30	
A区第286号土坑	39-A-32	//	N-141°-S	75	60	32	
A区第287号土坑	42-A-36	//		84	82	46	瓦
A区第295号土坑	38-A-33	円形		47	44	27	

B・A区土坑一覽表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方向	規模 (単位cm)			備考
				長	幅	深度	
A区第327号土坑	48-A-49		N-87°-S	(88)	86	32	
A区第330号土坑	45-A-48	不整円形	N-29°-S	104	82	17	
A区第332号土坑	44-A-49	隋円形	N-2°-S	190	150	40	

遺構観察表

A・B区土坑一覽表

区	No	時期	摘要	区	No	時期	摘要	区	No	時期	摘要
B	31		今 次	B	91	縄文	第1分冊内付図	B	151	縄文	第1分冊内付図
"	32		"	"	92	"	"	"	152	"	"
"	欠 33		"	"	93	"	"	"	153	"	"
"	34		今 次	"	94	"	"	"	154	"	"
"	35		"	"	95	"	"	"	155	"	"
"	36		"	"	96		今 次	"	156	"	"
"	37		"	"	97	"	"	"	157	"	"
"	38		"	"	98	"	"	"	158	"	"
"	39		"	"	99	"	"	"	159	"	"
"	40	縄文	第1分冊内付図	"	100	"	"	"	欠 160		
"	41	"	"	"	101		今 次	"	欠 161		
"	42		"	"	102	縄文	第1分冊内付図	"	欠 162		
"	43		"	"	103	"	"	"	163		今 次
"	44	縄文	第1分冊内付図	"	104		今 次	"	164	縄文	第1分冊内付図
"	45	"	今 次	"	105	縄文	第1分冊内付図	"	165	"	"
"	46	縄文	第1分冊内付図	"	欠 106		"	"	166	"	"
"	47	"	"	"	107	縄文	第1分冊内付図	"	167	"	"
"	48	"	"	"	108	"	"	"	168	"	"
"	49		"	"	109		今 次	"	169	"	"
"	50		"	"	110	縄文	第1分冊内付図	"	170	"	"
"	51	縄文	第1分冊内付図	"	111	"	"	"	171	"	"
"	52	"	"	"	112	"	"	"	172	"	"
"	53	"	"	"	113	"	"	"	173	"	"
"	54		"	"	114	"	"	"	174	"	"
"	55	縄文	第1分冊内付図	"	115	"	"	"	175	"	"
"	56		"	"	116	"	"	"	176	"	"
"	57	縄文	第1分冊内付図	"	117	"	"	"	177	"	"
"	58		今 次	"	118	"	"	"	178	"	"
"	59		"	"	119	"	"	"	179	"	"
"	欠 60		"	"	120		今 次	"	180	"	"
"	61	縄文	第1分冊内付図	"	欠 121	縄文	第1分冊内付図	"	181	"	"
"	62	"	"	"	122	"	"	"	182	"	"
"	63		今 次	"	123	"	"	"	183	"	"
"	64	縄文	第1分冊内付図	"	124	"	"	"	184	"	"
"	65	"	"	"	125	"	"	"	185	縄文	第1分冊内付図
"	66	"	"	"	126	"	"	"	186	"	"
"	67	"	"	"	127	"	"	"	187	"	"
"	68	"	"	"	128	"	"	"	188	"	"
"	69	"	"	"	129	"	"	"	189	"	"
"	70	"	"	"	130	"	"	"	190	"	"
"	71	"	"	"	131	"	"	"	191	"	"
"	72	"	"	"	132	"	"	"	192	"	"
"	73	"	"	"	133	"	"	"	193	"	"
"	74	"	"	"	134	"	"	"	194	"	"
"	75	"	"	"	135	"	"	"	195	"	"
"	76	"	"	"	欠 136		"	"	196		
"	77	"	"	"	137	縄文	第1分冊内付図	"	197		
"	78	"	"	"	138	"	"	"	198		
"	79	"	"	"	欠 139		"	"	199	縄文	第1分冊内付図
"	80		今 次	"	140	縄文	第1分冊内付図	"	200	"	"
"	81	縄文	第1分冊内付図	"	141	"	"	"	201	"	"
"	82	"	"	"	142	"	"	"	202	"	"
"	欠 83		"	"	欠 143	"	"	"	203	"	"
"	84	縄文	第1分冊内付図	"	144		今 次	"	204	"	"
"	85	"	"	"	145	縄文	第1分冊内付図	"	205	"	"
"	86	"	"	"	146	"	"	"	206	"	"
"	87	"	"	"	147		今 次	"	207	"	"
"	欠 88		"	"	148		"	"	208	縄文	第1分冊内付図
"	欠 89		"	"	149	縄文	第1分冊内付図	"	209	"	"
"	90	縄文	第1分冊内付図	"	150		今 次	"	210	"	"



A・B区土坑一覽表

区	No	時 期	摘 要	区	No	時 期	摘 要	区	No	時 期	摘 要
B	211	縄文	第1分冊内付図	B	271			B	331	縄文	第1分冊内付図
"	212			"	272			"	332	"	"
"	213	縄文	第1分冊内付図	"	273			"	333	"	"
"	214	"	"	"	274			"	334	"	"
"	215	"	"	"	275			"	335	"	"
"	216	"	"	"	276			"	336	"	"
"	217	"	"	"	277			"	337	"	"
"	218	"	"	"	278			"	338	"	"
"	219	"	"	"	279			"	339		
"	220	"	"	"	280			"	340		
"	221	"	"	"	281			"	341		
"	222	"	"	"	282			"	342		
"	223	"	"	"	283			"	343		
"	224	"	"	"	284			"	344		
"	225	"	"	"	285			"	345		
"	226	"	"	"	286			"	346		
"	227	"	"	"	287	縄文	第1分冊内付図	"	347		
"	228	"	"	"	288			"	348		
"	229			"	289			"	349		
"	230			"	290			"	350		
"	231			"	291			"	351		
"	232			"	292			"	352	縄文	第1分冊内付図
"	233			"	293			"	353	"	"
"	234			"	294			"	354	"	"
"	235			"	295	縄文	第1分冊内付図	"	355	"	"
"	236			"	296	"	"	"	356	"	"
"	237			"	297	"	"	"	357	"	"
"	238			"	298	"	"	"	358	"	"
"	239			"	299	"	"	"	359		
"	240			"	300	"	"	"	360		
B	241	縄文	第1分冊内付図	"	301	"	"	"	361		
"	242	"	"	"	302	"	"	"	362		
"	243			"	303	"	"	"	363		
"	244			"	304	"	"	"	364		
"	245			"	305	"	"	"	365		
"	246	縄文	第1分冊内付図	"	306	"	"	"	366		
"	247	"	"	"	307	"	"	"	367		
"	248	"	"	"	308			"	368		
"	249	"	"	"	309	縄文	第1分冊内付図	"	369		
"	250	"	"	"	310	"	"	"	370		
"	251	"	"	"	311	"	"	"	371		
"	252	"	"	"	312	"	"	"	372		
"	253	"	"	"	313	"	"	"	373		
"	254	"	"	"	314	"	"	"	374		
"	255	"	"	"	315	"	"	"	375		
"	256	"	"	"	316	"	"	"	376		
"	257	"	"	"	317	"	"	"	377		
"	258	"	"	"	318	"	"	"	378		
"	259	"	"	"	319	"	"	"	379		
"	260	"	"	"	320	"	"	"	380		
"	261	"	"	"	321	"	"	"	381		
"	262	"	"	"	322	"	"	"	382		
"	263	"	"	"	323	"	"	"	383		
"	264	"	"	"	324			"	384		
"	265	"	"	"	325	縄文	第1分冊内付図	"	385		
"	266	"	"	"	326	"	"	"	386		
"	267	"	"	"	327	"	"	"	387		
"	268	"	"	"	328	"	"	"	388		
"	269	"	"	"	329	"	"	"	389		
"	270			"	330	"	"	"	390		

遺構観察表

区	No.	時 期	摘 要	区	No.	時 期	摘 要	区	No.	時 期	摘 要
B	391	縄文	第1分冊内付図	B	451	縄文	第1分冊内付図	B	511		
"	392	"	"	"	452	"	"	"	512		
"	393	"	"	"	453	"	"	"	513	縄文	第1分冊内付図
"	394	"	"	"	454	"	"	"	514	"	"
"	395	"	"	"	455	"	"	"	515	"	"
"	396	"	"	"	456	"	"	"	516	"	"
"	397	"	"	"	457	"	"	"	517	"	"
"	398	"	"	"	458	"	"	"	518	"	"
"	399	"	"	"	459	"	"	"	519	"	"
"	400			"	460	"	"	"	520	"	"
"	401	縄文	第1分冊内付図	"	461	"	"	"	521	"	"
"	402	"	"	"	462	"	"	"	522	"	"
"	403	"	"	"	463	"	"	"	523	"	"
"	404	"	"	"	464	"	"	"	524	"	"
"	405	"	"	"	465	"	"	"	525	"	"
"	406	"	"	"	466	"	"	"	526	"	"
"	407	"	"	"	467	"	"	"	527	"	"
"	408	"	"	"	468	"	"	"	528	"	"
"	409	"	"	"	469	"	"	"	529	"	"
"	410	"	"	"	470	"	"	"	530	"	"
"	411	"	"	"	471	"	"	"			
"	412	"	"	"	472	"	"	"			
"	413	"	"	"	473	"	"	"			
"	414	"	"	"	474	"	"	"			
"	415	"	"	"	475	"	"	"			
"	416	"	"	"	476	"	"	"			
"	417	"	"	"	477	"	"	"			
"	418	"	"	"	478	"	"	"			
"	419	"	"	"	479	"	"	"			
"	420	"	"	"	480	"	"	"			
"	421	"	"	"	481	"	"	"			
"	422	"	"	"	482	"	"	"			
"	423	"	"	"	483	"	"	"			
"	424	"	"	"	484	"	"	"			
"	425	"	"	"	485	"	"	"			
"	426	"	"	"	486	"	"	"			
"	427	"	"	"	487	"	"	"			
"	428	"	"	"	488	"	"	"			
"	429	"	"	"	489	"	"	"			
"	430	"	"	"	490	"	"	"			
"	431	"	"	"	491	"	"	"			
"	432	"	"	"	492	"	"	"			
"	433	"	"	"	493	"	"	"			
"	434	"	"	"	494	"	"	"			
"	435	"	"	"	495	"	"	"			
"	436	"	"	"	496	"	"	"			
"	437	"	"	"	497	"	"	"			
"	438	"	"	"	498	"	"	"			
"	439	"	"	"	499	"	"	"			
"	440	"	"	"	500	"	"	"			
"	441	"	"	"	501	"	"	"			
"	442	"	"	"	502	"	"	"			
"	443	"	"	"	503	"	"	"			
"	444	"	"	"	504	"	"	"			
"	445	"	"	"	505	"	"	"			
"	446	"	"	"	506	"	"	"			
"	447	"	"	"	507	"	"	"			
"	448	"	"	"	508	"	"	"			
"	449	"	"	"	509	"	"	"			
"	450	"	"	"	510	"	"	"			

B 区

A・B区土坑一覽表

区	No.	時 期	摘 要	区	No.	時 期	摘 要	区	No.	時 期	摘 要
A	欠 1			A	61	繩文	第1分冊内付図	A	119		第6分冊掲載予定
	2		今 次		62		〃		120		〃
	欠 3				63		第6分冊掲載予定		121		〃
	4		今 次		欠 63		〃		122		〃
	5		第6分冊掲載予定		64	繩文	第1分冊内付図		欠 123		
	6		〃		65		〃		124	繩文	第1分冊内付図
	7	繩文	第1分冊内付図		欠 66		〃		125		〃
	8		今 次		67		今 次		126		〃
	9		今 次		68	繩文	第1分冊内付図		127		第6分冊掲載予定
	10				69		〃		128	繩文	第1分冊内付図
	11	今次	第6分冊掲載予定		70		〃		129		第6分冊掲載予定
	12		第6分冊掲載予定		71		〃		130		〃
	欠 13				72		〃		131	繩文	第1分冊内付図
	14		第6分冊掲載予定		73		〃		132		〃
	欠 15				74		〃		133		第6分冊掲載予定
	16		第6分冊掲載予定		75		〃		134	繩文	第1分冊内付図
	17		〃		76		〃		135		第6分冊掲載予定
	欠 18				77		〃		136	繩文	第1分冊内付図
	欠 19				78		〃		欠 137		
	20		第6分冊掲載予定		79		〃		138	繩文	第1分冊内付図
	21	繩文	第1分冊内付図		80		〃		139		〃
	欠 22				81		〃		140		〃
	23		第6分冊掲載予定		82		第6分冊掲載予定		141		〃
	24		〃		83	繩文	第1分冊内付図		142		今 次
	25	繩文	第1分冊内付図		84		〃		143		〃
	欠 26				85		〃		144		〃
	欠 27				86		〃		145		〃
	欠 28				87		〃		146	繩文	第1分冊内付図
	29		第6分冊掲載予定		88		〃		147		〃
	30	繩文	第1分冊内付図		89		〃		148		〃
	31		〃		90		〃		149		〃
	32		〃		90		〃		150		〃
	33		〃		91		〃		151		〃
	34		〃		92		〃		152		〃
	35		〃		93		〃		153		〃
	36		〃		94		〃		154		〃
	37		第6分冊掲載予定		95		〃		155		〃
	38				96		〃		156		〃
	欠 39				97		〃		157		〃
	40	繩文	第1分冊内付図		98		〃		158		〃
	41		第6分冊掲載予定		99		〃		欠 159		
	42		〃		100		〃		160		第6分冊掲載予定
	43	繩文	第1分冊内付図		101		〃		161	繩文	第1分冊内付図
	44		第6分冊掲載予定		102		〃		162		〃
	45	繩文	第1分冊内付図		103		〃		163		〃
	46		第6分冊掲載予定		104		〃		164		〃
	47		〃		105		〃		165		〃
	48		〃		106		〃		166		〃
	49		〃		107		〃		欠 167		
	50		〃		108		〃		168	繩文	第1分冊内付図
	51	繩文	第1分冊内付図		109		〃		169		〃
	52		第6分冊掲載予定		110		〃		170		〃
	欠 53				111		〃		欠 171		
	54		第6分冊掲載予定		112		〃		欠 172		
	55		今 次		113		〃		173	繩文	第1分冊内付図
	56		第6分冊掲載予定		114		〃		174		〃
	57		〃		115		〃		175		〃
	欠 58				116		〃		176		〃
	59		第6分冊掲載予定		117		〃		177		〃
	60		〃		118		〃		178		今 次

遺構観察表

区	No.	時 期	摘 要	区	No.	時 期	摘 要	区	No.	時 期	摘 要
A	179	縄文	第1分冊内付図	A	239	縄文	第1分冊内付図	A	298	縄文	第1分冊内付図
〃	欠180			〃	240	〃	〃	〃	299		第6分冊掲載予定
〃	181	縄文	第1分冊内付図	〃	241		今 次	〃	300	縄文	第1分冊内付図
〃	182	〃	〃	〃	242	縄文	第1分冊内付図	〃	301	〃	〃
〃	183	〃	今 次	〃	243	〃	〃	〃	302	〃	〃
〃	184	縄文	第1分冊内付図	〃	244	〃	〃	〃	303	〃	〃
〃	185	〃	〃	〃	245	〃	〃	〃	304	〃	〃
〃	186	〃	〃	〃	246	〃	〃	〃	305	〃	〃
〃	187	縄文	第1分冊内付図	〃	247	〃	〃	〃	306	〃	〃
〃	188	〃	〃	〃	248	〃	〃	〃	307	〃	〃
〃	189	〃	〃	〃	249	〃	〃	〃	308	〃	〃
〃	190	〃	〃	〃	250	〃	〃	〃	309	〃	〃
〃	191		第6分冊掲載予定	〃	251	〃	〃	〃	310	〃	〃
〃	192	縄文	第1分冊内付図	〃	252	〃	〃	〃	311	〃	〃
〃	193	〃	〃	〃	253	〃	〃	〃	312	〃	〃
〃	194	〃	〃	〃	254	〃	〃	〃	313	〃	〃
〃	195	〃	〃	〃	255	〃	〃	〃	314	〃	〃
〃	欠196			〃	256		今 次	〃	315	〃	〃
〃	197	縄文	第1分冊内付図	〃	257	縄文	第1分冊内付図	〃	316	〃	〃
〃	198	〃	〃	〃	欠258			〃	317	〃	〃
〃	199	〃	〃	〃	259	縄文	第1分冊内付図	〃	318	〃	〃
〃	200	〃	〃	〃	260	〃	〃	〃	欠319		
〃	201	〃	〃	〃	261		今 次	〃	320	縄文	第1分冊内付図
〃	201	〃	〃	〃	262	縄文	第1分冊内付図	〃	321	〃	〃
〃	203	〃	〃	〃	263	〃	〃	〃	322	〃	〃
〃	204	〃	〃	〃	264	〃	〃	〃	323	〃	〃
〃	205	〃	〃	〃	265		今 次	〃	324	〃	〃
〃	206	〃	〃	〃	266	〃	〃	〃	325	〃	〃
〃	207	〃	〃	〃	267	縄文	第1分冊内付図	〃	326	〃	〃
〃	208	縄文	第1分冊内付図	〃	268	〃	〃	〃	327		今 次
〃	209	〃	〃	〃	269	〃	〃	〃	328	縄文	第1分冊内付図
〃	210	〃	〃	〃	270	〃	〃	〃	329	〃	〃
〃	欠211			〃	271	〃	〃	〃	330		今 次
〃	212	縄文	第1分冊内付図	〃	272		今 次	〃	331	縄文	第1分冊内付図
〃	213	〃	〃	〃	273	縄文	第1分冊内付図	〃	332	〃	今 次
〃	214	〃	〃	〃	274	〃	〃	〃	333	縄文	第1分冊内付図
〃	215	〃	〃	〃	275	〃	〃	〃	334	〃	〃
〃	216	〃	〃	〃	276	〃	〃	〃	335	〃	〃
〃	217	〃	〃	〃	277	〃	〃	〃	336	縄文	第1分冊内付図
〃	218	〃	〃	〃	278	〃	〃	〃	337	〃	〃
〃	欠219			〃	279	〃	〃	〃	338	〃	〃
〃	220	縄文	第1分冊内付図	〃	280	〃	〃	〃	339	〃	〃
〃	221	〃	〃	〃	281	〃	〃	〃	340	〃	〃
〃	222	〃	〃	〃	282	〃	〃	〃	341	〃	〃
〃	223	〃	〃	〃	283	〃	〃	〃	342	〃	〃
〃	224	〃	〃	〃	284	〃	〃	〃	343	〃	〃
〃	225		今 次	〃	285	〃	〃	〃	344	〃	〃
〃	226	縄文	第1分冊内付図	〃	286		今 次	〃	345	〃	〃
〃	227	〃	〃	〃	287	〃	〃	〃	346	〃	〃
〃	228	〃	〃	〃	288	縄文	第1分冊内付図	〃	347	縄文	第1分冊内付図
〃	229	〃	〃	〃	289	〃	〃	〃	348	〃	〃
〃	欠230			〃	290	〃	〃	〃	349	〃	〃
〃	欠231			〃	291	〃	〃	〃	350	〃	〃
〃	232	縄文	第1分冊内付図	〃	292	〃	〃	〃	351	〃	〃
〃	欠233			〃	293	〃	〃	〃	352	〃	〃
〃	234	縄文	第1分冊内付図	〃	294	〃	〃	〃	353	〃	〃
〃	235	〃	〃	〃	295		今 次	〃	354	縄文	第1分冊内付図
〃	236	〃	〃	〃	296	縄文	第1分冊内付図	〃	355	〃	〃
〃	欠237			〃	297	〃	〃	〃	356	〃	〃
〃	238	縄文	第1分冊内付図	〃	298	〃	〃	〃	357	〃	〃

A・B区土坑一覽表

区	No	時 期	摘 要	区	No	時 期	摘 要	区	No	時 期	摘 要
A	358			A	418	繩文	第1分冊内付図	A	477	繩文	第1分冊内付図
〃	359			〃	419	〃	〃	〃	478	〃	〃
〃	360	繩文	第1分冊内付図	〃	420	〃	〃	〃	479	〃	〃
〃	361	〃	〃	〃	421	〃	〃	〃	480	〃	〃
〃	362	〃	〃	〃	422	〃	〃	〃	481	〃	〃
〃	363	〃	〃	〃	423	〃	〃	〃	482	〃	〃
〃	364	〃	〃	〃	424	〃	〃	〃	483	〃	〃
〃	365	〃	〃	〃	425	〃	〃	〃	484	〃	〃
〃	366	〃	〃	〃	426	〃	〃	〃	485	〃	〃
〃	367	〃	〃	〃	427	〃	〃	〃	486	〃	〃
〃	368	〃	〃	〃	428	〃	〃	〃	487	〃	〃
〃	369	〃	〃	〃	429	繩文	第1分冊内付図	〃	488	〃	〃
〃	370	〃	〃	〃	430	〃	〃	〃	489	〃	〃
〃	371	〃	〃	〃	431	〃	〃	〃	490	〃	〃
〃	372	〃	〃	〃	432	〃	〃	〃	491	繩文	第1分冊内付図
〃	373	〃	〃	〃	433	〃	〃	〃	492	〃	〃
〃	374	〃	〃	〃	434	〃	〃	〃	493	〃	〃
〃	375	〃	〃	〃	435	繩文	第1分冊内付図	〃	494	〃	〃
〃	376	〃	〃	〃	436	〃	〃	〃	495	繩文	第1分冊内付図
〃	377	〃	〃	〃	437	〃	〃	〃	496	〃	〃
〃	378	〃	〃	〃	437	〃	〃	〃	497	〃	〃
〃	379	〃	〃	〃	438	〃	〃	〃	498	〃	〃
〃	380	〃	〃	〃	439	〃	〃	〃	499	〃	〃
〃	381	繩文	第1分冊内付図	〃	440	〃	〃	〃	500	〃	〃
〃	382	〃	〃	〃	441	〃	〃	〃	501	〃	〃
〃	383	〃	〃	〃	442	〃	〃	〃	502	〃	〃
〃	384	〃	〃	〃	443	〃	〃	〃	503	〃	〃
〃	385	〃	〃	〃	444	〃	〃	〃	504	繩文	第1分冊内付図
〃	386	〃	〃	〃	445	〃	〃	〃	505	〃	〃
〃	387	〃	〃	〃	446	〃	〃	〃	506	〃	〃
〃	388	〃	〃	〃	447	〃	〃	〃	507	〃	〃
〃	389	〃	〃	〃	448	〃	〃	〃	508	〃	〃
〃	390	〃	〃	〃	449	〃	〃	〃	509	繩文	第1分冊内付図
〃	391	〃	〃	〃	450	〃	〃	〃	510	〃	〃
〃	392	〃	〃	〃	451	〃	〃	〃	511	〃	〃
〃	393	〃	〃	〃	452	〃	〃	〃	512	〃	〃
〃	394	〃	〃	〃	453	〃	〃	〃	513	〃	〃
〃	395	繩文	第1分冊内付図	〃	454	〃	〃	〃	514	〃	〃
〃	396	〃	〃	〃	455	〃	〃	〃	515	〃	〃
〃	397	〃	〃	〃	456	〃	〃	〃	516	〃	〃
〃	398	〃	〃	〃	457	〃	〃	〃	517	繩文	第1分冊内付図
〃	399	〃	〃	〃	458	〃	〃	〃	518	〃	〃
〃	400	〃	〃	〃	459	〃	〃	〃	519	〃	〃
〃	401	〃	〃	〃	460	〃	〃	〃	520	〃	〃
〃	402	〃	〃	〃	461	〃	〃	〃	521	〃	〃
〃	403	〃	〃	〃	462	〃	〃	〃	522	〃	〃
〃	404	〃	〃	〃	463	〃	〃	〃	523	〃	〃
〃	405	繩文	第1分冊内付図	〃	464	〃	〃	〃	524	〃	〃
〃	406	〃	〃	〃	465	〃	〃	〃	525	繩文	第1分冊内付図
〃	407	〃	〃	〃	466	〃	〃	〃	526	〃	〃
〃	408	〃	〃	〃	467	〃	〃	〃	527	〃	〃
〃	409	〃	〃	〃	468	〃	〃	〃	528	〃	〃
〃	410	〃	〃	〃	469	〃	〃	〃	529	〃	〃
〃	411	〃	〃	〃	470	〃	〃	〃	530	〃	〃
〃	412	〃	〃	〃	471	〃	〃	〃	531	繩文	第1分冊内付図
〃	413	〃	〃	〃	472	〃	〃	〃	532	〃	〃
〃	414	〃	〃	〃	473	〃	〃	〃	533	〃	〃
〃	415	〃	〃	〃	474	〃	〃	〃	534	〃	〃
〃	416	〃	〃	〃	475	〃	〃	〃	535	〃	〃
〃	417	〃	〃	〃	476	〃	〃	〃	536	〃	〃

遺構観察表

区	No	時 期	摘 要	区	No	時 期	摘 要	区	No	時 期	摘 要
A	537			A	597	縄文	第1分冊内付図	A	657	縄文	第1分冊内付図
〃	538	縄文	第1分冊内付図	〃	598	〃	〃	〃	658	〃	〃
〃	539	〃	〃	〃	599	〃	〃	〃	659	〃	〃
〃	540	〃	〃	〃	600	〃	〃	〃	660	〃	〃
〃	541			〃	601	〃	〃	〃	661	〃	〃
〃	542			〃	602	〃	〃	〃	662	〃	〃
〃	543			〃	603	〃	〃	〃	663	〃	〃
〃	544			〃	604	〃	〃	〃	664	〃	〃
〃	545			〃	605	〃	〃	〃	665	〃	〃
〃	546			〃	606	〃	〃	〃	666	〃	〃
〃	547			〃	607	〃	〃	〃	667	〃	〃
〃	548			〃	608	〃	〃	〃	668	〃	〃
〃	549			〃	609	〃	〃	〃	669	〃	〃
〃	550			〃	610	〃	〃	〃	670	〃	〃
〃	551			〃	611	〃	〃	〃	671	〃	〃
〃	552			〃	612	〃	〃	〃	672	〃	〃
〃	553			〃	613	〃	〃	〃	673	〃	〃
〃	554	縄文	第1分冊内付図	〃	614	〃	〃	〃	674	〃	〃
〃	555	〃	〃	〃	615	〃	〃	〃	675	〃	〃
〃	556	〃	〃	〃	616	縄文	第1分冊内付図	〃	676	〃	〃
〃	557	〃	〃	〃	617	〃	〃	〃	677	〃	〃
〃	558	〃	〃	〃	618	〃	〃	〃	678	〃	〃
〃	559	〃	〃	〃	619	〃	〃	〃	679	〃	〃
〃	560	〃	〃	〃	620	〃	〃	〃	680	〃	〃
〃	561	〃	〃	〃	621	〃	〃	〃	681	〃	〃
〃	562	〃	〃	〃	622	〃	〃	〃	682	〃	〃
〃	563	〃	〃	〃	623	〃	〃	〃	683	〃	〃
〃	564	〃	〃	〃	624	〃	〃	〃	684	〃	〃
〃	565	〃	〃	〃	625	〃	〃	〃	685	〃	〃
〃	566	〃	〃	〃	626	〃	〃	〃	686	〃	〃
〃	567	〃	〃	〃	627	〃	〃	〃	687	〃	〃
〃	568	〃	〃	〃	628	〃	〃	〃	688	〃	〃
〃	569	〃	〃	〃	629	〃	〃	〃	689	〃	〃
〃	570	〃	〃	〃	630	〃	〃	〃	690	〃	〃
〃	571	〃	〃	〃	631	〃	〃	〃	691	〃	〃
〃	572	〃	〃	〃	632	〃	〃	〃	692	〃	〃
〃	573	〃	〃	〃	633	〃	〃	〃	693	〃	〃
〃	574	〃	〃	〃	634	〃	〃	〃	694	〃	〃
〃	575	〃	〃	〃	635	〃	〃	〃	695	〃	〃
〃	576	〃	〃	〃	636	縄文	第1分冊内付図	〃	696	〃	〃
〃	577	〃	〃	〃	637	〃	〃	〃	697	〃	〃
〃	578	〃	〃	〃	638	〃	〃	〃	697	〃	〃
〃	579	〃	〃	〃	639	〃	〃	〃	698	〃	〃
〃	580	〃	〃	〃	640	〃	〃	〃	699	〃	〃
〃	581	〃	〃	〃	641	〃	〃	〃	700	縄文	第1分冊内付図
〃	582	〃	〃	〃	642	〃	〃	〃	701	〃	〃
〃	583	〃	〃	〃	643	〃	〃	〃	702	〃	〃
〃	584	〃	〃	〃	644	〃	〃	〃	703	〃	〃
〃	585	〃	〃	〃	645	〃	〃	〃	704	〃	〃
〃	586	〃	〃	〃	646	〃	〃	〃	705	〃	〃
〃	587	〃	〃	〃	647	〃	〃	〃	706	〃	〃
〃	588	〃	〃	〃	648	〃	〃	〃	707	〃	〃
〃	588	〃	〃	〃	649	〃	〃	〃	708	〃	〃
〃	590	〃	〃	〃	650	縄文	第1分冊内付図	〃	709	〃	〃
〃	591	〃	〃	〃	651	〃	〃	〃	710	〃	〃
〃	592	〃	〃	〃	652	〃	〃	〃	711	〃	〃
〃	593	〃	〃	〃	653	〃	〃	〃	712	〃	〃
〃	594	〃	〃	〃	654	〃	〃	〃	713	〃	〃
〃	595	〃	〃	〃	655	〃	〃	〃	714	〃	〃
〃	596	〃	〃	〃	656	〃	〃	〃	715	〃	〃

## A・B区土坑一覽表

区	No	時 期	摘 要	区	No	時 期	摘 要	区	No	時 期	摘 要
A	716	縄文	第1分冊内付図	A	776	縄文	第1分冊内付図	A	835		
〃	717	〃	〃	〃	777	〃	〃	〃	836		
〃	718	〃	〃	〃	778	〃	〃	〃	837		
〃	719	〃	〃	〃	779	〃	〃	〃	838	縄文	第1分冊内付図
〃	720	〃	〃	〃	780	〃	〃	〃	839		
〃	721	〃	〃	〃	781	〃	〃	〃	840		
〃	722	〃	〃	〃	782	〃	〃	〃	841	縄文	第1分冊内付図
〃	723			〃	783	〃	〃	〃	842		〃
〃	724	縄文	第1分冊内付図	〃	784	〃	〃	〃	843		〃
〃	725	〃	〃	〃	785	〃	〃	〃	844		〃
〃	726	〃	〃	〃	786	〃	〃	〃	845		〃
〃	727	〃	〃	〃	787	〃	〃	〃	846		〃
〃	728	〃	〃	〃	788	〃	〃	〃	847		〃
〃	729	〃	〃	〃	789	〃	〃	〃	848		〃
〃	730	〃	〃	〃	790	〃	〃	〃	849		〃
〃	731	〃	〃	〃	791	〃	〃	〃	850		〃
〃	732	〃	〃	〃	792	〃	〃	〃	851		〃
〃	733	〃	〃	〃	793	〃	〃	〃	852		〃
〃	734	〃	〃	〃	794	〃	〃	〃	853		〃
〃	735	〃	〃	〃	795	〃	〃	〃	854		〃
〃	736	〃	〃	〃	795	〃	〃	〃	855		〃
〃	737	〃	〃	〃	796			〃	856		〃
〃	738	〃	〃	〃	797	縄文	第1分冊内付図	〃	857		〃
〃	739	〃	〃	〃	798	〃	〃	〃	858		〃
〃	740	〃	〃	〃	799	〃	〃	〃	859		〃
〃	741	〃	〃	〃	800	〃	〃	〃	860		〃
〃	742	〃	〃	〃	801	〃	〃	〃	861		〃
〃	743	〃	〃	〃	802	〃	〃	〃	862		〃
〃	744	〃	〃	〃	803	〃	〃	〃	863		〃
〃	745	〃	〃	〃	804	〃	〃	〃	864		〃
〃	746	〃	〃	〃	805	〃	〃	〃	865		〃
〃	747	〃	〃	〃	806	〃	〃	〃	866		〃
〃	748	〃	〃	〃	807	〃	〃	〃	867		〃
〃	749	〃	〃	〃	808	〃	〃	〃	868		〃
〃	750	〃	〃	〃	809	〃	〃	〃	869		〃
〃	751	〃	〃	〃	810	〃	〃	〃	870		〃
〃	752	〃	〃	〃	811	〃	〃	〃	871		〃
〃	753	〃	〃	〃	812	〃	〃	〃	872		〃
〃	754	〃	〃	〃	813	〃	〃	〃	873		〃
〃	755	〃	〃	〃	814	〃	〃	〃	874		〃
〃	756	〃	〃	〃	815	〃	〃	〃	875	縄文	第1分冊内付図
〃	757	〃	〃	〃	816	〃	〃	〃	876		〃
〃	758	〃	〃	〃	817	〃	〃	〃	877	縄文	第1分冊内付図
〃	759	〃	〃	〃	818	〃	〃	〃	878	〃	〃
〃	760	〃	〃	〃	819	〃	〃	〃	879		〃
〃	761	〃	〃	〃	820	〃	〃	〃	880	縄文	第1分冊内付図
〃	762	〃	〃	〃	821	〃	〃	〃	881	〃	〃
〃	763	〃	〃	〃	822	〃	〃	〃	882	〃	〃
〃	764	〃	〃	〃	823	〃	〃	〃	883	〃	〃
〃	765	〃	〃	〃	824	〃	〃	〃	884	〃	〃
〃	766	〃	〃	〃	825	〃	〃	〃	885	〃	〃
〃	767	〃	〃	〃	826	〃	〃	〃	886	〃	〃
〃	768	〃	〃	〃	827	〃	〃	〃	887	〃	〃
〃	769	〃	〃	〃	828	〃	〃	〃	888	〃	〃
〃	770	〃	〃	〃	829	〃	〃	〃	889	〃	〃
〃	771	〃	〃	〃	830	〃	〃	〃	890	〃	〃
〃	772	〃	〃	〃	831	〃	〃	〃	891	〃	〃
〃	773	〃	〃	〃	832	〃	〃	〃	892	〃	〃
〃	774	〃	〃	〃	833	〃	〃	〃	893	〃	〃
〃	775	〃	〃	〃	834	〃	〃	〃	894	〃	〃

遺構観察表

区	No.	時 期	摘 要	区	No.	時 期	摘 要	区	No.	時 期	摘 要
A	895	縄文	第1分冊内付図	A	955	縄文	第1分冊内付図	A	1015	縄文	第1分冊内付図
〃	896	〃	〃	〃	956	〃	〃	〃	1016	〃	〃
〃	897	〃	〃	〃	957	〃	〃	〃	1017	〃	〃
〃	898	〃	〃	〃	958	〃	〃	〃	1018	〃	〃
〃	899	〃	〃	〃	959	〃	〃	〃	1019	〃	〃
〃	900	〃	〃	〃	960	〃	〃	〃	1020	〃	〃
〃	901	〃	〃	〃	961	〃	〃	〃	1021	〃	〃
〃	902	〃	〃	〃	962	〃	〃	〃	1022	〃	〃
〃	903	〃	〃	〃	963	〃	〃	〃	1023	〃	〃
〃	904	〃	〃	〃	964	〃	〃	〃	1024	〃	〃
〃	905	〃	〃	〃	965	〃	〃	〃	1025	〃	〃
〃	906	〃	〃	〃	966	〃	〃	〃	1026	〃	〃
〃	907	〃	〃	〃	967	〃	〃	〃	1027	〃	〃
〃	908	〃	〃	〃	968	〃	〃	〃	1028	〃	〃
〃	909	〃	〃	〃	969	〃	〃	〃	1029	〃	〃
〃	910	縄文	第1分冊内付図	〃	970	〃	〃	〃	1030	〃	〃
〃	911	〃	〃	〃	971	〃	〃	〃	1031	〃	〃
〃	912	〃	〃	〃	972	縄文	第1分冊内付図	〃	1032	〃	〃
〃	913	〃	〃	〃	973	〃	〃	〃	1033	〃	〃
〃	914	〃	〃	〃	974	〃	〃	〃	1034	〃	〃
〃	915	〃	〃	〃	975	〃	〃	〃	1035	〃	〃
〃	916	〃	〃	〃	976	〃	〃	〃	1036	〃	〃
〃	917	〃	〃	〃	977	〃	〃	〃	1037	〃	〃
〃	918	〃	〃	〃	978	〃	〃	〃	1038	〃	〃
〃	919	〃	〃	〃	979	〃	〃	〃	1039	〃	〃
〃	920	〃	〃	〃	980	〃	〃	〃	1040	〃	〃
〃	921	〃	〃	〃	981	〃	〃	〃	1041	〃	〃
〃	922	〃	〃	〃	982	〃	〃	〃	1042	〃	〃
〃	923	〃	〃	〃	983	〃	〃	〃	1043	〃	〃
〃	924	〃	〃	〃	984	〃	〃	〃	1044	〃	〃
〃	925	〃	〃	〃	985	〃	〃	〃	1045	〃	〃
〃	926	〃	〃	〃	986	〃	〃	〃	1046	〃	〃
〃	927	〃	〃	〃	987	〃	〃	〃	1047	〃	〃
〃	928	〃	〃	〃	988	〃	〃	〃	1048	〃	〃
〃	929	〃	〃	〃	989	〃	〃	〃	1049	〃	〃
〃	930	〃	〃	〃	990	〃	〃	〃	1050	〃	〃
〃	931	〃	〃	〃	991	〃	〃	〃	1051	〃	〃
〃	932	〃	〃	〃	992	〃	〃	〃	1052	〃	〃
〃	933	〃	〃	〃	993	〃	〃	〃	1053	〃	〃
〃	934	〃	〃	〃	994	〃	〃	〃	1054	〃	〃
〃	935	〃	〃	〃	995	〃	〃	〃	1055	〃	〃
〃	936	〃	〃	〃	996	〃	〃	〃	1056	〃	〃
〃	937	〃	〃	〃	997	縄文	第1分冊内付図	〃	1057	〃	〃
〃	938	〃	〃	〃	998	〃	〃	〃	1058	〃	〃
〃	939	〃	〃	〃	999	〃	〃	〃	1059	〃	〃
〃	940	〃	〃	〃	1000	〃	〃	〃	1060	〃	〃
〃	941	〃	〃	〃	1001	〃	〃	〃	1061	〃	〃
〃	942	〃	〃	〃	1002	〃	〃	〃	1062	〃	〃
〃	943	〃	〃	〃	1003	〃	〃	〃	1063	〃	〃
〃	944	〃	〃	〃	1004	〃	〃	〃	1064	〃	〃
〃	945	〃	〃	〃	1005	〃	〃	〃	1065	〃	〃
〃	946	〃	〃	〃	1006	〃	〃	〃	1066	〃	〃
〃	947	〃	〃	〃	1007	〃	〃	〃	1067	〃	〃
〃	948	〃	〃	〃	1008	〃	〃	〃	1068	〃	〃
〃	949	〃	〃	〃	1009	〃	〃	〃	1069	〃	〃
〃	950	〃	〃	〃	1010	〃	〃	〃	1070	〃	〃
〃	951	〃	〃	〃	1011	〃	〃	〃	1071	〃	〃
〃	952	〃	〃	〃	1012	〃	〃	〃	1072	〃	〃
〃	953	〃	〃	〃	1013	〃	〃	〃	1073	〃	〃
〃	954	縄文	第1分冊内付図	〃	1014	〃	〃	〃	1074	〃	〃



A・B区土坑一覽表

区	No	時 期	摘 要	区	No	時 期	摘 要	区	No	時 期	摘 要
A	1075			A	1373	繩文	第1分冊内付図				
〃	1076	繩文	第1分冊内付図	〃	1374	〃	〃				
〃	1077	〃	〃	〃	1375	〃	〃				
〃	1078	〃	〃	〃	1376	〃	〃				
〃	1079	〃	〃	〃	1377	〃	〃				
〃	1080	〃	〃	〃	1378	〃	〃				
〃	1081	〃	〃	〃	1379	〃	〃				
〃	1082	〃	〃	〃	1380	〃	〃				
〃	1083	〃	〃	〃	1381	〃	〃				
〃	1084	〃	〃	〃	1382	〃	〃				
〃	1085	〃	〃	〃	1383	〃	〃				
〃	1086	〃	〃	〃	1384	〃	〃				
〃	1087	〃	〃	〃	1385	〃	〃				
〃	1088	〃	〃	〃	1386	〃	〃				
〃	1089	〃	〃	〃	1387	〃	〃				
〃	1090	〃	〃	〃	1388	〃	〃				
〃	1091	〃	〃	〃	1389	〃	〃				
〃	1092	〃	〃	〃	1390	〃	〃				
〃	1093	〃	〃	〃	1391	〃	〃				
〃	1094	〃	〃	〃	1392	〃	〃				
〃	1095	〃	〃	〃	1393	〃	〃				
〃	1096	〃	〃	〃	1394	〃	〃				
〃	1097	〃	〃	〃	1395	〃	〃				
〃	1098	〃	〃	〃	1396	〃	〃				
〃	1099	〃	〃	〃	1397	〃	〃				
〃	1100	〃	〃	〃	1398	〃	〃				
				〃	1399	〃	〃				
A	1340			〃	1400	〃	〃				
〃	1341			〃	1401	〃	〃				
〃	1342			〃	1402	〃	〃				
〃	1343	繩文	第1分冊内付図	〃	1403	〃	〃				
〃	1344	〃	〃	〃	1404	〃	〃				
〃	1345	〃	〃	〃	1405	〃	〃				
〃	1346	〃	〃	〃	1406	〃	〃				
〃	1347	〃	〃	〃	1407	〃	〃				
〃	1348	〃	〃	〃	1408	〃	〃				
〃	1349	〃	〃	〃	1409	繩文	第1分冊内付図				
〃	1350	〃	〃	〃	1410	〃	〃				
〃	1351	〃	〃	〃	1411	〃	〃				
〃	1352	〃	〃	〃	1412	〃	〃				
〃	1353	〃	〃	〃	1413	〃	〃				
〃	1354	〃	〃	〃	1414	〃	〃				
〃	1355	〃	〃	〃	1415	〃	〃				
〃	1356	〃	〃	〃	1416	〃	〃				
〃	1357	繩文	第1分冊内付図	〃	1417	〃	〃				
〃	1358	〃	〃	〃	1418	〃	〃				
〃	1359	〃	〃	〃	1420	〃	〃				
〃	1360	〃	〃								
〃	1361	〃	〃				A 区				
〃	1362	〃	〃								
〃	1363	〃	〃								
〃	1364	〃	〃								
〃	1365	〃	〃								
〃	1366	〃	〃								
〃	1367	〃	〃								
〃	1368	〃	〃								
〃	1369	〃	〃								
〃	1370	〃	〃								
〃	1371	〃	〃								
〃	1372	〃	〃								

## 遺物一覧表

## 遺物一覧表

## B区第5号溝跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
8-1 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.8)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は横撫で体部は篋削り。器内面に暗文を施す。	藤岡系
8-2 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
8-3 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
8-4 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
8-5 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色鉱物粒子	酸化焰	純橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁部・口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
8-6 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
8-7 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.8)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
8-8 66	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.0)	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
8-9 66	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	摘 (5.6) 口 (13.4) 高 (2.9)	黒色粒子	還元焰	白灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
8-10 66	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (12.6)	黒色粒子	還元焰	黄灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
8-11 66	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (17.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
8-12 66	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (18.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
8-13 66	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 (8.0) 高 (3.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
8-14 66	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.4) 底 9.0 高 3.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
8-15 66	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.8) 底 (8.0) 高 (3.7)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。自然釉付着	秋間系
8-16 66	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (9.0) 高 (3.7)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
8-17 66	須恵器 瓶	覆土内 破片	底 (4.0)	白色微粒子	還元焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	秋間系
8-18 66	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	底 (10.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。高台は削り出し。	秋間系
8-19 66	須恵器 甕	覆土内 破片	底 (7.6)	微粒雲母 デイスait	中性焰	外・黒内・黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
8-20 66	土師器 甕	覆土内 破片	口 (21.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
8-21 66	須恵器 葉壺蓋	覆土内 破片	摘 (4.1) 口 (13.0) 高 (4.5)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。鏝は貼り付け整形。	秋間系
8-22 66	須恵器 長頸壺	覆土内 細片	口 (10.0)	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
8-23 66	須恵器 横瓮か	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面素文・内面宛具は青海波文)。	乗附系か 秋間系
8-24 66	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。	秋間系
8-25 66	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)後轆轤再整形。	秋間系

## B区(5号溝跡)

9-1 66	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.7	黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
9-2 66	須恵器 横瓮か	覆土内 破片	厚 1.2	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系
9-3 66	須恵器 鉢	覆土内 破片	底 16.7	白色微粒子	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
9-4 66	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口(12.9) 高(29.2) 最径(41.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
9-5 66	施釉陶器 灰釉瓶	覆土内 破片	底(10.0)	密	焼締 還元焰	オリ ブ灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	—
9-6 66	施釉磁器 青磁	覆土内 細片	厚 0.4	密・やや粗い	良好	胎・灰 釉・黄 緑	轆轤成形(左回転)。釉は生懸。釉調は黄緑色を呈し小貫が多く入る。	北方諸窯
9-7 66	鉄器 釘	覆土内 完存	重 4.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。小型の釘で、頭部は折り曲げ、断面は正方形状を呈する。	—
9-8 66	鉄器 釘か	覆土内 破片	幅 0.4 重 0.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の錆化により両端側を欠損する。断面は正方形状を呈し「く」の字状に屈曲する。	—
9-9 66	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 0.9	—	—	—	釘か。断正方形を呈する。	—
9-10 66	鉄器 不詳	覆土内 破片	厚 0.25 重 6.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。板状製品で丸形状を呈すると考えられる。	—
10-1 瓦-641	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色微粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰白	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。背面撫整形。瓦当面が製作直後歪められている。	笠懸系
10-2 瓦-664	瓦 字瓦	覆土内 破片	高 5.1 厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰黄	瓦当意匠は重郭文。両面縦位の篋撫で整形。側部面取り1回。	吉井系
10-3 瓦-665	瓦 字瓦	覆土内 破片	高 4.0 厚 3.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は重郭文。女瓦部は一枚作り。凹・凸面縦位の篋撫で整形。側部面取り1回。	吉井系
10-4 67	瓦 男瓦	覆土内 1/2	玉幅 9.5 厚 1.5	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	白灰	凸面縄叩き(密)。側部面取り2回。玉縁接合はA類。	吉井系
10-5 67	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面縄叩き(密)後面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
10-6 67	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面縄叩き。側部面取り2回。	乗附系
10-7 墨書-8	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤撫整形凸面墨書「麻野郡小野郷」。側部面取り2回。	吉井系
11-1 67	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	外・黒灰 断・浅黄 橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後格子叩き整形。	笠懸系
11-2 67	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。	吉井系
11-3 67	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後格子叩き整形。	笠懸系
11-4 67	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。	笠懸系
11-5 67	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 赤褐色粒子	酸化焰 か	橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回。	吉井系
11-6 67	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き。	吉井系か 笠懸系
11-7 67	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.1	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き後縦位の轆轤撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
11-8 68	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.1	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	11図-7と同一個体	吉井系
11-9 68	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子 白色粒子 透明鉍物粒子	中性焰	灰褐 橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系

遺物一覧表

A区第6号溝跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
11-10 68	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
11-11 68	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (17.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
11-12 68	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (7.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
11-13 68	須恵器 埴	覆土内 ½	底 7.0	小角礫 微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
11-14 68	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (7.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
11-15 68	須恵器 皿	覆土内 破片	口 (15.6) 底 (10.2) 高 (2.5)	白色微粒子	還元焰	灰 断・白灰 外・黒灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
11-16 68	須恵器 壺	覆土内 破片	底 (8.0)	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。付高台。胴部下 半は回転篋撫で。	吉井系
12-1 68	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
12-2 68	瓦 男瓦	覆土内 ½	狭 12.4 厚 2.6	白色鉱物粒子 円粒礫	中性焰	鈍橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板 剥ぎ取り痕。側部面取り 3回・端部面取り 1 回。	吉井系
12-3 68	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩き。側部面取り 2回・ 端部面取り 2回。	吉井系
12-4 68	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作りか。凸面平行叩き。	吉井系
12-5 68	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩 き (密)。	秋間系
12-6 68	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	断・橙 外・黒灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回・端部面取り 3回。	吉井系
12-7 69	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕 凸面縦位の撫で整形。端部面取り 2回・側部 面取り 2回。	吉井系
12-8 68	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (3.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
12-9 68	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	口 (14.6)	密	焼締	淡灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸し掛け。	
12-10 68	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部直下は横位の篋削り。	藤岡系
12-11 68	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.8)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
12-12 68	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は篋削り。腰部は回 転篋削りを施す。	秋間系か
12-13 68	須恵器 坏	覆土内 ½	口 (13.2) 底 (8.0) 高 (4.0)	白色鉱物粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系
12-14 68	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.6)	黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。轆轤目は浅い。	吉井・藤岡系

13-1 68	須恵器 壺	覆土内 破片	底 (9.8)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
13-2 68	土師器 台付甕	覆土内 破片	—	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	外・純橙 内・浅黄 橙	紐作りか型作り成形。底部は斜位の篋削り、 内面は横位の篋撫で。	藤岡系
13-3 68	須恵器 壺	覆土内 片	底 14.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
13-4 68	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (21.0)	白色微粒子 白色鉍物粒子	中性焰	純黄橙	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。口縁は轆轤整形(右回転)。	秋間系
13-5 68	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 シルト粗粒	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
13-6 68	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.8)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、 口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
13-7 68	須恵器 壺	覆土内 片	底 2.8	微粒雲母	還元焰	断・灰 外・黒	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系

## B区第49号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
15-1 69	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 (4.7) 高 (3.5)	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
15-2 69	須恵器 坏	覆土内 片	口 (11.6) 底 5.1 高 3.7	透明鉍物粒子 雲母	中性焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
15-3 69	須恵器 坏	覆土内 破片	底 6.2	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
15-4 69	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	黒色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
15-5 69	須恵器 壺	覆土内 片	口 13.8 底 6.8 高 5.3	黒色鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
15-6 69	須恵器 壺	カマド内 片	底 5.8	微粒雲母 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
16-1 69	須恵器 壺	覆土内 片	底 (6.0)	白色粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
16-2 69	須恵器 羽釜	カマド内 破片	底 (7.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。胴部下半・底部は篋削り。	笠懸系
16-3 69	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (20.1)	白色微粒子	還元焰	白灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け、胴部下半は篋削り。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
16-4 69	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (17.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
16-5 69	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (32.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。紐作り後、轆轤整形(右 回転)。	藤岡系
16-6 69	鉄器 不詳	覆土内 破片	—	—	—	—	状態は薄鉄板状であるが、内側が中空になっ ている。	—
16-7 69	鉄器 釘か	覆土内 破片	—	—	—	—	鉄釘か。断面正方形を呈する。	—
16-8 69	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。 側部面取り1回。	吉井・藤岡系
16-9 69	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回。	秋間系
16-10 69	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面轆轤整形後板目叩き。側部面 取り2回・端部面取り1回。	吉井系
16-11 瓦-572	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.1	白色鉍物粒子	還元焰	灰	1枚作り。凸面縦位の平行叩き。凸面篋記号 か。端部面取り2回。	藤岡系

遺物一覧表

16-12 70	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.7	黒色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	1枚作り。凸面縦位の縄叩き(密)。端部面取り1回。	秋間系
16-13 70	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.1	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	1枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。	吉井系
17-1 瓦-569 69	瓦 女瓦	カマド内 ½	厚 2.0	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	1枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2+α回。篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。	藤岡系
17-2 69	瓦 女瓦	覆土内 ½	厚 1.7	白色微粒子	中性焰	灰黄	1枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	藤岡系
17-3 70	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	橙	1枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き後篋撫で整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系

B区第50号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
18-1 70	須恵器 坏蓋	カマド内 完形	口 4.0 口 13.7 高 2.5	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、天井部は回転篋削り。	秋間系
18-2 70	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (18.2)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	1に同じ。	秋間
18-3 70	須恵器 坏	床直 完形	口 12.4 底 8.4 高 3.4	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
18-4 70	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形(外面平行叩き、内面宛具面は青海波文)。	秋間か乗 附系
18-5 70	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	1枚作りか。内外面に自然釉が付着し細片の為詳細不分明。	吉井系
18-6 70	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	1枚作り。凸面縄叩き(密)。凹面自然釉付着。	吉井系

B区第52号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
19-1 70	土師器 坏	床直 完形	口 11.7 底 9.3 高 3.6	白色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は平底で篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
19-2 70	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は平底で篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
19-3 70	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.6)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙色	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
19-4 70	土師器 坏	ピット内 破片	口 (12.3) 底 (9.3) 高 (3.4)	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
19-5 70	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (15.4)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
19-6 70	須恵器 薬壺蓋	覆土内 破片	口 (13.3)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。罅は貼り付け。	秋間系
19-7 70	土師器 坏	カマド内 破片	口 (11.1) 高 (3.1)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は平底で篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
19-8 70	須恵器 坏	カマド内 ½	口 (11.6) 底 (4.8) 高 (3.5)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。	吉井系
19-9 70	須恵器 坏	貯蔵穴内 完形	口 12.2 底 7.6 高 3.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転系切り。	秋間系
19-10 71	須恵器 坏	覆土内 ½	口 12.3 底 6.4 高 4.2	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転系切り。	秋間系

## B区(50・52号住居跡)

19-11 71	須恵器 坏	床直 完形	口 13.6 底 8.5 高 3.6	小円粒礫	還元焰	外・黒灰 内・黄灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系か 乗附系
20-1 71	須恵器 坏	カマド内 一部欠損	口 13.6 底 8.1 高 3.8	白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
20-2 71	須恵器 坏	カマド内 片	口 14.1 底 8.4 高 3.3	シルト質 デイスait ローム粒子	中性焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系か
20-3 71	須恵器 坏	覆土内 片	底 6.0	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
20-4 71	須恵器 塊	貯蔵穴内 完形	口 15.1 底 8.7 高 5.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
20-5 71	須恵器 皿	貯蔵穴内 完形	口 14.5 底 9.2 高 2.9	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か 秋間系
20-6 70	須恵器 坏	カマド内 破片	底 (6.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち篋削り。	秋間系
20-7 70	須恵器 内黒土器 坏	カマド内 破片	口 (13.4) 底 (7.2) 高 (4.6)	微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙・内 面黒	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。器内面に暗文を施す。器内面を吸炭させている。	藤岡系か
20-8 71	須恵器 内黒土器 坏	カマド内 片	口 (18.8) 底 (7.5) 高 (4.5)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。器内面に横位の研磨を施こし燻す。	笠懸系
20-9 70	土師器 小型甕	カマド内 破片	口 (14.2)	微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
20-10 71	土師器 台付甕	床直 破片	—	微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り成形。胴部・底部は篋削成形。脚は貼り付け。	藤岡系
20-11 70	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
20-12 70	須恵器 平瓶	覆土内 破片	最径(17.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
20-13 70	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (15.4)	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
20-14 70	須恵器 大甕	カマド内 破片	最径(38.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)後轆轤再整形。	秋間系
22-1 70	礫 器 敲石	覆土内 完存	幅 7.1 厚 3.9	変質安山岩	—	—	小口・側部に敲打に伴う剥離が顕著である。	重550g
22-2 70	礫 器 敲石	覆土内 完存	長 12.0 幅 5.5 厚 3.8	粗粒安山岩	—	—	小口部に敲打痕がある。	重430g
22-3 70	鉄 器 釘	覆土内 ほぼ完存	重ね 0.38 重 3.9	—	—	—	尖端欠損。1寸5分長の釘と思われる。錆化は顕著。	—
22-4 70	鉄 器 釘	覆土内 破片	幅 0.85 重 16.7	—	—	—	調査後の欠損が著しい。頭部も調査後の欠損がある。	—
22-5 70	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 5.6	—	—	—	錆化が非常に著しく、全面が剥離状態になっている。	—
22-6 70	鉄 器 不詳	カマド内 断片	残長 9.2 重 9.1	—	—	—	錆化が顕著。細い棒状である。	—
22-7 70	鉄 器 刃	覆土内 鋒欠損	残長 5.5 棟重 0.25 重 7.5	—	—	—	鋒は調査後の欠損。刀身は研ぎ減りにより瘦身になっている。	—
22-8 瓦-642	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	厚 3.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
22-9 瓦-573	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。面縦位の撫で整形。側部面取り2回。篋描き文字瓦「井」(凹面)。	吉井系
22-10 71	瓦 玉縁付男瓦	床直 破片	厚 2.0	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。玉縁接合はA類。側部面取り2回。	雷電山



遺物一覧表

22-11 71	瓦 男 瓦	床直 破片	厚 1.8	細粒砂	還元焰	灰白	半載作り。凸面縄叩き整形(密)、縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回。	雷電山
22-12 71	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕、自然釉付着。	笠懸系 (雷電山か)
22-13 71	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 1.8	細粒砂	還元焰	白灰	半載作り凸面縄叩き(密)、布目痕有り。	秋間系
23-1 72	瓦 男 瓦	貯蔵穴内 ほぼ完形	長幅狭 35.3 16.8 13.4	黒色粒子	還元焰 焼締	灰	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系 雷電山か
23-2 72	瓦 男 瓦	カマド内 ほぼ完形	長幅厚 41.2 18.6 1.8	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
24-1 72	瓦 男 瓦	床直 %	長幅厚 42.5 15.8 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半載作り。面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井系
24-2 瓦-574 71	瓦 男 瓦	覆土内 %	幅広厚 18.8 19.0 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。寛描き記号(凸面)。	吉井系
24-3 71	瓦 男 瓦	床直 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形。端部面取り3回。	笠懸系
25-1 瓦-575 73	瓦 女 瓦	床直 %	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。粘土板剥ぎ取り痕(両面)。刻印文字瓦「不詳」(凸面)。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
25-2 73	瓦 女 瓦	カマド内 部分欠損	長幅厚 37.0 23.0 1.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後格子叩き整形。粘土板剥ぎ取り痕(両面)側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系か 笠懸系
25-3 72	瓦 女 瓦	床直 %	厚 1.4	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。粘土板剥ぎ取り痕(両面)。側部面取り2回。	笠懸系
26-1 73	瓦 女 瓦	床直 %	厚 2.7	白色微粒子	酸化焰 か	暗橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
26-2 72	瓦 女 瓦	床直 破片	厚 2.5	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後格子叩き整形。	笠懸系
26-3 72	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰褐	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後格子叩き整形。側部面取り2回。	笠懸系
26-4 73	瓦 女 瓦	床直 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。	笠懸系
26-5 72	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色微粒子	中性焰 か	鈍橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。粘土板剥ぎ取り痕(両面)側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
26-6 72	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。	笠懸系
27-1 74	瓦 女 瓦	床直 %	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。端部面取り1回。	吉井系
27-2 74	瓦 女 瓦	床直 %	厚 1.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り2回。	吉井系
27-3 73	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凹面細い模骨痕と考えられる圧痕が認められる。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜位・縦位の撫で整形。	笠懸系
27-4 73	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.7	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	一枚作りか。凹面布目擦り消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕。端部面取り1回。	笠懸系
27-5 73	瓦 製斗か 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	褐	一枚作りか。両面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回。	笠懸系



## B区 (53号住居跡)

27-6 73	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.7	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	桶巻作り。凹面模骨痕。両面粘土板剥ぎ取り 痕。側面取り2回。	笠懸系
27-7 73	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.7	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面寄木痕?。凸面縄叩き。	笠懸系

## B区第53号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
28-1 74	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.4)	白色微粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。体部底部は篋削り。器内面に暗文を 施す。	藤岡系
28-2 74	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	白色鉾物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は平底篋削り。体部に型膚を残す。	吉井・藤 岡系
28-3 74	須恵器 坏(塊)	床直層 %	口 16.2 底 5.8 高 5.2	白色鉾物粒子 微粒雲母 デイスait	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
28-4 74	須恵器 塊	覆土内 %	底 7.0	白色鉾物粒子 微粒雲母	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
28-5 74	須恵器 塊	床直層 %	底 7.0	白色鉾物粒子 微粒雲母 デイスait	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
28-6 74	須恵器 塊	覆土内 %	底 7.5	微粒雲母 デイスait	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
29-1 74	須恵器 塊	覆土内 %	底 8.5	微粒雲母	中性焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
29-2 74	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	底 (9.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台は削り出し。	秋間系
29-3 74	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (16.0)	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
29-4 247	土師器 甕	カマド内 破片	口 (18.7)	白色微粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は直立後外反する。紐作り。外面胴部 は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫 で。	藤岡系
29-5 74	土師器 甕	床直 破片	口 (22.4)	微粒雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は直立後外反する。紐作り。外面胴部 は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫 で。	藤岡系
29-6 74	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚0.1~1.2	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面が磨滅する。	秋間系
29-7 74	石造品 羽目石か	覆土内 破片	重 300.0	二ツ岳軽石	—	—	細片の為詳細不詳。残存面は磨き整形されて いる。	—
29-8 74	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 9.7	—	—	—	錆化による破損(調査後)が著しく、形状等 の詳細は不分明。	—
29-9 74	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 5.6	—	—	—	錆化が顕著。先端側半分程を欠損すると考え られる。	—
29-10 74	鉄器 釘	覆土内 破片	幅 0.45 重 4.4	—	—	—	錆化が著しい。頭部側は調査後の欠損。	—
29-11 75	瓦 男瓦	覆土内 %	長 23.0 厚 2.2	白色鉾物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫 で・轆轤再整形。側面取り2回・端部面取 り1回。	吉井系
29-12 74	瓦 男瓦	床直層 %	狭幅 厚 12.0 15.1 2.3	白色鉾物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形。側面取り3回・ 端部面取り3回。	吉井系
29-13 74	瓦 玉縁付男 瓦	カマド内 破片	厚 3.2	黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整 形。再縄叩き(密)側面取り2回。	乗附系か
30-1 瓦-576 74	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	半載作り。凸面轆轤整形。側面取り3回。 刻印文字瓦「佐」(凸面)。	笠懸系
30-2 瓦-577	瓦 女瓦	床直層 %	幅 23.4 厚 2.2	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面平行叩き。側面取り3回・ 端部面取り2回。篋描き文字瓦「井」(凸面)。	吉井系
30-3 75	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 シルト粗粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面平行叩き。側面取り2回。	秋間系

遺物一覧表

30-4 75	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面平行叩き。側部面取り2回。	乗附系
30-5 75	瓦 女瓦	床直 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。凸面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
30-6 75	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	細粒砂 白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凸面斜格子叩き。凹面模骨痕か。	吉井系
30-7 75	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.8	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凹面布目擦り消し・布合せ目痕。側部面取り3回・端部面取り1回。	笠懸系
30-8 75	瓦 女瓦	床直 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り1回・端部面取り1回。	秋間系
30-9 75	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰 か二次 焼成	浅黄橙	桶巻き造りか。凹面縦位の撫で整形。凸面横位の撫で整形・轆轤整形。端部面取り2回。	笠懸系か 吉井系
31-1 75	瓦 女瓦	床直 片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。凹面布合せ目痕。側部面取り2回。	吉井系
31-2 75	瓦 女瓦	カマド内 片	厚 2.2	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	乗附系

B区第54号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
33-1 76	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は横撫。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
33-2 76	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.1)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。体部に型膚を残す。	藤岡系
33-3 76	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6)	透明鉱物粒子 雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。放射状器内面に暗文を施す。体部は篋削りを施す。	吉井・藤岡系
33-4 76	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.1)	赤褐色粒子 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に弱い稜を有する。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
33-5 76	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋削り工具の横撫により直立気味。外面体部・底部は篋削り。	藤岡系
33-6 76	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙 鈍橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	吉井・藤岡系
33-7 76	土師器 坏	カマド内 破片	口 (14.0)	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は強く外反する。外面口縁直下に弱い稜を有する。底部は篋削り。	吉井・藤岡系
33-8 76	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.8)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
33-9 76	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は横撫で。体部下半は篋削り。	藤岡系
33-10 76	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.1)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は横撫でを施す。体部は篋削り。	吉井・藤岡系
33-11 76	土師器 坏	覆土内 破片	口 (17.6) 底 (10.0) 高 (4.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。体部は篋削り。器内・外面に暗文を施す。	藤岡系
33-12 76	土師器 坏	カマド内 破片	口 (18.5)	微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	橙褐	型作り成形。器内面放射状に暗文を施す。外面口縁直下に型膚を残す。器外面体部は横位の篋削り。	藤岡系
33-13 75	土師器 坏	覆土内 破片	底 (9.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部は篋削り。	藤岡系
33-14 76	土師器 境	覆土内 破片	—	白色微粒子	酸化焰	褐	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。器内面に有機質付着。	藤岡系
33-15 76	土師器 坏	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残す。体部は篋削り。	藤岡系
33-16 76	土師器 坏	覆土内 破片	—	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。体部・底部は篋削り。	藤岡系
33-17 76	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系

## B区 (54号住居跡)

33-18 76	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	摘 4.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。自然釉付着。	秋間系
33-19 76	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	摘 (4.4)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘み部は貼り付け。	秋間系
33-20 76	須恵器 坏 蓋	カマド内 破片	—	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
33-21 76	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.1) 底 (7.0) 高 (3.7)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち乃至回転篋削り。	秋間系
33-22 75	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.2) 底 (8.0) 高 (3.7)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
33-23 75	須恵器 高台付坏	床直層 一部欠損	口 12.7 底 9.2 高 3.4	白色粒子 黒色粒子含 (外)	還元焰	灰 (灰橙)	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り・削り出し高台。自然釉、内外面にかぶる。	秋間系
33-24 75	須恵器 坏	覆土内 破片	口 14.6 底 10.0 高 3.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	吉井風にも思われるが、全体が軽く黒色粒子もとろけた状態。粗地は粗い。底部は回転篋削り。	秋間系か
33-25 76	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	口 (14.8) 底 (10.5) 高 (3.8)	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台は削り出し。底部は回転篋削り。	秋間系
33-26 76	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	褐灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
33-27 76	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.4) 底 (11.9) 高 (4.1)	黒色粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。外面自然釉付着。	秋間系
33-28 76	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (8.0)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち篋削り。器内面自然釉付着。	秋間系
34-1 76	土師器 甕	覆土内 破片	口 (25.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁は「く」の字に外反する。器外面は横位の篋削りを施す。	藤岡系
34-2 76	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.1)	白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系
34-3 76	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0)	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系
34-4 76	土師器 甕	覆土内 破片	口 (25.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	明赤褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
34-5 76	土師器 甕	覆土内 破片	底 6.6	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。外面縦位の篋削り整形、内面は横位・縦位等の篋撫で整形。酸化シルト付着。	藤岡系
34-6 76	土師器 甕	覆土内 破片	底 (5.4)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。外面は縦位の篋削り整形。内面は撫で整形。	吉井系 藤岡系
34-7 247	土師器 甕	カマド内 破片	最径(26.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。胴部は斜位の篋削り。	藤岡系
34-8 76	土師器 甕	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	酸化焰	橙	甕の欠損品を転用している。内外面有機質付着。	藤岡系
34-9 76	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
34-10 76	須恵器 壺	覆土内 破片	底 8.4	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。後回転篋削り。底部は回転篋削り。	秋間系
34-11 76	須恵器 脚付盤	覆土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
34-12 76	須恵器 円面硯	覆土下層 一部欠損	径 11.0 高 1.35	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成・整形。底部は手持ち篋撫で。	秋間系
34-13 76	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
35-1 76	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (19.2)	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(内面宛具は不詳・外面平行叩き)後轆轤整形(右回転)。	乗附系
35-2 249	須恵器 甕	カマド周 辺 破片	頸 16.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。口縁部は轆轤成形(右回転)。	吉井系
35-3 76	須恵器 大 甕	覆土内 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系

遺物一覧表

35-4 76	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系
35-5 76	鉄器 刀子	覆土内 茎欠損	身長 9.7 重ね 0.25 重 17.0	—	—	—	調査後の錆化による欠損が著しい。関は刀関のみ。	—
36-1 76	瓦 玉縁付男瓦	覆土内 細片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	秋間系か 乗附系
36-2 76	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面赤色顔料塗付が認められる。	吉井系
36-3 76	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色微粒子	中性焰 か	黄灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系
36-4 76	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.1	微粒砂 雲母粒	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き整形（密）後縦位の撫で再整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系

B区第55号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
37-1 77	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	平底の坏。型作り成形。体部に型膚を残す。	藤岡系
37-2 77	土師器 坏型甘帯	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
37-3 77	土師器 坏	覆土内 破片	底 (8.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部は篋削りを施す。器内面に暗文を施す。	藤岡系
37-4 77	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口唇部に段を有する。器内面に放射状暗文を施す。	畿内産
37-5 77	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (16.0)	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	口唇部は下方に折り曲げる。轆轤成形（右回転）。上半部は回転篋削り。	乗附系
37-6 77	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	摘 4.4	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。摘みは貼り付け。	秋間系か 藤岡系
38-1 77	須恵器 坏	覆土内 片	口 (13.2) 底 (8.0) 高 (3.5)	白色微粒子 赤色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	秋間系
38-2 77	須恵器 坏	覆土内 片	底 (9.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転篋削り。	秋間系
38-3 77	須恵器 内黒土器 塊	覆土内 片	底 9.2	白色粒子	酸化焰	淡褐	轆轤成形（右回転）。付高台。器内面に暗文を施す。	吉井系
38-4 77	須恵器 長頸壺	覆土内 片	口 10.2 底 10.1 最径 13.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形。肩部に刺突を施す。	秋間系
38-5 77	石製品 砥石	覆土内 片	幅 6.4 底 10.6 重 1020	砥沢石	—	—	4面の使用面は顕著に研ぎ減っている。使用面の状態から置砥と考えられる。	—
38-6 77	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイスイト	酸化焰 か二次 焼成	橙	半截作りか。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
38-7 77	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.7	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰白	作り不詳。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面横位の撫で整形。	秋間系

B区第56号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
39-1 77	土師器 坏蓋	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口唇部は下方に折り曲げる。轆轤成形（右回転）。上半部は回転篋削り。	藤岡系
39-2 77	須恵器 坏	床直 片	口 (11.3) 底 (5.3) 高 (4.1)	微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	藤岡系
39-3 77	須恵器 坏	覆土内 片	口 (12.5) 底 5.8 高 4.2	白色鉱物粒子	中性焰	鈍黄橙	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系

39-4 77	須恵器 坏	覆土内 1/4	口 底 高	(13.0) (5.3) (4.9)	雲母 デイスait	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
39-5 77	須恵器 坏	覆土内 1/4	口 底 高	(13.2) (7.1) (3.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
39-6 77	須恵器 塊	覆土内 1/4	口 底	(13.6) (5.2)	微粒雲母	酸化焰	橙褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
39-7 77	須恵器 黒色土器 塊	覆土内 1/4	口 底 高	14.5 7.0 6.0	微粒雲母	酸化焰	黒褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
40-1 77	須恵器 塊	覆土内 破片	口	(16.1)	デイスait 微粒雲母	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
40-2 77	須恵器 皿	覆土内 一部欠損	口 底 高	13.4 7.0 3.4	雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
40-3 77	須恵器 皿	覆土内 一部欠損	口 底 高	13.5 6.9 3.2	微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
41-1 77	須恵器 塊	覆土内 1/4	底	7.0	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
41-2 77	須恵器 塊	覆土内 1/4	底	7.1	微粒雲母	還元焰	灰黄褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
41-3 77	須恵器 塊	覆土内 1/4	底	7.1	白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か 藤岡系
41-4 77	須恵器 塊	覆土内 1/4	底	7.8	黒色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
41-5 77	須恵器 塊	床直層 1/2	底	8.1	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
41-6 77	須恵器 塊	覆土内 破片	底	(8.3)	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
41-7 77	土師器 甕	覆土内 破片	口	(19.8)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で。	藤岡系
41-8 77	土師器 甕	覆土内 破片	口	(21.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
41-9 77	土師器 甕	カマド内 破片	口	(21.0)	白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で。	不詳
41-10 77	土師器 甕	覆土内 破片	底	3.6	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形後篋削整形。	藤岡系
41-11 77	須恵器 甕	カマド内 破片	口	(14.0)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系か
41-12 瓦-643 78	瓦 鏡瓦	床直 完存	厚	2.3	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	藤岡系
41-13 瓦-644	瓦 鏡瓦	カマド内 1/4	厚	2.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房は珠点中房で弁間に珠点を配する。1本作り。	吉井系
41-14 瓦-666	瓦 字瓦	覆土内 1/4	厚	1.0	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は格子文であるが、重郭文の意匠に追刻の可能性がある。折り曲げ技法による。	吉井系
41-15 瓦-810	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.4	白色微粒子	酸化焰	暗褐	作り不詳。凸面篋傷か(3条)。	笠懸系
41-16 78	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 破片	厚	3.4	白色微粒子	中性焰	浅黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	藤岡系か 不詳
42-1 78	瓦 男瓦	カマド内 1/4	幅 底 厚	19.4 (21.0) 1.5	白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	半截作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き後撫での再整形。	吉井系

遺物一覧表

42-2 78	瓦 男瓦	床直 完形	長 36.9 広 19.5 狭 12.2	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	重2.25kg 厚1.7cm 吉井系
43-1 79	瓦 女瓦	覆土内 %	長 38.3 広 27.7 狭 24.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。端部面取り2回・側部面取り2回。	重2.57kg 厚1.2cm 不詳
43-2 78	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	赤褐色粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面全面に斜格子叩き。側部面取り3回。	不詳 布目密
43-3 78	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚・1.6	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)・凹面離砂痕。側部面取り2回。	秋間系
43-4 78	瓦 女瓦	覆土内 %	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
44-1 78	瓦 女瓦	覆土内 %	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰 焼締	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系

B区第57号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
45-1 79	土師器 坏	覆土内 %	口 (12.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部は型膚を残す。	吉井・藤岡系
45-2 79	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.7)	微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は直立気味。口縁部は横撫で。体部に型膚を残す。底は篋削を施す。	藤岡系
45-3 79	土師器 坏	床直層 破片	口 (13.4)	雲母	酸化焰	橙	1に同じ	藤岡系
45-4 79	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.4)	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	1に同じ	藤岡系
45-5 79	土師器 坏	床直層 破片	底 9.0	白色微粒子 赤色粒子 シルト質	酸化焰	橙	型作り成形。底部は平底で篋削りを施す。体部下半は篋削り。	藤岡系
46-1 79	土師器 坏	覆土内 %	口 14.7 底 7.8 高 3.8	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	45-5に同じ	藤岡系
46-2 79	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (14.0)	赤褐色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
46-3 79	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (15.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
46-4 79	須恵器 坏蓋	覆土内 %	口 (16.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
46-5 79	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (15.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り曲げる。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
46-6 79	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.7) 底 (4.4) 高 (6.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
46-7 79	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	乗附系
46-8 250	須恵器 坏	覆土内 %	口 12.8 底 7.8 高 3.2	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。轆轤目は浅い。	秋間系
46-9 79	須恵器 坏	覆土内 %	口 12.8 底 7.2 高 3.5	黒色粒子 白色微粒子	—	—	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
46-10 79	須恵器 坏	覆土内 %	口 14.4 底 8.2 高 3.8	白色鉱物粒子 微粒雲母 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系か 太田系
46-11 79	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (5.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
46-12 79	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (7.0)	黒色粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
46-13 79	土師器 甕	カマド内 破片	口 (23.1)	白色粒子 細礫	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁は「く」字状に外反する。胴部は横位の篋削りを施す。	吉井・藤岡系
47-1 79	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口唇部は平坦。	秋間系



## B区(57・58号住居跡)

47-2 79	須惠器 壺	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子	還元焰	灰茜	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部凸帯は轆轤成形。	秋間系
47-3 79	須惠器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部凸帯は貼り付け。	秋間系
47-4 79	須惠器 壺	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り成形。紐作り。叩き整形(外面叩き不詳・内面宛具は素文)。	秋間系
47-5 79	須惠器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に2条の横線を施し、横線間に刺突を施す。	秋間系
47-6 79	須惠器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に2条の横線を施す。	秋間系
47-7 79	須惠器 壺	覆土内 破片	厚 1.1	黒色鉍物粒子	還元焰	浅黄橙	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
47-8 79	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り4回・端部面取り2回。	乗附系
47-9 79	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。粘土板接合は「Z」。凹面粘土板接合部を撫で消す状態で再接合している。	吉井系
47-10 79	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。	笠懸系
47-11 79	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 0.8	白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縄叩き(密)縦位の撫で整形。	吉井系
47-12 80	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	酸化焰 か二次 焼成	浅黄橙	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。	吉井系
47-13 79	瓦 破片	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
47-14 80	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 2.2	白色鉍物粒子	酸化焰	明黄橙	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	吉井系
47-15 80	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面縦位・横位の撫で整形。凸面轆轤整形。	乗附系

## B区第58号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
49-1 80	須惠器 坏蓋	覆土内 破片	口 (14.1)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)端部は折り返し。外面自然釉附着。	乗附系
49-2 80	須惠器 坏	覆土内 破片	口 (12.5)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。外面自然釉附着。	秋間系
49-3 80	須惠器 坏	覆土内 破片	口 (16.5)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。	秋間系
49-4 80	須惠器 坏	覆土内 一部欠損	口 12.3 底 6.4 高 4.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
49-5 80	須惠器 坏	覆土内 破片	底 (6.4)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
49-6 80	須惠器 埴	覆土内 瓦	底 12.2	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
50-1 80	須惠器 埴	覆土内 破片	底 8.2	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。付高台。底部は回転糸切り。	秋間系
50-2 80	転用 須惠器 皿	覆土内 破片	底 8.0	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	白灰	見込みに墨痕が認められる。轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
50-3 80	須惠器 瓶	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面に2本1単位の傷有。	笠懸系
50-4 80	須惠器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。器外面底部周辺は回転篋削り。	吉井系
50-5 80	磔 器 敲石	覆土内 ほぼ完存	幅 6.8 厚 (2.5)	粗粒安山岩	—	—	小口・側部側に敲打に伴う剝離(落)が多く認められる。	重190g
50-6 80	磔 器 敲石	覆土内 完存	長 11.6 幅 14.3 厚 4.8	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅し、側部・小口に敲打痕が認められる。	重1090g

遺物一覧表

50-7 80	礫器	覆土内 完存	長 幅 厚	10.2 4.0 3.2	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重293 g
50-8 80	瓦 男 瓦	覆土内 ㄨ	厚	1.5	白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り 2回。端面取り1回。	笠懸系
50-9 80	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚	1.4	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り 2回。端面取り2回。	笠懸系
50-10 80	瓦 男 瓦	床直 ㄨ	厚	1.8	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	50図-9と同一個体。	笠懸系
51-1 81	瓦 男 瓦	カマド内 ほぼ完形	長 狭 厚	35.9 18.5 1.4	白色鉱物粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫 で再整形。側面取り3回・端面取り1回。 凹面粘土板剥ぎ取り痕。粘土板接合は「Z」。	吉井系
51-2 瓦-811 81	瓦 男 瓦	カマド内 一部欠損	長 広 厚	38.4 18.3 2.4	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	明赤褐	半截作り。凸面輻輪整形。凹面粘土板剥ぎ 取り痕。側面取り3回・端面取り2回。	笠懸系
52-1 81	瓦 男 瓦	カマド内 ㄨ	狭 幅 厚	19.2 11.8 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り凸面輻輪整形痕。凹面粘土板剥ぎ 取り痕。側面取り1回・端面取り3回。	笠懸系
52-2 80	瓦 男 瓦	覆土内 ㄨ	狭 幅 厚	18.0 17.6 1.1	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	半截作り凸面輻輪整形。側面取り2回・端 面取り3回。	笠懸系
52-3 81	瓦 女 瓦	床直層 ㄨ	厚	1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面叩 き整形(叩具は板か)後撫再整形。側面取り 1回・端面取り1回。	吉井系
52-4 瓦-578	瓦 女 瓦	覆土内 ㄨ	厚	2.0	黒色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り粘土板接合は「Z」。凹面模骨痕・ 粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(単)端面 取り2回。	秋間系
52-5 81	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚	2.2	黒色粒子	還元焰	灰	52図-4と同一個体。	秋間系

B区第59号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考	
54-1 81	土 師 器 坏	覆土内 完形	口 高	11.5 3.3	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。底部は篋削り。	藤岡系
54-2 81	土 師 器 坏	覆土内 完形	口 高	12.0 3.1	デイサイト 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。底部は篋削り。	吉井・藤 岡系
54-3 81	土 師 器 坏	床直層 ㄨ	口 高	13.2 3.6	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。底部は篋削り。	藤岡系
54-4 81	土 師 器 坏	カマド内 破片	口 (15.6)		微粒雲母 白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	吉井・藤 岡系
54-5 81	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 高	4.1	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。 内面に二重暗文を施す。見込みに螺旋状・口 縁部は放射状。	藤岡系
54-6 81	土 師 器 坏	覆土内 ㄨ	口 高	14.4 4.2	白色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	—	型作り成形。口縁部は外傾する。底部は篋削 り。内面放射状暗文を施す。	吉井・藤 岡系
54-7 81	土 師 器 坏	床直層 ㄨ	口 (20.8) 高	6.7	微粒雲母 デイサイト	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。底部は篋削り。内面に二重暗文を施 す。見込に螺旋状・口縁部は放射状。	吉井・藤 岡系
54-8 82	土 師 器 坏	カマド内 破片	口 (19.6) 底 (11.0) 高	5.8	白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部、体部は篋削り、口縁内、 外面は横撫で。内面体部・底部は撫で整形後 内面・外面暗文を施す。	藤岡系
54-9 82	土 師 器 坏	覆土内 破片	—		白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り整形。底部・体部は篋削り、内面体部、 底部は撫で整形。内面暗文を施す。	藤岡系
55-1 82	須 恵 器 蓋	覆土内 破片	摘 (4.2)		白色微粒子	還元焰	灰	輻輪整形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘 部は貼り付け。	秋間系



## B区(59号住居跡)

55-2 82	須恵器 蓋	覆土内 破片	口(16.0)	白色微粒子	還元焰	灰	受部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。外面自然釉附着。	秋間系
55-3 82	須恵器 蓋	カマド内 破片	口(19.4)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰 か	浅黄橙	受部は下方に折り返す。轆轤整形(右回転)。	秋間系か
55-4 81	須恵器 薬壺蓋	カマド内 一部欠損	口 13.2 摘 4.0 高 4.4	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。内面自然釉附着。	秋間系
55-5 82	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.2) 底(8.0) 高(3.7)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。外面底部は手持ち篋削り。	秋間系
55-6 82	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.8) 底(8.0) 高(2.9)	白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤整形(右回転)。外面底部は手持ち篋削り。	秋間系
55-7 82	須恵器 坏	覆土内 破片	口(14.2)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
55-8 81	須恵器 高台付坏	床直層 完形	口 15.5 底 11.8 高 3.7	白色鉍物粒子	還元焰	—	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。内・外面軽い自然釉附着。高台は削り出し高台。	乗附系
55-9 81	須恵器 高台付坏	覆土内 %	口(16.9) 底 11.5 高 3.5	黒色鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。高台は削り出し高台。	秋間系
55-10 82	須恵器 高台付坏	カマド内 破片	底(10.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。高台は削り出し。	秋間系
55-11 81	須恵器 塊	覆土内 破片	底 7.7	微粒雲母 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。体部に入事的な割れが認められる。	乗附系
55-12 83	土師器 甕	カマド内 一部欠損	口 23.0 最径 21.4	黒色鉍物粒子 微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
55-13 83	土師器 甕	カマド内 %	口 22.3 最径 20.8	黒色鉍物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
55-14 83	土師器 甕	カマド内 %	口 22.6 最径 22.2	黒色鉍物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
55-15 249	土師器 甕	カマド内 破片	口(24.3)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系
56-1 83	土師器 甕	カマド内 %	口(24.7) 最径(21.0)	黒色鉍物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
56-2 83	土師器 甕	カマド内 %	口(24.1) 最径(22.8)	黒色鉍物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
56-3 82	土師器 甕	覆土内 破片	口(19.1)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井・藤岡系
56-4 82	土師器 甕	覆土内 破片	口(21.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井・藤岡系
56-5 249	土師器 甕	カマド内 破片	口(22.6)	白色粒子 微粒雲母 黒色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系
56-6 249	土師器 甕か 甗	カマド内 破片	口(20.6)	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	赤橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
56-7 82	土師器 甕	カマド内 破片	口(23.3)	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
56-8 83	土師器 甕	カマド内 %	底(6.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
56-9 82	土師器 甕	カマド内 破片	口(27.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	淡褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井・藤岡系
57-1 82	須恵器 鉢	覆土内 破片	口(20.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。	秋間系
57-2 82	須恵器 高台 坏	覆土内 破片	口(22.0)	白色粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。内面自然釉附着。	秋間系

遺物一覧表

57-3 82	須惠器 壺	覆土内 破片	口 (16.8) 最径(21.2)	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	口縁部は外反する。紐作り後叩整形(内面宛具は青海波文) 轆轤再整形。内・外面自然釉附着。	吉井系
57-4 82	須惠器 壺	覆土内 破片	最径(20.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。外面自然釉附着。肩部に2条の横線を施す。	秋間系
57-5 82	須惠器 壺	カマド内 破片	最径(29.8)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。	秋間系
57-6 82	須惠器 壺	床直層 破片	頸 (14.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
57-7 82	須惠器 壺	覆土内 破片	口 (16.6)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	笠懸系
57-8 82	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後叩き整形。(内面宛具は青海波文、外面平行叩き)。	乗附系か 吉井系
57-9 82	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形(内面宛具は青海波文・外面平行叩き)。外面は叩き後轆轤撫で整形。	吉井系
57-10 82	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。外面平行叩き、内面宛具は木目り。	秋間系
58-1 249	須惠器 横 瓮	覆土内 破片	最径(23.2)	白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形(内面宛具は青海波文、外面平行叩き)。内外面ともに磨滅が著しい。	乗附系
58-2 82	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 1.1	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形(内面宛具は青海波文、外面平行叩き)。外面自然釉附着。	秋間系
59-1 82	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(内面宛具は青海波文、外面平行叩き)。	乗附系
59-2 84	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	黒色粒子	還元焰	黄灰	半截作り。凸面轆轤痕。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り3回。	秋間系
59-3 82	鉄器 釘 か	覆土内 破片	幅 0.4 重 1.9g	—	—	—	全体に遺存はよいが、調査後の欠損により頭部側を失っている。	—

B区第60号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
60-1 84	土 師 器 坏	床直 完形	口 12.1 高 3.3	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
60-2 84	土 師 器 坏	カマド内 破片	口 (12.1)	白色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は短かく外傾する。口縁直下に型膚を残し、底部は篋削り。	藤岡系
60-3 84	土 師 器 坏	床直 完形	口 13.0 高 4.2	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
60-4 84	土 師 器 坏	カマド内 %	口 15.3 高 4.1	黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部横撫でを施こし直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
61-1 84	土 師 器 坏	カマド内 破片	口 (18.1)	白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に弱い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
61-2 84	土 師 器 坏	カマド内 %	口 15.7 高 4.3	微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に弱い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
61-3 84	土 師 器 坏	床面直上 完形	口 17.1 高 3.8	デイサイト 小円礫	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
61-4 84	須惠器 坏 蓋	掘り方内 %	口 13.9 高 1.8	黒色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
61-5 84	須惠器 坏	カマド内 %	口 12.6 底 7.5 高 3.6	白色微粒子	還元焰	断・白灰 外・黒灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
61-6 84	須惠器 壺	掘り方内 破片	頸 (10.9)	白色微粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	笠懸系
61-7 84	須惠器 横 瓮	カマド内 破片	厚 0.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	58図-1と同一個体	笠懸系
61-8 84	礫 器	覆土内 完存	長 9.1 幅 4.3 厚 3.6	アブライト	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重255g

## B区第61号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
62-1 84	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。器内面に「井」の字状の刻線がある。	藤岡系
62-2 84	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (14.3)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
62-3 84	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (15.0)	赤褐色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
62-4 84	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (14.4)	黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
62-5 84	須恵器 坏蓋	覆土内 ほぼ完形	口 19.0 摘 4.6 高 4.0	黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
62-6 84	須恵器 坏	覆土内 一部欠損	口 12.5 底 7.2 高 4.3	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
62-7 84	須恵器 坏	覆土内 1/2	口 (12.8) 底 (7.6) 高 (3.6)	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
62-8 84	須恵器 坏	覆土内 1/2	口 12.5	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	乗附系か 藤岡系
63-1 84	須恵器 坏	覆土内 1/2	口 (13.5) 底 (8.0) 高 (4.0)	微粒雲母 白色粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
63-2 84	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (15.3)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	乗附系か 秋間系
63-3 84	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (11.2) 最径(12.1)	微粒雲母 黒色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
63-4 84	土師器 甕	覆土内 1/2	口 (13.8) 最径(16.8)	微粒雲母 黒色粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井・藤岡系
63-5 84	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
63-6 84	礫 擦石	カマド内 完存	長 10.3 幅 9.7 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	上面に使用に伴う磨減が認められ、中央部に凹が1ヶ所認められる。	重600g
63-7 85	瓦 男瓦	カマド内 一部欠損	長 41.8 広 20.1 厚 2.0	白色鉍物粒子	二次焼成	灰黄	半截作り。凸面縄叩き後轆轤回転の撫で整形。粘土板接合はZ。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
63-8 84	瓦 男瓦	カマド 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面布合せ目痕。側部面取り3回・端部面取り1回。	笠懸系
63-9 85	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色粒子	酸化焰	暗灰褐	一枚作りか。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜・米格子叩き整形。	笠懸系
64-1 85	瓦 男瓦	カマド内 部分欠損	長 41.9 広 18.9 厚 1.4	白色微粒子	酸化焰 か	橙	半截作り。凹面布合せ目痕。側部面取り1回。端部面取り1回。	笠懸系
64-2 84	瓦 男瓦	カマド内 1/2	狭 12.2 幅 15.0 厚 1.8	白色鉍物粒子	中性焰	鈍黄橙	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫で再整形。凹面布合せ目痕。側部面取り1回・端部面取り1回。	吉井系
65-1 85	瓦 字瓦か	覆土内 破片	厚 3.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面寄木痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。	吉井系
65-2 85	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.7	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造りか。凹面布目擦り消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	笠懸系
65-3 85	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	鈍橙	桶巻き造りか。凸面縦位の撫で整形。凹面布目擦り消し・寄木痕。側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系
65-4 85	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.7	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作りか。凹面布目擦り消し・布合せ目痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	笠懸系
65-5 85	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	還元焰	灰褐	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回・端部面取り1回。	吉井系

## 遺物一覧表

65-6 85	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鋇物粒子	酸化焙 か	暗灰褐	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。 凸面縄叩き(密)後轆轤撫で再整形。凹面布 合せ目痕。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系 被二次焼 成
------------	---------	------------	-------	----------------	----------	-----	--	------------------

## B区第65号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
68-1 86	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部は内湾する。口縁直下に 型膚を残し、底部は篋削り。	藤岡系
68-2 86	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.3)	微粒雲母 白色粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。底部は篋削り。	藤岡系
68-3 86	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.6)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により内 湾する。体部に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
68-4 86	土師器 坏	直直層 ほぼ完形	口 14.8 高 4.7	微粒雲母 白色微粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。底部は篋削り。	藤岡系
68-5 86	土師器 塊	覆土内 破片	口 (19.0)	白色微粒子黒 色鋇物粒子	酸化焙	橙	型作り成形。体部・口縁部は内湾する。口縁 部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に 型膚を残す。	藤岡系
68-6 86	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (16.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。外 面に自然釉が付着している。	秋間系
68-7 86	須恵器 坏	覆土内 %	口 (15.0)	無し	還元焙	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
68-8 86	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (20.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系
68-9 86	土師器 甕	覆土内 %	口 (27.3)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焙	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
68-10 86	須恵器 脚付盤	覆土内 破片		黒色粒子 白色微粒子	還元焙	灰黄	轆轤成形(右回転)。脚部はカキヤブリ後貼付 後轆轤再整形。	秋間系
68-11 86	須恵器 長頸壺	覆土内 一部欠損	最後 18.9	白色微粒子	酸化焙	浅黄橙 黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に櫛目の刺 突を施す。	乗附系
69-1 86	須恵器 壺	覆土内 破片	頸 (10.6) 最径(28.2)	白色微粒子	還元焙	褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)後轆轤整形(右回転)。胴部は回 転篋削り。	秋間系
69-2 86	礫器 擦石	覆土内 完存	長 8.6 幅 7.9 厚 3.6	変質安山岩			両面に使用に伴う磨滅が認められる。剥離 部は被熱による可能性がある。	重355g
69-3 86	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色微粒子	酸化焙	鈍褐	一枚作りか。凹面布目擦り消し、凸面縦位 の撫で整形。端部面取り1回。	笠懸系

## B区第67号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
70-1 86	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系

## B区第73号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
72-1 86	土師器 坏	覆土内 %	口 12.1	微粒雲母 黒色鋇物粒子 白色微粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
72-2 86	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鋇物粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
72-3 86	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	黒色鋇物粒子 白色微粒子	酸化焙	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
72-4 86	土師器 坏	床直 %	口 12.9 高 4.9	微粒雲母 白色粒子 黒色鋇物粒子	酸化焙	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
72-5 87	土師器 坏	覆土内 一部欠損	口 14.1 高 3.2	微粒雲母 黒色鋇物粒子 白色微粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系

72-6 87	土師器 坏	カマド内 一部欠損	口 15.8 高 3.3	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
72-7 86	土師器 坏	カマド内 完形	口 11.8 底 8.2 高 2.9	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。器内面に二重暗文を施す。	藤岡系
72-8 86	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	摘 (3.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
72-9 87	須恵器 坏 蓋	覆土内 %	口 15.5 摘 4.8 高 1.9	白色粒子 黒色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
72-10 87	須恵器 坏	カマド内 一部欠損	口 11.0 底 8.0 高 4.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
72-11 87	須恵器 坏	カマド内 一部欠損	口 12.9 底 6.8 高 3.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り後篋撫で。	秋間系
72-12 87	須恵器 坏	カマド内 %	口 11.6 底 7.5 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
72-13 86	須恵器 坏	カマド内 破片	底 (8.0)	白色微粒子 黒色粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系 藤岡系
72-14 86	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
72-15 88	土師器 甕	カマド内 完形	口 14.1 底 3.4 高 18.1	黒色鉍物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
72-16 86	土師器 甕	カマド内 破片	口 (23.5)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	紐作り成形。口縁部は外反する。	藤岡系
72-17 86	土師器 甕	カマド内 破片	口 (21.9)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
73-1 87	石造品 袖石	カマド内 完存	長 40.2 幅 18.0 厚 14.6	—	—	—	国分寺の堂宇の基壇化粧の東石と考えられる。	重 10,300g
74-1 87	石造品 袖石	カマド内 完存	長 45.0 幅 17.6 厚 12.2	—	—	—	国分寺の堂宇の基壇化粧の東石と考えられる。	重 9,800g
75-1 88	土師器 甕	カマド内 %	口 23.0	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
75-2 88	土師器 甕	カマド内 ほぼ完形	口 24.0 底 6.0 高 30.8	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
75-3 86	石製品 砥石	カマド内 破片	長 7.0 幅 4.4 厚 4.0	砥沢石	—	—	欠損であるが使用面が5面認められる。小口部分は手持砥として使用している。	重 178.0g
75-4 86	礫器 磨石	床直 完存	長 9.2 幅 4.0 厚 2.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴う磨滅が顕著である。	重 179.6g
75-5 86	礫器 磨石	覆土内 完存	長 11.8 幅 5.0 厚 3.8	変質安山岩	—	—	面の凹凸があるが、凸面部分は使用に伴う磨滅が認められる。	重 430.5g
75-6 86	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 1.1 重 3.8	—	—	—	調査後の欠損認められない。全体に遺存は良好で、図上左下端部状態からは折り曲げによる破損品であることが考えられる。	—
75-7 88	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系



## 遺物一覧表

## B区第74号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
76-1 88	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.3)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
76-2 88	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.9)	微粒雲母	酸化焰	赤橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	—
76-3 88	土師器 坏	カマド内 破片	—	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋削り工具の横撫により直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
76-4 88	土師器 坏	覆土内 破片	口 15.0 高 4.3	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
76-5 88	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で。体部は篋削り。	藤岡系
76-6 88	土師器 甕	覆土内 破片	口 (27.2)	微粒雲母 白色微粒子 ローム	酸化焰	赤橙	口縁部は外反する。型作り成形乃至紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系 吉井系
77-1 88	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (17.2)	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	受部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	乗附系
77-2 88	須恵器 甕	覆土内 破片	頸 (13.0)	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面自然釉付着。	吉井系
77-3 88	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄褐	桶巻き造りか。凹面寄木痕か。凸面縄叩き(密)後撫で整形。端部面取り3回。	笠懸系

## B区第75号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
78-1 88	須恵器 薬壺 蓋	覆土内 破片	口 (12.7)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
78-2 88	須恵器 坏	覆土内 一部欠損	口 13.1 底 7.6 高 3.2	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
78-3 88	須恵器 坏	覆土内 一部欠損	口 13.8 底 7.5 高 3.6	白色微粒子	還元焰	外・黒灰 内・白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
78-4 88	須恵器 境	カマド内 破片	口 16.1 底 6.3 高 9.2	黒色粒子	還元焰	外・黒灰 内・白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
78-5 88	鉄器 釘 か	カマド内 破片	重 4.2	—	—	—	全体に錆化が顕著である。先端欠損。	—
79-1 89	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作りか。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。端部面取り1回。	吉井系
79-2 89	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	赤褐色粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り1回。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	秋間系
79-3 89	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	赤褐色粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	秋間系

## B区第76号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
80-1 89	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.1)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
80-2 89	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (7.0)	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
80-3 89	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 13.2	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系
80-4 89	須恵器 坏 蓋	カマド内 破片	口 (14.8)	白色微粒子	還元焰	灰白	受部は折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。外面自然釉付着。	秋間系
80-5 89	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (15.0)	白色微粒子	還元焰	灰	受部は轆轤回転の挽き出し。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	乗附系

## B区(74・75・76号住居跡)

80-6 89	須恵器 内黒土器 坏	覆土内 破片	—	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	にぶい 黄橙	轆轤成形(右回転)。器内面に暗文を施す。器内面を吸炭させている。	藤岡系か
80-7 89	土師器 坏	覆土内 破片	—	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。内外面に有機質が付着する。	藤岡系
80-8 89	須恵器 境	覆土内 破片	底 (7.2)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰黒	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
80-9 89	須恵器 境	床直 1/2	底 8.1	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
80-10 89	須恵器 境	覆土内 1/2	底 8.7	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
80-11 89	須恵器 境	覆土内 1/2	底 8.4	微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
81-1 89	須恵器 境	覆土内 1/2	底 9.3	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
81-2 89	土師器 台付 脚部	覆土内 破片	—	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	紐作り成形後撫整形。	藤岡系
81-3 89	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (16.2)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
81-4 89	土師器 甕	覆土内 破片	口 (18.8)	白色粒子	酸化焰	鈍赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
81-5 89	土師器 甕	カマド内 1/2	口 (19.2) 最径(21.5)	白色粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
81-6 89	羽口	カマド内 1/2	径 8.6 口径 2.1 高 8.1	透明鉍物粒子	酸化焰	—	外面は縦位方向の撫でにより窪みがある。使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
81-7 89	羽口	覆土内 破片	—	—	酸化焰	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
81-8 89	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 4.7	—	—	—	錆化が著しく、調査後の欠損も多い。何らかの自在の部分と思われる。	—
81-9 90	瓦 女瓦	カマド内 1/2	長 37.3 厚 2.1	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系か 月夜野系
82-1 89	瓦 女瓦	カマド内 1/2	長 39.5 厚 1.6	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	作り不詳。凸面縄叩き(密)後縦位の篋撫整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井系
82-2 89	瓦 男瓦	覆土内 1/2	厚 2.1	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回。	笠懸系か 吉井系
82-3 90	瓦 女瓦	貯蔵穴内 1/2	厚 1.2	白色鉍物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか、一枚作り。凹面一部布目擦り消し・寄木痕。面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
82-4 90	瓦 男瓦	覆土内 1/2	厚 1.8	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
83-1 瓦-579 墨書No.9	瓦 女瓦	カマド内 ほぼ完形	長 44.5 幅 30.5 厚 1.7	白色微粒子	還元焰	暗灰 灰	一枚作り。刻印文字瓦「佐」(凸面)。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。凸面墨書「佐」。	
83-2 90	瓦 女瓦	床直 1/2	厚 2.3	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凸面平行叩き。側部面取り2回・端部面取り1回。	乗附系か
84-1 91	瓦 女瓦	貯蔵穴内 1/2	長 39.0 広 26.5 厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後不正格子叩き整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
84-2 91	瓦 女瓦	カマド内 1/2	長 41.3 幅 25.7 厚 2.7	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後縦位の篋削り再整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	不詳 17092を 接合
85-1 91	瓦 女瓦	貯蔵穴内 1/2	長 38.2 厚 2.7	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
85-2 92	瓦 女瓦	覆土内 1/2	長 41.0 厚 1.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り1回。	吉井系か 月夜野系

遺物一覧表

B区第77号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
86-1 93	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 ( 5.2)	白色微粒子	還元焰	鈍褐	轆轤成形 (右回転)。摘部は貼り付け。	笠懸系
86-2 93	須恵器 坏蓋	覆土内 口縁部欠	摘 5.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。摘部は貼付けか。	秋間系
86-3 92	土師器 坏	カマド内 一部欠損	口 13.5 底 6.9 高 4.0	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
86-4 93	須恵器 塊	覆土内 %	—	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	吉井系 白色鉱物 粒子を含 む
86-5 93	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。	秋間系か 乗附系
86-6 92	須恵器 塊	カマド内 %	口 14.5	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。	吉井系
86-7 92	須恵器 塊	カマド内 %	口 15.0 底 7.5 高 4.8	微粒雲母 デイスайト	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
86-8 92	須恵器 塊	フク土内 %	底 7.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
86-9 92	須恵器 塊	覆土内 %	底 ( 8.3)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
87-1 92	須恵器 塊	覆土内 一部欠損	底 6.7	微粒雲母 シルト粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
87-2 92	土師器 甕	覆土内 %	口 19.8	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
87-3 92	土師器 甕	カマド内 %	口 (20.1) 底 ( 2.0) 高 (24.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。「コ」の字状口縁。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
87-4 93	須恵器 盤	覆土内 破片	口 (23.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
87-5 92	須恵器 甕	覆土内 破片	口 24.7	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
87-6 93	鉄器 不詳	覆土内	幅 1.1 重 24.8	—	—	—	調査後の欠損が著しい。全体に棒状を呈する。	—
87-7 93	羽口	覆土内 破片	厚 2.4	透明鉱物粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	月夜野系
87-8 93	羽口	覆土内 破片	—	赤褐色粒子 細・微粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
87-9 瓦-667 93	瓦 字瓦	カマド内 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は半截竹管による稜杉文を表出している。女瓦部は一枚作り。凸面縄叩き (密) (T字状)。側部面取り4回。	秋間系
87-10 93	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子	酸化焰 か二次 焼成	浅黄橙	半截作り。凸面縄叩き整形 (密) 後轆轤再整形。側部面取り1回・端部面取り1回。	秋間系
87-11 93	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面布合せ目痕。側部面取り2回・端部面取り2回。	秋間系
88-1 93	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	吉井系
88-2 93	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面布合せ目痕。側部面取り3回・端部面取り2回。	秋間系
88-3 瓦-580 93	瓦 女瓦	カマド内 ほぼ完形	長 37.5 狭 24.4 厚 1.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。篋描き文字瓦「大」(凹面)。凸面離砂痕・縄叩き (密) (T字状)。側部喰出し段有り。側部面取り1回・端部面取り1回。	秋間系 重2.9kg
88-4 95	瓦 女瓦	カマド内 %	厚 1.1	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き (密) (T字状)。側部面取り3回・端部面取り1回。側部喰出し段有り。	秋間系



89-1 94	瓦 女瓦	覆土内 1/2	厚	2.9	白色鉍物粒子 白色粒子 赤褐色粒子	酸化焙	鈍黄橙	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
89-2 94	瓦 女瓦	覆土内 1/2	厚	1.5	微粒雲母	酸化焙	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回・端部面取り2回。	藤岡系
89-3 95	瓦 女瓦	カマド内 1/2	厚	2.0	微粒雲母 デイスait	酸化焙	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井・藤岡系
90-1 94	瓦 女瓦	カマド内 3/4	厚	1.4	白色鉍物粒子	酸化焙	黄橙	一枚作りか。凸面木目叩き後縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系

## B区第78号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目	(cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
91-1 95	須恵器 坏	1坑 1/2	口 底 高	11.3 6.1 3.9	白色微粒子 微粒雲母	還元焙	灰 黒灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
91-2 95	須恵器 坏	1坑 3/4	口 底 高	12.2 5.7 4.3	白色微粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
91-3 95	須恵器 坏	カマド内 完形	口 底 高	13.5 7.8 3.2	微粒砂	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
91-4 96	須恵器 坏	1坑 破片	口	(12.2)	白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。内面有機質附着。	秋間系か 乗附系
91-5 96	須恵器 坏	覆土内 1/2	口	(12.3)	白色微粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系
91-6 95	須恵器 坏	覆土内 1/2	底	5.5	白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系 乗附系
91-7 95	須恵器 坏	1坑 1/2	口 底 高	(13.9) 6.0 (3.9)	白色微粒子 黒色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
91-8 95	須恵器 坏	覆土内 1/2	底	7.2	白色微粒子 微粒雲母	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
91-9 墨書No10 96	須恵器 坏	覆土内 破片	底	(6.6)	微粒雲母 白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。底部に墨書「東」が認められる。	藤岡系
91-10 95	須恵器 壺	1坑 1/2	底	(8.3)	黒色粒子 白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
91-11 95	須恵器 壺	貯蔵穴内 3/4	口 底 高	15.1 9.3 5.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
91-12 95	須恵器 壺	覆土内 破片	底	(8.3)	白色微粒子 微粒雲母	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
91-13 95	須恵器 壺	貯蔵穴内 1/2	口 底 高	(15.9) 8.4 (5.3)	白色微粒子	還元焙	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
91-14 95	須恵器 皿	1坑 1/2	口 底 高	(13.5) 7.8 (3.0)	白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
91-15 95	須恵器 皿	カマド内 1/2	口 底 高	15.8 7.9 3.7	白色鉍物粒子 白色微粒子 デイスait	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系
92-1 96	土師器 甕	貯蔵穴内 1/4	口	(22.5)	黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焙	鈍黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
92-2 96	土師器 甕	カマド内 1/2	最径	(22.8)	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焙	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
92-3 96	須恵器 高台付坏	1坑 破片	底	(13.0)	白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
92-4 96	須恵器 長頸壺	1坑 破片	頸	(6.0)	密	還元焙 焼締	内面灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。器厚が薄く外面に自然釉が附着する(灰釉状)。	搬入品 (東海系)
92-5 95	須恵器 壺	覆土内 破片	—	—	白色微粒子	還元焙	外・暗灰 内・灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	秋間系

遺物一覧表

92-6 96	須恵器 壺(?)	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り成形後叩き整形。	秋間系
92-7 97	鉄器 鎌	カマド内 茎欠損	幅 1.9 重 8.5	—	—	—	茎部を欠損、刃部の研ぎ減りの状態から左利の鎌である。	—
92-8 97	鉄器 不詳	カマド内 破片	幅 0.9 重 0.5 重 5.6	—	—	—	錆化は顕著であるが比較的遺存は良好である。頭部側は旧状が残存する。	—
92-9 97	鉄器 釘	カマド内 破片	重 3.2	—	—	—	錆化が顕著で先端を欠損する(調査後)。	—
92-10 97	鉄器 不詳	カマド内 破片	重 2.4	—	—	—	錆化が著しい。調査後の欠損もあるが断面は方形であったと思われる。	—
92-11 97	鉄器 不詳	カマド内 破片	厚 0.9 重 1.4	—	—	—	錆化が著しいものの旧状は比較的良好に留まっている。板状の製品であるが器種の特定は不能。	—
92-12 96	土製品 羽口	覆土内 半分欠損	厚 3.0 幅 (8.3) 径 2.4	透明鉍物粗粒	酸化焰	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	月夜野系 か
92-13 96	土製品 羽口	1坑 破片	厚 2.2 径 (6.9) 孔径 2.0	シルト質	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
92-14 96	土製品 羽口	覆土内 破片	厚 3.3 径 7.7 孔径 2.0	白色微粒子	酸化焰	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
92-15 96	土製品 羽口	覆土内 破片	厚 3.2 径 (5.6)	微粒砂	—	—	使用に伴う色調の変化が顕著である。縦方向には顕著な還元面があり使用時に亀裂が入っている。	—
93-1 96	土製品 羽口	覆土内 破片	厚 (3.7) 径 (7.7) 孔径 (4.4)	微粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
93-2 96	土製品 羽口	1坑 破片	厚 2.0 径 (5.3) 孔径 (2.2)	白色微粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
93-3 96	土製品 羽口	覆土内 破片	厚 2.9 径 (7.0) 孔径 2.0	微粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
93-4 96	土製品 羽口	1坑 破片	厚 2.4 径 (5.9) 孔径 (3.0)	白色微粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着している。	—
93-5 96	土製品 羽口	覆土内 破片	厚 (2.9) 径 (6.2) 孔径 (3.0)	白色鉍物粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
93-6 96	礫器	覆土内 完存	長 15.1 幅 6.9 厚 4.3	変質玄武岩	—	—	部分的な剝離(落)が認められる。全体にすべすべした感触がある。	重700g
93-7 96	礫器 擦石	覆土内 完存	長 13.8 幅 6.1 厚 4.0	変質安山岩	—	—	背面側は剝落した面を磨いている。	重540g
93-8 瓦-645	瓦 鍍瓦	1坑 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰 焼締	暗灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。一本作り。	笠懸系
94-1 95	石製品 砥石	1土坑 破片	長 27.1 幅 12.7 厚 12.8	粗粒安山岩	—	—	大型鉄製品の砥石で、全面に鉄錆が付着する。砥面6面が認められる。	重4620g
95-1 120	塊状鉄滓	覆土内 ほぼ完存	長 13.6 幅 15.8 厚 3.5	—	—	—	基本的に96図-1と同様である。本品の場合は、融解物大きく塊状に認められる。	重1330g
95-2 120	塊状鉄滓	覆土内 完形	長 10.9 幅 15.0 厚 4.0	—	—	—	上位には楕円形、下位には不整形(基調は楕円形か)の2塊が隔着する。上位側は鉄分の含有が多いか。植物繊維は少量認められる。	重1070g
95-3 102	塊状鉄	覆土内 ほぼ完存	長 11.7 幅 14.1 厚 2.2	—	—	—	上面側は下面より凹凸が少ない。炉床材の付着は認められないが、多数の植物繊維体の付着が認められる。	重530g

## B区(78号住居跡)

95-4 101	塊状鉄滓	覆土内 ほぼ完存	長 幅 厚	10.1 18.2 5.1	—	—	—	不整形であるが、楕円形を呈する塊の融着に原因する。植物の繊維は認められない。	重1090g
95-5 101	塊形鉄滓	覆土内 部分欠損	長 幅 厚	11.1 12.9 2.7	—	—	—	鶏卵状乃至楕円形状を呈する。上面側は、中央が窪む状態でその直下に鉄分を多く含む部分がある。植物繊維は認められない。	重670g
95-6 102	塊形鉄滓	覆土内 完存	長 幅 厚	9.4 14.5 3.9	—	—	—	不整形形状を呈する(基調は楕円形状)。上面側に多量の植物繊維を残す。(ワラ状主体)3乃至4塊の融着状態と考えられる。	重770g
96-1 101	塊状鉄滓	覆土内 ほぼ完存	長 幅 厚	10.5 13.1 2.4	—	—	—	基本的には95図-3に近い。だが矩形形状は、二面認められる鉄滓の新しい方であるが、この形状は自然なもので人による加工とは考えられない。	重460g
96-2 101	塊状鉄滓	覆土内 ほぼ完存	長 幅 厚	9.5 10.7 2.4	—	—	—	95図-3に同じ。	重590g
96-3 101	塊形鉄滓	覆土内 完存	長 幅 厚	10.4 10.3 2.3	—	—	—	楕円形状を呈する。2塊の融着とも思われるが単純に1塊状であると考えられる。植物繊維は少量認められる。	重400g
96-4 101	塊状鉄滓	覆土内 部分欠損	長 幅 厚	8.4 12.6 4.3	—	—	—	形状は鶏卵状を呈するが、2塊の融着状態である。下面側は還元色を呈する。植物の繊維は認められない。	重610g
96-5 102	塊状鉄滓	覆土内 ほぼ完存	長 幅 厚	11.1 13.7 3.1	—	—	—	破片の接合資料である。全体に鶏卵状を呈する。中央が窪み上・下面で2つの鬼状となる。基本的には95図-3と同様。	重870g
96-6 101	塊形鉄滓	覆土内 完存	長 幅 厚	8.8 10.1 3.1	—	—	—	楕円形の2塊が隔着である。植物繊維の痕は認められない。	重450g
96-7 101	3形鉄滓	覆土内 完存	長 幅 厚	8.5 9.2 3.5	—	—	—	楕円形状を呈する。1鬼のもので、植物繊維は殆ど認められない。	重335g
96-8 101	塊形鉄滓	覆土内 完存	長 幅 厚	7.5 7.7 2.3	—	—	—	円形状を呈するが、縁辺に加工を加えたことによる。全体にケイ酸分が強い。植物繊維は少量認められる。	重185g
97-1 97	瓦 男瓦	1坑 一部欠損	長 幅 厚	39.1 17.7 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。後凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
97-2 97	瓦 玉縁付男瓦	1土坑 破片	厚	2.5	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形後縄叩き(密)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。玉縁接合はA類。	乗附系
97-3 97	瓦 男瓦	カマド内 瓦	狭 厚	15.7 1.9	白色粒子 細粒砂	還元焰	鈍黄橙	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形後縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り1回。	吉井系
98-1 98	瓦 男瓦	カマド内 瓦	広 厚	19.0 1.8	白色鉍物粒子 デイスait 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
98-2 97	瓦 男瓦	貯蔵穴内 瓦	広 厚	17.5 2.3	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形後縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系か 笠懸系
98-3 97	瓦 男瓦	1坑 破片	厚	2.0	白色鉍物粒子 デイスait	酸化焰 か二次 焼成	橙	半截作り。凸面平行叩き。側部面取り2回。	吉井系
99-1 97	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.6	白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。凹面布合せ目痕・粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
99-2 97	瓦 男瓦	覆土内 破片	狭 厚	14.0 2.3	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。	秋間系
99-3 98	瓦 男瓦	傍竈坑内 破片	狭 厚	12.2 2.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	乗附系
99-4 98	瓦 男瓦	貯穴内 破片	狭 厚	14.0 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。粘土板接合は「S」。側部面取り3回。	乗附系か 秋間系

遺物一覧表

100-1 98	瓦 男 瓦	貯蔵穴内 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	秋間系
100-2 99	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
100-3 瓦-581 98	瓦 男 瓦	1坑 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り4回。粘土板接合は「Z」。篋描き文字瓦「不詳」(凹面)。	吉井系
100-4 98	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形。端部面取り1回。	笠懸系
101-1 98	瓦 女 瓦	カマド内 破片	長 39.5 幅 25.4 厚 2.0	白色鉱物粒子 デイサイト 微粒雲母	中性焰	黒灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	藤岡系
101-2 瓦-582 98	瓦 熨斗瓦か 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。刻印文字瓦「當」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
101-3 99	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.5	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	中性焰	鈍橙	作り不詳。凹面コマ状圧痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	不詳
101-4 99	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 デイサイト	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	桶巻き造りか。凸面平行叩き。側部面取り3回。101図-5と同一個体。	吉井系
101-5 99	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイサイト	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	桶巻き造りか。凸面平行叩き。平行叩きの状態から桶巻き造りの可能性が強い。側部面取り2回・端部面取り2回。101図-4と同一個体。	吉井系
101-6 99	瓦 女 瓦	貯蔵穴内 破片	厚 2.4	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き。側部面取り2回・端部面取り1回。101図-8と同一個体。	笠懸系
101-7 100	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。	笠懸系
101-8 99	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	褐	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き。側部面取り2回・端部面取り1回。101図-6と同一個体。	笠懸系
102-1 99	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	赤橙	一枚作り。凹面寄木痕。両面粘土板剥ぎ取り痕凸面正格子叩き。側部面取り3回・端部面取り3回。	笠懸系
102-2 99	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	褐	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格子叩き。	笠懸系
102-3 99	瓦 女 瓦	1坑 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイサイト	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
102-4 100	瓦 女 瓦	貯蔵穴内 破片	長 39.0 厚 1.8	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
103-1 瓦-583 100	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形。側部面取り3回。篋描き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系か
103-2 99	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面縦位の撫で整形。凸面轆轤整形。側部面取り2回。	乗附系
103-3 99	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイサイト	酸化焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
103-4 100	瓦 女 瓦	1土坑 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤整形。側部面取り2回。	吉井系

B区第79号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
104-1 100	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (10.7)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
104-2 100	土 師 器 坏	床直層 破片	口 (11.1)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系

105-1 100	土師器 坏	覆土内 片	口 (11.4)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-2 100	土師器 坏	覆土内 片	口 11.4 高 3.5	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-3 103	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-4 103	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.9)	白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	明橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-5 103	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.1)	黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-6 100	土師器 坏	床直層 片	口 (12.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
105-7 100	土師器 坏	カマド内 片	口 (13.3) 高 (3.5)	黒色鉍物粒子 白色粒子 デイスaito	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	吉井・藤岡系
105-8 103	土師器 甕	カマド内 破片	口 (20.3)	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
105-9 103	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り後篋削り整形。	藤岡系
105-10 103	土師器 甕	床直層 破片	口 (23.2)	白色微粒子 白色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井系
105-11 100	土師器 甕	カマド内 片	底 3.9	細粒砂 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。胴部・底部は篋削り。外器面全体にカマドの粘土(シルト質)が付着する。	藤岡系
105-12 100	須恵器 長頸壺	覆土内 一部欠損	底 11.2	黒色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面胴部下半は回転篋撫で。	乗附系
105-13 103	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (16.2)	白色粒子 微粒雲母	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
105-14 103	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (26.2)	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
106-1 100	須恵器 硯	覆土内 片	長 15.3 幅 10.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰褐 帯橙紫	瓢形状を呈する。底面側は手持ちの篋削りを施す。硯面は粘土円盤を接合する。	乗附系
106-2 103	礫器 擦石	覆土内 完存	長 7.9 幅 3.5 厚 3.3	粗粒安山岩	—	—	小型の擦石である。上面側が磨滅する。	重130g
106-3 103	礫器 擦石	覆土内 完存	長 13.7 幅 5.1 厚 3.0	粗粒安山岩	—	—	上面が磨滅する。	重400g
106-4 103	礫器 敲石	床直層 完存	長 14.2 幅 6.8 厚 4.5	石英閃緑岩	—	—	被熱が全体に及んでいる。小口・側部は敲打に伴う剥離が顕著。上面は磨滅する。	重600g
106-5 103	礫器 擦石	床直層 完存	長 14.2 幅 6.1 厚 4.9	粗粒安山岩	—	—	上面の磨滅が著しい。側部側には敲打痕が認められる。	重750g
106-6 103	礫器	床直 完存	長 14.3 幅 6.7 厚 3.6	溶結凝灰岩	—	—	特別な使用痕と考えられるものは認められない。	重500g

## B区第80号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
107-1 103	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.1)	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部外傾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
107-2 103	土師器 坏	覆土内 片	口 (13.3)	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
107-3 103	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
107-4 103	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.7) 底 (7.9)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は篋削り。	乗附系
107-5 103	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (18.0) 底 (12.8)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	乗附系

遺物一覧表

107-6 103	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (7.0)	Rローム 細砂含	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転篋削りか。	太田系か
107-7 103	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (8.6)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転篋削り。	乗附系
107-8 103	土 釜	カマド内 破片	口 (28.4)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り成形後篋撫で整形。口縁は短かく外反する。	吉井系
107-9 103	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き整形 (密) 後轆轤再整形。側部面取り3回。	吉井系
107-10 瓦-584	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「子」(凸面)。	笠懸系
108-1 103	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き (密) 側部面取り2回。	秋間系
108-2 103	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	浅黄橙	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き (密)。側部面取り3回。	吉井系
108-3 103	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕凸面縦位の撫で整形。	吉井系

B区第81号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
109-1 104	須恵器 坏	覆土内 ½	底 5.8	微粒雲母	還元焰	黒灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
109-2 104	須恵器 壺	床面直上 完形	口 14.1 底 7.0 高 4.9	雲母 黒色鉱物粒子 シルト粗粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か 吉井・藤 岡系
109-3 104	須恵器 壺	カマド内 ½	口 (14.8)	黒色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	乗附系か 秋間系
109-4 104	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (14.1)	微粒雲母 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
109-5 104	須恵器 壺	カマド内 ほぼ完形	口 14.6 底 7.2 高 5.3	白色鉱物粒子 微粒雲母	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
109-6 104	須恵器 壺	覆土内 ½	底 6.4	微粒雲母	酸化焰	鈍黄褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
109-7 104	須恵器 壺	覆土内 ½	底 6.9	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系か 乗附系
109-8 104	須恵器 壺	覆土内 ¾	底 5.6	微粒雲母 黒色鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。高台欠損後、坏に転用。	藤岡系
109-9 104	土 師 器 甕	カマド内 ½	口 18.1 最径 21.3	微粒雲母	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
109-10 104	土 師 器 甕	カマド内 ½	口 17.2 最径 22.6	赤褐色粒子	酸化焰	橙	109-9に同じ。	吉井系
110-1 104	須恵器 羽 釜	覆土内 破片	鏝 (23.4)	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後篋撫で整形。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。	吉井型羽 釜 乙壺 種呂類
110-2 104	須恵器 壺	床面直上 破片	底 (11.5)	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄灰	轆轤成形 (右回転)。高台は付高台。	吉井系 藤岡系
110-3 104	土 師 器 土 釜	カマド内 破片	厚 0.6	白色鉱物粒子 デイスایت チャート	酸化焰	橙	紐作り成形後篋撫で整形。	吉井系
110-4 104	施釉陶器 灰 釉 皿	カマド内 破片	底 (8.2)	密		白灰	轆轤成形 (左右転)。高台は付高台。	

B区第82号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
111-1 104	土 師 器 坏	覆土内 ½	口 12.4 高 3.4	黒色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系



111-2 105	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
111-3 105	土師器 坏	カマド内 破片	口 (13.0)	黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
111-4 105	土師器 坏	覆土内 破片	(口 13.2)	微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
112-1 104	土師器 坏	床直層 ほぼ完形	口 13.3 高 3.0	微粒雲母 黒色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
112-2 105	土師器 坏	カマド内 破片	口 (13.4)	微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
112-3 105	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
112-4 104	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
112-5 104	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。内面有機質が墨附着。	藤岡系
112-6 105	須恵器 壺蓋	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。罫は貼り付け。	秋間系
112-7 104	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 14.6 摘高 4.5 高 2.4	黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
112-8 104	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 14.4	白色微粒子 白色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
112-9 104	須恵器 坏蓋	覆土内 完形	摘口 5.7 19.8 高 4.2	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。端部は折り返し。	乗附系
112-10 104	須恵器 坏	床面直上 ほぼ完形	口 11.1 底 7.2 高 2.7	白色微粒子	還元焰	鈍灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
112-11 104	須恵器 坏	覆土内 完形	口 15.0 底 8.5 高 3.6	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系 乗附系
112-12 105	須恵器 坏	カマド内 破片	底 4.0	白色粒子 デイスайト	酸化焰	明赤褐	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
112-13 104	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (16.3) 底 (11.6) 高 (7.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
112-14 105	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (25.7)	細砂粒	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
113-1 104	須恵器 盤	覆土内 破片	口 (23.5) 底 (20.0) 高 (4.4)	白色微粒子 黒斑	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
113-2 105	土師器 大甕	覆土内 一部欠損	頸 18.0 最径 21.2	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
113-3 105	土師器 甕	覆土内 破片	口 (17.0)	白色微粒子 微粒雲母砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
113-4 105	土師器 甕	覆土内 破片	最径(23.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り成形。胴部は斜位の篋削り。	藤岡系
113-5 104	須恵器 坏	覆土内 破片	底 10.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。内面に有機質の付着が認められる。	秋間系
113-6 105	鉄器 刀子	覆土内 刀身部	重ね 0.35 重 15.3	—	—	—	錆化が顕著で瘤状の錆がある。遺子状態は比較的良好である。	—
113-7 105	鉄器 釘	カマド内 先端側破片	重 2.0	—	—	—	錆化が顕著であるが、比較的良好な遺存は良好である。断面正方形を呈する。	—
113-8 105	礫器 敲石	覆土内 破片	長 20.2	変輝緑岩	—	—	全体に剝離(落)が及んでいる。旧状は磨石と考えられ、磨減面が残存する。	重990g
113-9 105	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子 デイスайト 微粒雲母	還元焰	灰黄	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り2回。面縦位の篋撫で整形。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

113-10 105	瓦 男瓦	カマド内 細片	厚	2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・ 端面面取り2回。	吉井系
113-11 105	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.8	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き(密)。	秋間系
113-12 105	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚	1.1	白色微粒子 微粒雲母	中性焰	灰黄	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。	吉井・藤 岡系
113-13 105	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	1.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕側部喰出し段有り。凸 面横撫で。	秋間系

B区第83号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目	(cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
114-1 250	金属製品 銭	床面直上 完形	径	1.9	—	—	—	饒益神寶。初鑄は貞観元年(859)。	—
114-2 105	土師器 壺	カマド内 一部欠損	口 底 高	14.2 7.9 6.2	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で。体部 は篋削り。高台は付高台。口縁直下に型膚を 残す。	東毛系か
115-1 105	土師器 坏	覆土内 一部欠損	口 底 高	8.5 4.6 1.6	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
115-2 106	須恵器 坏	覆土内 破片	口	(12.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
115-3 105	須恵器 坏	覆土内 %	口 底 高	12.4 5.6 3.4	微粒雲母 白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
115-4 105	須恵器 坏	ピット内 %	口 底 高	12.8 6.8 4.0	微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系か 藤岡系
115-5 106	須恵器 坏か壺	覆土内 破片	口	(14.0)	赤褐色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
115-6 105	須恵器 壺	覆土内 %	底	(6.2)	白色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
115-7 105	須恵器 壺	カマド内 破片	底	(8.6)	黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
115-8 105	須恵器 皿	カマド内 完形	口 底 高	12.9 7.2 3.1	白色微粒子	還元焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。口唇部に有機質 附着。	藤岡系
115-9 105	須恵器 皿	覆土内 %	口	13.7	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系か
115-10 106	土師器 甕	カマド内 破片	口	(19.3)	黒色鉍物粒子 細砂粒	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井・藤 岡系
115-11 106	須恵器 壺	覆土内 破片	最径	(18.0)	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
115-12 105	須恵器 高坏	カマド内 %	底	7.6	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。脚部にシボリのしわが多 く認められる。	秋間系
115-13 106	羽釜	覆土内 破片	鏝	(24.0)	白色鉍物粒子 微粒雲母	還元焰	灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲貳 種呂類
115-14 106	羽釜	カマド内 破片	口 鏝	(20.4) (23.2)	白色鉍物粒子 微粒雲母		黄灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。	吉井型羽 釜 甲貳 種呂類
115-15 106	須恵器 羽釜	貯蔵穴内 %	口	(23.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。	吉井型羽 釜 甲貳 種伊類
115-16	鉄器 釘	カマド内 両端側欠 損	重	5.3	—	—	—	錆化が著しい。上端側の部分はほぼ頭部と思 われる。断面正方形を呈する。	—
115-17	鉄器 釘か	カマド内 破片	重	1.3	—	—	—	錆化が著しい。釘の先端側と思われる。断面 正方形を呈する。	—
115-18 105	施釉陶器 灰釉壺	覆土内 破片	底	6.8	密	焼締	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は刷毛塗り か。	東濃系 か。



115-19 106	瓦 女瓦	カマド左 袖破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。両面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
116-1 106	瓦 女瓦	傍竈内 破片	厚 2.1	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回・端部面取り1回。側部喰出し段有り。	秋間系か 乗附系
116-2 106	瓦 女瓦	カマド内 1/4	厚 2.1	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
116-3 106	瓦 女瓦	カマド内 1/2	狭幅 22.6 厚 1.5	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	外・黒 断・黄 橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回・端部面取り1回。	藤岡系

## B区第85号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
117-1 107	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。口縁部・器内面は横撫で、底部は平底で篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
117-2 107	土師器 坏	竈坑上面 破片	口 (12.8)	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。外稜を有する。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
117-3 106	須恵器 坏	覆土内 1/4	口 (11.7) 底 (7.0) 高 (3.6)	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系か
117-4 106	須恵器 坏	カマド内 一部欠損	口 12.6 底 5.8 高 3.6	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	外・黄橙 内・黒褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
117-5 106	須恵器 坏	カマド内 1/2	口 13.0 底 8.0 高 3.5	細砂粒	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
117-6 106	須恵器 坏	床直層 一部欠損	口 13.2 底 7.7 高 3.3	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
117-7 106	須恵器 埴	カマド内 1/4	口 14.3 底 7.5 高 4.3	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
118-1 106	須恵器 埴	床直層 1/2	口 14.3 底 6.9 高 5.2	白色微粒子 黒色粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か 藤岡系
118-2 106	須恵器 埴	床直層 1/2	口 (14.8) 底 (7.3) 高 (5.3)	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
118-3 106	土師器 小型甕	覆土内 1/4	底 4.6	微粒雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。	笠懸系か
118-4 107	須恵器 内黒土器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色鉍物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。器内面に暗文を施し、吸炭させている。	笠懸系か
118-5	須恵器 内黒土器 坏	カマド内 破片	口 (15.1)	白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	外・浅黄 橙 内・黒灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。器内面に暗文を施し、器内面を吸炭させている。	藤岡系
118-6 107	土師器 甕	カマド内 破片	口 (19.2)	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
118-7 107	土師器 甕	カマド内 破片	口 (21.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
118-8 107	石製品 磨石	覆土内 完存	長 8.2 幅 7.7 厚 4.8	二ツ岳軽石	—	—	全体が丸く整形されている。使用面は、3面の緩やかな斜面が認められる。	重172g
118-9 107	礫 器 不詳	床直層 完存	厚 5.5	軽石	—	—	極部的に平坦に磨かれている。	重280g
118-10 107	礫 器 磨石	床直層 完存	長 11.0 幅 8.5 厚 4	ひん岩	—	—	上面が磨滅し擦痕が多い。	重659g

遺物一覧表

118-11 107	鉄器 鐵	覆土内 破損	身幅 3.4 重ね 0.3 重 10.5	—	—	—	錆化が著しい。調査後の錆化により著しく破損している。平根三角形扶腸式鐵	—
118-12 瓦-668	瓦 字瓦	覆土内 破片	厚 3.3	白色鋳物粒子	還元焰	灰	重郭文か。顎は曲線顎。	吉井系
118-13 瓦-585	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色鋳物粒子	還元焰	灰	半載作り。篋描き文字瓦「千」か(凸面)。凸面斜位の撫で整形。	吉井系
118-14 107	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鋳物粒子	酸化焰	黄橙	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り2回。	吉井系
118-15 107	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面縄叩き。側部面取り2回。	中之条か
118-16 107	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色鋳物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形痕。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	乗附系
119-1 瓦-646	瓦 鏡瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色鋳物粒子	還元焰	暗灰	一本作り。瓦当欠損。男瓦部は半載作りか。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
119-2 107	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鋳物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面平行叩き。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り1回・端部面取り1回。	吉井・藤岡系
119-3 107	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鋳物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面平行叩き、側部面取り1回・端部面取り2回。	吉井・藤岡系
119-4 107	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鋳物粒子	中性焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
119-5 107	瓦 女瓦	No27 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回・端部面取り1回。	秋間系
119-6 107	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚 2.1	白色微粒子 透明鋳物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形後格子叩き整形。	笠懸系
119-7 107	瓦 女瓦	覆土内 1/2	厚 2.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。両面自然釉付着。側部面取り1回・端部面取り1回。	乗附系

B区第86号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
120-1 108	土師器 坏	カマド内 破片	口 (14.9)	微粒雲母 黒色鋳物粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
120-2 108	土師器 坏	カマド内 破片	口 (14.4)	微粒雲母 黒色鋳物粒子 白色鋳物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部外面は斜位の篋削り、内面は横撫でを施す。底部は篋削整形。	吉井・藤岡系
120-3 108	土師器 坏	覆土内 1/2	口 (15.1)	微粒雲母	酸化焰	橙	120-2に同じ。	藤岡系
120-4 108	土師器 坏	覆土内 1/2	口 (14.8)	微粒雲母	酸化焰	橙	120-2に同じ。	吉井・藤岡系
120-5 108	土師器 甕	カマド内 破片	口 (21.4)	白色粒子 黒色鋳物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
121-1 108	須恵器 皿	カマド内 1/2	口 (14.2) 底 (8.0) 高 (3.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
121-2 108	土師器 鉢	カマド内 1/2	口 (28.8) 底 (13.2) 高 (12.1)	微粒雲母 デイスait 白色鋳物粒子	酸化焰	橙	成形は型作りか。口縁部は強く屈曲する。器外面は篋削りを施す。	藤岡系
121-3 108	礫 擦石	床直層 完存	長 13.0 幅 5.0 厚 4.1	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重470g
121-4 108	鉄器 釘か	覆土内 完存	厚 0.5 重 6.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。全体形状は屈曲している。調査後の欠損により部分的に欠損している。	—
121-5 108	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 白色鋳物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	乗附系

## B区第87号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
122-1 108	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は笥削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
122-2 108	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.6)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は笥削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
123-1 109	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母	酸化焙	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は笥削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
123-2 109	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.2)	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焙	黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。体部・底部は笥削り。	藤岡系
123-3 109	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焙	浅黄橙	型作り成形。口縁部は外反し、体部・底部は笥削り、器内面に暗文を施す。	藤岡系
123-4 108	土師器 坏	覆土内 ½	口 15.0 高 4.3	白色微粒子	酸化焙	浅黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜作の笥削り、底部は笥削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
123-5 108	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	摘 3.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)。天上半部は回転笥削り。	秋間系
123-6 108	須恵器 坏蓋	覆土内 ½	口 (14.0)	黒色粒子	還元焙	灰白	端部は微少に下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転笥削り。摘部は貼り付け。	秋間系
123-7 108	須恵器 坏蓋	覆土内 ½	口 (17.0) 摘高 (2.6)	デイスait 白色鉱物粒子	酸化焙	橙	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転笥削り。摘部は貼り付け。	吉井・藤岡系
123-8 108	須恵器 坏蓋	床直 一部欠損	口 17.4 摘高 3.3 高 4.0	微粒雲母	還元焙	暗灰	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転笥削り。摘部は貼り付け。	吉井・藤岡系
123-9 108	須恵器 壺蓋	覆土内 ½	口 (17.1)	白色微粒子	還元焙	灰白	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転笥削り。摘部は貼り付け。	秋間系
123-10 108	須恵器 坏	覆土内 ½	口 (12.2) 底高 (7.4) (3.5)	黒色粒子 白色微粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転笥削り。	秋間系
123-11 108	須恵器 坏	覆土内 ½	口 (12.2) 底高 (7.1) (3.3)	黒色粒子	還元焙	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
123-12 108	須恵器 坏	床直 ¾	口 (12.2) 底高 7.2 3.4	黒色粒子	還元焙	灰	轆轤整形(右回転)。底部は回転笥削り。	秋間系
123-13 108	須恵器 坏	床直層 ほぼ完形	口 12.9 底高 7.8 3.5	黒色粒子	還元焙	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
123-14 108	須恵器 坏	覆土内 ½	口 12.6 底高 8.0 3.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焙	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
123-15 110	須恵器 坏	覆土内 ½	口 13.0 底高 8.0 3.5	黒色粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
123-16 110	須恵器 坏	床直層 一部欠損	口 13.0 底高 7.4 3.5	黒色粒子	還元焙	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
123-17 110	須恵器 坏	覆土内 ½	口 13.2 底高 10.0 3.9	白色微粒子	酸化焙	外・黒内・暗灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転笥削り。	乗附系か
123-18 110	須恵器 坏	床直層 ¾	口 (13.6) 底高 8.0 3.5	夾無	還元焙	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
123-19 110	須恵器 坏	覆土内 ½	口 (13.7) 底高 8.0 3.5	微粒砂	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
123-20 110	須恵器 坏	覆土内 ½	口 (13.8) 底高 6.8 4.0	微粒砂	還元焙	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。器外面が焼成に黒灰色に燻されている。	乗附系

遺物一覧表

123-21 110	須惠器 坏	床直層 完形	口 底 高	11.7 7.8 4.6	黒色鉾物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	乗附系
123-22 109	須惠器 壊	覆土内 破片	口	(13.9)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。高台欠損（付高台）。	秋間系
123-23 110	須惠器 壊	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	15.4 8.8 6.9	黒色鉾物粒子	還元焰	白灰	轆轤整形（右回転）。付高台。	秋間系
123-24 110	須惠器 壊	覆土内 1/4	口	(19.3)	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。高台欠損（付高台）。	乗附系
123-25 110	須惠器 壊	覆土内破 片	底	9.0	微粒雲母	還元焰	灰褐	轆轤成形（右回転）。付高台。	藤岡系
123-26 109	須惠器 壊	覆土内 破片	底	(10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。	秋間系

B区第87・88・108号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
124-1 109	須惠器 坏蓋 内黒土器	覆土内 破片	口	(13.5)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形（右回転）。器内面に暗文を施す。	笠懸系か 太田系
124-2 109	須惠器 坏 内黒土器	覆土内 破片	口	(12.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形（右回転）。器内面に暗文を施す。	笠懸系
124-3 109	須惠器 坏 内黒土器	覆土内 破片	口	(12.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形（右回転）。器内面に暗文を施す。	笠懸系
124-4 109	須惠器 坏 内黒土器	覆土内 破片	底	(8.0)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形（右回転）。器内面に暗文を施す。	笠懸系か 太田系
124-5 109	須惠器 坏 内黒土器	覆土内 破片	底	(8.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形（右回転）。器内面に暗文を施す。	笠懸系か 太田系
124-6 109	須惠器 坏 内黒土器	覆土内 破片	底	5.5	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形（右回転）。器内面に暗文を施す。	笠懸系か 太田系
124-7 109	須惠器 皿 内黒土器	覆土内 破片	口 底 高	(14.0) (6.8) (3.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。	笠懸系か 藤岡系
124-8 110	土師器 甕	カマド内 一部欠損	口 底 高	19.7 4.7 27.7	微粒雲母 黒色鉾物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
124-9 109	土師器 甕	覆土内 破片	口	(28.0)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
124-10 109	土師器 甕	覆土内 1/4	口 最径	(17.2) (17.3)	微粒雲母 黒色鉾物粒子	酸化焰	橙	口縁部は「コ」の字状に外反する。型作り成形。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
124-11 110	土師器 台付甕	覆土内 破片	底	(10.1)	黒色鉾物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り成形後横撫で整形。	藤岡系
124-12 109	鉄器 刀子	覆土内 両端欠損	重ね 重	0.2 4.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により茎尻側・鋒側を破損している。	—
125-1 109	須惠器 短頸壺	覆土内 破片	口	(10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形（右回転）。	秋間系
125-2 109	須惠器 壺	覆土内 破片	厚	0.8	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に櫛目の刺突文を施す。	秋間系
125-3 109	須惠器 甕	フク土内 破片	口	(13.3)	砂粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形（右回転）。	藤岡系か
125-4 109	須惠器 壺	覆土内 破片	厚	0.8	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面自然釉付着。	秋間系
125-5 109	須惠器 大甕	覆土内 破片	厚	1.3	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系

## B区(87・88・108・89号住居跡)

125-6 109	須惠器 大甕	覆土内 破片	厚	0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。外面自然釉付着。	乗附系
125-7 109	須惠器 大甕	覆土内 破片	厚	0.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
125-8 109	須惠器 大甕	覆土内 破片	厚	1.1	白色鈹物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系
125-9 109	礫器 擦石	覆土内 片	長 幅 厚	9.0 4.7 5.0	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重435g
125-10 109	礫器 擦石	覆土内 完存	長 幅 厚	12.7 4.4 3.2	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重385g
125-11 109	礫器 擦石	覆土内 完存	長 幅 厚	11.2 5.2 3.5	砂岩	—	—	平坦面に使用に伴ない磨滅が認められる。	重370g
125-12 109	礫器 敲石か	覆土内 完存	長 幅 厚	13.5 6.1 4.3	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重500.5g
125-13 109	礫器 敲石か	覆土内 完形	長 幅 厚	14.0 4.5 2.2	粗粒安山岩	—	—	平坦部は、端部の強い敲打により剥落している。	重365g
126-1 109	礫器	覆土内 完存	長 幅 厚	13.5 5.7 4.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重470g
126-2 109	礫器	覆土内 完存	長 幅 厚	15.0 6.9 3.9	ひん岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重620g
126-3 109	礫器 敲石	覆土内 一部欠損	長 幅 厚	15.3 6.3 3.0	黒色頁岩	—	—	敲打に伴ないか、一部隅を欠損する。	重460g
126-4 110	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.5	白色鈹物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り2回。	吉井系
126-5 110	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.1	白色鈹物粒子	還元焰	灰	半載作り。側部面取り2回。	吉井系
126-6 瓦-586	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	2.3	白色鈹物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
126-7 110	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.1	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。	笠懸系
126-8 110	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.1	赤褐色粒子	中性焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き(密)。	秋間系
126-9 110	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.3	白色鈹物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。両面縦位の撫で整形。側部面取り1回。端部面取り1回。	吉井系
126-10 110	瓦 熨斗か	覆土内 破片	厚	2.2	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凹面布目擦り消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系
126-11 110	瓦 女瓦	床直層 破片	厚	1.4	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	浅黄	一枚作り。粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系

## B区第88号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
127-1 110	須惠器 壺	カマド内 破片	厚 0.9	白色鈹物粒子 白色微粒子	中性焰	外・灰 内・浅 黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。器内面に有機質が付着する。	吉井系

## B区第89号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
128-1 110	土師器 坏	覆土内 片	口 (9.9)	微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り成形。口縁部は短かく外反し横撫でを施す。器外面は横位の篋削りで、器内面は横位の篋撫でを施す。	藤岡系

遺物一覧表

128-2 110	土師器 台付甕	覆土内 一部欠損	口 (13.2)	黒色鈹物粒子 白色微粒子	酸化焰	褐	口縁部はゆるやかに外傾する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
128-3 110	土師器 甕	覆土内 %	口 19.3	黒色鈹物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
128-4 111	土師器 甕	覆土内 破片	口 (23.2)	微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で。	藤岡系
128-5 墨書-11 110	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 13.4 底 6.7 高 5.1	黒色鈹物粒子 微粒雲母	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
129-1 111	須恵器 坏	覆土内 %	口 13.4 底 6.8 高 3.9	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。器内面有機質付着。	秋間系
129-2 111	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 13.4 底 6.5 高 4.3	微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。全体の歪みの為図中轆轤目は逆位になって見える。	藤岡系
129-3 111	須恵器 坏	覆土内 一部欠損	口 14.1 底 7.8 高 3.2	微粒雲母	中性焰	外・橙 内・黒 灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
129-4 111	須恵器 埴	カマド内 一部欠損	口 14.7 底 7.7 高 4.9	白色鈹物粒子 白色微粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
129-5 111	須恵器 埴	覆土内 %	口 14.1 底 7.2 高 5.0	白色微粒子 微粒雲母 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
129-6 111	須恵器 埴	床直層 %	口 15.1 底 7.2 高 5.1	黒色鈹物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
129-7 111	須恵器 皿	床直層 %	口 13.0 底 9.5 高 6.2	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
129-8 111	須恵器 内黒土器 坏	覆土内 %	口 16.2 底 7.0 高 5.4	白色微粒子 微粒雲母	中性焰	外・橙	轆轤成形(右回転)。器内面に暗文を施す。外面底部周辺に篋削りを施す。	藤岡系
129-9 111	須恵器 長頸壺	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
129-10 111	須恵器 壺	床直層 破片	厚 0.5	白色鈹物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	東海系か
129-11 111	須恵器 大甕	カマド内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り成形後叩き整形(外面平行叩き内面宛具は青海波文)。	乗附系
129-12 111	須恵器 甕	覆土内 破片	最径(32.0)	白色鈹物粒子	還元焰	外・灰白 内・灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴下半部は縦位の篋削り。	吉井系
129-13 111	施釉陶器 灰釉耳皿	ほぼ完形	—	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)後両側を内側につまんでいる。底部は回転糸切り。	
130-1 111	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白色鈹物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面平行叩き、端部面取り2回・側部面取り2回。	吉井系
130-2 111	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鈹物粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面縄叩き(密)。	吉井系
130-3 瓦-587 111	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鈹物粒子	還元焰 焼締	暗灰	一枚作りか。篋描き文字瓦「辛葛守」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
130-4 111	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鈹物粒子	中性焰	灰	一枚作りか。凸面縄叩き(密)後撫で整形。吉井系	
130-5 111	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凸面縄叩き(密)。縦位の撫で整形。側部面取り5回。	吉井系
130-6 111	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色微粒子	中性焰 気味	黄灰	一枚作り。凹面布目擦り消し、粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き。	笠懸系



## B区第90号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
131-1 112	須恵器 羽釜	カマド内 破片	底 (12.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。外面は縦位の篋撫で整形、内面は横撫でを施す。	吉井系 吉井型羽釜
131-2 112	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 4.9	—	—	—	全体に調査後の錆化により破損している為詳細は不分明。	—
131-3 112	礫器 擦石	覆土内 完存	長 10.1 幅 4.9 厚 3.8	ひん岩	—	—	上面が磨滅する。	重285g
131-4 112	礫器 敲石	覆土内 完存	長 (14.6) 幅 5.9 厚 3.7	溶結凝灰岩	—	—	敲打に伴う剥離(落)が認められる。	重505g
131-5 瓦-669	瓦 字瓦	覆土内 破片	厚 3.1	白色鉍物粒子	中性焰	灰白	瓦当意匠は重弧文か。凸面縄叩き(密)。	吉井系
131-6 112	瓦 男瓦	カマド (天井) 1/4	厚 1.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	秋間系
131-7 111	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕凸面轆轤整形痕。	吉井系
132-1 瓦-588 111	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子 雲母	還元焰	灰白	半截作り。篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。端部面取り1回。	吉井系

## B区第91号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
134-1 112	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.3)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
134-2 112	土師器 坏	覆土内 1/2	口 13.6 高 4.0	微粒雲母 藤岡系	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。内面に暗文を施す。	藤岡系
134-3 112	須恵器 内黒土器 埴	覆土内 1/4	口 12.6	白色粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内面暗文を施す。	藤岡系か
134-4 112	須恵器 鉢	カマド内 破片	口 (18.8)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
134-5 112	土師器 甕	覆土内 完形	口 22.4 底 5.4 高 28.8	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系 最径21.9
134-6 瓦-670 112	瓦 字瓦	覆土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	白灰	右扁行唐草文。外区に珠文を配す。	笠懸系
134-7 113	瓦 玉縁付男 瓦	カマド内 1/4	長 29.4 幅 15.2 狭 12.2	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。凹面布合せ目痕、粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り1回。	吉井系
135-1 113	瓦 玉縁付男 瓦	カマド内 完形	長 38.4 狭 12.0 広 19.5	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形後凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。玉縁接合はA類。	重2.5kg 吉井系
135-2 113	瓦 玉縁付男 瓦	カマド内 1/4	長 41.9 厚 1.9	白色鉍物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り3回・端部面取り3回。玉縁接合はF類。	吉井系
136-1 112	瓦 男瓦	カマド内 1/4	狭 16.8 幅 17.5 厚 1.2	白色鉍物粒子	還元焰	黒灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
136-2 112	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り2回。	乗附系か 藤岡系
136-3 113	瓦 玉縁付男 瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回。玉縁接合はA類。	雷電山か 吉井系



遺物一覧表

136-4 113	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	黒灰	半截作り。凸面縄叩き整形（後轆轤再整形。側部面取り2回。	吉井系
136-5 113	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き（密）側部面取り2回。	吉井系
136-6 113	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕凸面轆轤整形。後縄叩き（密）。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井・藤岡系
136-7 114	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き（密）。端部面取り3回。	不詳 中之条系 か月夜野系
137-1 113	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き（密）整形後轆轤撫での再整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	藤岡系
137-2 113	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.4	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き（密）整形後轆轤撫での再整形。端部面取り2回。	吉井系
137-3 113	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.6	黒色粒子 白色粒子	還元焰	黒灰	桶巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕凸面縄叩き（密）。側部面取り4回。	乗附系

B区第92号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
138-1 114	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
138-2 114	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
138-3 114	須 恵 器 塊	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	乗附系
139-1 114	須 恵 器 坏 蓋	覆土内 %	摘 4.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。上半部は回転篋削り。内面自然釉附着。	秋間系
139-2 114	須 恵 器 坏 蓋	覆土内 %	摘 4.7 口 (20.0)	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形（右回転）。摘部は貼り付け。	乗附系
139-3 114	須 恵 器 坏 蓋	覆土内 %	摘 5.8	黒色鉱物粒子 白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。天上部は篋削り。摘部は貼り付け。	藤岡系
139-4 114	須 恵 器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (14.6)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。内面自然釉附着。	乗附系
139-5 114	覆 土 内 坏 蓋	覆土内 破片	口 (16.2)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	秋間系
139-6 114	須 恵 器 坏 蓋	覆土内 %	口 (20.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	秋間系
139-7 114	須 恵 器 薬 壺 蓋	覆土内 破片	底 (12.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。鐙は貼り付け。	秋間系
139-8 114	須 恵 器 坏	覆土内 %	口 (12.5) 底 6.8 高 3.8	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転篋削り。	乗附系
139-9 114	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (12.5) 底 ( 9.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。底部は手持ち篋削り。	秋間系
139-10 114	須 恵 器 塊	覆土内 %	底 10.0	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。	
139-11 114	須 恵 器 内黒土器 坏	覆土内 破片	口 (13.5)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形（右回転）。内面燻し処理・暗文を施す。	笠懸系か 太田系
139-12 114	須 恵 器 内黒土器 坏	覆土内 破片	底 ( 9.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形（右回転）。器内面を吸炭させ器内面に暗文を施す。	太田系か 笠懸系
139-13 115	須 恵 器 内黒土器 鉢	覆土内 破片	口 (23.0)	白色微粒子	橙 酸化焰		紐作り後轆轤整形（右回転）。（7点の接合）	太田系か 笠懸系

139-14 114	須惠器 盤	覆土内 %	口 20.0 底 5.4 高 13.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
139-15 114	土師器 台付甕	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙褐	紐作り成形後篋削り整形。	藤岡系
140-1 114	須惠器 甕	覆土内 破片	口 (20.0)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
140-2 114	須惠器 平瓶か	覆土内 破片	最径(18.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
140-3 114	須惠器 小型甕	覆土内 破片	最径(19.0)	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
140-4 114	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
140-5 瓦-671 114	瓦 字瓦	カマド内 %	厚 2.2	白色粒子 黒色粒子	中性焰	橙褐	瓦当部欠損女瓦部は凹面布目擦り消し(縦位の撫で整形)。凸面斜格子叩き。側部面取り4回。	笠懸系
140-6 114	瓦 男瓦	カマド内 %	狭幅 11.5 厚 15.7 厚 1.7	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫で再整形。凹面布合せ目痕。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
140-7 114	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.2	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	秋間系
140-8 115	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.4	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	乗附系
140-9 115	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.4	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	作り不詳。両面縦位の撫で整形。	乗附系
141-1 115	瓦 女瓦	覆土内 ほぼ完形	長 41.3 広 29.4 狭 25.3	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目擦り消し・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き。	重4.5kg 笠懸系
142-1 116	瓦 女瓦	カマド内 一部欠損	長 40.7 広 30.0 幅 28.2	赤褐色粒子 白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
143-1 115	瓦 女瓦	覆土内 %	厚 2.2	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
143-2 115	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。端部面取り2回。	笠懸系

## B区第93号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
144-1 116	土師器 坏	覆土内 %	口 (12.6)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
144-2 116	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 (8.4)	白色鉍物粒子 少 白色微粒子 少	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	吉井・藤岡系か
144-3 116	須惠器 坏蓋	覆土内 %	口 (17.1)	黒色粒子軽	還元焰	灰	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
145-1 116	須惠器 坏	覆土内 %	口 (11.7) 底 (6.3) 高 (4.8)	黒色粒子微量	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転系切り。	秋間系
145-2 116	須惠器 高台付坏	覆土内 破片	底 (10.4)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台は削り出し。	秋間系
145-3 116	須惠器 境	床直 %	底 10.2	白色微粒子微量	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
145-4 116	須惠器 不詳 (瓶類)	覆土内 破片	底 (5.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転系切り。	秋間系
145-5 116	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.8)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系

遺物一覧表

145-6 117	土師器 甕	床直層 破片	口 (20.8)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は 篋無で。	藤岡系
145-7 116	土師器 甕	カマド内 破片	口 (21.6)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は 篋無で。	藤岡系
145-8 116	土師器 甕	覆土内 破片	口 (29.5)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は強く外反する。型作り成形。外面胴 部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は 篋無で。	藤岡系
145-9 116	土師器 甕	カマド内 破片	厚 0.6	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	褐	紐作り成形。外面は篋削り・内面は篋無で整 形を施す。	藤岡系
145-10 116	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (20.6)	白色微粒子	還元焰	断・白灰 外・黒灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系か 藤岡系
145-11 116	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.5	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。	秋間系
145-12 116	鉄器 鉄	覆土内 根欠損	被篋幅0.6 重 5.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。根を欠損する。茎は廃 棄時から折れた状態になっている。被篋は長 い。	—
145-13 116	鉄器 釘	覆土内 破片	厚 0.25 重 2.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。二個体が錆化によ り接合している。	—
145-14 116	鉄器 不詳	覆土内 先端欠損	幅 0.95 重 34.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により全 体の残存が不良である。断面正方形を呈する。	—
145-15 116	鉄器 釘	覆土内 破片	幅 0.4 重 3.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。二個体の別器種の鉄製 品が錆化により接合している。	—
146-1 117	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰褐	半截作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取 り痕。側部面取り1回。	笠懸系
146-2 117	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)。凹面寄木痕。側 部喰出し段有り。側部面取り2回・端部面取 り1回。	秋間系
146-3 117	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。	笠懸系

B区第94号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
147-1 117	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (17.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
147-2 117	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (17.2)	透明鉍物粒子 白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	乗附系か 吉井系 藤岡系
147-3 117	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	底 (9.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台は削り出し。	秋間系
147-4 117	須恵器 長頸壺	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内外面に自然袖 付着する。	秋間系
147-5 117	施釉陶器 灰釉小瓶	覆土内 破片	最径(8.6)	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。	—
148-1 117	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色鉍物粒子 白色粒子微粒 雲母	還元焰	浅黄橙	一枚作りか。側部面取り1回・端部面取り1 回。	藤岡系
148-2 117	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。面縦位の撫で整形。端部面取り 2回。	吉井系

B区第109号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
149-1 117	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.1	白色鉍物粒子	還元焰	褐灰	紐作り。凸面轆轤整形。凹面横位の撫で整形。 側部面取り3回。端部面取り2回。	吉井系

## B区第95号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
150-1 117	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.7)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
150-2 117	土師器 坏	覆土内 破片	—	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。体部・底部は篋削り。	藤岡系
151-1 117	瓦 男瓦	カマド内 1/2	幅 15.2 厚 1.8	白色鈹物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井系

## B区第96号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
152-1 117	土師器 坏	覆土内 1/2	口 (12.2) 高 (2.9)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
152-2 117	須恵器 坏	カマド内 一部欠損	口 11.8 底 6.5 高 3.5	白色微粒子 透明鈹物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系 栗附系
152-3 117	須恵器 坏(境)	カマド内 1/2	口 14.9 底 (6.0) 高 (5.3)	微粒雲母 デイスait	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
152-4 117	須恵器 皿	カマド内 1/2	口 (14.0) 底 8.0 高 2.8	微粒雲母 白色鈹物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
152-5 117	須恵器 塊	覆土内 破片	底 (8.0)	微粒砂	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	不詳
152-6 118	土師器 甕	カマド内 破片	口 (20.9)	黒色鈹物粒子 微粒雲母 デイスait	酸化焰	茶褐	型作り乃至。紐作り成形。器外面は横位。篋削り。器内面は撫で整形。	藤岡系
152-7 118	瓦 男瓦	カマド内 1/2	狭幅 16.4 厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩きの擬格子状。側部面取り3回・端部面取り3回。	秋間系
152-8 118	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り4回・端部面取り4回。	秋間系
153-1 瓦-589 118	瓦 女瓦	カマド内 1/2	厚 1.9	白色鈹物粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り3回。篋描き文字瓦「二」か(凸面)。	吉井系
153-2 瓦-590	瓦 女瓦	カマド内 1/2	厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)離砂痕。凹面離砂痕。指頭による文字「人」か。	秋間系
153-3 118	瓦 女瓦	覆土内 1/2	厚 1.6	白色鈹物粒子	還元焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。	吉井系

## B区第98号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
155-1 118	須恵器 壺蓋	覆土内 1/2	口 (12.1)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
155-2 118	須恵器 坏	床直層 1/2	口 (11.2) 底 4.9 高 4.2	微粒雲母 黒色鈹物粒子 白色微粒子	還元焰	橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系 藤岡系
155-3 118	須恵器 坏	覆土内 完形	口 13.5 底 7.5 高 4.4	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
155-4 118	須恵器 塊	カマド内 1/2	口 14.1	微粒雲母 黒色鈹物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄褐	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
155-5 118	須恵器 坏(境)	覆土内 1/2	底 (6.6)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高台欠損後坏で使用。	藤岡系

遺物一覧表

155-6 119	須惠器 足高高台 付塊	覆土内 破片	底 9.6	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
155-7 119	須惠器 塊	覆土内 破片	口 (10.5)	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。	不詳
155-8 119	須惠器 足高高台 付塊	覆土内 破片	底 (13.1)	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。シルト質、ボソボソ。	藤岡系
156-1 119	須惠器 足高高台 付塊	覆土内 破片	底 13.2	白色粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
156-2 119	須惠器 足高高台 付皿	カマド内 ほぼ完形	口 13.8 底 7.3 高 4.0	黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井系
156-3 118	須惠器 内黒土器 塊	覆土内 破片	底 5.9	微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
156-4 119	須惠器 内黒土器 塊	カマド内 破片	底 7.0	微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。	乗附系 藤岡系
156-5 119	須惠器 塊	覆土内 破片	底 (9.0)	微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系か 乗附系
156-6 119	須惠器 羽釜	床直層 破片	口 (20.2) 罎 (24.2)	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罎は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。	吉井型羽 釜 甲壹 種呂類
156-7 119	須惠器 羽釜	覆土内 破片	口 (20.4) 罎 (24.6)	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罎は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。	吉井型羽 釜 甲壹 種呂類
156-8 120	須惠器 羽釜	カマド内 破片	口 (21.0) 罎 (25.6)	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罎は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲壹 種呂類
156-9 119	須惠器 羽釜	覆土内 破片	罎 (25.18)	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罎は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲壹 種呂類
156-10 119	須惠器 羽釜	覆土内 破片	底 7.0	黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄褐	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井型羽 釜 乙種 か
157-1 119	須惠器 羽釜	覆土内 破片	罎 (28.0)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罎は貼り付け。	吉井系 藤岡系 吉井型羽 釜 甲貳 種呂類
157-2 119	須惠器 高坏	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。上面掻目・裏面篋撫でを施す。	乗附系
157-3 119	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。横線間に5本一単位の波状文を廻らす。内面自然釉付着。	乗附系
157-4 119	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系
157-5 119	施釉陶器 灰釉塊	覆土内 破片	口 (13.5) 底 (7.0) 高 (4.3)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	——
157-6 119	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 14.8 底 6.7 高 2.5	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	——
157-7 119	灰釉 壺	覆土内 破片	口 (14.1)	密	良好	灰	轆轤整形 (右回転)。	——
157-8 119	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	黄灰	紐作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回・端面面取り1回。	藤岡系
157-9 119	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面木目叩き。凹面布目擦り消し (一部)。側部面取り3回。	秋間系
157-10 120	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井系

## B区(99号住居跡)

157-11 120	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形。	笠懸系
157-12 120	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鈹物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系

## B区第99号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
158-1 120	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.0)	微粒雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
158-2 120	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.2)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
158-3 120	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.3)	黒色鈹物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
158-4 120	土師器 坏	覆土内 ¼	口 (10.3) 高 2.9	黒色鈹物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
158-5 120	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.6)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
158-6 120	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0)	微粒雲母 白色粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
158-7 120	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.7)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
159-1 120	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	微粒雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
159-2 120	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
159-3 120	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
159-4 120	土師器 坏	覆土内 ¾	口 15.7 高 5.2	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
159-5 120	土師器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
159-6 120	土師器 甕	カマド内 ¼	口 22.3	黒色鈹物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
159-7 120	須恵器 坏 蓋	カマド内 破片	口 (15.1)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
159-8 120	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口 (11.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
159-9 120	須恵器 甕	カマド内 破片	頸 18.2	白色粒子	還元焰	浅黄	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)、口縁部は轆轤整形。	吉井系
159-10 120	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面正格子叩き・内面宛具は青海波文)。	不詳 乗附系か
159-11 120	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	密	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	東海系
160-1 122	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面擬似格子叩き。側部面取り1回。	吉井系
160-2 120	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鈹物粒子	還元焰	黄灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形・粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回・端部面取り1回。	吉井系
160-3 120	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の篋撫で整形。側部面取り3回。	藤岡系
160-4 121	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.5	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凸面縄叩き(密)。凹面模骨痕。側部面取り2回。	乗附系



遺物一覧表

B区第100号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
161-1 121	土師器 坏	覆土内 片	口 13.0	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
161-2 121	土師器 坏	カマド内 完形	口 11.2 底 5.0 高 4.1	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部は篋削り、底部は離れ砂。	吉井系
161-3 121	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (8.0)	黒色粒子	酸化焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
161-4 121	須恵器 塊	覆土内 片	底 (7.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
161-5 121	須恵器 皿	ピット内 片	口 12.9 底 7.3 高 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
161-6 121	須恵器 皿	覆土内 片	口 13.8 底 8.5 高 2.5	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
161-7 121	須恵器 甕	覆土内 破片	底 (12.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	秋間系
161-8 121	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (24.4)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口唇部が平坦である。	秋間系
161-9 121	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (23.5)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
162-1 121	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)か。	吉井・藤岡系
162-2 121	礫器 敲石	覆土内 完存	長 11.7 幅 6.2 厚 3.6	雲母石英片岩	—	—	小口側に敲打に伴う剥落がある。	重370g
162-3 121	礫器 敲石	床面直上 完存	長 19.1 幅 6.1 厚 4.9	石英閃緑岩	—	—	小口側敲打に伴う剥落がある。	重980g
162-4 121	礫器 擦石	ピット内 完存	長 10.3 幅 6.4 厚 3.7	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅している。	重490g
162-5 121	礫器 擦石	覆土内 完存	長 12.9 幅 7.7 厚 4.5	変質安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅している。	重610g
162-6 121	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位篋削り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り1回。	吉井系
162-7 121	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形後縦位の篋削り。側部面取り1回・端部面取り3回。	吉井系
162-8 122	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.9	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
163-1 121	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
163-2 122	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.4	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	黄橙	一枚作り。凸面全面斜格子叩き側部面取り2回・端部面取り2回。	秋間系 布目密
163-3 122	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後不正格子叩き整形。側部面取り4回・端部面取り3回。	笠懸系
164-1 122	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰黄	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井・藤岡系
164-2 122	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色微粒子 白色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰 か二次 焼成	黄橙	桶巻き造りか。凸面縄叩き(密)側部面取り3回。	藤岡系
164-3 122	瓦 女瓦	貯蔵穴内 破片	厚 1.7	白色微粒子	酸化焰	鈍褐	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系



## B区第127号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
165-1 122	土師器 坏	ピット内 完形	口 10.8 底 4.8 高 4.1	粗粒砂 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り。口縁部外傾する。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
165-2 123	土師器 台付甕	覆土内 破片	底 (9.6)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	紐作り成形。	藤岡系
165-3 122	須恵器 坏	床面直上 %	口 (10.4) 底 4.1 高 3.5	黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	黒褐 鈍黄褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
165-4 122	須恵器 坏	床直 完形	口 11.1 底 5.6 高 3.9	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	黒褐 鈍黄褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。内・外面に撫りが認められる。	吉井系
165-5 122	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 11.8 底 6.4 高 4.3	白色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。轆轤目は非常に浅い。	藤岡系
165-6 122	須恵器 埴	床直 完形	口 12.2 底 6.3 高 4.3	白色鉍物粒子 白色粒子 デイスait	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
165-7 122	須恵器 埴	床直 完形	口 14.5 底 8.0 高 6.1	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
165-8 122	須恵器 埴	覆土内 %	口 (15.5)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	笠懸系か
165-9 122	須恵器 埴	覆土内 %	口 (12.4)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰 酸化焰	橙褐	轆轤成形(右回転)。	藤岡系か
166-1 122	須恵器 埴	覆土内 %	底 6.4	微粒雲母	還元焰	暗灰褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
166-2 123	須恵器 埴	覆土内 %	底 9.2	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	笠懸系
166-3 123	須恵器 内黒土器 皿	覆土内 %	口 (14.0) 底 (7.8) 高 (2.8)	赤褐色粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。166図-4と同産地	東毛系か
166-4 123	須恵器 内黒土器 埴	カマド内 %	口 (15.0) 底 7.7 高 6.0	白色微粒子	酸化焰	暗灰褐	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。	不詳
166-5 123	須恵器 壺	覆土内 破片	最径(18.8)	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰 焼締	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
166-6 123	須恵器 羽釜	ピット内 破片	口 (20.0)	白色鉍物粒子 デイスait	中性焰	鈍黄灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壹種 呂類
166-7 123	須恵器 羽釜	床直層 破片	口 (20.0)	白色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罫は貼り付け。胴部は縦位の篋削り。	吉井型羽釜 甲壹種 呂類
166-8 123	須恵器 羽釜	覆土内 破片	底 (8.0)	黒色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	鈍褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は縦位の篋撫で。	吉井型羽釜 甲貳種
166-9 123	須恵器 羽釜	覆土内 破片	底 (6.8)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	暗褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は縦位の篋撫で。	吉井型羽釜 甲貳種
166-10 123	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	口 (14.0)	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。施釉は不詳。	—
166-11 123	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 %	口 (12.2) 底 6.2 高 2.0	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。器内面及割れ口に墨痕が認められる。	—
166-12 123	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	底 6.6	密	良好	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は不詳。円盤状に加工を加えている。	—
166-13 123	施釉陶器 灰釉壺	ピット内 %	底 4.8	密	良好	白灰	轆轤成形(左回転)。付高台。施釉は浸掛。	—

遺物一覧表

166-14 123	鉄器 鏃	覆土内 一部欠損	長 11.4 幅 1.4 重 5.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが根の部分はやや良好である。有茎鏃被五角形式の鏃である。	鏃被幅0.6
166-15 123	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	重 10.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。先端側が欠損している。	—
166-16 123	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	幅 0.7 重 8.5	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により破損している。	—
166-17 123	鉄器 釘	覆土内 破片	幅 0.5 重 2.0	—	—	—	全体に錆化が及び、調査後欠損している。釘の先端側と思われ、断面正形状を呈する。	—
167-1 123	礫器 擦石	覆土内 完存	長 16.1 幅 0.8 厚 4.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。小口側に敲打痕が認められる。	重760g
167-2 123	礫器 擦石	覆土内 完存	長 6.5 幅 7.1 厚 2.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重190g
167-3 瓦-591	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り1回。篋描き文字瓦「手」(凸面)。	吉井系
167-4 瓦-592 瓦-593	瓦 女瓦 (文字)	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕篋描き文字瓦不詳(凸面)。凹面側に円管の刺突。	吉井系
167-5 123	瓦 玉縁付男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り2回。玉縁接合はA類。	吉井系
167-6 瓦-594	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 デイスaito	還元焰	灰黄	一枚作りか。凹面布目擦り消し。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「十」(凸面)。	吉井系
167-7 123	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 粗粒砂	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り4回。	吉井・藤岡系

B区第101号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
169-1 124	須恵器 壺	カマド内 破片	口 14.4 底 (6.0) 高 (4.7)	微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	外・黒灰 内・暗橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
169-2 123	須恵器 壺	カマド内 破片	底 (6.5)	微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
169-3 124	須恵器 羽釜	カマド内 1/4	口 (16.1)	白色鉱物粒子 白色粒子 微粒雲母	中性焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罎は貼り付け。	吉井型羽釜 甲種波類
169-4 124	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (22.0)	微粒雲母 デイスaito 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罎は貼り付け。	吉井・藤岡系
169-5 瓦-647	瓦 鎧瓦	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰黄	瓦当意匠は不詳であるが単弁系のもと考えられる。	吉井系
169-6 瓦-595	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。篋描き文字瓦「壬」(凸面)。	吉井系
169-7 124	土師器 坏	カマド内 1/4	口 (14.2) 底 (9.8)	微粒雲母	酸化焰	暗橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
169-8 124	土師器 坏	床直層 1/4	口 14.2 底 10.2 高 3.7	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。体部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系か
169-9 124	須恵器 坏蓋	床直 1/4	口 4.2 口 19.0 高 4.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
169-10 124	須恵器 坏蓋	床直 1/4	口 2.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
169-11 124	須恵器 坏蓋	覆土内 1/4	口 (18.3)	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。	秋間系か 乗附系
169-12 124	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (21.1)	黒色細粒砂	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。	秋間系

## B区 (101・103号住居跡)

169-13 124	須恵器 坏	カマド内 完形	口 底 高	12.0 7.0 3.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
169-14 124	須恵器 坏	床直層 完形	口 底 高	12.2 7.0 3.4	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
169-15 124	須恵器 坏	床直層 完形	口 底 高	12.6 7.4 3.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
169-16 124	須恵器 坏	カマド内 %	口 底 高	13.5 8.6 3.2	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転笠起し。	秋間系
169-17 124	須恵器 塊	床直 完形	口 底 高	15.5 9.7 6.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
169-18 124	須恵器 塊	床直層 %	口 底 高	16.4 10.0 7.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
169-19 124	土師器 小型甕	覆土内 破片	口	(11.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は笥削り、口縁部は横撫で、内面胴部は笥撫で。	藤岡系
169-20 124	土師器 小型甕	カマド内 破片	口	(13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は笥削り、口縁部は横撫で、内面胴部は笥撫で。	藤岡系
170-1 124	土師器 甕	覆土内 %	口	(21.0)	黒色鉍物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	赤橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は笥削り、口縁部は横撫で、内面胴部は笥撫で。	藤岡系
170-2 124	土師器 台付甕	覆土内 破片	厚	0.7	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。脚は貼り付け。	藤岡系
170-3 124	土師器 甕	カマド内 破片	底	(4.6)	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作成形後縦位の笥削り整形。	藤岡系
170-4 126	瓦 男瓦	カマド内 %	広 幅 厚	22.0 22.6 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回・端部面取り3回。	笠懸系
170-5 124	瓦 男瓦	カマド内 一部欠損	長 広 幅	38.3 15.0 14.6	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凸面平行叩き?。側部面取り3回・端部面取り2回。	重1.7kg 吉井系
171-1 125	瓦 男瓦	カマド内 完形	長 広 幅	41.3 18.3 16.5	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫で再整形。凹面布合せ目痕。側部面取り2回・端部面取り1回。	重3.0kg 吉井系
171-2 125	瓦 男瓦	カマド内 ほぼ完形	長 幅 厚	38.6 17.2 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	重2.3kg 笠懸系
172-1 125	瓦 宇瓦か	カマド内 %	広 幅 厚	32.8 37.6 2.3	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。釘穴を有する。側部面取り1回・端部面取り3回。	吉井系
172-2 125	瓦 女瓦	カマド内 %	厚	1.9	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造りか。凸面縄叩き(密)縦位の撫で整形。粘土板接合は「S」。側部面取り1回・端部面取り1回。	吉井系
172-3 126	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	2.2	白色鉍物粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形。	吉井系

## B区第103号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
173-1 126	須恵器 坏	覆土内 破片	口 底 高	(14.5) (7.0) (3.2)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
173-2 126	須恵器 坏	覆土内 破片	口	(15.0)	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
173-3 126	土師器 壺	覆土内 破片	底	4.4	細粒砂	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形後印毛撫でを施す。	古墳時代 前期

遺物一覧表

173-4 126	羽口	覆土内 破片	—	白色粒子	—	鈍黄褐	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、顕著なスラグ等は認められない。	—
173-5 126	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子	還元焰	灰黄	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	吉井系

B区第104号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
174-1 126	須恵器 埴	覆土内 %	口 14.6 底 6.9 高 5.6	微粒雲母 細粒砂 シルト粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
174-2 126	須恵器 埴	床直層 破片	底 7.1	白色鉍物粒子 微粒雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
174-3 126	土師器 甕	覆土内 破片	口 (17.1)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、口縁部は横撫で。	藤岡系
174-4 126	土師器 甕	ピット内 破片	口 (19.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
174-5 126	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.3)	微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、口縁部は横撫で。	藤岡系
174-6 126	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	半載作り。凸面縄叩き整形 (密) 後轆轤再整形。側部面取り3回。粘土板接合は「Z」。	藤岡系

B区第105号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
175-1 127	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.7)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
175-2 127	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.6)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
175-3 126	須恵器 坏	覆土内 破片	底 6.0	微粒雲母 白色鉍物粒子 デイスait	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
175-4 126	須恵器 坏	床直層 %	口 14.0 底 7.8 高 4.2	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
175-5 127	須恵器 埴	カマド内 %	口 14.5 底 7.4 高 5.7	微粒雲母 黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
175-6 127	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (15.5)	微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系か
176-1 127	土師器 甕	覆土内 %	口 (18.1) 最径(20.6)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
176-2 127	須恵器 盤	覆土内 破片	口 (19.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系か 乗附系
176-3 127	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.6 頸 (18.0)	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系
176-4 126	須恵器 壺	床直層 破片	底 (20.2)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
176-5 127	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	口 (13.4)	密	良好 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
176-6 127	礫器 擦石	覆土内 完存	長 12.2 幅 6.0 厚 4.3	石英閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴う磨滅が認められる。	重410g
176-7 127	鉄器 紡錘車	覆土内 軸欠損	長径 4.8 短径 4.4 重 26.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。軸は調査後の欠損である。	—

## B区(104・105・106・107号住居跡)

176-8 127	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 重	0.45 2.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により両端を欠損する。断面は正方形気味。	—
176-9 127	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 厚 重	0.5 0.25 1.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。両端側共に調査後の欠損である。断面は長方形を呈する。	—
176-10 127	鉄器 塊	覆土内 一部欠損	厚 重	0.6 20.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。鋳鉄片の可能性もある。	—
176-11 127	瓦 男瓦	床直層 破片	厚	1.8	白色鉍物粒子 微粒雲母 透明鉍物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り4回。	吉井系
176-12 126	瓦 男瓦	ピット内 破片	厚	1.9	白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り4回。	吉井・藤岡系
176-13 127	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚	1.9	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回。	笠懸系
176-14 127	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り4回。	吉井・藤岡系
177-1 127	瓦 女瓦	ピット内 破片	厚	2.1	白色鉍物粒子 シルト粗粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
177-2 127	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	2.2	白色鉍物粒子 雲母 デイスайт	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	藤岡系
177-3 127	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.8	白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き。側部面取り2回・端部面取り2回。	中之条系か

## B区第106号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
178-1 瓦-596	瓦 女瓦	ピット内 破片	厚 2.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「女」か(凸面)。	吉井系
179-1 127	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。	乗附系か
179-2 127	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系

## B区第107号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
180-1 128	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (15.0)	白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は手持ち篋削り。	秋間系	
181-1 128	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (6.9)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系か 秋間系	
181-2 128	須恵器 坏	覆土内 ¼	底 (10.0)	白色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か 吉井・藤岡系	
181-3 128	鉄器 不詳	覆土内 先端欠損	幅 重	0.8 6.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。全体に調査後の欠損により破損が著しい。断面正方形と考えられる。	—
181-4 128	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 重	0.3 1.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損で先端を欠損。釘か鐵等の茎と思われる。	—
181-5 128	鉄器 鎌	覆土内 完存	長 重	17.0 34.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。刃部は使用に伴なう研ぎ減りで著しく細身の状態になっている。	—
181-6 128	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回。	吉井系

## 遺物一覧表

## B区第110号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
182-1 128	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.4) 底 ( 8.9) 高 ( 2.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は回転篋削りか。	秋間系
182-2 128	須恵器 坏	覆土内 片	底 5.9	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
183-1 128	須恵器 坏	覆土内 破片	底 ( 6.9)	白色微粒子 白色鉍物粒子 少	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系か
183-2 128	須恵器 坏	覆土内 片	底 7.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋起し。	乗附系か
183-3 128	須恵器 盤	覆土内 片	底 14.6	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か 秋間系
183-4 128	須恵器 壺	覆土内 片	底 13.0	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	外・黒灰 内・灰白	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
183-5 129	礫器 擦石	覆土内 完存	長 11.5 幅 7.5 厚 2.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面が磨滅する。	重380g
183-6 129	礫器 擦石	覆土内 完存	長 17.0 幅 7.2 厚 3.0	粗粒安山岩	—	—	平坦面が磨滅する。	重660g
183-7 129	礫器 擦石	覆土内 完存	長 15.6 幅 6.9 厚 5.6	ひん岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重870g
183-8 128	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰白	半截作りか。自然袖付着の為詳細不詳。	笠懸系
183-9 128	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系

## B区第111号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
185-1 129	須恵器 坏	床直層 片	口 12.3 底 6.0 高 3.7	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系か
185-2 129	須恵器 壺	床直層 片	口 13.6 底 6.6 高 5.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か
185-3 129	土師器 壺	覆土内 破片	口 (18.8)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
185-4 129	須恵器 壺	覆土内 破片	底 (15.0)	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系か
185-5 129	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面縦位の撫で整形。凸面斜格子叩き。端部面取り1回。	笠懸系
185-6 129	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻き造りか。凹面布目撫で消し。凸面縄叩き (密) 後撫で整形後更に縄叩き (密) を施す。	吉井系
185-7 129	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系

## B区第112号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
186-1 129	土師器 坏	覆土内 片	口 11.9 高 3.6	白色粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系



## B区(110・111・112・113・114号住居跡)

186-2 130	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.3)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
186-3 130	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.3)	白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
186-4 129	土師器 坏	覆土内 1/4	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削り整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
186-5 130	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	摘 4.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。摘部は貼り付け。	秋間系
186-6 130	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.4) 底 ( 8.5) 高 ( 3.7)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
186-7 130	須恵器 皿	覆土内 1/4	口 (12.3)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系か 乗附系
186-8 130	須恵器 内黒土器 埴	覆土内 1/4	底 8.2	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。	藤岡系 笠懸系
186-9 130	須恵器 埴	覆土内 1/4	口 (20.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系
186-10 130	須恵器 埴	覆土内 1/4	口 (19.9)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系
186-11 130	須恵器 鉢	覆土内 破片	最径(25.8)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部直下に2条の横線を施す。	秋間系
186-12 130	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.6 重 3.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。2個体の製品が錆化により接合している。断面は長方形と正方形形状である。	—
186-13 瓦-597 130	瓦 女瓦 文	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋描き文字瓦「山成」(凸面)。凹面布目擦り消し。側部面取り5回。	吉井系
186-14 130	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き(密)。側部喰出し段有り。	秋間系

## B区第113号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
187-1 130	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	摘 4.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。摘部は貼り付け。内面自然釉付着。	乗附系
187-2 130	須恵器 埴	覆土内 破片	底 ( 8.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
187-3 130	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	黄灰	半截作り。凸面轆轤整形。端部面取り2回。	秋間系
187-4 130	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り1回。	秋間系
187-5 130	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	紐作り。両面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
187-6 130	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色粒子	中性焰	灰	桶巻き造り。凸面縄叩き(密)凹面模骨痕。端部面取り1回。	秋間系
188-1 130	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。	秋間系
188-2 130	瓦 女瓦	覆土内 破片	重 1.2	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。	吉井系

## B区第114号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
189-1 130	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.3) 高 ( 3.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋削り工具の横撫により直立気味。底部は篋撫で。	藤岡系



遺物一覧表

189-2 130	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口径 7.0 (17.0) 高 3.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
189-3 131	須恵器 壺	覆土内 破片	口径 (7.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
189-4 131	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	浅黄	紐作り。両面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
189-5 131	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子	酸化焰	橙	半載作り。凸面縄叩き(密)轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
189-6 131	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面杵木痕。側部面取り2回。	吉井系
189-7 131	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉍物粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	半載作り。凸面縦位の撫で整形?。	吉井系
189-8 131	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	黄灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。	笠懸系
189-9 131	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 1.7	白色微粒子	中性焰	褐灰	半載作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
189-10 131	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 1.2	白色微粒子 透明鉍物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回。粘土板接合は「Z」。	吉井系
189-11 131	瓦 女 瓦	埋土内 破片	厚 1.6	細粒砂	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凸面縄叩き(密)後撫で整形。	秋間系
189-12 131	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回・端部面取り3回。	吉井系
189-13 131	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形。	吉井系
190-1 131	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位の篋撫で整形。端部面取り2回。	吉井系
190-2 131	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面縦位の撫で整形。	吉井系

B区第115号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
191-1 251	土師器 坏	覆土内 破片	口径 (10.2)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
191-2 251	土師器 坏	覆土内 片	口径 (13.6)	白色微粒子	酸化焰	赤褐	型作り成形。口縁直下に型膚を残す。体部・底部は篋削り。	藤岡系
192-1 131	須恵器 壺	床直層 片	口径 (11.8) 底 6.6 高 4.1	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
192-2 131	須恵器 皿	覆土内 片	口径 (13.8) 底 (6.4) 高 (3.4)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
192-3 131	須恵器 壺	床直層 片	口径 15.1 底 7.3 高 5.1	微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面に焼りが認められる。	藤岡系
192-4 131	須恵器 壺	床直層 片	底 6.8	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
192-5 131	須恵器 壺	覆土内 片	底 7.8	白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
192-6 251	土師器 甕	覆土内 片	口径 (19.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。「コ」の字状口縁。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
192-7 251	土師器 甕	覆土内 破片	底 (4.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	黒褐	紐作り成形後、篋削り整形。	藤岡系
192-8 251	施釉陶器 灰釉壺	覆土内 破片	口径 (13.0)	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛。体部下半は回転篋削り。	—
192-9 251	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	幅重 0.5 5.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。先端側は調査後の欠損により不分明。	—

## B区(115・116号住居跡)

192-10 251	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 重	0.55 1.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正形状を呈する。両端は調査後の欠損。	—
192-11 251	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 重	0.3 1.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。「S」字状に屈曲している。断面は正方形。	—
192-12 251	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 重	0.3 1.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正形状を呈する。	—
192-13 251	鉄器 釘	カマド内 頭部欠損	幅 重	0.35 3.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面やや長方形気味である。	—
192-14 131	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	1.7	白色鉍物粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り4回・端部面取り4回。	吉井系
192-15 131	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.4	白色鉍物粒子	中性焰	浅黄	桶巻き造り。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
192-16 131	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	1.5	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系

## B区第116号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
193-1 132	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
193-2 132	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (16.2)	白色微粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。	吉井系
193-3 132	須恵器 内黒土器 坏	カマド内 破片	口 (17.2)	白色微粒子	酸化焰	外・灰褐 内・黒	轆轤成形(右回転)。器内面に暗文を施す。	笠懸系
194-1 131	須恵器 坏	カマド内 破片	底 (7.0)	黒色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転系切り。	秋間系
194-2 131	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (7.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
194-3 131	須恵器 埴	カマド内 1/2	—	白色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井系
194-4 132	須恵器 埴	覆土内 破片	底 6.4	白色微粒子 微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	橙褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
194-5 132	須恵器 皿	床直層 ほぼ完形	口 14.0 底 7.9 高 2.8	白色微粒子	還元焰	断・白灰 外・黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内外面を焼成時に燻している。	秋間系
194-6 132	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋無で。	藤岡系
194-7 131	土師器 高坏	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。脚部は貼り付け。	藤岡系
194-8 132	須恵器 皿	覆土内 破片	底 (16.4)	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に火襷が認められる。	秋間系
194-9 132	石製品 防錘車	覆土内 破片	—	蛇紋岩	—	—	成・整形時の擦痕が認められるが詳細は不明。	—
195-1 瓦-648	瓦 鎧瓦	覆土内 破片	厚 2.2	微粒砂	還元焰	白灰・黒	瓦当意匠は複弁七葉蓮華文。	秋間系
195-2 瓦-649	瓦 鎧瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
195-3 瓦-650	瓦 鎧瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	還元焰	灰	195図-2と同一個体と考えられる。	吉井系
195-4 瓦-651	瓦 鎧瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	195図-2と同一個体。	吉井系
195-5 132	瓦 男瓦	カマド内 1/2	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰褐	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
195-6 133	瓦 男瓦	カマド内 1/2	厚 1.7	黒色粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	秋間系

遺物一覧表

195-7 132	瓦 女瓦	カマド内 ½	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰褐	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
196-1 瓦-598 132	瓦 女瓦	覆土内 完形	長 39.0 広 28.8 狭 22.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。篋描き文字瓦「秋口」(凸面)。	厚3.0cm 重5.6kg 吉井系

B区第117号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
197-1 133	須恵器 壺	床直層 ほぼ完形	口 13.5 底 7.8 高 3.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
197-2 133	須恵器 壺	カマド内 破片	口 (13.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
197-3 瓦-599 133	瓦 女瓦	カマド右 壁 ½	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回。篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系

B区第118号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
198-1 133	土師器 坏	覆土内 一部欠損	口 11.7 高 4.0	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形(紐)。口縁部・器内面は横撫で、体部に型膚を残す。底面に離砂痕有り。型は須恵器坏と考えられる。	藤岡系
198-2 133	土師器 坏	覆土内 ½	口 12.7 高 4.5	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形(紐)。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
198-3 133	須恵器 坏	カマド内 ほぼ完形	口 10.9 底 5.5 高 3.7	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	暗灰 白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系か
198-4 133	須恵器 坏	掘り方内 ½	口 11.6 底 3.2 高 5.2	白色微粒子	還元焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	不詳 搬入品か
198-5 133	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (11.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	搬入品か
199-1 133	須恵器 坏	覆土内 ½	口 (12.0)	細粒砂	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
199-2 133	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 12.0 底 5.8 高 3.9	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	不詳
199-3 133	須恵器 坏	覆土内 ¾	口 12.3 底 4.9 高 4.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
199-4 133	須恵器 坏	ピット内 ¾	口 (12.4) 底 8.1 高 3.4	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。回転篋起し。	秋間系
199-5 133	須恵器 壺	覆土内 ½	口 (12.2)	微粒雲母 デイスайト	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。器外面に墨書「平」。	吉井・藤岡系
199-6 133	須恵器 壺	カマド内 ¾	口 12.4 底 5.6 高 5.2	微粒雲母 白色微粒子	還元焰 { 中性焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
199-7 134	須恵器 壺	覆土内 破片	底 5.6	微粒雲母 白色微粒子	還元焰 中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
199-8 134	須恵器 壺	覆土内 ¾	口 13.2 底 6.8 高 4.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
199-9 134	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系か

## B区(117・118号住居跡)

199-10 134	須恵器 皿	覆土内 瓦	口 (13.2) 底 7.6 高 2.6	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
199-11 133	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.5)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篔削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篔撫で。	藤岡系
199-12 133	須恵器 甕	ピット内 破片	口 (16.8)	白色微粒子	酸化焰 中性焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。器内・外面を吸炭している。	不詳
200-1 134	須恵器 壺	カマド内 破片	頸 (9.5)	デイサイト 微粒雲母	酸化焰	黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面に焼りが認められる。	吉井・藤岡系
200-2 133	須恵器 羽釜	床直 破片	口 (18.0)	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
200-3 133	須恵器 羽釜	床直層 破片	口 (18.0) 鏝 (22.2)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篔削り。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
200-4 133	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (20.3)	細粒砂	酸化焰	明黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
200-5 251	須恵器 羽釜	床直層 破片	口 (23.0)	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篔削り。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
200-6 134	施釉陶器 灰釉 境	覆土内 瓦	口 (12.4) 底 4.0 高 6.4	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	—
200-7 134	鉄器 不詳	覆土内 不詳	長 3.9 幅 0.5 厚 0.5	—	—	—	先端側が欠損する。細い棒状で断面正方形を呈する。鍛えはややいい。	重2.7g
200-8 134	鉄器 不詳	覆土内 両端欠損	幅 0.6 厚 0.1 重 4.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。左端は「U」字状に曲がっている。尚両端は調査後の欠損により失っている。	—
200-9 134	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	幅 0.75 重 15.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損も著しい。断面は丸味で帯びた正方形であるが、錆化による可能性もある。	—
200-10 134	鉄器 刀子	覆土内 完存	全長 14.3 身長 7.3 茎長 7.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。茎関係に木質が残存する。全体に研ぎ減りが顕著である。	重ね0.3cm 重12.5g
200-11 134	鉄器 有袋鉄斧	覆土内 完存	長 8.8 重 88.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。又、調査後の錆化も非常に著しく破損部分が多い。	—
200-12 134	鉄器 不詳	覆土内 破片	厚 0.35 重 20.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。錆化の状態からは、鑄鉄鍛造鉄とも判断し難い。全体は調査後の欠損。	—
200-13 134	鉄器 不詳	覆土内 不詳	重 7.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。製品の錆とスラグ状の付着物が製品なのか否か判断し難い。	—
200-14 134	鉄器 鑄鉄	ピット内 破片	厚 0.4 重 3.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆化が全体にブロック状であることから鑄鉄と考えられる。	—
200-15 134	鉄器 鑄鉄	ピット内 破片	厚 0.4 重 5.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆化ブロック状であることから鑄鉄と考えられる。	—
200-16 134	礫器 擦石	ピット内 一部欠損	長 13.4 幅 (9.5) 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重さ900g
200-17 134	石製品 火打石	覆土内 瓦	長 11.1 幅 7.8	石英	—	—	楕円形状の自然礫を分割している。	重さ370g
201-1 134	石造品 支脚	ピット内 一部欠損	長 18.0 幅 10.5 厚 10.3	未固結凝灰岩	—	—	地山土を削り出した支脚でカマドの袖等に利用されるものと同質のもの。	重 1,630g
201-2 134	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	橙	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り1回。	笠懸系
201-3 134	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.1	微粒雲母 白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回・端部面取り1回。	吉井・藤岡系

## 遺物一覧表

201-4 134	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚	1.2	微粒雲母 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 1回・端部面取り1回。凸面に墨書・墨痕有 り。	吉井・藤 岡系
202-1 瓦-600 135	瓦 女瓦	カマド内 完形	長 広 狭	40.8 29.1 23.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位 の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り1 回。篋描き文字瓦「武美子」(凹面)。	重4.4kg 吉井系
203-1 135	瓦 女瓦	カマド内 完形	長 広 狭	38.4 29.0 21.8	白色粒子 細粒砂	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面木目叩き。側部面取り3回・ 端部面取り1回。	重2.7kg 吉井・藤 岡系
204-1 瓦-601 134	瓦 女瓦	傍竈坑内 瓦	厚	2.6	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形・粘土板剥ぎ 取り痕。側部面取り3回・端部面取り2回。 刻印文字瓦「當」(凸面)。	吉井系 藤岡・ 金山瓦窯 か
204-2 136	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 長	2.4 39.9	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。 側部面取り2回・端部面取り5回。	吉井系
205-1 135	瓦 女瓦	カマド内 瓦	長 広 厚	36.8 27.1 1.1	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 1回・端部面取り1回。	吉井・藤 岡系

## B区第119号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目	(cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
206-1 136	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 底 高	11.6 5.5 3.9	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部切り離しは不詳。	吉井系
206-2 136	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 底 高	12.0 4.7 4.1	黒色鉱物粒子 微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。二次 焼成あり。	吉井系
206-3 136	須恵器 境	覆土内 瓦	口 底 高	12.2 5.9 4.8	微粒雲母 白色微粒子 細粒砂	還元焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
206-4 136	須恵器 境	覆土内 破片	底	7.5	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
206-5 136	須恵器 皿	覆土内 破片	口	(22.2)	黒色粒子 微粒雲母	還元焰	灰	型作り成形か。口縁部に粘土紐の積み上げ痕 が認められる。器面の整形は、轆轤と異なる 器膚である。	藤岡系か
206-6 136	須恵器 羽釜	カマド内 破片	底	(9.0)	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黒褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面篋撫で再整 形。底部周辺に布の圧痕が見られる。	吉井系 吉井型羽 釜
206-7 136	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	幅 重	0.75 30.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。頭部は一辺3cm程で方 形乃至正方形を呈する。又、単なる折り返し による造作とは考えられない。	—
206-8 136	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 重	1.2 17.4	—	—	—	比較的錆化は少ない。断面長方形を呈する。 調査後の欠損部分が多い。	—
206-9 136	鉄器 不詳	覆土内 破片	重	4.9	—	—	—	錆化は顕著である。両端部に調査以前の欠損 である。断面長方形を呈する。	—
206-10 136	施釉陶器 灰釉境	覆土内 瓦	口 底 高	(15.3) 7.9 5.0	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	—
206-11 136	瓦 男瓦	カマド内 瓦	厚	2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩 き整形(密)。側部面取り3回・端部面取り2 回。	吉井系
206-12 136	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凸面平行叩き。自然釉付着。凹面 粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回。	吉井系
207-1 136	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.9	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	黄橙	一枚作り。凸面縄叩き(密)(T字状)。側・ 端部に布圧痕。側部喰出し段有り。側部面取 り3回。	秋間系
207-2 137	瓦 女瓦	床直層 瓦	厚	1.9	白色微粒子 微粒砂	酸化焰 か二次 焼成	浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 1回・端部面取り1回。釘穴を有する。	秋間系か

## B区(119・120号住居跡)

207-3 136	瓦 女瓦	床直層 破片	厚	0.7	白色微粒子 微粒砂	酸化焰 か二次 焼成	浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 7回・端部面取り1回。	秋間系か
207-4 136	瓦 女瓦	カマド内 片	厚	1.4	白色鉾物粒子 細粒砂	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凸面非常に小単位な模骨痕。凸 面平行叩き(木目)。側部面取り3回・端部面 取り2回。	吉井系
207-5 136	瓦 女瓦	カマド内 片	厚	1.2	微粒雲母 白色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 1回・端部面取り1回。	藤岡系

## B区第120号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
209-1 137	須恵器 埴	覆土内 片	口 13.8 底 5.6 高 4.8	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
209-2 138	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (21.1)	白色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	暗灰	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲貳 種伊類
209-3 138	礫器 擦石	覆土内 完存	長 10.6 幅 9.5 厚 3.4	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重520g
209-4 138	礫器 擦石	覆土内 完存	長 12.0 幅 8.2 厚 3.1	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重525g
209-5 138	礫器 擦石	覆土内 完存	長 14.4 幅 9.6 厚 5.1	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重 1,060g
209-6 138	礫器	カマド内 完存	長 12.5 幅 8.5 厚 3.3	変質安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重520g
209-7 138	礫器 擦石	覆土内 完存	長 15.5 幅 6.2 厚 3.8	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重590g
209-8 138	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 15.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の錆化欠損 により詳細不明。鍔巻状のものが認められる。	—
209-9 138	鉄器 釘か	覆土内 破片	幅 0.5 重 9.6	—	—	—	錆化が著しく調査後の欠損により破損してい る。一方は緩やかに曲がっている。	—
209-10 138	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 6.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。「く」の字状に屈曲して いる。断面は正方形状か。	—
209-11 138	鉄器 仏具か 鍋	覆土内 不分明	厚 0.4 { 0.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。内面が外面側か不 分明であるが耳状の環状突起を付す。	内耳鍋か 重85.4g
209-12 138	金銅製品 飾り金具	覆土内 破片	重 7.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが、塗金の遺存は比 較的良好。背面側の端部に2ヶ1対の足を有 する。	—
209-13 瓦-602	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。篋書き文 字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
209-14 137	瓦 男瓦	カマド内 片	厚 1.9	白色鉾物粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	暗灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫 で再整形。凸面自然袖付着。凹面布合せ目痕。	吉井系
210-1 137	瓦 男瓦	カマド内 片	狭 12.8 厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・ 端部面取り3回。粘土板接合は「Z」。	笠懸系
210-2 137	瓦 男瓦	床直層 片	広 18.9 厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凸面粘土板剥ぎ取 り痕・布合せ目痕。側部面取り3回・端部面 取り2回。粘土板接合は「Z」。	吉井系か
211-1 137	瓦 女瓦	覆土内 片	厚 2.2	黒色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄 叩き(密)。側部面取り4回・端部面取り3回。	乗附系
211-2 137	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉾物粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整 形。側部面取り1回。	乗附系か 吉井系か



## 遺物一覧表

## B区第122号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
213-1 138	須恵器 坏	傍竈坑内 破片	口 (12.2) 底 (6.0) 高 (3.5)	微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	太田系か
213-2 138	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (7.0) 高 (4.0)	微粒雲母	中性焰 酸化焰	鈍褐	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	太田系か
213-3 138	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (14.4) 底 (8.6) 高 (3.6)	黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
213-4 138	須恵器 境	覆土内 片	口 (14.8) 底 7.4 高 (5.4)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
213-5 138	須恵器 境	傍竈坑内 片	口 (16.2)	白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	吉井・藤岡系
213-6 138	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (22.0)	赤褐色粒子	還元焰	にぶい 橙	轆轤成形 (右回転)。二次焼成を受けている。	秋間系
213-7 138	須恵器 境	覆土内 片	底 8.4	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤整形 (右回転)。付高台。	秋間系
213-8 138	土師器 壺	覆土内 破片	口 (19.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
213-9 138	土師器 壺	カマド内 破片	底 (4.8)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍褐	紐作り成形後縦位の篋削り整形。	藤岡系
213-10 138	鉄器 釘	掘り方内 破片	重 2.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。別個体の破片が付いている。釘か利器の茎と考えられる。	—
213-11 138	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色微粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	作り不詳。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系か
213-12 138	瓦 男瓦	傍竈坑内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回。	吉井系
214-1 瓦-603 138	瓦 男瓦	床直 片	厚 2.5	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り1回。凹面粘土板剥ぎ取り痕。篋描き文字瓦「上」(凸面)。	吉井系
214-2 瓦-604 139	瓦 女瓦	カマド内 片	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り5回。篋描き文字瓦「口辛」(凸面)。	吉井系
214-3 瓦-605 139	瓦 女瓦	カマド内 片	長 40.3 厚 2.0	白色鉍物粒子 シルト	還元焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。篋描き文字瓦「馬」(凸面)。	吉井系
214-4 138	瓦 女瓦	傍竈坑内 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子	中性焰	鈍橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り1回。	吉井系
215-1 139	瓦 女瓦	傍竈坑内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後格子叩き整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
215-2 139	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻き造りか。凸面縄叩き。	中之条系

## B区第123号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
216-1 139	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部外面は横位の篋削り、内面に暗文を施すが痕跡程度しか見られない。	藤岡系
216-2 139	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.8)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。内外面自然袖付着。	秋間系
216-3 139	須恵器 薬壺蓋	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。罌は貼り付け後轆轤整形。	秋間系
216-4 139	土師器 壺	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	暗褐	口縁部は外傾する。紐作り。口縁部は横撫で、内面は篋撫で。	藤岡系



## B区 (122・123・121・124号住居跡)

216-5 139	瓦製円盤	覆土内 完存	長 幅 厚	3.6 3.1 1.9	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	半截作り男瓦を転用している。	瓦は吉井系
216-6 139	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	1.2	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井・藤岡系

## B区第121号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
218-1 250	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (12.0)	白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形 (右回転)。	乗附系
218-2 250	須恵器 坏	カマド内 破片	底 6.0	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系か
218-3 139	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色鉾物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り3回。	吉井系
219-1 139	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き (密) 後縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り3回。	吉井系
219-2 139	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子	還元焰 焼締め	灰	桶巻き造り凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。	吉井系
219-3 139	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉾物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井系

## B区第124号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
220-1 140	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.3)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉾物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
220-2 140	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	黒色鉾物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
220-3 140	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.4)	白色微粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部に型膚を残す。体部は斜位気味の篋削りを施す。器内面に暗文を施す。	藤岡系
220-4 140	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
220-5 140	土師器 塊	覆土内 破片	口 (15.4)	赤褐色粒子 白色微粒子 シルト質	中性焰	橙	型作り成形。口縁直下に型膚を残す。体・底部は篋削り、器内面に暗文を施す。	藤岡系
220-6 140	須恵器 坏蓋	床直層 ほぼ完形	口 14.8 摘 3.9	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
220-7 140	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	摘 4.0	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。天上部は回転篋削り。	秋間系
220-8 140	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	摘 (3.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。天上部は回転篋削りを施す。	秋間系
220-9 140	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.2) 底 (8.0) 高 (3.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
220-10 140	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.6) 底 (7.0) 高 (3.3)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。外面自然袖付着。	秋間系
220-11 140	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (7.4) 高 (3.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
220-12 140	須恵器 坏	床直層 破片	口 13.0 底 7.0 高 4.0	白色微粒子 微粒雲母	中性焰	浅黄橙 黄灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
220-13 140	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (7.0) 高 (3.7)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系

遺物一覧表

220-14 140	須恵器 坏	覆土内 %	口 底 高	13.4 6.5 3.6	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
220-15 140	須恵器 坏	覆土内 %	底	7.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。底部周辺部に墨痕が認められる。	秋間系
220-16 140	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 底 高	11.0 6.6 5.1	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
221-1 140	須恵器 円面硯	覆土内 破片	口	(14.0)	白色微粒子	酸化焰	断・暗 橙 内・外 黒	轆轤成形(右回転)。体部に6ヶ所の窓を具備したと考えられる。	吉井系
221-2 140	須恵器 坏	覆土内 破片	口	(24.0)	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
221-3 140	土師器 甕	覆土内 破片	口	(19.9)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
221-4 140	土師器 甕	覆土内 破片	—	—	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
221-5 140	土師器 小形甕	覆土内 破片	口	(12.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍赤褐	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
221-6 140	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚	1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。横線間に5本1単位の波状文を施す。	秋間系か 乗附系
221-7 140	礫器 不詳	覆土内 完存	長 幅 厚	5.4 4.7 2.1	二ツ岳軽石	—	—	全体が人為的な磨滅により形を成している。	重30g
221-8 140	礫器 擦石	覆土内 完存	長 幅 厚	12.9 5.9 3.5	石英閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重540g
221-9 140	礫器 擦石	覆土内 完存	長 幅 厚	17.7 6.6 5.4	変質安山岩	—	—	上面が使用に伴なう磨滅が認められる。	重970g
221-10 140	石製品 砥石か	覆土内 %	長 幅 厚	13.8 15.1 6.8	粗粒安山岩	—	—	平坦面が非常によく磨滅する。深擦痕状の溝が多数集中し認められる。	重2570g
221-11 瓦-652	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	厚	1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一本作り。単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。背面布目。男瓦部は半截作り。	笠懸系
222-1 141	瓦 玉縁付 男瓦	覆土内 破片	厚	3.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤整形。玉縁接合はA類。	秋間系
222-2 141	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形後凸面縄叩き。側部面取り2回。	吉井系
222-3 141	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.8	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系
222-4 141	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	2.5	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り1回。端部面取り1回。	乗附系
222-5 141	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形・自然釉付着。端部面取り2回。	笠懸系
222-6 141	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	1.1	白色微粒子	還元焰	灰褐	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り1回。	笠懸系
222-7 141	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.7	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	一枚作り。凹面寄木痕。凸面斜格子叩き。	笠懸系
222-8 141	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	1.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き。側部面取り2回・端部面取り1回。	中之条系
222-9 141	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚	1.5	白色鉍物粒子	還元焰 焼締め	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。	吉井系
222-10 141	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚	1.7	白色鉍物粒子	還元焰 焼締め	灰	一枚作りか。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。	吉井系

## B区(125号住居跡)

222-11 141	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子	酸化焰	褐灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 2回・端部面取り1回。	不詳
222-12 141	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系

## B区第125号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
223-1 142	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.5) 高 (2.6)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に 型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
223-2 142	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄 く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
223-3 142	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
223-4 142	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
223-5 142	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.2)	白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄 く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
223-6 143	土師器 坏	床直層 ㍻	口 12.3 底 8.1 高 4.2	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。器内面に放射状暗文を施す。器 厚は厚く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
223-7 142	土師器 坏	覆土内 ㍻	口 (14.0) 底 (8.8) 高 (4.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。器内面に二重暗文を施す。器厚 は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
224-1 143	須恵器 坏 蓋	覆土内 ㍻	摘 3.5 口 13.8 高 3.2	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
224-2 143	須恵器 坏 蓋	覆土内 ㍻	摘 (4.2) 口 (14.4) 高 (3.2)	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
224-3 143	須恵器 坏 蓋	覆土内 ㍻	摘 2.2 口 18.4 高 4.1	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
224-4 143	須恵器 坏 蓋	覆土内 ㍻	摘 4.7 口 19.4 高 4.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
224-5 143	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (10.0) 高 (3.3)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
224-6 142	須恵器 葉壺 蓋	覆土内 破片	鏝 (14.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。鏝は貼り付け後轆轤整形。	秋間系
224-7 142	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄 く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
224-8 143	須恵器 坏	床直層 ㍻	口 12.5 底 7.2 高 3.5	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
224-9 143	須恵器 坏	床直層 ㍻	口 14.6 底 7.4 高 3.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。内面 に自然袖付着する。	秋間系
224-10 143	須恵器 坏	床面直上 一部欠損	口 13.2 底 7.8 高 3.5	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。	笠懸系
224-11 143	須恵器 坏	床直層 ㍻	口 14.0 底 4.0 高 4.0	白色微粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系

遺物一覧表

224-12 143	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (9.0)	黑色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
224-13 142	土師器 小形甕	覆土内 破片	口 (9.9)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。口縁部は外傾する(直立気味)。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
224-14 142	土師器 小形甕	覆土内 破片	—	白色微粒子 微粒雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
224-15 142	土師器 小形甕	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外傾する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
224-16 142	土師器 小形甕	覆土内 破片	最径(15.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り成形後胴部上半は篋削り、胴部下半は篋撫でを施す。	藤岡系
224-17 143	土師器 台付甕 (脚部)	覆土内 破片	底 (9.6)	白色微粒子 黒色鈹物粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍赤褐	紐作り成形後撫で整形。	藤岡系
224-18 143	須恵器 壺	床直層 1/2	底 7.3	白色鈹物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。底部周辺は手持ち篋削り。内外面自然釉付着。	吉井系
224-19 142	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 0.7	黒色粒子	還元焰	断・黄 灰 内・灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。外面自然釉付着。	東海系
224-20 143	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	重 13.1	—	—	—	全体に錆が及んでいるが比較的旧状を留めている。頭部は折り返し。	—
224-21 143	鉄器 釘 か	覆土内 破片	幅 0.9 厚 0.5 重 9.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが比較的遺存状態は良好である。断面は長方形状を呈する。	—
224-22 143	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 2.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。上位側は調査以前の欠損である。断面正方形状を呈する。	—
224-23 143	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.3 重 0.8	—	—	—	全体に錆化が及んでおり、調査後両端を欠損している。	—
224-24 143	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.3 重 1.1	—	—	—	全体に錆化が及び調査後両端を欠損している。	—
224-25 143	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.7 重 1.1	—	—	—	錆化は比較的少ない。全体に平坦である。	—
224-26 143	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.5 重 5.4	—	—	—	全体に錆化が著しく、調査後の欠損により破損している。平面「コ」の字を呈しカコ等金具と思われる。	—
224-27 144	石製品 砥石	覆土内 1/4	長 (10.3) 幅 5.1 厚 1.7	砥沢石	—	—	4面に使用面が認められるものの、顕著な使用面は1面のみである。	重220g
224-28	礫器 142 擦石	覆土内 完存	長 9.0 幅 3.1 厚 2.5	砂岩	—	—	側面に使用面がある。	重112g
224-29 142	礫器 擦石	覆土内 完存	長 12.0 幅 5.2 厚 3.4	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅している。	重420g
225-1 142	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 0.8	白色鈹物粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面板叩き・内面宛具は素文)。	乗附系か 藤岡系
225-2 143	瓦 男瓦	覆土内 1/4	厚 1.7	白色鈹物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。側面取り3回・端面取り2回。	吉井系 225図-3 と同一個 体
225-3 143	瓦 男瓦	床直層 1/2	厚 1.3	白色鈹物粒子	還元焰	灰	225図-2と同一個体。	吉井系
225-4 143	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鈹物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。	吉井系
226-1 143	瓦 男瓦	覆土内 1/4	厚 1.4	白色鈹物粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り1回。	吉井系
226-2 143	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鈹物粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側面取り2回・端面取り1回。	吉井系

## B区(126号住居跡)

226-3 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	赤褐色粒子 デイスait	還元焰	橙	桶巻き造り。凹面布目擦り消し(篋撫で)粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
226-4 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	不詳
226-5 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。	笠懸系
226-6 143	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後格子叩き整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
226-7 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	赤褐色粒子 白色粒子	還元焰	白灰	作り不詳。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井系
226-8 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 細粒砂	還元焰	白灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形後縄叩き(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り3回。	吉井系か
226-9 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。側部面取り3回・端部面取り1回。	笠懸系
226-10 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	シルト粗粒子	還元焰	白灰	桶巻き造りか。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。	乗附系
227-1 143	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	黒灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面自然釉付着。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
227-2 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り凹面模骨痕。凸面撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
227-3 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。両面縦位の撫で整形。側部面取り1回・端部面取り1回。	不詳
227-4 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	紐作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
227-5 144	瓦 女瓦 か 熨斗瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の篋撫で整形。	吉井系
227-6 144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。両面縦位の篋撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回。	吉井系

## B区第126号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
228-1 144	須恵器 坏	床直 破片	口 (13.2) 底 (6.6) 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転系切り。	秋間系
228-2 145	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	吉井系
228-3 144	須恵器 塊	床直層 1/2	口 14.4 底 7.0 高 5.6	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
228-4 145	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (15.2)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内面に焦りが認められる。	秋間系か
228-5 144	須恵器 鉢	床直層 破片	口 (23.5)	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
230-1 145	須恵器 甕	床直層 破片	最径(30.0)	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)後轆轤再整形。	秋間系
230-2 145	鉄器 不詳	覆土内 不詳	長 5.8 幅 1.1 厚 0.9	—	—	—	先端側はやや先細り状である。平たい棒状製品である。器種の特定は不能。	重11.9g
230-3 145	礫 擦石	カマド内 完存	長 11.2 幅 4.2 厚 3.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重310g
230-4 144	瓦 玉縁付 男瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	半裁作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回。凹面布合せ目痕。玉縁接合はA類。	乗附系
230-5 145	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系

遺物一覧表

230-6 146	瓦 女 瓦	カマド奥 壁 瓦	厚	1.7	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回・端部面取り1回。	吉井系
230-7 145	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚	1.8	白色粒子 細粒砂	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き。側部面取り3回。	中之条系 か
231-1 145	瓦 男 瓦	覆土内 瓦	厚	1.1	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	秋間系
231-2 145	瓦 男 瓦	覆土内 瓦	厚	2.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り2回・端部面取り3回。	乗附系
231-3 145	瓦 男 瓦	覆土内 瓦	厚	1.7	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り1回・端部面取り1回。	秋間系
231-4 145	瓦 女 瓦	カマド内 細片	厚	1.8	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。	笠懸系
231-5 145	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚	1.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面離砂痕。縄叩き(密)。側部喰出し段有り。側部面取り3回。	秋間系
231-6 146	瓦 女 瓦	覆土内 瓦	厚 長	1.3 37.7	黒色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。凸面離砂痕。側部面取り3回・端部面取り2回。	秋間系
232-1 145	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚	1.8	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	黒灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系
232-2 瓦-606 145	瓦 女 瓦	覆土内 破片 傍竈坑周 辺	厚	2.2	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。刻印文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
232-3 瓦-607 145	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚	1.7	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)・離砂。側部面取り2回篋描き文字瓦「大」か(凹面)。	秋間系
232-4 146	瓦 女 瓦	覆土内 瓦	厚	2.1	黒色粒子 シルト粒子	還元焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。(密)凸面離砂痕。側部面取り3回・端部面取り1回。	秋間系

B区第128号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考	
233-1 146	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (18.0)	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系	
233-2 146	須 恵 器 内黒土器 壺	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子 デイサイト	酸化焰	外・橙 内・黒	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施す。器内面は吸炭させている。	藤岡系	
233-3 146	須 恵 器 高 坏	覆土内 瓦	口 (15.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系	
233-4 146	礫 器 擦 石	覆土内 完存	長 幅 厚	4.5 3.8 2.8	石英閃緑岩	—	—	上面が使用に伴ない磨滅している。	重70g
234-1 146	石 造 品 不 詳	覆土内 破片	長 幅 重	9.9 3.3 80.0	粗粒安山岩	—	—	立方体を呈する石造品の一部と考えられる。面は磨き整形されている。	—
234-2 146	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚	2.0	黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回。	秋間系
234-3 146	瓦 玉 縁 付 男 瓦	覆土内 破片	厚	2.1	細粒砂	還元焰	灰黄	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回。玉縁接合はA類。	乗附系
234-4 146	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚	2.5	白色鉍物粒子 シルト粗粒子	還元焰	暗灰褐	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り4回・端部面取り3回。	吉井系
234-5 146	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚	1.8	白色鉍物粒子 デイサイト	酸化焰	鈍黄橙	桶巻き造り凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)後凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回・端部面取り2回。	吉井系
235-1 147	瓦 女 瓦	カマド内 完形	長 広 狭	40.5 26.0 20.5	白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	重3600g 吉井系
235-2 147	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚	1.7	黒色粒子 シルト粒子	還元焰 焼締	白灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・凸面縄叩き(密)後、縦位の撫で整形。側部面取り3回。	笠懸系



## B区(128・129・130号住居跡)

235-3 146	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
236-1 瓦-608 147	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 2.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。篋描き文字瓦「平」(凸面)。	吉井系

## B区第129号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
237-1 147	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
237-2 147	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
237-3 147	土師器 坏	覆土内 瓦	口 (12.6)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
237-4 147	土師器 坏	覆土内 瓦	口 (13.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
237-5 147	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
237-6 147	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.0) 底 (11.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。器内面に放射状暗文を施す。体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
237-7 147	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.2)	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。器内面に放射状暗文を施す。体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
237-8 147	土師器 坏	床直層 一部欠損	口 17.0 底 10.3 高 6.3	シルト質 白色微粒子	酸化焰	明黄橙	型作り成形。器厚は厚く、器内面に二重暗文を施す。体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
237-9 147	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 13.4 底 8.0 高 3.6	黒色粒子 白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部周縁は回転篋削り。	秋間系か 乗野系
237-10 147	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0) 底 ( 8.0)	細粒砂	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
237-11 147	須恵器 坏	覆土内 破片	底 ( 8.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。器面に有機質付着。	吉井系
237-12 147	須恵器 坏 蓋	覆土内 瓦	口 4.0 口 14.0 高 3.4	白色微粒子	還元焰	灰褐	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。内面自然釉付着。	秋間系
237-13 147	須恵器 坏 蓋	覆土内 瓦	口 3.2 口 17.0 高 4.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	吉井系
237-14 147	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (18.6)	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
237-15 147	土師器 甕	埋土内 破片	口 (21.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り成形乃至型作り成形。口縁部は横撫で後縦位の篋撫で。	藤岡系
238-1 148	瓦 女瓦	床直 破片	厚 2.8	白色鉱物粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。整形後轆轤撫での再整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井系

## B区第130号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
239-1 148	須恵器 坏	覆土内 瓦	口 12.2 底 5.0 高 4.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
239-2 148	須恵器 坏	傍竈内 瓦	口 (12.4) 底 ( 5.6) 高 ( 3.4)	白色粒子 微粒雲母 白色鉱物粒子	還元焰	褐灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	不詳



遺物一覧表

239-3 148	須恵器 坏	覆土内 ⅓	口 (13.0) 底 (5.0) 高 (3.9)	白色粒子 黒色鉍物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
239-4 148	須恵器 坏	カマド内 ⅓	口 13.6 底 5.4 高 5.5	透明鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	月夜野系
239-5 148	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色鉍物粒子 微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤岡系
240-1 148	須恵器 埴	覆土内 ⅓	口 (14.0) 底 6.8 高 (5.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井系
240-2 148	須恵器 埴	カマド内 破片	底 (6.0)	微粒雲母 白色微粒子 デイサイト	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系か 吉井系
240-3 148	須恵器 黒色土器 埴	覆土内 破片	底 (6.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黒褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
240-4 148	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (6.2)	白色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
240-5 148	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (6.4)	細粒砂 微粒雲母	還元焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	不詳
240-6 148	須恵器 埴	カマド内 破片	底 (6.4)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
240-7 148	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (7.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	灰黄褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。器内面有機質付着。	吉井・藤岡系
240-8 148	須恵器 内黒土器 坏 蓋	カマド内 破片		黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。内面は磨きを施こし焼き処理。	
240-9 148	須恵器 甕	覆土内 破片	最径(40.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面叩具は不詳、内面宛具は平行文)。後轆轤再整形。	乗附系
240-10 148	鉄器 刀子	覆土内 破片	幅 1.0 重 3.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。鋒側は調査後の欠損で、茎は調査以前の欠損である。	—
240-11 148	鉄器 釘	覆土内 先端欠損	幅 0.75 重 13.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後錆化による欠損が著しい。頭部は折り返している。先端側を欠損している。	—
240-12 148	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 11.4	—	—	—	全体に錆化が著しく、調査後の欠損も多い。断面正方形形状を呈すると思われる。	—
240-13 148	鉄器 不詳	覆土内 両端欠損	重 14.8	—	—	—	全体に錆化が及んでおり、調査後の欠損がある為、全体形状は不分明である。断面は正方形形状を呈する。	—
241-1 148	土師器 甕	覆土内 破片	底 (8.0)	細粒砂 黒色粒子 白色粒子	酸化焰	黄灰	紐作り。外面は篋削・内面は撫で整形。	吉井系
241-2 148	須恵器 転用硯 (大甕)	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (内面宛具は素文)。器内面は磨滅し墨痕が見られる。	乗附系か 藤岡系
241-3 148	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	器内面側が磨滅する。紐作り。叩き整形 (外面叩き不詳・内面宛具は素文)。	乗附系か 藤岡系
241-4 148	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 ⅓	口 5.5 底 5.6 高 2.1	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
241-5 148	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (6.0) 高 (2.1)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台は付高台。施釉は浸掛。	—
241-6 148	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	口 (13.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
241-7 148	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	口 (15.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛か。	—

## B区 (131号住居跡)

241-8 148	礫器 擦石	覆土内 完存	長 幅 厚	8.3 8.0 4.0	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重390g
241-9 148	石界品 砥石	覆土内 完存	長 幅 厚	17.2 7.6 6.4	粗粒安山岩	—	—	全体が使用され4面が認められる。	重 1,150g
241-10 148	礫器	覆土内 完存	長 幅 厚	14.3 14.3 4.3	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重990g
242-1 149	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	2.3	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。側部面取り2回。	吉井系
242-2 149	瓦 女瓦	床直層 破片	厚	1.4	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面寄木痕。凸面木目叩き。側部面取り1回・端部面取り2回。	藤岡系
242-3 149	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	1.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面木目叩き整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	不詳
242-4 149	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	1.0	白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縦位の篋撫で整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	藤岡系
242-5 149	瓦 女瓦	床直層 破片	厚	1.1	白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	242図-4と同一個体。	藤岡系
242-6 149	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚	1.0	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面木目叩き。側部面取り1回・端部面取り1回。	藤岡系
242-7 149	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.9	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰黄	紐作り。凹面縦位の撫で整形。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	藤岡系か
242-8 瓦-609	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚	1.6	白色微粒子	還元焰	灰白	刻印文字瓦「山田」(凸面)。	笠懸系

## B区第131号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
244-1 149	須恵器 坏か塊	覆土内 破片	口 (11.4)	黒色鉍物粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
244-2 149	須恵器 塊	覆土内 片	口 (14.4) 底 (8.0) 高 (3.5)	白色鉍物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。	吉井系か 月夜野系
244-3 149	須恵器 坏	覆土内 片	底 6.8	デイサイト 白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転系切り。	吉井系
244-4 149	須恵器 塊	カマド内 片	底 7.4	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
244-5 149	土師器 坏蓋	覆土内 片	摘 3.2	微粒砂	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。摘部は貼り付け。器内面に暗文を施す。	東毛系
244-6 149	須恵器 甗	カマド内 破片	厚 0.9	デイサイト 微粒雲母 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
244-7 149	土師器 甕	カマド内 破片	口 (13.1)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は短く外反する。紐作り。外面胴部は篋撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
244-8 149	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (6.7) 高 (2.5)	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	—
244-9 149	施釉陶器 灰釉塊	覆土内 破片	口 (15.4)	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛。	—
244-10 149	鉄器 刀子	覆土内 両端欠損 (調査後)	重 7.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。鋒・茎尻は調査後の欠損。刀身に研ぎ減りが認められる。	—
244-11 瓦-610	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 2.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作りか。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
244-12 150	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形。側部面取り2回。	吉井系
244-13 150	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し凸面縄叩き。端部面取り2回。	笠懸系

遺物一覧表

244-14 150	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
245-1 150	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	桶巻き造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。	吉井系
245-2 150	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。	吉井系
245-3 150	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作りか。凸面木目叩き後撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
245-4 150	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 黒色粒子 白色粒子	酸化焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤整形。端部面取り2回。	吉井系
245-5 150	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	灰黄	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
245-6 150	瓦 女瓦	カマド内 1/2	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系

B区第132号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
246-1 150	須恵器 坏	覆土内 1/2	口 12.6 底 6.7 高 3.8	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
246-2 150	須恵器 坏	カマド内 1/2	底 5.7	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
246-3 150	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
246-4 151	瓦 男瓦	カマド内 1/2	狭 12.0 厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子 細粒砂	中性焰	黄灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井・藤岡系
247-1 瓦-611 151	瓦 男瓦	カマド内 1/2	長 (34.6) 厚 2.0	白色微粒子 デイスait	酸化焰	赤橙	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回・端部面取り2回。篋描き文字瓦「人」(凸面)。	藤岡系

B区第133号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
248-1 151	土師器 坏	カマド内 1/2	口 11.0 高 3.5	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は直立する。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
248-2 151	土師器 坏	覆土内 破片	口 (10.8)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。	藤岡系
248-3 151	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾気味。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。	藤岡系
248-4 151	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.3)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は直立気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
249-1 151	土師器 甕	カマド内 1/2	口 20.2	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
249-2 151	土師器 甕	カマド内 1/2	口 23.8	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
250-1 150	土師器 甕	カマド内 破片	口 (21.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
250-2 150	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 0.7	黒色鉱物粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	不詳

## B区第134号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
251-1 150	須恵器 坏蓋	覆土内 1/4	口 (17.4)	白色微粒子	還元焰	灰	内面に返りを有し口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
251-2 150	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (8.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
251-3 150	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (16.0)	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
251-4 150	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	浅黄橙	紐作り。叩き整形(外面板目叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系

## B区第135号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
253-1 150	須恵器 坏	床直層 ほぼ完形	口 13.5 底 6.2 高 3.7	微粒雲母 白色鉍物粒子	酸化焰	橙褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。内・外面に燻りが認められる。	藤岡系
253-2 151	須恵器 坏	覆土内 1/4	口 13.3 底 6.3 高 3.7	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。内・外面燻し処理を施す。	藤岡系
253-3 151	須恵器 坏	覆土内 1/4	底 5.4	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤整形(右回転)、底部は回転糸切り。内・外面燻し処理を施す。	藤岡系
254-1 151	須恵器 埴	カマド内 ほぼ完形	口 14.7 底 6.6 高 5.7	白色鉍物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙褐	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面燻し処理を施す。	藤岡系
254-2 151	土師器 甕	カマド内 破片	口 (22.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。「コ」の字状口縁。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
254-3 151	土師器 甕	カマド内 破片	底 (4.6)	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面底部は篋削り。	藤岡系
254-4 151	鉄器 刀子か	覆土内 茎尻か	重 3.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。関側は調査後の欠損。	—
254-5 瓦-612	瓦 男瓦	カマド内 1/4	厚 2.1	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り4回・端部面取り2回。刻印文字瓦「口」(凸面)。	乗附系
254-6 151	瓦 男瓦	カマド内 1/4	長 37.2 厚 2.0	赤褐色粒子 白色微粒子 シルト	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回・端部面取り3回。	乗附系
255-1 151	瓦 男瓦	覆土内 1/4	厚 1.6	黒色粒子	還元焰	白灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回。	秋間系
255-2 151	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	断・橙 外・黒	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。	笠懸系
255-3 151	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回。側部喰出し段有り。	秋間系
255-4 151	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子 デイスait 黒色粒子	還元焰	鈍橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系

## B区第136号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
256-1 152	須恵器 坏蓋	カマド内 1/4	摘 1.5	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
256-2 152	須恵器 坏蓋	カマド内 破片	口 (13.3)	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	吉井系
256-3 152	土師器 甕	カマド内 破片	口 (16.3)	微粒雲母 白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。口縁部は横撫で。	藤岡系

遺物一覧表

256-4 152	土師器 甕	カマド内 破片	口 (20.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	橙褐	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
256-5 152	須恵器 坏	カマド内 %	口 9.7 底 4.6 高 3.2	白色粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	橙褐	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・ 外面に燻りが認められる。	太田系か 笠懸系
256-6 152	須恵器 坏	カマド内 %	口 (13.1) 底 ( 5.4) 高 ( 3.6)	黒色鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
256-7 152	須恵器 坏	カマド内 %	口 13.7 底 7.0 高 4.0	赤褐色粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。口唇 部に燻りが認められる。	不詳
256-8 152	須恵器 塊	カマド内 破片	口 (17.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	東海系
256-9 152	須恵器 大甕	カマド内 破片	厚 1.0	白色鉾物粒子 赤褐色粒子 白色微粒子	還元焰	灰黄	紐作り後叩き整形(内面宛具は素文・外面は 不詳)後轆轤再整形。	藤岡系
257-1 151	須恵器 大甕	カマド内 破片	口 (46.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰黄	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。	藤岡系
257-2 152	須恵器 大甕	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	灰黄	紐作り後轆轤整形後、一部縦位の篋撫でを施 す。	藤岡系
257-3 152	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (21.6)	白色粒子 黒色鉾物粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。体部下半は篋削り。	吉井型羽 釜 甲壺 種呂類
258-1 152	瓦 男瓦	カマド内 破片	幅 15.3 厚 1.6	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面布合せ目痕。 側部面取り2回。	秋間系
258-2 152	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子	還元焰	黒灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回・端部面取り2回。	吉井系
258-3 152	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面平行叩き。凹面粘土板剥ぎ取 り痕。側部面取り2回。	乗附系か
258-4 瓦-613 153	瓦 女瓦	カマド内 %	厚 2.6	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。両面粘土板剥 ぎ取り痕。凸面不整格子叩き。刻印文字瓦「佐」 (凸面)。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
258-5 153	瓦 女瓦	カマド内 %	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。 側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系
258-6 152	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色鉾物粒子	還元焰	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。 凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。 側部面取り2回・端部面取り3回。	吉井系
258-7 152	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚 1.9	白色鉾物粒子 細粒砂	還元焰	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。 凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。 側部面取り2回。	吉井系
258-8 152	瓦 女瓦	カマド内 %	厚 2.2	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。面縦位の撫で整形。側部面取り3 回・端部面取り1回。	吉井系
259-1 153	瓦 女瓦	カマド内 %	厚 3.0	白色鉾物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回・端部面取り2回。	吉井系

B区第137号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
260-1 153	須恵器 坏	カマド内 %	口 (13.0) 底 6.0 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
260-2 153	須恵器 塊	カマド内 破片	口 (14.0)	微粒雲母	還元焰	鈍黄	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
260-3 153	須恵器 塊	床直層 %	底 7.0	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
260-4 153	須恵器 塊	カマド内 破片	口 (23.4)	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	秋間系
260-5 153	土師器 甕	掘り方内 破片	口 (21.5)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面は篋撫で。	藤岡系
260-6 153	施釉陶器 灰釉瓶	覆土内 破片	底 (13.0) (13.6)	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部外面は回転 篋削り。	—

## B区 (137・138・139・153号住居跡)

261-1 153	須惠器 土釜	カマド内 破片	口 (23.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	褐・黒 褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	笠懸系か 吉井系
261-2 153	礫器 擦石	カマド内 完存	長 14.0 幅 6.5 厚 4.4	石英斑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重610g
261-3 153	瓦 女瓦	床直層 瓦	厚 1.9	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
261-4 153	瓦 女瓦	覆土内 瓦	厚 1.1	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凸面平行叩き。側部面取り1回・端部面取り1回。	吉井・藤 岡系
262-1 153	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回・端部面取り1回。側部喰出し段有り。	秋間系

## B区第138号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
263-1 154	土師器 甕	カマド内 破片	口 (21.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾し横撫でを施す。	藤岡系

## B区第139号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
264-1 154	須惠器 坏	カマド内 瓦	口 (12.0) 底 (6.0) 高 (3.4)	白色微粒子 微粒砂	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系
264-2 154	須惠器 坏	カマド内 瓦	口 12.4 底 3.0 高 3.9	白色微粒子 微粒砂	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系
264-3 154	須惠器 埴	覆土内 瓦	口 13.0 底 (5.6) 高 (6.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	暗黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
264-4 154	須惠器 埴	床直 瓦	口 14.2 底 (5.8) 高 (5.5)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
264-5 154	須惠器 壺	覆土内 破片	頸部 5.8	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系か 秋間系
265-1 154	須惠器 甕	覆土内 瓦	底 12.4	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
265-2 154	瓦 男瓦	ピット内 瓦	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	秋間系
265-3 154	瓦 男瓦	ピット内 瓦	厚 2.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
265-4 154	瓦 宇瓦か	ピット内 瓦	厚 3.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り7回・端部面取り4回。	吉井系

## B区第153号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
266-1 154	土師器 坏	カマド内 破片	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は平底で篋削り。	藤岡系
266-2 154	須惠器 坏	覆土内 破片	口 (14.6)	細粒砂 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系か
266-3 154	須惠器 坏	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
266-4 250	土師器 甕	カマド内 破片	口 (23.0)	白色微粒子 白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系



遺物一覧表

266-5 154	礫 擦石	器 石	覆土内 完存	長 幅 厚	15.0 7.3 5.2	溶結凝灰岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅し、小口側に敲打痕が認められる。	重800g
267-1 154	瓦 男瓦		覆土内 破片	厚	1.3	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回。	吉井系
267-2 154	瓦 男瓦		覆土内 細片	厚	1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回。	吉井系
267-3 154	瓦 女瓦		覆土内 破片	厚	1.4	白色微粒子	還元焰	褐灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。	笠懸系
267-4 154	瓦 女瓦		覆土内 破片	厚	1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。模骨痕(?)。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。	吉井系
267-5 154	瓦 女瓦		覆土内 細片	厚	0.8	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系

B区第141号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
268-1 154	土師器 壺	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形(紐)。体部に型膚を残し、紐の痕跡も認められる。	藤岡系
268-2 154	須恵器 壺	覆土内 破片	—	微粒砂	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系か
268-3 154	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩き。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
269-1 154	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	細粒砂 (白色鉱物粒子)	還元焰	灰黄	一枚作りか。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。	不詳
269-2 155	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	藤岡系 布目粗

B区第142号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
271-1 155	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系	
271-2 155	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系	
271-3 155	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系	
271-4 155	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.2)	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。体部・底部は篋削り。器内面は横撫で後放射状暗文を施す。	藤岡系	
271-5 155	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (17.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系	
271-6 155	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (7.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち篋削りか回転篋削り。	秋間系	
271-7 155	土師器 甕	カマド内 破片	口 (20.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系	
271-8 155	土師器 甕	覆土内 破片	底 (5.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形後篋削り整形。	藤岡系	
271-9 155	土師器 甕	覆土内 破片	口 (28.1)	白色微粒子 微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は強く外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系	
271-10 155	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (24.0)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系か	
271-11 155	礫 擦石	器 石	覆土内 片	長 厚 幅	7.5 3.0 5.6	粗粒安山岩	—	平坦面が磨滅する。	重240g

## B区(141・142・143・144号住居跡)

271-12 155	礫器 擦石	覆土内 完存	長 幅 厚	15.0 4.8 3.5	閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴う磨滅が認められる。	重450g
271-13 155	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	1.8	白色鉍物粒子 デイスait	還元焰	褐灰	桶巻き造り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ 取り痕。端面取り3回。	吉井・藤 岡系

## B区第143号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
272-1 155	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (5.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。内・外面に燻りが認められる。	秋間系
272-2 155	須恵器 坏	覆土内 破片	底 6.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
272-3 155	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (3.0)	白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高 台欠損後坏に転用。底面に意図不明の刻みが 認められる。	吉井系
272-4 155	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	底 (8.0)	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	—
272-5 155	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	底 (7.0)	やや粗	良好	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	—
272-6 155	土師器 甕	カマド内 破片	口 (20.3)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削 り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
272-7 155	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (21.0) 鏝 (25.5)	白色鉍物粒子	還元焰	橙	口縁部は直立気味。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲壹 種呂類
272-8 155	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (21.0) 鏝 (24.0)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	橙	口縁部は直立気味。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲貳 種呂類
272-9 155	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (21.8) 鏝 (28.7)	白色鉍物粒子	還元焰	橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲壹 種伊類
273-1 155	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 0.9	デイスait 白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り2回。	吉井・藤 岡系
273-2 155	瓦 男瓦	覆土内 瓦	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	浅黄橙	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整 形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り3回・ 端面取り1回。	吉井系
273-3 155	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰黄	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆 轤整形後縄叩き(密)。	吉井系
273-4 155	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.3	黒色粒子	還元焰 焼締	白灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整 形。端面取り2回。	笠懸系か

## B区第144号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
274-1 155	土師器 坏	床直 ほぼ完形	口 11.8 底 6.5 高 3.7	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	褐	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
274-2 156	土師器 壺	覆土内 破片	口 12.0	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
275-1 155	須恵器 坏	床直層 %	口 10.8 底 5.3 高 3.3	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	白灰 底部黒	轆轤成形(左回転)、底部は回転糸切り。器内 面布挽き撫で整形。	不詳
275-2 155	須恵器 坏	ピット内 完形	口 11.5 底 6.1 高 3.2	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系か
275-3 155	須恵器 坏	ピット内 完形	口 12.4 底 5.4 高 4.2	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	暗褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系か

遺物一覧表

275-4 156	須恵器 坏	覆土内 片	口 (13.0) 底 (6.0) 高 (4.7)	白色微粒子 微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
275-5 156	須恵器 碗	覆土内 破片	底 (10.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台は削り出し。	秋間系
275-6 156	須恵器 碗	覆土内 片	口 (10.6) 底 6.2 高 4.7	白色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井系
275-7 156	須恵器 坏 (境)	覆土内 片	口 (17.1)	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台) 後坏として転用している。	吉井系
275-8 156	須恵器 盤	覆土内 破片	口 (18.0)	白色粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)。	搬入品か
275-9 156	須恵器 器台	ピット内 片	口 23.0	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。底部を穿孔する。	吉井系
275-10 156	土師器 小形壺	床直 破片	口 (12.6)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篔削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篔撫で。	藤岡系
275-11 156	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (20.0) 鏝 (23.4)	白色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲貳種呂類
275-12 156	須恵器 羽釜	覆土内 破片	底 (6.3)	白色微粒子 赤褐色粒子 デイスait	酸化焰 か	暗褐	紐作り後轆轤整形 (右回転)。後斜位の篔削り再成形。	吉井型羽釜
275-13 156	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	底 (9.1)	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	割れ口に漆接きの痕跡がある。
275-14 156	礫器 擦石	覆土内 完存	長 9.8 幅 7.9 厚 3.2	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重375g
276-1 156	礫器 擦石	覆土内 完存	長 12.2 幅 6.8 厚 4.7	石英閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重610g
276-2 156	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面縄叩き・自然釉付着。	秋間系
276-3 156	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	半截作り。凸面轆轤整形。端部面取り3回。	吉井・藤岡系
276-4 156	瓦 男瓦	覆土内 片	厚 1.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回。	乗附系
276-5 156 瓦-614 156	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。篔描き文字瓦「辛」(凸面)。	吉井系 文字は左文字
276-6 156	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。釘穴を有する。	吉井系
276-7 156	瓦 字瓦か	覆土内 破片	厚 3.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
276-8 156	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.1	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕?・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。釘穴を有する。	吉井系

B区第145号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
277-1 156	土師器 坏	覆土内 片	口 (13.6) 底 (8.7) 高 (3.7)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	器内面に放射状暗文を施す。型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は厚く、体部に型膚を残し底部は篔削り。	藤岡系
277-2 157	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (6.0) 底 (4.0) 高 (2.8)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	不詳
278-1 156	須恵器 坏蓋	ピット内 破片	摘 3.5	白色微粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形 (右回転)。天上部は回転篔削り。内面自然釉付着。	秋間系

## B区(145・146号住居跡)

278-2 157	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	摘口 (13.2) 高 (3.2)	3.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。器内面が磨滅する。内面自然釉付着。	秋間系
278-3 156	須恵器 坏 蓋	床直 破片	摘口 (19.0)	4.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰 灰黄	轆轤成形(右回転)。天上部は回転篋削り。	秋間系
278-4 157	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (19.0)		白色鉍物粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	吉井系
278-5 156	須恵器 坏	覆土内 完形	口 底 高	12.3 7.3 3.8	白色微粒子	還元焰	灰~ 灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
278-6 157	須恵器 坏	覆土内 片	口 底 高	(15.0) (10.0) (3.8)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄褐	轆轤整形(右回転)。底部は回転篋削り。	不詳 (吉井系?)
278-7 156	須恵器 皿	覆土内 片	口 底 高	(20.0) 12.4 5.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。底部は回転篋削り整形。	秋間系
278-8 157	土製品 羽口	覆土内 両端欠損	厚 孔	2.4 2.0	白色微粒子	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、端部の為、スラグ等は認められない。	—
278-9 157	土製品 羽口	覆土内 破片	厚	2.5	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	—
278-10 157	土製品 羽口	覆土内 上端欠損	厚 孔	1.4 2.2	白色微粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
278-11 157	施釉陶器 灰釉段皿	埋土内 完形	口 底 高	16.0 7.4 2.3	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	—
278-12 157	施釉陶器 灰釉境	覆土内 片	口 底 高	15.8 (8.2) 5.7	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	—
278-13 157	施釉陶器 灰釉境	覆土内 破片	口 (16.4)		密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛。	—
278-14 250	銅製品 刀装具 鋸	カマド内 ほぼ完存	幅 重ね	3.3 0.7	—	—	—	全体に歪んでいるものの欠損部は微量である。棟側は平棟で、刃部側は凹裏状になっている。内面刃身側は、棟刃部側は丸い作りになっている。	—
278-15 157	鉄器 不詳	覆土内 破片	重	2.5	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面長方形状である。	—
278-16 157	鉄器 小刀か	覆土内 茎部	厚	0.9	—	—	—	茎の重ねは厚く、刀子とは思われない。鍛え割れがあり粗い鍛えと考えられる。	重14.2g
278-17 瓦-672	瓦 字瓦	貯蔵穴内 破片	厚	2.2	白色鉍物粒子	還元焰	灰	右扁行唐草文。二重界線を施す。	吉井系
278-18 瓦-615 158	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	2.3	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。側部面取り3回。刻印文字瓦「當」(凸面)。篋描き文字瓦「平」(凸面)を併記する。	吉井系
278-19 157	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	2.0	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
279-1 157	石製品 砥石	覆土内 片	長 幅 厚	(18.0) 18.7 20.0	粗粒安山岩	—	—	全体に使用痕が認められるが、顕著な面は2面のみである。一部に工具の先端部による傷が認められる。	重 4,280g
279-2 157	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚	2.3	白色鉍物粒子	酸化焰	赤橙	桶巻き造りか。粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤整形?。側部面取り2回・端部面取り1回。	吉井系
279-3 157	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	2.0	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系

## B区第146号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目	(cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
280-1 159	土師器 坏	カマド内 破片	口 (9.7)		黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
280-2 158	土師器 坏	覆土内 片	口 (9.8)		白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立気味。底部は篋削り。	藤岡系

遺物一覧表

280-3 159	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 高 3.0	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
280-4 159	土師器 坏	カマド内 破片	口 (11.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
280-5 159	土師器 坏	カマド内 破片	口 (11.2)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
280-6 159	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.6) 高 2.8	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
280-7 159	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.9)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
281-1 159	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
281-2 158	土師器 坏	カマド内 完形	口 12.0 高 3.7	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
281-3 158	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 高 3.2	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。	藤岡系
281-4 158	土師器 坏	床直層 完形	口 12.4 高 4.2	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。口縁部は内湾気味。	藤岡系
281-5 159	土師器 坏	覆土内 破片	口 11.2	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
281-6 159	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
281-7 158	土師器 短頸壺	床直 ほぼ完形	口 9.1 高 7.0	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙 黄橙	体部下半以下は型作り成形。上半・口縁部は紐作り。口縁は横撫でを施し、外面口縁部以下は篋削り。内面は篋撫でを施す。	月夜野系
281-8 158	土師器 甕	カマド内 一部欠損	口 20.6 底 4.6 高 35.3	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙 黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
281-9 158	土師器 甕	カマド内 一部欠損	口 (11.2) 底 4.0 高 37.2	黒色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。口縁部は横撫で。	藤岡系
282-1 159	土師器 甕	カマド内 破片	口 19.3	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙 浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
282-2 159	土師器 甕	カマド内 完形	口 27.7 孔 11.6 高 34.2	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で後縦位の研磨を間置き施す。	藤岡系
282-3 158	土師器 台付甕 (脚部)	覆土内 破片	底 (10.2)	粗粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形後篋撫で整形。	藤岡系
282-4 159	土師器 甕	カマド内 破片	口 (23.6)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
282-5 159	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (30.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	乗附系
282-6 158	須恵器 壺	カマド内 破片	厚 0.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。1条の横線を施す。	吉井系
282-7 158	須恵器 壺	床直層 破片	口 (14.4)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部外面平行叩き内面宛具は青海波文。上半は轆轤再整形。	乗附系 自然袖付着
282-8 159	須恵器 大甕	床直層	厚 1.2	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)平行叩きは擬似格子状を呈する。	乗附系

## B区(147・150号住居跡)

283-1 159	須恵器 甕	カマド内 破片	厚 0.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
283-2 159	須恵器 甕	カマド内 破片	厚 0.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	283図-1と同一個体	秋間系

## B区第147号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
284-1 159	土師器 甕	カマド内 破片	口 (22.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
284-2 瓦-673 159	瓦 字瓦	カマド 掘り方内 破片	—	白色粒子	還元焰 焼締	灰紫	重弧文の一部と思われる。	乗附系
284-3 159	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.4	白色粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き。	中之条系

## B区第150号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
286-1 160	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立気味。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。内面に「十」を篋描きする(焼成前)	藤岡系
286-2 160	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
286-3 160	土師器 坏	カマド内 破片	口 (15.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
286-4 160	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.5)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
286-5 159	土師器 坏	覆土内 破片	口 13.4 高 3.2	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
286-6 159	土師器 坏	床直層 破片	口 14.6 高 4.0	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
287-1 160	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
287-2 160	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
287-3 160	土師器 坏	カマド内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
287-4 160	土師器 坏	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削り整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
287-5 160	土師器 坏	覆土内 破片	底 (9.5)	微粒雲母 赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
287-6 160	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	摘 5.6	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。天上部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
287-7 160	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
287-8 160	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子	還元焰	鈍灰	轆轤整形(右回転)。天上部自然釉付着。	秋間系
287-9 160	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系



遺物一覧表

287-10 160	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (17.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。天上部は回転篋削り。	秋間系
287-11 159	須恵器 坏	覆土内 破片	口 12.5 底 7.5 高 3.4	白色微粒子	還元焰	鈍灰	轆轤整形 (右回転)。回転篋起し。	秋間系
287-12 159	須恵器 坏	覆土内 破片	口 13.0 底 (8.0) 高 (3.4)	白色鉾物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転篋起し。	吉井系
287-13 160	須恵器 坏	カマド内 破片	口 13.3 底 (8.0) 高 (3.4)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	鈍灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
287-14 160	須恵器 坏	床直層 完形	口 13.3 底 9.8 高 4.0	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。底面 窯印「X」を篋描きする。	秋間系
287-15 160	須恵器 坏	覆土内 破片	口 14.0 底 9.4 高 3.6	赤褐色粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤整形 (右回転)。底部は回転篋削り。	笠懸系
287-16 160	須恵器 坏	覆土内 破片	口 14.5 底 8.5 高 4.25	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転系切り。見込 みが磨滅する。	秋間系
288-1 160	土師器 甕	覆土内 破片	口 (16.3)	白色微粒子 白色鉾物粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。 口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
288-2 160	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.0)	細粒砂 白色鉾物粒子 微粒雲母	酸化焰	黒褐	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。 口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井・藤岡系
288-3 160	土師器 甕	カマド内 破片	口 (22.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。 口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
288-4 160	土師器 鉢	カマド内 破片	口 (24.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉾物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形か。胴部・体部は篋削り整形。口 縁部は横撫で。内面は篋撫で。	藤岡系
288-5 160	須恵器 盤	覆土内 破片	口 (23.0)	黒色鉾物粒子	還元焰	鈍灰	轆轤成形 (左回転)。	吉井系か
288-6 160	須恵器 盤	覆土内 破片	口 21.8 底 (17.0) 高 3.35	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
288-7 160	須恵器 盤	覆土内 破片	底 (17.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
288-8 160	須恵器 (脚付)	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。高台欠損 (付高 台)。	乗附系か 秋間系
288-9 161	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色鉾物粒子	還元焰	黄灰	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・ 端面面取り3回。	吉井系
289-1 161	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉾物粒子 ダイヤサイト	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き整形 (密) 後轆轤再整 形。側部面取り3回。	吉井系
289-2 161	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回・端面面取り2回。	笠懸系
289-3 160	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	鈍褐	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形 後格子叩き整形。側部面取り2回。	笠懸系
289-4 161	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し面縦位の撫で整 形後縄叩き。側部面取り2回。	笠懸系
289-5 161	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉾物粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。 凸面縄叩き (密)。	吉井系か
289-6 161	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縦位の撫 で整形。	笠懸系

B区第152号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
290-1 161	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 型膚を残し、底部は平底で篋削り。	藤岡系

## B区(152・180・160号住居跡)

290-2 161	須恵器 埴	覆土内 底	口 13.7 底 (6.0) 高 (5.0)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
290-3 161	須恵器 埴	覆土内 底	口 13.0 底 6.0 高 4.7	白色鉍物粒子 黒色粒子 微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
290-4 161	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (11.0)	微粒雲母 白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部は縦位の篋削り。	吉井系
290-5 161	須恵器 甕	カマド内 破片	口 (12.4)	微粒雲母 黒色粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	暗黄灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
290-6 161	土師器 坏	覆土内 破片	—	微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作りの平底を呈する坏の底面に墨書する。文字は「大」に類すると思われる。	藤岡系
290-7 161	鉄器 不詳	カマド内 破片	重 5.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。全体の形状は幅に一定さが認められず、全体的に歪んだ形状であるが、錆化に起因するものではない。	—
290-8 161	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子 デイスイト	還元焰	橙	半載作りか。凸面縦位の撫で整形。	吉井系

## B区第180号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
292-1 161	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (6.8)	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。回転篋削り。	吉井系
292-2 161	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凸面轆轤整形。側面取り3回。凸面自然釉付着。	笠懸系
292-3 瓦-616	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.8	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面布目擦り消し。面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦不詳(凹面)。	吉井系
292-4 瓦-617	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「夫」(凹面)。	吉井系
292-5 161	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き。端面取り1回。	中之条系

## B区第180号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
293-1 162	土師器 坏	覆土内 破片	口 (17.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
293-2 162	須恵器 坏蓋	覆土内 底	口 (2.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
293-3 162	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (12.4)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。	秋間系
293-4 161	須恵器 坏	床面直上 一部欠損	口 13.1 底 8.9 高 4.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
293-5 162	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (8.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。回転篋削り。	秋間系
293-6 162	礫器 擦石	覆土内 完存	長 4.6 幅 3.6 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	全体が丸く磨滅する。	重80g
293-7 161	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。内面一部磨滅する。	太田系か

## B区第160号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
294-1 162	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は平底で篋削り。	藤岡系

遺物一覧表

294-2 163	土師器 坏	覆土内 破片	口 (17.2)	微粒雲母 シルト質	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。口縁直下に型膚を残す。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形後放射状暗文を施す。	藤岡系
294-3 162	土師器 坏	カマド内 破片	口 12.2 高 3.5	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
295-1 162	土師器 坏	カマド内 破片	口 13.0 高 3.6	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
295-2 162	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 13.7 高 3.0	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
295-3 162	土師器 坏	覆土内 破片	口 18.2 高 6.0	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
295-4 163	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (16.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。端部は折り返し。天井側が剥落する。被熱による剥れと思われる。	秋間系
295-5 162	須恵器 坏	カマド内 ほぼ完形	口 12.1 底 8.4 高 3.6	白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、回転篋削り後腰・底部は篋削り再整形。	秋間系
295-6 162	須恵器 坏	カマド内 破片	口 12.2 底 8.0 高 3.4	白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、回転篋削りしか。腰・底部は手持篋削り。295図-5と同一技法。	秋間系
295-7 162	須恵器 高台付坏	床直層 破片	口 (15.0) 底 (11.0) 高 3.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
295-8 162	土師器 甕	カマド内 一部欠損	口 23.8 底 5.8 高 32.6	細粒砂 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
295-9 162	土師器 甕	カマド内 破片	口 24.0	細粒砂 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
296-1 163	土師器 甕	カマド内 破片	口 23.7	細粒砂 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
296-2 163	土師器 甕	カマド内 破片	口 23.9	細粒砂 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
296-3 163	火打石	カマド内 完存	長 4.2 幅 1.7 厚 1.6	石英	—	—	礫面の角部を使用部としている。9回の使用(?)から認められる。	重20g
296-4 163	礫器 擦石・敲石	覆土内 完存	長 11.7 幅 5.9 厚 4.4	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められ、平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重420g
296-5 163	礫器 擦石	床直層 完存	長 13.0 幅 5.9 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重340g
296-6 163	礫器 敲石	床直 完存	長 14.2 幅 13.6 厚 3.3	角閃石安山岩	—	—	縁辺の一部に剥離が認められる。	重890g
296-7 163	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子 赤褐色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨痕・布合せ目痕。凸面轆轤整形。	吉井・藤岡系
296-8 163	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。木目叩き整形後縦位の撫で整形。	吉井系

B区第161号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
297-1 163	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (5.5) 高 (3.5)	黒色鉍物粒子 デイスайт	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
297-2 163	須恵器 埴	ピット内 破片	口 12.2	白色微粒子	酸化焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系

## B区(161・162(B)号住居跡)

297-3 163	須恵器 黒色土器 塊	ピット内 1/2	口 (12.6) 底 7.2 高 5.3	微粒雲母 白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
298-1 163	須恵器 塊	ピット内 完形	口 13.5 底 9.0 高 5.4	白色微粒子	中性焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
298-2 163	須恵器 塊	ピット内 1/2	口 (14.2) 底 8.0 高 6.3	白色粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
298-3 163	須恵器 羽 釜	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井型羽 釜
298-4 163	施釉陶器 塊	覆土内 破片	口 (15.0)	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛け。	—
298-5 163	瓦 女 瓦	ピット内 破片	厚 1.8	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	藤岡系
299-1 163	瓦 男 瓦	床直 破片	厚 2.5	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍黄橙	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 2回・端部面取り1回。	笠懸系
299-2 163	瓦 女 瓦	ピット内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面横位の撫で整形。側部面取り 2回・端部面取り1回。	吉井・藤 岡系

## B区第162(B)号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
301-1 164	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.2) 底 (6.0) 高 (3.6)	白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系か 藤岡系
301-2 164	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.4) 底 (4.6) 高 (4.5)	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	灰釉 不詳
301-3 164	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (13.4)	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	吉井系
301-4 164	須恵器 坏	掘り方内 破片	口 (13.6)	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。	吉井系
301-5 164	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (13.6) 底 (5.7) 高 (3.8)	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	浅黄橙 灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
301-6 164	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (6.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
301-7 164	須恵器 羽 釜	覆土内 破片	口 (19.2)	白色鉍物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲貳 種呂類
302-1 164	須恵器 羽 釜	覆土内 破片	口 (24.0)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罫は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲壹 種呂類
302-2 瓦-618 164	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。端部面取 り1回・端部面取り2回。篋描き文字瓦「十」 (凸面)。	吉井系
302-3 164	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り4回。 凹面粘土板剥ぎ取り痕。	秋間系
302-4 164	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・ 端部面取り2回。凹面布合せ目痕・粘土板剥 ぎ取り痕。	秋間系
302-5 164	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 0.8	白色鉍物粒子	還元焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の篋削り整形。端部面取 り2回。	吉井系
302-6 164	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子 白色微粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造り。凹面布目擦り消し・布合せ目痕。 凸面轆轤整形。	吉井系
302-7 164	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	浅黄橙	一枚作り。凸面T字状縄叩き(密)。側部面取 り2回・端部面取り2回。	秋間系

遺物一覧表

302-8 164	鉄器 不詳	覆土内 破片	厚 0.15 重 6.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。中央部に孔を有している。孔は、片側より釘等により打ち抜かれた状態となっている。	—
302-9 164	鉄器 釘	覆土内 両端欠損	重 0.7	—	—	—	全体に錆化が及ぶが遺存状態は良好である。釘としては最も短かい一群と考えられる。断面正方形形状を呈する。	—
302-10 164	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.5 重 1.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。小破片であるため器種の特定は不可能であるが、地鉄も良好なため、釘とは思われない。	—
302-11 164	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.3 重 0.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。両端は調査後の欠損。	—

B区第162号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
303-1 164	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
303-2 164	土師器 坏	覆土内 破片	口 13.4	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は内湾する。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
303-3 164	土師器 坏	覆土内 破片	口 15.8	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に軽い稜を有する。口縁部に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
304-1 164	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
304-2 165	土師器 坏	覆土内 1/2	口 (17.0) 高 4.9	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に軽い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
304-3 164	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (14.2)	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。口唇部に自然釉付着。	乗附系
304-4 165	須恵器 坏蓋	カマド内 1/2	口 (14.7) 高 4.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	端部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	吉井・藤岡系
304-5 165	須恵器 坏	カマド内 1/2	口 (15.0) 底 (7.2) 高 (3.7)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
304-6 165	土師器 甕	床直層 破片	底 5.6	細粒砂 白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形後、篋撫で整形。	藤岡系

B区第163号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
306-1 165	須恵器 黒色土器 埴	覆土内 1/2	底 7.0	白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	断・灰 外・黒	轆轤成形 (右回転)。高台は付高台。	吉井・藤岡系
306-2 165	須恵器 壺	カマド内 破片	口 (13.2)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。	吉井系
306-3 165	須恵器 瓶	覆土内 破片	底 (17.0)	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形 (右回転)。胴部下半・底部は篋削り。	吉井系
306-4 165	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (21.0)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	口縁部は直立気味。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壹 種呂類
306-5 165	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (21.0)	白色鉍物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は直立気味。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲貳 種呂類
306-6 165	須恵器 羽釜	カマド内 破片	底 (8.2)	黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	中性焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形 (右回転)。外面篋削りを施す。	吉井系 吉井型羽釜

306-7 165	礫器 擦石	覆土内 瓦	長 幅 厚	7.7 6.5 2.0	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重160g
306-8 165	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	2.0	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り1回・端部面取り1回。	乗附系か
306-9 165	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰黄褐	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
307-1 165	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚	2.9	白色鉍物粒子	還元焰	黄灰	半載作り。凸面平行叩き。側部面取り3回。	吉井系
307-2 165	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚	1.1	白色鉍物粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰黄	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り3回。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
307-3 165	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚	2.1	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井系

## B区第164号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
308-1 166	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.65)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は直立する。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
308-2 166	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
308-3 166	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
308-4 166	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
308-5 166	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.7)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
308-6 166	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.1)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
308-7 166	土師器 坏	覆土内 破片	口 13.5	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
309-1 166	土師器 坏	覆土内 瓦	口 14.2 高 3.6	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
309-2 166	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
309-3 166	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。口縁部に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
309-4 166	土師器 坏	床直層 瓦	口 11.9 高 3.6	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
309-5 166	土師器 坏	床直層 一部欠損	口 12.8 高 4.3	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
309-6 166	土師器 坏	床直 ほぼ完形	口 13.0 高 3.8	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
309-7 166	土師器 坏	床直層 一部欠損	口 13.1 高 4.8	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系



遺物一覧表

309-8 166	土師器 坏	床直 %	口 14.0 高 4.55	白色微粒子 微粒雲母 黒色鈦物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
309-9 166	土師器 坏	覆土内 %	口 (11.0) 底 (8.4) 高 (3.4)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。器内面に二重暗文を施す。体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
309-10 166	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	底 (10.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。回転篋削り後削出し高台。	秋間系
309-11 166	土師器 甕	カマド内 底部破片	底 4.6	白色微粒子 微粒雲母 黒色鈦物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形後篋削り整形。	藤岡系
309-12 166	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰色	紐作り。叩き整形(外面叩き不詳・内面宛具は青海波文)後撫整形。	乗附系
309-13 166	礫器 擦石	覆土内 完形	長 11.6 幅 9.0 厚 3.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重580g
309-14 166	礫器	床直 完形	長 18.5 幅 6.8 厚 5.7	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	—
309-15 166	瓦製円盤	覆土内 完存	長 6.5 幅 5.8 厚 2.2	白色鈦物粒子 細粒砂	酸化焰	黄橙	女瓦片を転用する。	吉井系
310-1 166	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 0.9	白色粒子	中性焰	灰黄	一枚作りか。凸面木目叩き。側部面取り1回。	吉井・藤岡系
310-2 166	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍褐	一枚作りか。凸面平行叩き。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
310-3 166	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子 細粒砂	中性焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤整形。端部面取り2回。	吉井系

B区第166号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
311-1 166	土師器 甕	覆土内 %	最径(33.8)	白色鈦物粒子 黒色鈦物粒子 粗粒砂	酸化焰	橙褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
312-1 166	土師器 坏	覆土内 %	口 (20.0)	黒色鈦物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。体部は篋削り。口縁部に型膚を残す。	藤岡系
312-2 166	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	白色粒子 白色鈦物粒子	還元焰	黒灰	口縁部は外反し、8本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部外面に自然粘附着。	乗附系
312-3 166	須恵器 小型甕	覆土内 破片	口 (14.0)	白色鈦物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部に自然粘附着。	秋間系

B区第167号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
313-1 167	土師器 坏	覆土内 破片	口 (19.8)	黒色鈦物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
313-2 167	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.1	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	灰黄	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
313-3 167	礫器 擦石	覆土内 完存	長 8.0 幅 4.7 厚 1.3	砂岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重82.0g
314-1 167	土師器 甕	カマド内 %	底 5.5	黒色鈦物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系

314-2 167	礫 擦 石	器 種	覆土内 完存	長 幅 厚	15.3 5.6 4.8	溶結凝灰岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重760g
314-3 167	礫 擦 石	器 種	覆土内 完存	長 幅 厚	9.9 5.9 2.8	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重271g
314-4 167	礫 擦 石	器 種	覆土内 完存	長 幅 厚	12.6 7.1 5.2	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重610g
314-5 167	瓦 男 瓦	器 種	覆土内 破片	厚	1.6	白色鉍物粒子	還元焰	灰黄	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。	吉井系
314-6 167	瓦 男 瓦	器 種	覆土内 細片	厚	1.3	白色微粒子	中性焰	鈍黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。	笠懸系

## B区第168号住居跡

挿図番号 図版番号	種 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器形・技法等の特徴	備 考
315-1 167	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	黑色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
315-2 167	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	黑色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
315-3 167	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 微粒雲母 黑色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
315-4 167	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	黑色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
315-5 167	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (14.4)	白色微粒子 微粒雲母 黑色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
315-6 167	土 師 器 坏	カマド内 破片	口 (15.0)	黑色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
315-7 167	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (18.0)	黑色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
315-8 167	土 師 器 坏	カマド内 破片	口 (18.6)	シルト 密	酸化焰	橙	型作り成形。底部は平底。口縁部は段を有し、横撫で後研磨を施す。体部は篋削り後研磨を施す。	畿内産
315-9 167	土 師 器 坏	床直層 %	口 16.7 高 4.2	黑色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は内湾気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
315-10 167	土 師 器 皿	カマド内 一部欠損	口 16.6 底 14.4 高 3.4	黑色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。口縁直下に型膚を残す。底部は平底気味篋削り。	藤岡系
315-11 167	土 師 器 坏	床直層 一部欠損	口 15.4 高 4.5	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。器内面に研磨の痕跡が認められるが、風化により判読不能。	藤岡系
315-12 167	須 恵 器 坏	器 蓋 %	口 (16.6)	黑色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り後轆轤再整形。	秋間系
316-1 167	須 恵 器 坏	床直層 ほぼ完形	口 16.3 底 11.4 高 3.9	白色粒子 白色微粒子 黑色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。削り出し高台。	秋間系
316-2 167	須 恵 器 坏	床直層 ほぼ完形	口 16.6 底 9.5 高 4.5	黑色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。削り出し高台。	秋間系
316-3 167	土 師 器 甕	カマド内 破片	口 (20.2)	細粒砂 黑色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系

遺物一覧表

316-4 168	土師器 甕	カマド内 1/4	口 (22.4)	細粒砂・ 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
316-5 168	土師器 甕	カマド内 1/4	口 (24.0)	細粒砂 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
316-6 167	土師器 甕	床直 破片	口 (26.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
316-7 167	須恵器 フラスコ形 提瓶	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛。	東海系
316-8 168	礫器 擦石	床直 完存	長 13.8 幅 6.4 厚 4.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重760g
317-1 168	礫器	床直 完存	長 14.9 幅 4.6 厚 4.0	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重670g
317-2 168	礫器 擦石	覆土内 完存	長 15.3 幅 13.1 厚 4.2	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重1340g
317-3 168	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.4 重 5.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。「S」字状に屈曲する。	—
317-4 168	鉄器 不詳	覆土内 破片	厚 0.05 重 0.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが遺存状態は良好である。器厚は非常に薄い。座金物等が考えられる。	—

B区第169号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
318-1 168	土師器 坏	カマド内 1/4	口 (11.9)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	純橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
318-2 168	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍褐	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
318-3 168	土師器 坏	カマド内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
318-4 168	須恵器 坏	覆土内 1/4	底 6.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転系切り。	搬入品か 乗附系
318-5 168	施釉陶器 灰釉	覆土内 破片	底 (8.0)	密	良好	灰黄	轆轤成形 (右回転)、底部は回転系切り。	—
318-6 168	土師器 甕	カマド内 破片	口 (24.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
318-7 168	礫器 擦石	覆土内 1/4	幅 6.6 厚 4.3 長 (9.5)	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重520g

B区第170号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
320-1 168	須恵器 坏蓋	カマド内 完存	口 10.5 高 2.6	白色微粒子	還元焰	灰	端部は返りを有する。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
320-2 168	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
320-3 168	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
320-4 168	土師器 甕	覆土内 破片	口 (14.0)	黒色鉱物粒子 白色粒子 細粒砂	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系

## B区(169・170・171・173・174号住居跡)

320-5 168	土師器 甕	覆土内 破片	頸部(13.0)	黒色鈹物粒子 白色微粒子 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り成形。 外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴 部は篋撫で。	藤岡系
320-6 168	土師器 甕	覆土内 破片	底 7.6	細粒砂 黒色鈹物粒子 透明鈹物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り成形後篋削り整形。	吉井・藤 岡系
320-7 168	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰黄	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)後轆轤再整形。	秋間系
320-8 168	須恵器 大甕	カマド内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩きの擬似格子 状・内面宛具は青海波文)。	乗附系
320-9 168	礫 器 擦石	覆土内 完存	長 6.4 幅 5.0 厚 2.2	黒色頁岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重100g

## B区第171号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
321-1 169	土師器 坏	覆土内 破片	口(10.5)	黒色鈹物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は直立する。口縁直下 に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
321-2 169	土師器 甕	覆土内 破片	口(15.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁に類似する。紐作り乃至型 作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫 で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
322-1 169	礫 器 擦石	床直 完存	長 13.4 幅 6.6 厚 3.8	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重560g

## B区第173号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
324-1 169	土師器 坏	カマド内 %	口 11.2 高 3.2	黒色鈹物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。外面口縁直 下に強い稜を有する。器内面に指頭痕を残す。 底部は篋削り。	藤岡系
324-2 169	土師器 坏	覆土内 破片	口(9.4)	黒色鈹物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部外傾気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
324-3 169	須恵器 坏	覆土内 破片	底(7.4)	白色鈹物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
324-4 169	土師器 甕	カマド周 辺破片	口(20.7)	細粒砂 黒色鈹物粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。口縁部は外反する。外面胴部は篋削 り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
324-5 169	須恵器 甕	床直層 破片	厚 0.9	白色鈹物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	乗附系

## B区第174号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目(cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
325-1 169	須恵器 坏	カマド内 破片	口(11.8)	黒色鈹物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。	不詳
325-2 169	施釉陶器 灰釉塊	カマド内 破片	口(13.0)	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛か。	—
325-3 169	瓦 男瓦	カマド右 袖破片	厚 1.8	白色鈹物粒子 白色粒子	中性焰	鈍黄橙	紐作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り1 回・端面取り1回。	吉井系
326-1 169	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縦位の削 り後縄叩き整形。端面取り3回。	笠懸系
326-2 169	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色鈹物粒子	酸化焰	鈍黄橙	桶巻き造りか。凹面布目擦り消し。凸面轆 轤整形。	吉井系

## 遺物一覧表

## B区第175号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
328-1 169	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (7.8) 底 (4.0) 高 (2.4)	黒色鉾物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
328-2 169	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (12.8)	黒色鉾物粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
328-3 169	須恵器 坏	覆土内 破片	底 6.3	白色粒子 黒色鉾物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
328-4 169	施釉陶器 灰釉小瓶	床直 破片	口 (4.8)	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	—
328-5 170	土師器 甕	覆土内 破片	口 (21.5)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉾物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。口縁部は外傾する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
328-6 169	土師器 甕	覆土内 破片	口 (26.0)	微粒雲母 白色微粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は強く外反し口唇部は直立する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
328-7 169	石製品 基石か	覆土内 完存	長 1.7 幅 1.8 厚 0.8	チャート	—	—	全体面滑らかである。	—
328-8 169	石製品 基石か	覆土内 完存	長 2.2 幅 1.9 厚 0.8	チャート	—	—	328-7と同じ。	—
328-9 169	石製品 基石か	覆土内 完存	長 2.1 幅 2.1 厚 0.8	チャート	—	—	328-7と同じ。	—
328-10 169	鉄器 不詳	覆土内 破片か	重 30.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。この錆身の為形状にやや疑問がある。全体は三叉状を呈する。	—
328-11 169	礫器 敲石	覆土内 完存	長 9.9 幅 5.4 厚 3.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅し、側面・小口側に敲打痕が認められる。	重270g
328-12 169	礫器 擦石	覆土内 完存	長 11.4 幅 5.2 厚 3.4	砂岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重380g
328-13 169	礫器 敲石	覆土内 完存	長 12.6 幅 5.0 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重440g
328-14 169	礫器	床直 完存	長 17.3 幅 10.0 厚 3.6	ひん岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重 1,130g
328-15 瓦-653	瓦 鏡瓦	カマド内 瓦	—	白色鉾物粒子	還元焰	灰	単弁8葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区及び周縁は素文。	吉井系
328-16 170	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.0	白色粒子	中性焰	暗灰黄	半截作り。凸面轆轤整形。側面取り1回・端面取り1回。	笠懸系
328-17 170	瓦 男瓦	床直 破片	厚 1.6	白色鉾物粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	半截作り。凸面縄叩き整形 (密) 後轆轤再整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り3回。	吉井系
329-1 170	瓦 玉縁付 男瓦	床直 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。玉縁接合はA類。側面取り2回。	笠懸系
329-2 170	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。面縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り3回・端面取り1回。	吉井系
329-3 170	瓦 女瓦	傍竈内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	外・黒 断・灰 黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
329-4 170	瓦 女瓦	カマド内 細片	厚 2.2	白色鉾物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凸面縄叩き整形 (密) 後縦位の撫で再整形。	北毛系
329-5 170	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.1	白色鉾物粒子 デイサイト	酸化焰	鈍褐	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き (密) 整形後轆轤撫での再整形。側面取り3回・端面取り1回。	吉井系

## B区第181号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
330-1 170	土師器 坏	カマド内 %	口 (13.4) 高 3.45	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
330-2 170	土師器 小形甕	カマド内 %	口 13.8	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍赤褐	紐作り。口縁部は外傾する。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系

## B区第183号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
331-1 170	須恵器 皿	カマド内 完形	口 8.4 底 4.6 高 1.9	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
331-2 170	土師器 土釜	覆土内 %	口 (20.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は斜位の篋撫で。口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系か
331-3 171	土師器 土釜	カマド内 %	口 24.0 底 (9.8) 高 (30.8)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	暗赤橙 黄橙	紐作り後撫で整形。	吉井・藤岡系
331-4 170	礫器	床直層 完存	長 9.3 幅 9.0 厚 4.0	閃緑岩	—	—	特徴的な使用痕は認められない。	重500g
331-5 171	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縄叩き (密)・離砂痕。側部噴出し段有り。	秋間系
331-6 170	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	秋間系

## B区第184号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
332-1 171	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	摘 (3.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。天上部は手持ち篋削り。	秋間系
332-2 171	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	摘 (4.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤整形 (右回転)。天上部は手持ち篋削り。	秋間系
332-3 171	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (18.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
332-4 171	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (18.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
332-5 171	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系
332-6 171	須恵器 坏	覆土内 %	口 (12.2) 底 (7.0) 高 (4.1)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
332-7 171	須恵器 坏	覆土内 %	口 (13.0) 底 (7.8) 高 (3.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	乗附系
333-1 171	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
333-2 171	須恵器 坏	覆土内 %	口 13.9 底 8.2 高 4.1	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	笠懸系
333-3 171	須恵器 坏	覆土内 %	口 (14.0) 底 (8.0) 高 (4.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
333-4 171	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 (15.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。	秋間系



遺物一覧表

333-5 171	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り。「コ」の字状口縁。外面胴部は篋削り。 口縁部は横撫で。内面胴部は篋撫で。	藤岡系
333-6 171	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.2	黒色粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面自然袖付着。	東海系
333-7 171	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
333-8 171	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
333-9 171	須恵器 大甕	床直層 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	吉井・藤 岡系
333-10 171	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 2.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正形状を呈し、 上端側に沓巻が認められる。鉄等の茎か。	—
333-11 171	鉄器 刀子か	貯蔵穴内 茎部か	重 7.1	—	—	—	全体的錆化による破損が著しい。中央部に鍛 え目の部分からの割が顕著である。	—
333-12 171	鉄器 釘か	貯蔵穴内 両端欠損 破片	重 18.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。しかし、旧状は良 好に留めている。断面正形状を呈する。鉄 質は良好である。	—
333-13 171	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 5.1	—	—	—	全体に錆化が著しい。薄い板状のものが落し 潰された状態である。	—
333-14 171	鉄器 不詳	貯蔵穴内 破片	重 18.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。遺存状態から製品とは 思い難い。	—
333-15 172	礫 敲石	覆土内 完存	長 10.4 幅 8.0 厚 4.9	角閃石安山岩	—	—	側部・小口側に敲打痕が認められる。	重430g
334-1 172	羽口	床直層 片	厚 5.9	白色粒子	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
334-2 172	羽口	ピット内 破片	厚 2.4	白色粒子 細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
334-3 172	羽口	貯蔵穴内 破片	厚 6.5	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、スラ グ等は認められない。	—
334-4 172	羽口	ピット内 破片	厚 2.2	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片 の為、スラグ等は認められない。	—
334-5 172	羽口	ピット内 破片	厚 2.2	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片 の為、スラグ等は認められない。	—
334-6 瓦-654	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。一本 作り。	笠懸系
334-7 172	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整 形。側部面取り2回。	吉井・藤 岡系
334-8 172	瓦 男瓦	床直層 片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 1回・端部面取り3回。	笠懸系
334-9 172	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	半截作り。面縦位の篋撫で整形。側部面取り 2回。	笠懸系
335-1 172	瓦 男瓦	床直層 片	厚 2.0	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。 凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り 2回。	吉井系
335-2 172	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩 き後縄叩き。端部面取り1回。	笠懸系
335-3 172	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。 側部面取り2回。	乗附系か 笠懸系
335-4 172	瓦 女瓦	ピット内 破片	厚 1.9	白色粒子 細粒砂	中性焰	黄灰	桶巻き造り。凹面布目擦り消し。凸面轆轤整 形後縄叩き。端部面取り1回。	不詳
335-5 172	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縄叩き(密)後轆轤整形。 更に再縄叩き(密)。	吉井・藤 岡系
335-6 172	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き (密)。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
335-7 172	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り。凹面模骨痕・粘土板合せ目。凸 面縄叩き。端部面取り2回・側部面取り2回。	不詳

## B区第185号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
336-1 172	須恵器 蓋	ピット内 破片	口 (10.0)	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
336-2 173	須恵器 坏	覆土内 破片	口 12.0 底 6.2 高 3.4	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
336-3 173	須恵器 坏	床直層 破片	口 14.5 底 8.4 高 4.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転起し。	秋間系
336-4 173	石造品 不詳	覆土内 破片	長 23.8 幅 27.0 厚 15.5	角閃石安山岩	—	—	国分寺堂宇等に用いた基壇化粧の束石等と考えられる。	重 9,300g
336-5 173	瓦 女瓦	ピット内 破片	厚 1.7	白色粒子 細粒砂	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。側部面取り2回。	笠懸系

## A区第21号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
337-1 174	須恵器 埴	覆土内 破片	口 12.2 底 6.3 高 4.0	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	灰黄褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
337-2 174	須恵器 埴	カマド内 破片	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (5.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
337-3 174	須恵器 埴	カマド内 破片	口 13.4 底 6.8 高 4.9	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
337-4 174	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (7.4) 高 (5.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	暗灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
338-1 174	須恵器 埴	カマド内 破片	口 15.4 底 6.5 高 6.0	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子	還元焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内面器面の風化が著しい。	月夜野系
338-2	土師器 甕	カマド内 破片	口 (10.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	褐	型作り成形。器外面は篋削りを施す。	藤岡系
338-3	須恵器 長頸壺	覆土内 破片	口 (15.8)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
338-4 174	土師器 甕	カマド内 破片	口 (17.7)	黒色鉍物粒子 微粒雲母 白色微粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙 黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。外面胴部に粘土紐の痕跡が認められる。	藤岡系
338-5	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (19.0)	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け、胴部下半は篋削り。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
338-6	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (22.3)	白色粒子 微粒雲母	還元焰	鈍橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種伊類
338-7	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (20.4)	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種伊類
338-8 174	須恵器 甕	覆土内 破片	底 (17.8)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤岡系
339-1 瓦-674 174	瓦 宇瓦	破片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	橙褐	右扁行唐草文。外区に珠点を配する。女瓦部は一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り1回。	笠懸系
339-2 瓦-619	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 2.2	白色粒子	還元焰	赤灰	半截作りか。篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
339-3 174	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	橙褐	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り3回。	吉井系

遺物一覧表

339-4 瓦-620 174	瓦 女 瓦	カマド内 %	厚 2.1	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り4回。篋描き文字瓦「山物一ア★★」(凸面)。	吉井系
339-5 174	瓦 女 瓦	覆土内 %	厚 1.6	黒色粒子 赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形後撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系
339-6 174	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。両面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井系
340-1 174	瓦 女 瓦	貯蔵穴内 %	厚 1.8	白色鉍物粒子 白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井系

A区第22号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
341-1 175	土 師 器 坏	ピット内 %	口 6.0 高 3.3	白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
341-2 175	土 師 器 坏	覆土内 %	口 (16.0)	白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
341-3 175	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (16.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
341-4 175	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (18.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
341-5 175	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (16.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
342-1 175	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (22.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
342-2 175	土 師 器 甕	床直 破片	口 (22.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
342-3 175	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (23.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
342-4 175	須 恵 器 甕	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
342-5 175	須 恵 器 甕	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は平行文)。	秋間系
342-6 175	施釉陶器 緑 釉 不 詳	覆土内 破片	口 (12.4)	軟質	良好	乳白 釉調は 緑	轆轤成形(右回転か)。釉の面に小貫入が多い。	近江 美濃
343-1 175	瓦 玉 緑 付 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。玉縁接合はA類。	笠懸系
343-2 175	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
343-3 175	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面縦位の篋撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
343-4 175	瓦 鏡 瓦 か	覆土内 細片	厚 2.2	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面横位の強い撫で整形が見られる。	吉井系
343-5 175	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰 焼締	灰黄	桶巻き造り。凹面模骨痕縄状の圧痕。凸面縄叩き(密)・自然釉付着。端部面取り1回。	乗附系
343-6 175	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き(密)。端部面取り2回。	秋間系
343-7 175	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	褐灰	一枚作りか。凸面斜位の撫で整形。端部面取り1回。	吉井・藤 岡系

## A区(22・23・24・26号住居跡)

343-8 175	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕凸面縄叩き(密)。端部面取り1回。	秋間系
343-9 175	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。	吉井系

## A区第23号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
344-1 175	須恵器 坏	覆土内 1/2	口 13.0 底 7.0 高 3.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
344-2 175	須恵器 埴	覆土内 1/2	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
344-3 175	須恵器 坏(埴)	覆土内 1/2	底 (5.0)	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高台欠損後坏に転用。	藤岡系
344-4 175	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (23.0)	白色粒子 白色鉍物粒子	中性焰	灰黄	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜
344-5 175	施釉陶器 灰釉輪花 文埴	覆土内 破片	口 (15.0)	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。輪花部は内面側に摘まんでいる。	—
344-6 175	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 1/2	口 (17.0) 底 (8.0) 高 (5.0)	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	—

## A区第24号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
347-1 176	土師器 坏	覆土内 1/2	口 (13.0) 高 4.0	白色微粒子 微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
347-2 176	土師器 坏	カマド内 破片	口 (10.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
347-3 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.1)	白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
347-4 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	褐	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
347-5 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
347-6 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
347-7 176	土師器 坏	覆土内 1/2	口 (18.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系

## A区第26号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
349-1 176	土師器 黒色土器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
349-2 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄褐 内・黒褐	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立し強い稜を有する。稜の直下に型膚を有する。底部は篋削り。	不詳 足利系か

## 遺物一覧表

## A区第118号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
351-1 176	土師器 短頸壺	床直 完形	口 11.1 高 8.0	白色微粒子 黒色鈹物粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	体部下半は型作り成形。上半・口縁部は紐作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立気味。底部・体部は篋削り。	藤岡系
351-2 176	土師器 坏	覆土内 片	口 (12.2) 高 (5.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り。口縁部は内湾する。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
351-3 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (17.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内傾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
351-4 176	須恵器 坏	覆土内 片	底 (7.2)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
351-5 176	石製品 紡錘車	床直層 片	上径 4.4 下径(1.7) 厚 1.7	滑石	—	—	比較的整形は丁寧であるが、全体形状が不均整な部分がある。	孔径0.5
351-6 176	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	半截作りか。釘穴を有する。	笠懸系
351-7 176	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色微粒子 透明鈹物粒子	還元焰 焼締	灰黄褐	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り1回。	笠懸系
351-8 176	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.2	白色鈹物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	半截作りか。	吉井・藤岡系
351-9 176	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不定方向の撫で整形。側部面取り1回・端部面取り1回。	乗附系

## A区第119号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
353-1 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
353-2 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
353-3 176	須恵器 坏	覆土内 破片	底 (6.4)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は手持ち篋削り。	秋間系
353-4 176	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 細粒砂	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系か
353-5 176	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
353-6 176	須恵器 脚付盤 脚部	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系

## A区第155号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
355-1 176	須恵器 境	覆土内 破片	口 (15.0)	白色微粒子 微粒雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
355-2 176	須恵器 内黒土器 坏	覆土内 底部片	底 5.4	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。内器に研磨は認められないが黒く焦している。	藤岡系
355-3 177	土師器 甕	覆土内 破片	口 (16.1)	赤褐色粒子 白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系か
355-4 177	土師器 甕	カマド内 片	口 (20.0)	黒色鈹物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は短く外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
355-5 176	石製品 砥石	覆土内 片	幅 4.6 厚 1.5 重 150	砥沢石	—	—	使用痕の状態から元来置砥であったものが手持砥に転用されている。	—
355-6 176	鉄器 鎌	覆土内 破片	重ね 0.07 重 11.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。地鉄は洋鉄と考えられる。	近代以降

355-7 瓦-621 176	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍褐	一枚作り。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。篋描き文字瓦「木」(凸面)。	吉井系
355-8 瓦-622	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面不定方向の撫で整形。篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
355-9 176	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。	笠懸系

## A区第156号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
356-1 177	須恵器 坏	カマド内 %	口 13.0 底 6.5 高 4.1	白色微粒子 デイスait	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
356-2 177	須恵器 埴	カマド内 %	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高台欠損後坏に転用する。	藤岡系
356-3 177	土師器 小型甕	カマド内 %	口 (12.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙褐	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
357-1 177	土師器 甕	カマド内 破片	口 (20.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
357-2 177	土師器 甕	カマド内 破片	口 (21.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	褐灰	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で。	藤岡系
357-3 177	土師器 甕	覆土内 破片	底 (10.8)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	赤橙	型作り成形。胴部・底部は篋削り。	藤岡系
357-4 177	須恵器 壺	床直 破片	最径(25.3)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤岡系
357-5 177	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚1.0	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面叩きは不詳・内面宛具は素文)。	乗附系
357-6 瓦-623	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.5	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	一枚作りか。篋描き文字瓦「不詳」(凹面)。	吉井系
357-7 177	瓦 玉縁付 男瓦	覆土内 %	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰黄	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回。	笠懸系
358-1 178	瓦 男瓦	カマド内 %	厚 1.3	白色鉍物粒子 デイスait	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り3回。	吉井系
358-2 177	瓦 男瓦	カマド内 %	厚 1.3	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
358-3 178	瓦 女瓦	カマド内 %	厚 2.2	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	褐灰	一枚作り。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	吉井・藤岡系
359-1 178	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	秋間系
359-2 178	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.5	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫で再整形。	吉井・藤岡系

## A区第157号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
360-1 178	須恵器 埴	カマド内 ほぼ完形	口 11.8 底 5.0 高 5.5	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	褐灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
360-2 178	須恵器 埴	覆土内 完形	口 12.0 底 7.0 高 5.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。内面有機質付着。	秋間系
360-3 178	須恵器 埴	カマド内 %	底 6.6	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
360-4 178	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (6.0)	白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
361-1 178	須恵器 埴	貯蔵穴内 破片	口 (14.0)	白色微粒子	不詳 二次焼 成	橙	轆轤成形(右回転)。	搬入品か



遺物一覧表

361-2 178	須恵器 甕	カマド周 辺 破片	厚 0.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	秋間系
361-3 178	施釉陶器 灰釉皿	床直 1/2	口 12.7 底 6.4 高 2.7	密	良好	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。施釉は浸掛。	—
361-4 178	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	口 (12.7)	密	良好	白	轆轤成形（右回転）。施釉は刷毛塗りか。	—
361-5 178	施釉陶器 灰釉埴	床直 1/2	口 15.0 底 7.7 高 5.0	密	良好	白灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛。	—
361-6 178	施釉陶器 灰釉埴	カマド内 破片	口 (15.0)	密	良好	白灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛。	—
361-7 178	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	口 (15.0)	密	良好	灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛か。	—
361-8 178	施釉陶器 灰釉埴	カマド内 1/2	口 16.0 高 4.2	密	良好	灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛。	—
361-9 178	施釉陶器 灰釉埴	カマド内 1/2	口 (16.6)	密	良好	灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛。	—
361-10 178	施釉陶器 灰釉埴	床直 1/2	口 (16.2) 底 (9.5)	密	良好	灰	轆轤成形（右回転）。施釉は浸掛。	—
361-11 178	鉄器 不詳	床直 1/2	厚 0.2 重 23.4	—	—	—	全体に錆化が著しく調査後の欠損により詳細不明である。鎌に類する製品か。	—
361-12 178	礫器 擦石	床直 ほぼ完形	長 10.2 厚 3.9	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重670g
361-13 178	礫器	床直 完形	長 8.2 幅 7.5 厚 3.9	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重370g
362-1 178	礫器 台石	床直 完存	長 12.2 幅 11.9 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	礫面平坦面に浅く窪んだ打痕が認められる。	重 1,030g

A区第158号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
363-1 178	土師器 坏	覆土内 1/2	口 (12.8)	微粒雲母 黒色粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
363-2 179	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
363-3 178	土師器 坏	覆土内 1/2	口 13.6	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部外傾し口唇部は強く外傾する。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
363-4 179	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
363-5 179	須恵器 坏	覆土内 1/2	底 (5.4)	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	乗附系
364-1 179	土師器 甕	カマド内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
364-2 179	土師器 甕	覆土内 破片	底 (6.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。内面は篋撫で、外面は篋削りを施す。	藤岡系
364-3 179	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.1	微粒砂 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）後内面は撫で整形。	藤岡系
365-1 179	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系

A区第159号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
366-1 179	須恵器 埴	覆土内 1/2	口 (14.8) 底 5.8 高 (4.7)	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	鈍橙	轆轤成形（右回転）。付高台。	藤岡系

## A区(158・159・160・161号住居跡)

366-2 179	須恵器 壺	覆土内 破片	底 (7.0)	黒色粒子	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
366-3 179	土師器 甕	カマド内 破片	口 (17.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
366-4 179	鉄器 釘頭	カマド内 破片	幅 0.35 重 1.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。「L」の字状に折れ曲 がっている。断面正方形を呈する。	—
367-1 瓦-624	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字 瓦文字「不詳」(凹面)。	吉井系
367-2 179	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系

## A区第160号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
369-1 179	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (14.2) 底 (7.0) 高 (5.3)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
369-2 179	須恵器 壺	覆土内 破片	底 (7.6)	細粒砂	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
369-3 180	須恵器 甕	カマド内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
369-4 179	礫器 敲石	掘り方内 完存	長 12.6 幅 7.6 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重580g
369-5 179	施釉陶器 灰釉瓶	床直層 ㄨ	底 (9.5)	密 硬質	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。施釉は浸掛。	—
369-6 180	瓦 女瓦	カマド内 ㄨ	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	桶巻造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。 凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。 側面取り3回・端面取り2回。	不詳

## A区第161号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
371-1 180	土師器 坏	覆土内 ㄨ	口 (13.6)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
371-2 180	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
371-3 180	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。器内外 面が燻れている。	藤岡系
371-4 180	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.6)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 細粒砂	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤 岡系
371-5 180	須恵器 坏	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	暗灰	強い外稜を有する。	東海系か
371-6 180	土師器 甕	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍褐	口縁部は直立する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
371-7 180	土師器 小型鉢か	覆土内 ㄨ	口 (11.0)	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
371-8 180	須恵器 高坏	覆土内 ㄨ	底 (11.2)	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。二段の透しを3 単位に施す。	乗附系
371-9 180	礫器 敲石	覆土内 ほぼ完存	長 9.9 幅 8.2 厚 4.0	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重510g
371-10 180	礫器 敲石	覆土内 一部欠損	長 (10.9) 幅 8.2 厚 2.6	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重350g
371-11 180	礫器 擦石	覆土内 完存	長 11.7 幅 7.4 厚 3.4	石英閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重540g

遺物一覧表

371-12 180	礫器 敲石	覆土内 ほぼ完存	長 13.0 幅 6.3 厚 4.9	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重600g
371-13 瓦-625	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き。側面取り2回・端 部面取り2回。篋描き文字瓦「二」か(凹面)。	笠懸系

A区第162号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
373-1 181	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.2)	白色微粒子 黒色鈹物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
373-2 181	土師器 坏	覆土内 破片	口 (16.0) 高 (5.8)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
373-3 181	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.6)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り成形。 外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴 部は篋撫で。	藤岡系
373-4 181	土師器 甕	覆土内 破片	口 (18.8)	黒色鈹物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 刷毛撫で。口縁部は横撫で、内面胴部は刷毛 撫で。	搬入品
373-5 181	土師器 甕	覆土内 破片	厚 0.7	白色粒子	酸化焰	橙	紐作り後刷毛目を施す。外面は縦位、内面は 横位に施す。	搬入品。 373-4 と同一個 体
373-6 181	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.7	黒色粒子	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。下半部は回転篋 削り。	不詳
373-7 181	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)後内面は撫で整形。	乗附系
373-8 181	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
373-9 181	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
373-10 181	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰 焼締	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	乗附系か 東海系
373-11 181	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
374-1 180	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
374-2 180	礫器 擦石	床面直上 完存	長 14.1 幅 5.8 厚 3.5	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重540g
374-3 180	礫器 敲石	床直 完形	長 14.6 幅 9.5 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重790g
374-4 180	鉄器 釘	カマド内 完存	径 0.27 重 9.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。地錆は洋鉄と考えられ、 断面も円形と考えられる。丸釘3寸5分と思 われる。	—

A区第164号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
375-1 181	土師器 埴	覆土内 破片	口 (16.4)	赤褐色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 型膚を残し、下半部は篋削り。	東毛系
375-2 181	土師器 高坏	掘り方内 1/2	口 (17.4)	白色粒子 パミス 微粒雲母	酸化焰	赤褐	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に稜を有する。底部は篋撫で。	西毛系
375-3 182	須恵器 埴	カマド内 1/2	口 14.3 底 7.0 高 5.5	微粒雲母 黒色鈹物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
375-4 181	須恵器 小型甕	覆土内 破片	底 6.6	白色粒子 白色鈹物粒子	中性焰	灰黄褐	紐作り成形後轆轤整形。底部は板の木目匠痕。	吉井系

## A区 (162・164・165号住居跡)

375-5 182	土師器 甕	カマド内 破片	底 (8.7)	細粒砂	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形か。器面の風化が著しい。底面に亀裂が入っている。	不詳
375-6 181	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は不詳)。375図-7と同一個体。	不詳
375-7 181	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	375図-6と同一個体。	不詳
376-1 181	礫器 擦石	覆土内 完存	長幅厚 6.2 6.1 4.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重250g
376-2 181	礫器 敲石	覆土内 完存	長幅厚 13.0 5.8 3.2	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重390g
376-3 181	礫器 擦石	覆土内 完存	長幅厚 13.6 6.2 4.1	輝緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重640g
376-4 181	礫器 敲石	覆土内 完存	長幅厚 17.7 6.2 4.1	輝緑岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重920g
376-5 182	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井・藤岡系
376-6 瓦-626	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.6	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	白灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
376-7 182	瓦 男瓦	カマド内 1/4	厚 1.8	白色鉍物粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	還元焰	橙	半載作り。縄叩き(密)後轆轤整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
376-8 182	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	橙褐	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。凹面布目擦り消し。側部面取り2回。布目密(6cmで81本)。	笠懸系
376-9 182	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	桶巻造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。側部面取り2回。	乗附系

## A区第165号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
377-1 182	土師器 坏	床直層 %	口 12.5 高 4.1	シルト粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。	藤岡系
377-2 182	土師器 鉢	カマド内 破片	口 (18.2)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
378-1 182	須恵器 壺	床直層 %	口 12.6 底 7.8 高 5.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
378-2 182	須恵器 壺	床直層 %	口 14.0 底 6.0 高 4.3	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系
378-3 182	土師器 甕	床直層 破片	口 (20.2)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
378-4 182	土師器 甕	覆土内 破片	口 (24.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
378-5 182	須恵器 坏	覆土内 破片	厚 0.9	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	東海系
378-6 182	須恵器 甕	カマド内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	乗附系
378-7 182	土師器 小型甕	覆土内 1/4	口 10.2 底 (4.8) 高 7.3	黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	暗赤褐	紐作り成形。器外面は丁寧な撫で整形。	西毛
378-8 182	鉄器 刀子	カマド内 破片	重ね 0.2 重 3.7	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により茎尻・関部分を失っている。	—

遺物一覧表

378-9 182	施釉陶器 灰 釉 境	カマド内 破片	口 (17.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
378-10 182	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き整形 (密) 後轆轤再整形。側部面取り 2 回・端部面取り 1 回。	乗附系
378-11 182	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り 2 回・端部面取り 2 回。	秋間系
378-12 183	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き。側部面取り 2 回・端部面取り 2 回。	笠懸系
378-13 183	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縄叩き。側部面取り 2 回・端部面取り 1 回。	笠懸系
379-1 183	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕か寄木痕。凸面縄叩き (密)。凹面布目擦り消し。側部面取り 2 回・端部面取り 1 回。	笠懸系
379-2 183	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き (密) 整形後轆轤撫での再整形。側部面取り 5 回・端部面取り 3 回。	吉井系
379-3 183	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面縄叩き (密) 後撫で整形。	吉井・藤岡系
379-4 183	瓦 女 瓦	床直 1/2	厚 2.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き (密) 整形後轆轤撫での再整形。側部面取り 4 回・端部面取り 2 回。	吉井系
379-5 183	瓦 女 瓦	カマド内 1/2	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	灰黄	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。側部面取り 4 回・端部面取り 2 回。	笠懸系
380-1 183	瓦 女 瓦	カマド内 1/2	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面轆轤整形。側部面取り 3 回・端部面取り 2 回。	笠懸系か中之条系
380-2 183	瓦 女 瓦	床直 1/2	厚 3.0	白色微粒子 細粒砂	還元焰	灰白	桶巻造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り 5 回・端部面取り 2 回。	吉井・藤岡系

A区第166号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
381-1 184	土 師 器 坏	覆土内 1/2	口 10.3 高 3.3	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
381-2 184	土 師 器 坏	覆土内 1/2	口 11.7 高 3.2	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	型作り。口縁部内傾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
381-3 184	土 師 器 坏	覆土内 1/4	口 (12.7)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁部に甘い型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
381-4 184	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は手持ち篋削り。	秋間系
381-5 184	須 恵 器 境	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰黄褐	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
381-6 184	須 恵 器 坏	覆土内 完形	口 14.0 底 7.8 高 3.9	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
381-7 184	須 恵 器 境	カマド内 完形	口 13.8 底 6.2 高 5.7	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
382-1 184	須 恵 器 境	覆土内 完形	口 15.0 底 7.0 高 5.2	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
382-2 184	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
382-3 184	土 師 器 甕	覆土内 破片	口 (19.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
382-4 184	土 師 器 甕	カマド内 破片	口 (21.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
382-5 184	須 恵 器 皿	覆土内 破片	口 (15.4)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系

382-6 184	須惠器 高台付皿	覆土内 破片	口 (17.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
382-7 184	須惠器 盤	覆土内 破片	口 (18.0)	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	乗附系
382-8 184	須惠器 壺	覆土内 1/2	最径(19.2) 底(9.8)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。下半部は回転窓削り。	秋間系
382-9 184	磑器 石	覆土内 完存	長 6.7 幅 5.0 厚 4.1	二ツ岳軽石	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重90g
382-10 184	磑器 石	カマド内 完存	長 5.1 幅 4.7 厚 3.4	二ツ岳軽石	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重40g
382-11 184	土製品 土 錘	覆土内 完形	長 4.6 幅 1.9 孔 0.2	赤褐色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紡錘形状を呈し中央を穿孔する。	重13.8g
382-12 瓦-627 184	瓦 女 瓦	カマド左 壁 1/4	厚 2.1	白色鉍物粒子 赤褐色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作りか。凸面縄叩き(密)撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。篋描き文字瓦「不詳」(凹面)。	吉井・藤岡系
383-1 185	瓦 女 瓦	カマド左 壁目1/2	厚 2.7	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回・端部面取り1回。	秋間系

## A区第174号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
384-1 185	須惠器 坏	貯蔵穴内 1/2	口 11.6 底 5.0 高 3.4	黒色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	明黄褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
384-2 185	須惠器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (6.1)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	不詳
384-3 185	須惠器 塊	カマド内 破片	口 (14.6)	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
384-4 185	須惠器 坏	覆土内 1/2	口 13.1 底 6.8 高 3.7	白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
385-1 185	須惠器 塊	カマド内 1/2	口 (13.6) 底 6.6 高 (5.1)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
385-2 185	須惠器 皿	覆土内 破片	口 (16.8)	白色微粒子	酸化焰	褐	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	不詳
385-3 185	須惠器 塊	ピット内 1/2	口 (15.6)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系か 笠懸系
385-4 185	須惠器 足高高台 付塊	覆土内 破片	底 (12.6)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
385-5 185	須惠器 足高高台 付塊	覆土内 1/2	底 12.8	白色鉍物粒子 赤褐色粒子	還元焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
385-6 186	須惠器 瓶	覆土内 1/4	最大(23.2)	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤岡系
386-1 186	須惠器 羽 釜	傍竈坑内 1/2	口 22.0	白色粒子 白色鉍物粒子	中性焰	灰白 灰黄	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罅は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。	吉井型羽釜 甲貳 種呂類
386-2 185	須惠器 羽 釜	貯蔵穴内 破片	口 (20.4)	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罅は貼り付け、胴部は篋削り。	吉井型羽釜 甲壹 種呂類
386-3 185	須惠器 羽 釜	覆土内 破片	口 (24.0)	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。罅は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壹 種呂類



遺物一覧表

386-4 185	須恵器 大甕	カマド内 破片	厚 1.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	秋間系
386-5 185	礫器	カマド内 完形	長幅厚 13.2 7.5 2.8	ひん岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重520g
386-6 185	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口（12.4） 底（6.7） 高（2.7）	密	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。施釉は浸掛。	—
386-7 185	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 1/2	口 13.0 底 6.7 高 2.3	密	良好	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。施釉は浸掛。	—
387-1 瓦-628 185	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「山字郷」（凸面）。	乗附系か 吉井・藤岡系
387-2 185	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色鉍物粒子 白色粒子 デイスait	酸化焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面布目擦り消し。凸面轆轤整形後縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系

A区第175号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
388-1 186	土師器 坏	カマド内 破片	口 (11.6)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
388-2 186	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.7)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に弱い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
388-3 186	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.2)	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	褐灰	轆轤成形（右回転）。	吉井系
388-4 186	土師器 甕	カマド内 破片	口 (22.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
388-5 186	土師器 甕	カマド内 破片	口 (22.4)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	秋間系
389-1 186	土師器 甕	カマド内 破片	口 (24.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
389-2 186	須恵器 脚不詳	カマド内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	秋間系
389-3 瓦-629 瓦-630	瓦 男瓦	覆土内 ほぼ完形	長 36.7 広 (16.5) 狭 11.5	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端面面取り2回。刻印・篋描き文字瓦「方」（凸面）。（重1.85kg）。	吉井・藤岡系 厚1.7cm
390-1 186	瓦 男瓦	カマド内 1/2	広 (17.5) 厚 2.7	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面縄叩き整形（密）後縦位の撫で再整形。側部面取り6回・端面面取り2回。	乗附系か 吉井系

A区第176号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
391-1 187	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形（右回転）。	藤岡系
391-2 187	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (14.2)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤整形（右回転）。	吉井・藤岡系
391-3 186	須恵器 埴	床直層 1/2	口 (15.2) 底 6.2 高 (5.5)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	藤岡系
392-1 187	土師器 甕	カマド内 破片	口 (18.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍褐	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
392-2 187	土師器 甕	床直層 破片	口 (20.0)	白色粒子 白色微粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	吉井・藤岡系
392-3 186	土師器 台付甕	床直層 破片	底 (9.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	明赤褐	型作り成形。脚部の成形は不分明。型作りの可能性がある。	藤岡系

## A区 (175・176・177・178号住居跡)

392-4 187	須惠器 壺	床直層 破片	頸 (8.2)	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系か 搬入品 (東海系)
392-5 187	須惠器 壺	床直層 破片	底 (13.2)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井系
392-6 187	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 4回。	笠懸系か 北毛系
392-7 187	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.0	シルト粗粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回。	秋間系
392-8 187	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉍物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。側部面取り3回・端部面取り1 回。	不詳
392-9 187	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	黒褐	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き (密) 後撫で整形。側部面取り2回。	吉井・藤 岡系

## A区第177号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
393-1 188	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.4)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
393-2 187	須惠器 坏蓋	床直層 破片	口 (14.3)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	端部は返りを有する。轆轤成形 (右回転)。上 半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
393-3 188	須惠器 鉢	覆土内 破片	口 (22.2)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。体部は回転篋削り。	秋間系か
393-4 188	土師器 甕	床直層 破片	口 (19.8)	黒色鉍物粒子 細粒砂 赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
394-1 187	土師器 甕	カマド内 ほぼ完形	口 21.1 底 4.3 高 36.7	細粒砂 黒色鉍物粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
394-2 187	土師器 甕	カマド内 破片	底 (6.2)	微粒雲母 白色微粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	鈍赤褐	型作り成形。外面篋削整形。内面は篋撫でを 施す。	藤岡系
394-3 188	須惠器 脚付盤	覆土内 破片	口 (28.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。脚を欠損する。	藤岡系
394-4 187	須惠器 脚付盤	覆土内 破片	口 (33.4) 底 18.0 高 8.8	白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。脚はカキヤブリ 後接合。	秋間系
394-5 188	礫器 敲石	床直層 完形	長 12.5 幅 5.5 厚 3.7	閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重480g
394-6 187	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面縦位の撫で整形。端部面 取り1回。	吉井系

## A区第178号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
395-1 188	須惠器 坏乃至埴	覆土内 破片	口 (15.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
395-2 188	土師器 甕	カマド内 破片	口 (19.0)	白色粒子 細粒砂	酸化焰	赤褐	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系か
395-3 188	土師器 甕	カマド内 破片	口 (19.2)	微粒雲母	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。器 内面に補修部がある (焼成前)。	藤岡系
396-1 188	土師器 甕	カマド内 破片	口 (21.4)	微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
396-2	須惠器 耳皿	覆土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。口縁部を摘み耳 皿とする。	秋間系

遺物一覧表

396-3 188	施釉陶器 灰 釉 塊	覆土内 破片	口 (14.4)	やや粗	良好	白黄	轆轤成形 (右回転)。施釉は没掛か。	—
396-4 188	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り2回・ 端面面取り2回。	吉井系
396-5 188	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	黒褐	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き後 撫で整形。	笠懸系

A区第179号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 種 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
398-1 188	土 師 器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 10.7 高 2.9	微粒雲母 黒色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により外 傾し稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
398-2 188	土 師 器 坏	覆土内 1/2	口 11.1 高 3.1	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。口縁直下に強い稜を有する。底部は 篋削り。	藤岡系
398-3 188	土 師 器 坏	覆土内 1/2	口 11.3 高 3.4	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
398-4 189	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
398-5 189	土 師 器 坏 蓋	覆土内 破片	—	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により外 稜を有し直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
398-6 188	土 師 器 坏	覆土内 1/2	口 10.3 高 3.3	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。底部は篋削り。	藤岡系
398-7 189	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 ( 9.2)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。外面口縁直 下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
398-8 189	土 師 器 坏	覆土内 1/2	口 (10.3)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部内傾する。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
398-9 188	土 師 器 坏	覆土内 1/2	口 11.2 高 ( 3.3)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。底部は篋削り。	藤岡系
398-10 189	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.2)	シルト粒子 黒色鉱物粒子 細粒砂	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は内傾する。口縁部・器 内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を 残す。	藤岡系か
398-11 189	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.3)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
398-12 188	土 師 器 坏	覆土内 1/2	口 10.8 高 3.4	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
398-13 189	土 師 器 坏	覆土内 1/2	口 (10.0) 高 ( 3.2)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部直立する。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
398-14 189	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (10.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内傾気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
398-15 189	土 師 器 坏	カマド内 破片	口 (10.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
398-16 189	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (10.1)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底 部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
398-17 189	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (10.8)	白色粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内傾気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系

## A区 (179号住居跡)

398-18 189	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.2)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
398-19 189	土師器 坏	カマド内 破片	口 (11.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
398-20 189	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.2)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
398-21 188	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 高 ( 3.4)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部内傾する。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
398-22 189	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色粒子 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
398-23 189	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.1)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立気味。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
398-24 189	土師器 坏	覆土内 破片	口 (21.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
398-25 189	土師器 坏	覆土内 破片	—	赤褐色粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
398-26 189	土師器 短頸壺	覆土内 破片	口 (11.4)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。肩部は丸く口縁部は直立する。器面全体に型膚を残す。	藤岡系
398-27 189	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.1)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は直立する。下半部は型作り成形。上半部は紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
398-28 189	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (12.0)	黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は直立する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
398-29 188	土師器 短頸壺	覆土内 破片	—	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部球は形状に近い。外面は横位の篋削り。内面は篋撫でを施す。	藤岡系
398-30 189	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	口 (10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。返りを有する。	秋間系
398-31 189	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は手持ち篋削り。	秋間系
399-1 189	土師器 甕	覆土内 破片	口 (21.0)	黒色鉱物粒子 粗粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作りか型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
399-2 189	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作りか型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
399-3 190	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
399-4 189	土師器 甕	覆土内 破片	口 (23.6)	黒色鉱物粒子 微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
399-5 189	土師器 甕	覆土内 破片	底 ( 4.3)	粗粒砂 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黒褐 橙	型作り成形。外面は篋削り、内面は篋撫で。	藤岡系
399-6 188	土師器 小型甕	覆土内 破片	口 (17.0) 底 ( 2.3) 高 10.5	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は横撫で、口縁直下に型膚を残し、下半は篋削りを施す。器内面は横撫を施す。	藤岡系
399-7 190	須恵器 坏	覆土内 破片	底 ( 4.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
399-8 190	須恵器 脚付盤	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系

遺物一覧表

399-9 190	須惠器 盤	覆土内 破片	口 (25.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)。底面は篋撫で。	秋間系	
399-10 190	須惠器 盤	覆土内 破片	口 (29.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系	
399-11 189	須惠器 高 坏	覆土内 高台部 <sup>1/4</sup>	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系	
399-12 189	須惠器 壺	覆土内 片	底 (8.4)	黒色粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。底部は篋削り。	搬入品か 東海系か	
399-13 190	須惠器 壺	覆土内 破片	最径(17.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文) 後轆轤再整形外面自然袖付着。	秋間系	
400-1 252	須惠器 大 甕	覆土内 片	最径(77.6)	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。内面宛具は下半部と上半部では異なる。胎土も下半にシャモットを多く含ませる。	乗附系 東海系	
401-1 401-1'	須惠器 横 瓮	覆土内 破片	頸 (10.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。器外面自然袖付着。	秋間系	
401-2 190	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 0.8	白色鉍物粒子 白色微粒子	白灰 還元焰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。口縁部は轆轤整形 (右回転)。	秋間系	
401-3 190	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形 (外面正格子叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系	
401-4 190	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形 (外面斜格子叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系	
402-1 190	須惠器 甕	覆土内 破片	厚 0.7	白色粒子	還元焰 焼締	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系 秋間系か	
402-2 190	須惠器 転用硯か (甕)	覆土内 破片	厚 1.3	白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。二辺の加工が認められる。	乗附系	
402-3 190	礫 器 砥石 ?	覆土内 破片	厚 10.0	粗粒安山岩	—	—	周縁を欠損する為形状は不分明。剝離(?)面が磨滅する。	
402-4 190	礫	覆土内 完存	—	粗粒安山岩	—	—	地山層に多出する礫に工具痕が認められる。	重 1,770g
402-5 190	礫	覆土内 完存	厚 10.0	粗粒安山岩	—	—	402図-4 と同一	重 3,900g
402-6 190	礫	覆土内 完存	—	粗粒安山岩	—	—	402図-4 と同一に同じ	重 3,680g
403-1 191	礫 器 敲 石	覆土内 完存	長 11.2 幅 6.3 厚 4.1	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重460g
403-2 191	礫 器 擦 石	覆土内 完存	長 13.5 幅 7.6 厚 4.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重790g
403-3 191	礫 器 擦 石	覆土内 完存	長 14.0 幅 7.5 厚 4.2	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重690g
403-4 191	礫 器 完存	覆土内 完存	長 15.0 幅 6.1 厚 3.9	閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重760g
403-5 191	礫 器 敲 石	覆土内 完存	長 15.1 幅 8.1 厚 3.8	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重760g
403-6 191	礫 器 敲 石	覆土内 完存	長 16.0 幅 7.0 厚 4.5	石英閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重740g
403-7 191	礫 器 敲 石	覆土内 完存	長 17.1 幅 6.1 厚 3.1	珪質頁岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重560g

## A区第180号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
404-1 191	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
404-2 191	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.1) 高 (3.3)	微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り。口縁部外傾気味。器面風化の為詳細不詳。	藤岡系
404-3 191	土師器 坏	覆土内 破片	口 (18.0)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
405-1 191	石器 不詳	覆土内 破片	長 6.2 幅 6.7 厚 3.2	粗粒安山岩	—	—	地山自然礫の縁辺を磨き整形している。	重120g
405-2 191	礫器	覆土内 完存	長 11.6 幅 7.5 厚 4.8	変質安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重640g
405-3 191	礫器 敲石	覆土内 完形	長 11.4 幅 5.0 厚 3.9	砂岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重350g
405-4 191	礫器 敲石	床直層 完形	長 12.7 幅 5.5 厚 3.3	砂岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重360g
405-5 191	礫器	覆土内 完存	長 13.7 幅 5.1 厚 4.4	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重520g

## A区第181号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
406-1 191	須恵器 坏	床直層 ほぼ完形	口 13.8 底 7.3 高 4.1	白色微粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。器内外面に有機質の付着が認められる。	吉井・藤岡系
406-2 191	須恵器 坏	床直層 %	底 5.4	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
406-3 191	須恵器 坏	カマド内 %	底 6.6	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉍物粒子	酸化焰	黄灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
406-4 191	須恵器 坏(塊)	床直層 ほぼ完形	口 14.8 底 (6.7) 高 (4.5)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高台欠損後坏に転用。	藤岡系
406-5 191	須恵器 塊	床直層 %	口 15.0 底 7.1 高 5.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
406-6 192	須恵器 塊	覆土内 %	口 15.0 底 7.6 高 5.3	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系か
406-7 192	土師器 甕	カマド内 破片	口 (20.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系

## A区第182号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
408-1 192	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 13.6 高 3.5	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
408-2 192	土師器 坏	カマド内 %	口 15.6 底 9.3 高 4.4	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。	藤岡系



遺物一覧表

408-3 192	土師器 鉢	覆土内 破片	口 (16.6)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	灰褐	型作り成形。口縁部は横撫でを施す。体部は 篋削りを施す。	藤岡系
408-4 192	須恵器 坏 蓋	覆土内 片	摘 (6.0) 口 (16.2) 高 (3.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上 半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
408-5 192	須恵器 坏 蓋	覆土内 片	摘 7.0 口 (16.8) 高 (2.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
408-6 192	須恵器 坏 蓋	床直 ほぼ完形	摘 6.0 口 17.0 高 3.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上 半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
408-7 192	須恵器 坏 蓋	覆土内 破片	口 (17.8)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転篋削り。	秋間系
408-8 192	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 (7.0) 高 (3.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
408-9 192	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 (4.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
408-10 192	須恵器 塊	床直 片	口 (18.0) 底 (12.0) 高 (8.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
408-11 192	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
408-12 192	瓦製円盤	覆土内 完存	厚 1.1	白色微粒子	酸化焰	橙	桶巻き造りの女瓦片を転用している。	笠懸系
408-13 192	瓦製円盤	覆土内 完存	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	一枚作りの女瓦片を転用する。	吉井系
409-1 192	礫 器 擦 石	覆土内 完存	長 5.6 幅 4.3 厚 3.4	変質安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重115g
409-2 192	礫 器 敲 石	覆土内 敲石	長 9.1 幅 7.8 厚 2.8	石英閃緑岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重320g
409-3 192	礫 器 敲 石	覆土内 完存	長 13.5 幅 8.4 厚 4.4	石英閃緑岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重860g
409-4 192	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 1.5	微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	明黄橙	半載作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫 で再整形。側部面取り1+α回。	藤岡系

A区第186号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
411-1 192	土師器 坏	ピット内 ほぼ完形	口 11.7 底 6.0 高 4.4	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、腰部 は篋削り。底部は離れ砂。体部に型腐を残す。	藤岡系
411-2 192	土師器 坏	ピット内 ほぼ完形	口 12.0 高 4.3	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で。底部 は篋削り。器内面に指頭痕を残す。	藤岡系
411-3 192	須恵器 坏	貯蔵穴内 ほぼ完形	口 11.9 底 6.0 高 4.5	細粒砂	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
411-4 192	須恵器 坏	傍竈内 一部欠損	口 13.8 底 7.0 高 4.5	白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。欠 損後坏に転用。	吉井系
411-5 192	須恵器 塊	カマド内 一部欠損	口 12.5 底 6.5 高 5.0	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黒・橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
411-6 192	須恵器 塊	ピット内 一部欠損	口 13.2 底 6.4 高 5.0	白色微粒子 デイスイト	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系

## A区(186・187号住居跡)

411-7 192	須恵器 坏	傍竈坑内 %	口 12.4 底 5.7 高 3.6	黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	黒褐 橙	轆轤成形(右回転)。底部は篋切り。器内面に 燻し処理・暗文を施す。	藤岡系か
411-8 192	土師器 小型甕 破片	貯蔵穴内 破片	口 (11.1)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面縦位の撫削 り整形。	吉井・藤 岡系
411-9 193	須恵器 羽釜	貯蔵穴内 破片	口 (20.0)	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け、胴部下半・底部は篋削り。	吉井系 吉井型羽 釜 甲壺 種伊類
411-10 192	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (23.0)	白色微粒子 微粒雲母	中性焰	黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲壺 種伊類
411-11 192	須恵器 羽釜	ピット内 破片	口 (22.2)	白色粒子	中性焰	灰黄褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲壺 種呂類
411-12 192	施釉陶器 灰釉皿	カマド内 %	口 14.0 底 7.0 高 3.1	密	良好	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	—
412-1 瓦-655	瓦 鏡瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面 は篋撫で整形。	吉井系
412-2 193	瓦 女瓦	傍竈坑内 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子 微粒雲母 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩 き(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り2 回。	吉井・藤 岡系
412-3 193	瓦 女瓦	カマド 破片	厚 2.0	白色微粒子 白色鉍物粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍黄橙	一枚作り。凹面寄木痕。凸面縄叩き(密)後 縦位の撫で整形。	吉井・藤 岡系

## A区第187号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
414-1 193	土師器 坏	掘り方内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
414-2 193	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (13.8) 底 (9.0)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
414-3 193	須恵器 坏	掘り方内 %	口 (14.2) 底 (8.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
414-4 193	須恵器 黒色土器 坏	床直層 完形	口 12.8 底 5.8 高 4.0	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黒褐	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
414-5 193	須恵器 坏	ピット内 完形	口 12.5 底 6.0 高 3.9	白色微粒子 白色粒子 デイサイト	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
414-6 193	須恵器 坏(塊)	覆土内 一部欠損	口 14.0 底 7.5 高 4.6	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高 台欠損後坏に転用。	藤岡系
414-7 193	須恵器 坏(塊)	ピット内 %	口 15.0 底 7.0 高 5.7	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高 台欠損後坏に転用。	藤岡系
414-8 193	須恵器 坏	床直層 ほぼ完形	口 12.2 底 7.0 高 2.8	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か 秋間系
415-1 193	須恵器 塊	掘り方内 破片	底 (6.0)	白色微粒子 細粒砂	酸化焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	不詳
415-2 193	須恵器 足高台 付塊	覆土内 %	底 (11.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
415-3 193	須恵器 羽釜	覆土内 %	口 (19.4)	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲壺 種呂類
415-4 193	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色鉍物粒子 デイサイト 微粒雲母	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面叩き不詳・内面宛具 は青海波文)。	吉井・藤 岡系

遺物一覧表

415-5 193	鉄塊	覆土内 —	—	—	—	—	—	不整形状を呈する。	—
415-6 251	古銭	掘り面 完形	径 2.1 重 1.3	—	—	—	—	「承和昌寶」初鑄は承和2年(835)。	—
415-7 193	礫器 敲石	傍竈坑上 面一部 欠損	長 4.9 幅 5.2 厚 2.5	粗粒安山岩	—	—	—	側部に敲打痕が認められる。	重90g
415-8 193	礫器 擦石	傍竈坑上 面完存	長 25.0 幅 10.2 厚 12.3	粗粒安山岩	—	—	—	側部に使用に伴ない磨滅する。	重 4,100g
415-9 193	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	—	一枚作りか。凹面アンペラ痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り1回・端部面取り1回。	不詳
415-10 193	瓦 女瓦	傍竈坑内 1/4	厚 1.8	白色微粒子 シルト粗粒子	還元焰 焼締め	灰	—	桶巻作り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。側部面取り3回・端部面取り1回。	乗附系
416-1 瓦-656	瓦 鏡瓦	傍竈坑内 完形		白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	—	一本作り。単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面は布目。	吉井系 重2.7kg
417-1 瓦-657 194	瓦 鏡瓦	傍竈坑内 完形	長 39.0 広 17.0 狭 13.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	—	一本作り。単弁8葉蓮華文。中房の子葉は1+4。男瓦部凸面縦位の撫で整形。	吉井系 厚2.4 重3.0kg
418-1 瓦-658 195	瓦 鏡瓦	No24 完形	長 37.0 広 15.0 狭 11.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	—	417図-1に同じ。	吉井系 厚1.6cm 重2.3kg
419-1 瓦-659 195	瓦 鏡瓦	No20 完形	長 38.0 広 15.0 狭 13.5	白色鉱物粒子 白色粒子	吉井系 還元焰	灰	—	417図-1に同じ。	吉井系 厚2.0cm 重2.5kg
420-1 瓦-660 196	瓦 鏡瓦	No20 完形	長 35.5 広 15.5 狭 11.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	—	417-1に同じ。	吉井系 厚1.3cm 重2.2kg
421-1 瓦-661 196	瓦 鏡瓦	No29 ほぼ完形	長 37.5 広 14.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	—	417図-1に同じ。	吉井系 厚1.7cm 重1.9kg
422-1 瓦-631 197	瓦 男瓦	No26 完形	長 38.5 広 (19.5) 狭 12.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	—	半截作り。面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。寛描き文字瓦「山」(凸面)。	吉井系 厚2.6cm 重3.6kg
423-1 瓦-632 197	瓦 女瓦	No25 完形	長 39.5 広 29.0 狭 21.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	—	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。寛描き文字瓦「山」(凸面)。	吉井系 厚2.4cm 重4.3kg

A区第200号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
424-1 197	須恵器 坏	床直層 1/2	口 10.2 底 4.7 高 3.5	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	不詳
424-2 197	須恵器 塊	床直層 1/4	口 (11.6) 底 6.4 高 (5.6)	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
424-3 197	須恵器 皿	掘り方内 1/2	口 13.6 底 6.0 高 2.9	白色微粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
424-4 197	鉄器 不詳	床直層 両端欠損	幅 0.65 重 19.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の錆化により破損が多い。上面は「L」字状になっている。	—
424-5 197	鉄器 不詳	床直層 部分欠損	1辺 5.5 重 17.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。薄い板状の中央に隅丸方形の孔を有する。釘隠しの金具か。	—
424-6 197	施釉陶器 灰釉塊	床直層 1/4	口 (14.2) 底 (8.0) 高 4.9	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	—

## A区第188号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
426-1 197	土師器 甕	覆土内 破片	口 (18.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焙	鈍橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
426-2 197	土師器 甕	カマド内 破片	口 (20.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焙	鈍褐	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
426-3 197	土師器 甕	カマド内 破片	口 (26.0)	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焙	黄橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
426-4 198	土師器 台付甕	カマド内 破片	底 (7.4)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焙	橙	成形は不詳。横位の回転撫で整形。	藤岡系
426-5 198	施釉陶器 緑釉輪花 皿	カマド内 1/2	口 19.4 底 9.6 高 3.5	密	良好	緑黄	轆轤成形(右回転)。磨き施し施釉。4単位の 輪花を施す。	—
426-6 198	瓦 女瓦	カマド内 1/4	厚 1.9	白色微粒子	還元焙	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形後縄叩き。側 部面取り2回・端面取り2回。	笠懸系
426-7 198	瓦 女瓦	カマド内 1/4	厚 2.1	細粒砂	還元焙	白灰	桶巻き造りか。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面 縄叩き(密)。側部面取り2回・端面取り2 回。	笠懸系 雷電山か
426-8 198	瓦 女瓦	カマド内 1/2	厚 1.8	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焙	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 2回・端面取り2回。	吉井系
427-1 198	瓦 女瓦	カマド内 1/2	長 38.2 厚 1.6	白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焙	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。 凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。 側部面取り2回・端面取り1回。	北毛系

## A区第189号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
428-1 198	土師器 坏	覆土内 1/4	口 (12.8)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焙	黄橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残 す。	藤岡系
428-2 198	土師器 坏	カマド内 1/4	口 (14.1)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焙	黄橙	型作り成形。口縁部は直立する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
428-3 198	土師器 坏	床面直上 1/4	口 14.0 高 4.4	微粒雲母 白色微粒子	酸化焙	黄橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立気味。口縁直下に稜を有する。底部は篋削 り。	藤岡系
428-4 198	須恵器 坏身	床面直上 1/4	口 13.4 高 4.3	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焙	灰	型作り成形後全体を轆轤整形(右回転)。外稜 部は轆轤成形(右回転)。	乗附系
428-5 198	須恵器 短頸壺	床面直上 完形	口 10.4 高 9.1	白色微粒子 黒色粒子 白色鉍物粒子	酸化焙	橙褐	轆轤整形(右回転)。口縁部は直立する。肩部 がやや張り2条の横線間に9本1単位の波状 文を施す。	乗附系か
428-6 198	土師器 甕	覆土内 破片	口 (14.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焙	黄橙	型作り成形。外面器面の風化が著しい。	藤岡系
428-7 198	土師器 甕	床面直上 一部欠損	口 14.7	白色鉍物粒子 シルト粗粒子	酸化焙	鈍黄橙	口縁部は短かく外反する。紐作りか型作り成 形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内 面胴部は篋撫で。	吉井・藤 岡系
429-1 199	土師器 甕	床面直上 1/4	口 26.6 底 5.0 高 31.7	白色鉍物粒子 透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焙	鈍黄橙	口縁部は外反する。下半部は型作り成形。上 半部は紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は 横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
429-2 198	土師器 甕	覆土内 1/4	—	円礫 黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焙	橙	型作り成形。外面胴部は篋削り、内面胴部は 篋撫で。	吉井・藤 岡系

## A区第190号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
430-1 199	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子	還元焙	灰白	轆轤成形(右回転)。	藤岡系

遺物一覧表

430-2 199	鉄器 釘	覆土内 1/2	幅 重	0.3 2.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形を呈する。頭部側は調査後の欠損。	—
430-3 199	鉄器 釘 ?	覆土内 破片	幅 重	0.4 1.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形を呈する。	—
430-4 199	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚	1.8	白色鋳物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回・端部面取り1回。	吉井系
430-5 199	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚	0.7	白色鋳物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
430-6 199	瓦 女瓦	床直 1/4	厚	2.5	白色鋳物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回。	吉井系

A区第191号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
431-1 199	須恵器 壺	覆土内 1/2	口 底 高	13.1 6.6 5.3	白色粒子 白色鋳物粒子 デイスait	中性焰	灰 明黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井系
431-2 199	須恵器 壺	覆土内 破片	底	6.6	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
431-3 199	須恵器 壺	覆土内 一部欠損	底	6.8	白色鋳物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	吉井・藤岡系
432-1 199	須恵器 坏蓋	カマド内 1/2	口	(10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	端部は返りを有する。轆轤成形 (右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
432-2 199	須恵器 小型甕か 羽蓋	覆土内 破片	底	(7.0)	白色鋳物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。底面は木目の圧痕。	吉井・藤岡系
432-3 199	須恵器 甕	カマド内 破片	底	(21.0)	微粒雲母 白色微粒子 白色鋳物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井系
432-4 199	施釉陶器 灰釉壺	覆土内 破片	口	(14.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。	—
433-1 199	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚	1.0	微粒雲母 白色鋳物粒子	還元焰	灰黄	紐作り成形。器内面が磨滅する。	藤岡系
433-2 199	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚	1.9	微粒雲母 白色微粒子 デイスait	還元焰	灰黄	一枚作り。面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り1回。	藤岡系

A区第192号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
434-1 200	土師器 坏	覆土内 破片	口	(11.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
434-2 200	土師器 坏	カマド内 1/4	口	(11.6)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鋳物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾する。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
434-3 199	土師器 坏	カマド内 1/4	口 高	13.2 4.0	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
434-4 200	土師器 坏	覆土内 破片	口	(12.6)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
434-5 200	土師器 坏	覆土内 破片	口	(18.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内傾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
434-6 199	土師器 坏	覆土内 1/4	口 高	16.4 5.8	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。器面の風化が著しい。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形か。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
435-1 199	土師器 高坏	覆土内 脚部欠損	口	14.4	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。脚部は貼り付け。	藤岡系
435-2 199	土師器 台付甕	覆土内 完形	口 底 高	13.0 9.6 16.0	透明鋳物粒子 シルト粒子 白色鋳物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部は短かく外反する。胴部は丸く斜位の篋削りを施す。脚部・底部は縦位の篋撫でを施す。器内面は横位の篋撫でを施す。	吉井・藤岡系

## A区 (191・192・193号住居跡)

435-3 200	土師器 甕	覆土内 破片	口 (20.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
435-4 200	土師器 甕	覆土内 破片	口 (21.0)	白色微粒子 微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
435-5 200	土師器 甕	覆土内 破片	口 (11.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
435-6 200	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (14.8)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形 (右回転)。	吉井系
435-7 200	須恵器 壺	覆土内 破片	最径(13.8)	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に横線を3条と上位に更に1条施す。底部は回転篋削り。	乗附系
435-8 200	須恵器 壺	覆土内 破片	最径(18.4)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に刺突文を施す。体部は回転篋削り。	秋間系
435-9 200	須恵器 盤	覆土内 破片	口 (24.0)	白色微粒子	還元焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
436-1 201	須恵器 大甕	覆土内 破片	口 (26.2)	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。口縁部は轆轤整形。胴部は叩き整形 (外面は平行叩き内面宛具面は青海波文)。	乗附系
436-2 200	礫器 敲石	覆土内 一部欠損	長 10.9 幅 6.1 厚 3.3	閃緑岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重365g
436-3 200	礫器 擦石	覆土内 完存	長 12.1 幅 7.0 厚 3.4	閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重520g
436-4 200	礫器 擦石	床直層 完存	長 16.5 幅 8.9 厚 4.1	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重 1,000g
436-5 200	礫器 敲石	覆土内 完存	長 17.7 幅 7.5 厚 4.5	ひん岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重920g
436-6 200	礫器 敲石	床直層 一部欠損	長 16.8 幅 12.0 厚 3.5	粗粒安山岩	—	—	側部に敲打痕が認められる。	重 1,100g
437-1 201	石造品 凹石	覆土内 一部欠損	長 24.7 幅 18.8 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	自然礫を用い、両面に凹が認められる。	重 7,900g 深 5.8 深 3.4

## A区第193号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
438-1 201	須恵器 黒色土器 坏	床直 完形	口 11.0 底 5.8 高 3.2	微粒雲母 白色粒子	還元焰 か	黒灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
438-2 201	須恵器 坏	カマド内 破片	口 (12.0) 底 (6.0) 高 (4.1)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙 黒灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
438-3 201	須恵器 壺	床直 %	口 13.0 底 6.4 高 5.5	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙 黒灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
438-4 201	須恵器 壺	床直 %	口 16.7	白色粒子 細粒砂	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	不詳
438-5 201	鉄器 釘か	カマド内 破片	幅 0.7	—	—	—	全体に錆化が及び、調査後の錆化の為に全体が欠損する状態である。	—
438-6 201	鉄器 釘	カマド内 部分欠損	幅 1.0 重 33.7	—	—	—	全体に錆化が及び調査後の錆化に伴ない欠損している部分が多い。断面正方形状を呈する。	—



遺物一覧表

A区第194号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
439-1 201	土 師 器 坏	カマド内 破片	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に 型膚を残し、下半部は篋削り。	藤岡系
439-2 201	須 惠 器 埴	カマド内 破片	口 (13.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	吉井系
439-3 201	須 惠 器 埴	覆土内 %	口 13.0 底 6.0 高 5.0	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙 黒灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
439-4 201	須 惠 器 埴	カマド内 破片	口 (13.4) 底 (6.2) 高 (4.9)	白色粒子 白色鈹物粒子	還元焰 やや焼 締	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。器内外面に自然 釉附着。	吉井・藤 岡系
439-5 201	土 師 器 小 型 甕	カマド内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	鈍黄橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
439-6 201	須 惠 器 羽 釜	カマド内 破片	口 (21.0)	白色鈹物粒子 白色粒子	酸化焰	明黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。罫は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲壹 種伊類
439-7 201	施釉陶器 灰 釉 埴	床直 %	底 (8.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
440-1 201	瓦 女 瓦	覆土内 %	厚 2.2	白色鈹物粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。凸面縄叩き (密) 整 形後轆轤撫での再整形。側部面取り2回・端 部面取り2回。	乗附系か

A区第195号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
441-1 202	土 師 器 坏	覆土内 %	口 (11.0)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。口縁直 下に型膚を残す。	藤岡系
441-2 202	土 師 器 坏	覆土内 %	口 11.2	微粒雲母 白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
441-3 202	土 師 器 坏	覆土内 %	口 (11.4) 高 (3.8)	黒色鈹物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
441-4 202	土 師 器 小 型 甕	覆土内 破片	口 (15.0)	微粒雲母 デイスait	酸化焰	橙	型作り成形。肩部は丸く口縁部は外傾する。 器面は風化が著しい。	藤岡系
441-5 202	土 師 器 甕	覆土内 破片	—	微粒雲母 細砂粒 片岩	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形か。内外面燻りが認められる。	藤岡系
442-1 202	礫 器 敲 石	床面直上 完存	長 11.3 幅 5.4 厚 2.9	変質安山岩	—	—	特徴的な使用痕は認められない。	重310g
442-2 202	礫 器 敲 石	床面直上 完存	長 12.5 幅 5.3 厚 3.6	石英閃緑岩	—	—	特徴的な使用痕は認められない。	重360g
442-3 202	礫 器 擦 石	床面直上 完存	長 14.0 幅 9.5 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重730g
442-4 202	礫 器 擦 石	床面直上 完存	長 13.1 幅 7.7 厚 3.5	変質安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重650g
443-1 202	礫 器	床面直上 完存	長 14.1 幅 8.2 厚 5.1	かこう岩	—	—	特徴的な使用痕は認められない。	重890g
443-2 202	礫 器 擦 石	覆土内 完存	長 14.9 幅 8.4 厚 5.3	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重 1,030g

## A区(194・195・196・197号住居跡)

443-3 202	礫 擦 石	器 石	床面直上 完存	長 幅 厚	15.0 6.6 4.2	溶結凝灰岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重780g
443-4 202	礫 敲 石	器 石	覆土内 完存	長 幅 厚	15.1 6.3 5.4	粗粒安山岩	—	—	特徴的な使用痕は認められない。	重840g
443-5 202	礫 擦 石	器 石	床面直上 完存	長 幅 厚	16.5 8.5 5.1	石英閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重 1,100g
443-6 202	礫 敲 石	器 石	床面直上 完存	長 幅 厚	18.3 7.3 3.5	粗粒安山岩	—	—	特徴的な使用痕は認められない。	重850g

## A区第196号住居跡

挿図番号 図版番号	種 器 別 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考		
445-1 202	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (10.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)後底部は篋削り。	乗附系		
445-2 203	土 師 器 坏	覆土内 1/4	口 (13.7)	白色微粒子 微粒雲母 細粒砂	酸化焰	赤橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。口縁部に二段の稜を有する。	藤岡系		
445-3 203	土 師 器 高 坏	覆土内 破片	—	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り後撫で篋整形。	藤岡系		
445-4 203	土 師 器 鉢	覆土内 破片	口 (26.0)	微粒雲母 デイサイト	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。体は丸味を帯びる。器内面に放射状暗文を施す。	藤岡系		
445-5 202	土 師 器 甕	覆土内 破片	—	微粒雲母 細粒砂	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。器内面は横位の篋撫でを施す。外面器面の風化が著しい。	藤岡系		
445-6 203	土 師 器 甕	覆土内 ほぼ完存	口 26.2 底 9.6 高 32.1	白色鉍物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系		
445-7 202	石 製 品 紡 錘 車	床直層 完存	上径 4.0 下径 2.6 厚 1.6	滑石	—	—	研ぎ整形は研磨台が粗い為か、粗いヒケ傷が多く認められる。	孔径0.6		
445-8 203	礫 敲 石	器 石	床直層 ほぼ完存	長 幅 厚	10.0 5.1 3.1	石英閃緑岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重240g
445-9 203	礫 敲 石	器 石	覆土内 完存	長 幅 厚	14.5 6.6 4.4	溶結凝灰岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重630g
445-10 203	礫 敲 石	器 石	覆土内 完存	長 幅 厚	16.1 8.1 5.5	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重 1,020g

## A区第197号住居跡

挿図番号 図版番号	種 器 別 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
446-1 203	須 恵 器 境	カマド内 破片	口 (12.0)	白色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
446-2 203	須 恵 器 境 乃至 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
446-3 203	須 恵 器 境	覆土内 破片	底 (6.2)	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
446-4 203	須 恵 器 境	覆土内 破片	底 7.3	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	外・黒 褐 断・鈍 褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
446-5 203	須 恵 器 盤	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系

遺物一覧表

446-6 203	施釉陶器 灰 釉 境	カマド内 破片	口 (11.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。	—
446-7 203	瓦 女 瓦	カマド内 ¼	厚 1.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き (密) 側面喰出し段・布目有り。	秋間系

A区第199号住居跡

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
449-1 203	土 師 器 坏	覆土内 ¼	口 (12.4)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は横撫により直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
449-2 204	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	褐	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
449-3 204	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.8)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に弱い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
449-4 203	土 師 器 坏	覆土内 ¼	口 (13.8)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
449-5 204	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (11.1)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
449-6 203	土 師 器 坏	覆土内 ¼	—	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内傾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
449-7 203	土 師 器 坏	覆土内 ¼	口 (15.8)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
449-8 203	土 師 器 坏	覆土内 ¼	口 (17.3)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
449-9 203	土 師 器 坏	カマド内 ¼	口 14.1 高 4.0	白色鉱物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系
449-10 203	土 師 器 坏	覆土内 ¼	口 14.8	白色鉱物粒子 ダイサイト 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。器内面に放射状暗文を施す。	藤岡系
449-11 204	土 師 器 坏	覆土内 破片	底 11.0	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部は篋削りを施す。	藤岡系
449-12 203	土 師 器 坏	覆土内 ¼	口 14.1 高 4.4	白色微粒子 ダイサイト	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
449-13 203	土 師 器 坏	覆土内 ¼	口 14.4 高 4.6	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
449-14 203	土 師 器 坏	覆土内 ¼	口 14.4 高 4.8	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部内湾する。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
449-15 203	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 15.6 高 4.8	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部横撫により直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
450-1 203	須 恵 器 坏 蓋	床直層 完形	口 15.0 摘 3.9 高 3.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
450-2 203	須 恵 器 坏 蓋	床直層 一部欠損	口 15.4 摘 3.7 高 3.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	端部を返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	搬入品
450-3 204	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (11.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
450-4 204	須 恵 器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
450-5 203	須 恵 器 坏	床直層 ほぼ完形	口 11.9 底 7.8 高 4.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。腰部は篋削り。	秋間系

## A区(199・201・202号住居跡)

450-6 203	須恵器 坏	覆土内 % 破片	口 (12.9) 高 (3.9)	細粒砂	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	不詳
450-7 204	須恵器 坏	床直層 % 破片	口 11.7 底 8.0 高 4.1	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は手持篋削り整形。	秋間系
450-8 204	須恵器 高台付坏	床直層 破片	底 (11.2)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。底面に篋描き文字「成」。	秋間系
450-9 204	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。口縁部外面に1条の横線を施す。	吉井・藤岡系
450-10 204	土師器 甕	覆土内 % 破片	口 (23.0)	白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
450-11 204	石製品 砥石	覆土内 破片	長 5.2 幅 3.0 厚 2.8	砥沢石	—	—	両端を欠損する。遺存部は中央部と考えられる。使用痕から手持砥と考えられる。	重60g
450-12 204	礫器 擦石	覆土内 完存	長 6.7 幅 3.5 厚 2.0	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重80g
450-13 204	礫器	覆土内 完存	長 7.1 幅 5.7 厚 2.3	砂岩	—	—	顕著な使用痕等は認められない。	重150g
450-14 204	礫器	床直 完存	長 9.4 幅 5.6 厚 2.9	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕等は認められない。	重235g
451-1 252	須恵器 鉢	覆土内 ほぼ完形	口 17.0 底 10.3 高 9.1	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。高台は断面三角形形状を呈する(付高台)。	秋間系
451-2 204	礫	覆土内 完存	長 17.0 幅 13.6 厚 5.1	粗粒安山岩	—	—	地山層中に含有する自然礫であるが、両面に顕著な工具痕が認められる。	重 1,070g

## A区第201号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
453-1 204	須恵器 耳皿	覆土内 一部欠損	長 10.1 幅 (6.3) 底 5.1	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。見込み側の耳の折曲げ部に、左右共に篋により傷を入れ、耳部の折曲げを曲げ易くしている。	藤岡系
453-2 204	須恵器 坏か塊	カマド内 破片	口 (7.1)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤岡系
453-3 204	須恵器 羽釜	カマド内 破片	口 (18.8)	微粒雲母 白色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。鐔は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種伊類
453-4 204	施釉陶器 灰釉塊	カマド内 細片	—	密	良好	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。下半部は回転篋削り。施釉は浸掛。	—
453-5 204	施釉陶器 灰釉塊	カマド内 破片	口 (13.8)	密	良好	浅黄橙	453図-4と同一個体か。	—

## A区第202号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
455-1 204	土師器 坏	覆土内 完形	口 12.6 底 6.5 高 3.8	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、下半部は篋削り。底部は篋削り。内面煤附着。	藤岡系
455-2 204	須恵器 坏	床直層 % 破片	口 12.9 底 6.5 高 4.2	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
455-3 204	須恵器 坏	覆土内 % 破片	口 12.9 底 6.4 高 3.6	白色微粒子 シルト粗粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	栗附系

遺物一覧表

455-4 204	須恵器 坏	ピット内 ほぼ完形	口底 13.0 6.2 4.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	乗附系か 秋間系
455-5 204	須恵器 坏	カマド内 完形	口底 13.4 7.0 4.0	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。 455-2と同一工人の作と考えられる。	秋間系
455-6 204	須恵器 坏	床直層 %	口底 13.4 4.2 6.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	秋間系か 乗附系
455-7 205	須恵器 坏	カマド内 完形	口底 13.1 6.0 4.3	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	藤岡系
455-8 205	須恵器 坏	覆土内 ほぼ完形	口底 13.4 6.5 3.5	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	藤岡系
455-9 205	須恵器 坏	覆土内 %	口底 13.6 6.6 4.3	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	藤岡系
455-10 205	須恵器 坏	ピット内 完形	口底 13.6 7.0 3.5	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	乗附系
455-11 205	土師器 甕	覆土内 破片	底（7.6）	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。器外面は横位の筥削り、器内面は横位の筥撫でを施す。	藤岡系
455-12 205	須恵器 埴	カマド内 ほぼ完形	口底 13.8 7.0 4.6	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。器内外面に自然釉が付着する。	不詳
455-13 205	須恵器 埴	カマド内 %	口底 13.1 6.7 5.4	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。付高台。外器面に型膚状の器面が多く認められる。	藤岡系
455-14 205	須恵器 埴	カマド内 %	口底 13.5 5.7 5.0	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。付高台。	藤岡系
455-15 205	須恵器 埴	覆土内 %	口底 (13.7) 6.3 (5.0)	白色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。高台欠損（付高台）。	吉井系
455-16 205	須恵器 埴	カマド内 一部欠損	口底 13.7 5.7 5.8	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。付高台。全体に歪がある。	藤岡系
455-17 205	須恵器 埴	覆土内 完形	口底 13.8 5.8 5.5	白色微粒子 微粒雲母 透明鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。付高台。	藤岡系
455-18 205	須恵器 埴	カマド内 一部欠損	口底 13.8 6.2 4.8	白色粒子 アイサイト	還元焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。付高台。	吉井・藤岡系
455-19 205	須恵器 埴	カマド内 %	口底 14.4 7.2 4.9	白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。付高台。	不詳
455-20 205	須恵器 埴	覆土内 破片	口底 (14.5) (7.0) (4.5)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。	吉井・藤岡系
456-1 205	須恵器 埴	覆土内 %	口底 14.5 6.7 5.0	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	灰黄	轆轤成形（右回転）。付高台。	不詳
456-2 205	須恵器 埴	カマド内 %	口底 (14.8) 7.0 5.2	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	秋間系
456-3 205	須恵器 埴	覆土内 %	口底 (14.7) (6.5) 5.4	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。	秋間系
456-4 205	須恵器 埴	カマド内 %	口底 14.8 7.6 5.2	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	吉井・藤岡系

## A区(202号住居跡)

456-5 205	須恵器 埴	カマド内 埴	口 (15.7) 底 7.2 高 5.9	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
456-6 205	須恵器 埴	カマド内 埴	口 (16.3) 底 8.0 高 6.7	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
456-7 205	須恵器 埴	覆土内 破片	底 (6.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	東毛系 (笠懸系)
456-8 206	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。	秋間系か
456-9 206	須恵器 黒色土器 埴	覆土内 破片	口 (16.6)	白色微粒子 微粒砂	酸化焰	明黄橙 黒灰	轆轤成形(右回転)。器内面に暗文を施し、吸炭させている。	不詳
456-10 205	須恵器 埴	覆土内 破片	底 9.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
456-11 206	土師器 小型甕	カマド内 破片	口 (6.2)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙褐	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
456-12 205	土師器 台付甕	ピット内 埴	口 14.1 底 9.1 高 17.5	白色微粒子 黒色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。脚部は横撫でを施す。	藤岡系
456-13 205	土師器 甕	カマド内 埴	口 18.6	微粒雲母	酸化焰		口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
456-14 206	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
456-15 206	土師器 甕	カマド内 破片	口 (19.1)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
457-1 205	土師器 甕	覆土内 破片	口 (19.4)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
457-2 206	鉄器 鎌	覆土内 完存	幅 2.9 重 78.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損により刃部を一部欠損する。	—
457-3 206	鉄器 鎌	覆土内 完存	残長 15.1 身幅 3.3 重 71.7	—	—	—	全体に錆化が非常に著しい。刃部は形状から2回の研ぎ違えによる形状変化がある。	—
457-4 206	鉄器 鞘尻金具 か	覆土内 破片	重 24.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。板状の素材を楕円状に巻き、一方側を盲にしたと考えられる。	—
457-5 206	鉄器 刀子	覆土内 破片	重ね 0.2 重 3.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損で身側と茎尻側を失っている。茎は断面長方形。	—
457-6 206	石製品 砥石	カマド内 埴	長 15.0 幅 12.1 厚 9.6	粗粒安山岩	—	—	使用面は4面で、断面正方形を呈する。使用痕から置砥と考えられる。	重 1,430g
457-7 206	石製品 砥石	床面直上 完存	長 13.8 幅 5.0 厚 2.6	砥沢石	—	—	使用面の形状から置砥と考えられる。使用面は4面で、特に裏面側は手持砥使用の可能性はある。	重190g
457-8 206	瓦 男瓦	カマド内 埴	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	黒褐	紐作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	笠懸系
457-9 瓦-633	瓦 男瓦	カマド内 細片	厚 2.0	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作りか。面縦位の撫で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕か。篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井系
457-10 瓦-634 206	瓦 女瓦	カマド内 埴	厚 1.6	白色鉍物粒子 白色粒子 微粒雲母	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面木目叩き篋描き文字瓦「山浄七」(凸面)。端部面取り1回。	乗附系か 吉井系
458-1 瓦-635 207	瓦 女瓦	カマド周 辺埴	厚 2.2	白色鉍物粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回篋描き文字瓦「入木」(凸面)。	吉井系か 乗附系
458-2 207	瓦 女瓦	カマド周 辺埴	長 41.9 厚 1.8	白色鉍物粒子 微粒雲母	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後撫で整形。側部面取り2回・端部面取り3回。	吉井系
458-3 207	瓦 女瓦	カマド内 埴	厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	乗附系



## 遺物一覧表

458-4 207	瓦 女瓦	カマド内 瓦	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・寄木痕。 凸面離砂痕・縄叩き(密)。側部面取り2回・ 端部面取り2回。	秋間系
--------------	---------	-----------	-------	-------	-----	----	---	-----

## A区第204号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
459-1 207	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (13.2)	白色微粒子 微粒雲母 白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
459-2 207	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (16.6)	白色鉱物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黒褐	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤 岡系
459-3 207	瓦 女瓦	ピット内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻作り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密) 整 形後轆轤撫での再整形。側部面取り2回・端 部面取り3回。	吉井系

## A区第207号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
461-1 208	土師器 坏	覆土内 瓦	口 (10.9) 高 ( 3.9)	微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	搬入品
461-2 207	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.9)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
461-3 207	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子	還元焰	暗灰	轆轤成形(右回転)か。	乗附系か 藤岡系
461-4 207	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.0)	白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反し、二段作りする。 外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削 り。	東毛系
461-5 207	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直 立し強い外稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
461-6 207	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
461-7 207	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
461-8 207	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
461-9 208	土師器 坏	覆土内 瓦	口 (13.7)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削 り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚 を残す。	藤岡系
462-1 207	土師器 甕	床直層 破片	口 (23.0)	微粒雲母 輝緑片岩 白色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	紐作り乃至型作り成形。器外面は縦位の篋撫 で、器内面は横位の撫で整形。	藤岡系
462-2 207	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.4	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	乗附系
462-3 207	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子 白色鉱物粒子 細粒砂	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は不詳)。後轆轤再整形。	乗附系か 藤岡系
462-4 207	須恵器 高坏	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。窓を有する。	秋間系
462-5 207	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
462-6 207	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩きか・内面宛具 は素文)。	乗附系
462-7 208	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子 細粒砂	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
462-8 208	須恵器 甕	覆土内 破片	底 ( 6.5)	白色粒子	還元焰 焼締め	灰白 赤褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。底部・腰部は篋 削り。内外面自然釉付着。	不詳
462-9 207	銅製品 不詳	カマド内 破片	厚 0.1以下 重 7.3	—	—	—	全体に錆化が著しい。薄い板状であるが廃棄 時に折る様にして切断しており、この折の歪 みが全体に及んでいる。	—

462-10 207	石製品 砥石	覆土内 完存	長 幅 厚	4.1 3.6 0.95	硬質泥岩	—	—	非常に硬質な材質である。断片の為詳細不詳。	重15g
462-11 208	礫器 敲石	覆土内 完存	長 幅 厚	11.3 5.6 3.6	石英閃緑岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重320g
462-12 208	礫器 擦石	覆土内 完存	長 幅 厚	13.2 7.7 4.1	粗粒安山岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重650g
462-13 208	礫器 擦石	床直層 完存	長 幅 厚	13.2 5.5 3.7	溶結凝灰岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重420g
462-14 208	礫器 完存	床直 完存	長 幅 厚	13.8 5.2 4.3	細粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重510g
462-15 208	礫器 敲石	床直 完存	長 幅 厚	14.2 8.7 3.6	変質安山岩	—	—	側部に敲打痕が認められる。	重685g
463-1 208	礫器 敲石	床直 完存	長 幅 厚	13.7 6.5 4.4	凝灰岩質砂岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重550g
463-2 208	礫器 敲石	床直層 完存	長 幅 厚	15.0 7.7 3.5	デイサイト	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重670g

## A区第208号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
465-1 209	土師器 坏	床直層 ほぼ完形	口 13.5 高 4.2	微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は直立する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
465-2 209	土師器 甔	覆土内 一部欠損	口 (22.0) 底 7.9 高 29.6	小円礫 透明円粒鉱物	酸化焰	黄褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	月夜野系
465-3 208	礫器 敲石	床直層 完存	長 13.1 幅 7.6 厚 5.3	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重730g
465-4 208	礫器 擦石	床直層 完存	長 14.7 幅 5.6 厚 5.8	ひん岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重710g
465-5 208	礫器 敲石	床直層 完存	長 16.5 幅 7.5 厚 3.8	溶結凝灰岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重690g
465-6 208	礫器 完存	覆土内 完存	長 22.7 幅 19.2 厚 5.7	石英閃緑岩	—	—	表面は非常に荒れている。表皮は部分的にしか残存しない。	重 5,700g
466-1	土師器 坏	ビット内 破片	口 (14.0)	白色微粒子 赤褐色粒子 デイサイト	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁は外傾する。下半部は篋削り。底部は篋削り。	藤岡系

## B区4号井戸跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
468-1 209	土師器 坏	埋土内 1/2	口 11.6 高 (3.6)	微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
468-2 209	土師器 坏	埋土内 破片	口 (14.4)	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削り整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
468-3 209	土師器 坏	埋土内 破片	口 (17.2)	微粒雲母	酸化焰	浅黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削り整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系

遺物一覧表

468-4 409	土師器 鉢	埋土内 破片	口 (18.0)	赤褐色粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部は篋削り整形。 器内面は撫で整形後放射状暗文を施す。	藤岡系
468-5 409	土師器 鉢	埋土内 破片	口 (23.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は短く外反する。外面口 縁直下に強い稜を有する。口縁直下に型膚を 残す。体部・底部は篋削り。	藤岡系
468-6 409	須恵器 坏 蓋	埋土内 1/4	摘口 (13.4) 高 2.3	白色微粒子	還元焰	灰	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
468-7 409	須恵器 坏 蓋	埋土内 1/4	摘口 (15.8) 高 2.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上 半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
468-8 209	須恵器 坏 蓋	埋土内 一部欠損	摘口 16.0 高 4.4	白色微粒子	還元焰	灰白	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
468-9 409	須恵器 坏 蓋	埋土内 1/4	摘口 (17.0) 高 2.5	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	端部は返りを有する。轆轤成形(右回転)。上 半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
468-10 409	須恵器 蓋	埋土内 1/4	口 (14.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。天上部は回転篋削り後轆 轤再整形。	吉井・藤 岡系
468-11 409	須恵器 葉壺・蓋	埋土内 1/4	銜 14.0	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。銜は貼り付け。	秋間系
468-12 209	須恵器 蓋	埋土内 1/4		黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。摘みは貼付。肩に強い稜 を有する。	秋間系
468-13 209	須恵器 坏	埋土内 1/4	口 (10.7) 底 (6.1) 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋削り。	秋間系
468-14 409	須恵器 坏	埋土内 1/4	口 11.2 底 6.6 高 3.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち篋撫で。	秋間系
468-15 210	須恵器 坏	埋土内 ほぼ完形	口 11.8 底 7.0 高 4.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
468-16 210	須恵器 坏	埋土内 一部欠損	口 11.9 底 6.9 高 3.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
468-17 210	須恵器 坏	埋土内 1/4	口 11.4 底 6.4 高 3.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋起し。	秋間系
468-18 210	須恵器 坏	埋土内 1/4	口 (12.0) 底 (6.9) 高 3.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
468-19 210	須恵器 坏	埋土内 一部欠損	口 12.2 底 6.8 高 3.9	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
468-20 210	須恵器 坏	埋土内 1/4	口 (12.3) 底 (8.0) 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋起し。	秋間系
468-21 210	須恵器 坏	埋土内 1/4	口 (12.4) 底 (8.0) 高 3.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋起し。	秋間系
468-22 210	須恵器 坏	埋土内 1/4	口 12.7 底 7.6 高 3.2	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
468-23 210	須恵器 坏	埋土内 1/4	口 (12.7) 底 (8.0) 高 4.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋起し。	秋間系
468-24 210	須恵器 坏	埋土内 1/4	口 (12.8) 底 (8.3) 高 3.5	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転篋起し。	秋間系

## B区(4号井戸跡)

468-25 210	須恵器 坏	埋土内 %	口 底 高	13.0 7.9 3.4	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
469-1 210	須恵器 坏	埋土内 %	口 底 高	13.1 7.2 3.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
469-2 210	須恵器 坏	埋土内 %	口 底 高	14.0 8.0 3.3	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋起し。	秋間系
469-3 210	須恵器 坏	埋土内 %	口	10.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。器外面自然釉付着。	秋間系
469-4 209	須恵器 坏	埋土内 %	口	(14.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
469-5 210	須恵器 境	埋土内 %	口 底 高	9.6 6.0 5.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-6	須恵器 高台付坏	埋土内 破片	口 底 高	(15.0) (10.0) 4.0	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
469-7 210	須恵器 境	埋土内 %	口 底 高	(13.1) 8.9 4.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-8 210	須恵器 境	埋土内 %	口 底 高	(15.2) (9.3) 7.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-9 210	須恵器 境	埋土内 %	口	14.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。高台欠損後坏に転用。	秋間系
469-10 210	須恵器 境	埋土内 %	口	(12.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部・高台欠損。器外面自然釉付着。	秋間系
469-11 209	須恵器 境	埋土内 破片	口	(16.0)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部・高台欠損。	秋間系
469-12 209	須恵器 内黒土器 境(内黒)	埋土内 破片	—	—	白色微粒子	酸化焰	内・黒外・黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。器内面に暗文を施し吸炭させている。	笠懸系
469-13 210	須恵器 境	埋土内 %	底	8.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-14 210	須恵器 境	埋土内 破片	底	8.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-15 210	須恵器 境	埋土内 %	底	(9.2)	黒色粒子 白色粒子 透明鈹物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
469-16 209	須恵器 境	埋土内 破片	底	(11.4)	白色粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。外面自然釉付着。	不詳
469-17 210	須恵器 皿	埋土内 %	口 底 高	(14.4) 8.8 3.0	白色鈹物粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系蛇
469-18 210	須恵器 皿	埋土内 破片	底	11.0	白色鈹物粒子 白色微粒子	還元焰	暗青灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
469-19 210	須恵器 境	埋土内 破片	底	10.0	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
470-1 209	須恵器 盤	埋土内 破片	口	(9.7)	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
470-2 209	須恵器 盤	埋土内 破片	口	(22.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。体部は回転篋削り。	秋間系
470-3 210	須恵器 盤	埋土内 破片	底	(15.0)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
470-4 210	須恵器 盤	埋土内 %	底	(16.2)	赤褐色粒子 白色微粒子 白色鈹物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
470-5 209	須恵器 盤	埋土内 破片	底	(16.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。皿部が接地する。	搬入品か

遺物一覧表

470-6 210	須惠器 高坏	埋土内 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
470-7 209	須惠器 内黒土器 高坏	埋土内 破片	—	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。坏部器内面に暗文を施し、吸炭させている。	笠懸系
470-8 210	須惠器 高坏	埋土内 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	坏部は轆轤成形(右回転)。脚部は紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤岡系
470-9 210	須惠器 高坏	埋土内 破片	底 9.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	脚部は紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
470-10 210	須惠器 高坏	埋土内 破片	底 9.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	脚部は紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
470-11 210	須惠器 高坏	埋土内 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤岡系
470-12 211	須惠器 高坏	埋土内 破片	底 (10.0)	白色微粒子	還元焰	灰	長脚二段透しの高坏脚部。紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
470-13 210	須惠器 鉢	埋土内 破片	底 (10.7)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系か 秋間系
470-14 211	土師器 甕	埋土内 破片	口 (28.0)	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は短かく外反し横撫でを施す。器外面は縦位の筥撫で、器内面は横位の筥撫でを施す。	藤岡系
470-15 212	須惠器 壺	埋土内 破片	口 (13.8)	白色微粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
470-16 211	須惠器 長頸壺	埋土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
470-17 211	須惠器 短頸壺	埋土内 破片	口 (9.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤整形(右回転)。	秋間系
470-18 211	須惠器 双耳壺	埋土内 破片	厚 0.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(右回転)の壺肩部に粘土を貼付しヘラ撫で整形している。	秋間系
470-19 211	須惠器 甕	埋土内 破片	口 (39.0)	黒色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	東海系
471-1 211	須惠器 甕	埋土内 破片	口 (39.0)	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	口縁部は外傾し、口縁部及び口唇部に6本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	東海系か
471-2 212	須惠器 甕	埋土内 破片	口 (20.8)	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	吉井系
471-3 211	須惠器 甕	埋土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	黄灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。器内外面に自然釉付着。	秋間系
471-4 211	須惠器 甕	埋土内 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)器内面に文字乃至墨痕が認められる。	秋間系
471-5 211	須惠器 甕	埋土内 破片	厚 0.7	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)後轆轤再整形。内面は、磨滅。	秋間系
471-6 211	須惠器 甕	埋土内 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形。叩具等は不詳。	吉井系
471-7 211	須惠器 甕	埋土内 破片	厚 1.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	吉井系
472-1 211	須惠器 甕	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面は磨滅。	秋間系
472-2 211	須惠器 甕	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
472-3 211	須惠器 大甕	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。下半と上半で胎土使い別ける。	秋間系
472-4 211	須惠器 甕	埋土内 破片	厚 1.1	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
472-5 211	須惠器 甕	埋土内 破片	底 (15.6)	白色微粒子	還元焰 焼締	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	藤岡系
473-1 212	須惠器 甕	埋土内 破片	底 (13.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は粗い筥撫でを施す。	秋間系
473-2 212	礫器	埋土内 完存	長幅厚 1.1 5.2 3.6	石英閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重320g

## B区(4号井戸跡)

473-3 212	礫器	埋土内 完存	長 12.5 幅 4.7 厚 4.6	流紋岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重500g
473-4 212	礫器 敲石	埋土内 ほぼ完存	長 (13.1) 幅 6.2 厚 4.5	ホルンフェルス	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重520g
473-5 212	礫器	埋土内 完存	長 12.6 幅 5.1 厚 4.5	ひん岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重400g
473-6 212	礫器	埋土内 完存	長 13.9 幅 5.3 厚 3.5	ひん岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重340g
473-7 212	礫器 擦石	埋土内 完存	長 13.4 幅 6.5 厚 3.8	石英閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。	重580g
473-8 212	礫器	埋土内 完存	長 14.3 幅 6.6 厚 3.9	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重530g
473-9 212	礫器	埋土内 完存	長 14.9 幅 7.0 厚 4.3	石英閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重650g
473-10 212	礫器 擦石	埋土内 ほぼ完存	長 (15.5) 幅 6.9 厚 4.5	石英閃緑岩	—	—	平坦面が使用に伴ない磨滅する。小口側は敲打に伴ない欠損する。	重870g
474-1 212	石製品 砥石 破片	埋土内 破片	幅 8.8 厚 8.8	粗粒安山岩	—	—	確実な使用面は2面認められる。縄文期の石皿の転用と思われる。	重920g
474-2 212	礫器 敲石	埋土内 完存	長 13.8 幅 6.4 厚 3.2	石英閃緑岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重460g
474-3 212	石製品 砥石 破片	埋土内 破片	厚 4.2	砥沢石	—	—	残存部で縦位に8面の使用面が認められ多面体状になる。使用痕から手持砥と考えられる。	重16.0
474-4 212	石造品	埋土内	幅 14.8	二ツ岳軽石	—	—	堂塔の基壇の化粧に用いられると考えられる。面は磨かれている。	—
474-5 212	施釉陶器 緑釉 輪花境	覆土内 破片	厚 0.42	やや粗い。	良好	灰	轆轤成形(右回転)。口唇部を摘み輪花を施す。	—
475-1 212	石造品	埋土内 破片	厚 11.6	角閃石安山岩	—	—	先端(小口)側が残存する。国分寺の堂字の基壇化粧に用いた束石か。面整形は粗い。	重 2,980g
476-1 213 瓦-662	瓦 鏡瓦	埋土内 ½	厚 2.4	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一本作りか。単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。瓦当部は印籠付。	吉井系
476-2 213 瓦-675	瓦 宇瓦	埋土内 ½	厚 3.6	白色微粒子	還元焰	灰	右扁行唐草文。外区に珠文帯を有する。頸は曲線頸。凹面布目擦り消し。	還元焰
476-3 213 瓦-676	瓦 宇瓦	埋土内 破片	厚 3.9	白色微粒子	酸化焰	黄橙	国分寺創建統一意匠右扁行唐草文。外区に珠文を配するが、珠文は遺存しない。	笠懸系
476-4 213 瓦-636	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。刻印文字瓦「杵」(凸面)。	笠懸系
476-5 213 瓦-637	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面斜格子叩き。篋描き文字瓦「杵」(凹面)。	笠懸系
476-6 213 瓦-638	瓦 玉縁付 男瓦	埋土内 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。凹面布合せ目痕篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。	秋間系
476-7 213 瓦-639	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で・篋撫で整形。側部面取り3回。篋描き文字瓦「不詳」(凸面)。	吉井・藤岡系
476-8 213 瓦-640	瓦 女瓦	埋土内 ½	厚 2.3	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。篋描き文字瓦「子校男」(凸面)。	吉井系



遺物一覧表

477-1 213	瓦 玉縁付 男瓦	埋土内 1/4	狭玉 厚	14.4 10.7 1.9	白色鋳物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り3回・端部面取り2回。玉縁接合はA類。	笠懸系
477-2 213	瓦 玉縁付 男瓦	埋土内 1/4	玉厚	12.5 1.6	白色鋳物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後轆轤再整形。側部面取り2回・端部面取り2回。玉縁接合はA類。	吉井・藤岡系
477-3 213	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚	1.5	白色粒子	還元焰	白灰	半截作りか。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り3回。	秋間系か
477-4 213	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚	1.0	白色鋳物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作りか。側部面取り2回。	吉井系
477-5 213	瓦 男瓦	埋土内 1/4	厚	2.3	白色鋳物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面縄叩き整形(密)後縦位の撫で再整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
477-6 213	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚	2.0	黒色微粒子 白色鋳物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縄叩き(密)。	乗附系
477-7 213	瓦 男瓦	埋土内 1/4	厚	1.7	白色鋳物粒子 白色粒子	酸化焰	明黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
478-1 214	瓦 男瓦	埋土内 1/4	厚	1.6	白色微粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り4回。	笠懸系
478-2 214	瓦 男瓦	埋土内 1/4	厚	2.6	白色微粒子	還元焰	暗灰褐	半截作り。凸面轆轤整形。端部面取り4回。	笠懸系
478-3 214	瓦 男瓦	埋土内 1/4	厚	1.8	白色微粒子	中性焰	鈍黄橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕凸面轆轤整形。側部面取り4回。	笠懸系
478-4 214	瓦 男瓦	埋土内 1/4	狭玉 厚	15.0 1.4	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	笠懸系
478-5 214	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚	2.1	白色鋳物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	半截作り。凸面縄叩き(密)。側部面取り2回。	吉井系
479-1 214	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚	0.9	白色鋳物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	477図-4と同一個体。	吉井系
479-2 214	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚	2.4	白色鋳物粒子 白色粒子	還元焰	黄橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
479-3 214	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚	1.4	白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系
479-4 214	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚	2.0	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の削り整形。側部面取り2回。	笠懸系
479-5 215	瓦 男瓦	埋土内 1/4	厚	1.7	白色鋳物粒子 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。面縦位の撫で整形。側部面取り3回。粘土板接合は「Z」。	笠懸系
479-6 214	瓦 男瓦	埋土内 1/4	厚	1.6	白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り1回。	笠懸系
479-7 214	瓦 男瓦	埋土内 1/4	厚	1.6	白色微粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り1回・端部面取り3回。	笠懸系
480-1 214	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。側部面取り4回。	笠懸系
480-2 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	2.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形後正格子叩き整形。側部面取り2回。	笠懸系
480-3 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。凸面粘土板剥ぎ取り痕。端部面取り2回。	笠懸系
480-4 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	1.8	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面撫で整形後正格子叩き整形。側部面取り2回。	笠懸系
480-5 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	1.8	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。両面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
480-6 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚	1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面撫で整形後格子叩き整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
480-7 215	瓦 女瓦	埋土内 1/4	厚	2.2	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後正格子叩き整形。側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系

## B区(4号井戸跡)

481-1 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	橙	一枚作り。凸面縄叩き。側部面取り3回。	笠懸系
481-2 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縄叩き。端部面取り2回。	秋間系
481-3 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き。側部面取り3回・端部面取り2回。	乗附系か 藤岡系
481-4 216	瓦 女瓦	埋土内 破片	狭 27.5 厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻き造り。凹面布目擦り消し。凸面縄叩き(密)。側部面取り4回・端部面取り3回。	吉井系
481-5 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目擦り消し・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系
482-1 216 墨書-20	瓦 女瓦	埋土内 ほぼ完形	長 39.2 広 26.0 狭 23.0	白色鉱物粒子 白色粒子 シルト粗粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り2回。凸面に墨書「人」が認められる。	吉井系
483-1 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回・端部面取り4回。	吉井系
483-2 215	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)後縦位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井系
483-3 216	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り3回。	吉井系
483-4 216	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 被二次 焼成	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。側部面取り3回。	吉井系か 笠懸系
483-5 216	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き。	北毛系
483-6 216	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	桶巻き造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)側部面取り3回・端部面取り4回。	吉井系
484-1 216	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰黄	桶巻き造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)整形後轆轤撫での再整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	不詳
484-2 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き(密)。側部面取り4回。	吉井系
484-3 216	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.9	白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り4回・端部面取り3回。	乗附系か
484-4 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井・藤 岡系
484-5 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子 デイスait	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面轆轤整形。側部面取り2回。	吉井系
485-1 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	黒褐 灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井・藤 岡系
485-2 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	桶巻き造りか。凹面模骨痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回。	吉井系
485-3 217	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回・端部面取り3回。	笠懸系
485-4 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・寄木痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	秋間系
486-1 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
486-2 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰	鈍褐	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕。側部面取り2回・端部面取り1回。	笠懸系
486-3 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	秋間系
486-4 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 3.5	白色鉱物粒子 白色粒子 デイスait	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
486-5 217	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一見窯体等の融着物と思われるが小鍛冶での所産とも考えられる。瓦自体の成作技法は不分明。	吉井・藤 岡系

遺物一覧表

B区土坑

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
487-1 218	須恵器 蓋	B区39土坑 破片	口 (17.2)	白色粒子 黒色鉾物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。端部は折り返し。	秋間系
487-2 218	須恵器 埴	B区39土坑 破片	口 (13.0)	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤岡系
487-3 218	須恵器 埴	B区39土坑 破片	口 (11.4)	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系か
487-4 218	須恵器 坏	B区39土坑 破片	口 (14.8)	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)	秋間系
487-5	土師器 坏	B区80土坑 覆土内 破片	口 (13.0)	黒色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部直下に型膚を残す。底部は篋削りを施す。	藤岡系
488-1 218	土師器 坏	B区96土坑 破片	口 13.0	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	赤褐	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
488-2 218	施釉陶器 灰釉埴	B区96土坑 破片	口 (15.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛か。	—
488-3 218	土師器 甕	B区96土坑 破片	口 (17.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で。	藤岡系
488-4 218	礫器	B区96土坑 完存	長 9.5 幅 8.1 厚 3.7	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重460g
488-5 218	須恵器 蓋	B区101土坑 破片	口 (14.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。端部は返りを有する。	秋間系
488-6 218	須恵器 埴	B区101土坑 破片	口 (11.8)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
488-7 218	須恵器 甕	B区101土坑 破片	厚 0.8	白色微粒子	酸化焰	浅黄	紐作り。叩き整形 (外面格子叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
488-8 218	須恵器 埴	B区109土坑 破片	口 (14.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
488-9 218	土師器 坏	B区147土坑 破片	口 (11.4)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
489-1 218	土師器 坏	B区148土坑 破片	口 (18.0)	微粒雲母 黒色鉾物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
489-2 218	土師器 坏	土坑 破片	口 (18.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
489-3 218	須恵器 羽釜	B区150土坑 破片	厚 1.7	白色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井型羽釜
489-4 218	須恵器 黒色土器 埴	B区150土坑 破片	底 (6.4)	白色粒子	還元焰 か	黒灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
489-5 218	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 1.0	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面叩具不分明・内面宛具は素文) 後外面轆轤整形 (右回転)。	秋間系
489-6 218	須恵器 坏蓋	覆土内 破片	厚 0.5	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。天上部は回転篋削り。外面に自然釉付着。	乗附系

## B区土坑

490-1 218	須恵器 足高台 付塊	B区120 土坑 口縁部 一部欠損	口 24.3 底 13.8 高 11.0	白色微粒子 白色鉍物粒子 微粒雲母	酸化焰	黄灰	轆轤成形（右回転）。付高台。腰部篋削。	藤岡系
490-2	須恵器 甕	B区120 土坑 破片	厚 1.5	白色鉍物粒子	還元焰	外灰 内橙	全体にハゼが多く荒れている。	吉井・藤 岡系
491-1 218	須恵器 塊	A区4土 坑 破片	口 (16.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄褐	轆轤成形（右回転）。	藤岡系か
491-2 218	瓦 女瓦	A区8土 坑 破片	厚 2.4	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面木目叩き。側部面取り4回。	吉井系
492-1 218	土師器 甕	A区142 土坑 破片	底 6.0	白色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作成形乃至型作り成形。器外面は風化が著しく整形は不明。	不詳
492-2 218	施釉陶器 灰釉瓶	A区144 土坑 破片	底 (8.0)	やや密	良好	灰黄	紐作り後轆轤整形(左回転か)。外面回転篋削り(左回転)。	—
492-3 218	須恵器 塊	A区256 土坑 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色鉍物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	藤岡系
493-1 219	瓦 女瓦	A区287 土坑 破片	厚 1.6	白色鉍物粒子	酸化焰	黄灰	一枚作りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き（密）後撫で整形。側部面取り1回。	笠懸系か
493-2 218	土師器 坏	A区332 土坑 破片	口 (14.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部内湾気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
493-3 218	土師器 坏	A区332 土坑 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に弱い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
493-4 218	須恵器 高台付坏	A区332 土坑 破片	口 (13.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	橙	轆轤成形（右回転）。付高台。	秋間系
493-5 218	土師器 坏	覆土内 破片	底 (4.4)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。体部は斜位の篋削り、底部は篋削り整形。器内面に二重暗文を施す。	藤岡系
493-6 218	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋削り工具の横撫により直立気味。底部は篋削り。	藤岡系
493-7 219	瓦 女瓦	A区2土 坑 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻造り。凹面模骨痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き（密）整形後轆轤撫での再整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	吉井系
493-8	瓦 女瓦	A区17土 坑 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
493-9 219	瓦 女瓦	A区12土 坑 破片	厚 2.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縄叩き（密）撫で整形。凹面布目擦り消し。側部面取り2回・端部面取り2回。	乗附系
493-10 219	瓦 男瓦	A区20土 坑 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	橙	半載作り。凸面轆轤整形。側部面取り3回。	笠懸系
493-11 219	瓦 女瓦	A区42土 坑 破片	厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、離砂痕。凸面縄叩き（密）T字状。側部面取り1回・端部面取り1回。	秋間系
493-12 219	瓦 女瓦	A区183 土坑 破片	厚 2.3	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻造り。凹面篋撫で。凸面轆轤整形。側部面取り1回。	吉井系
494-1 218	土師器 甕	A区178 土坑 破片	口 (25.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部には型作りの痕跡を留める。	藤岡系

## 遺物一覧表

## B 区 外

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
495-1 223	縄文式土 器 浅鉢	V層 破片	—	白色粒子	酸化焰	鈍赤	直立気味の口縁部。全体に赤色顔料を塗布する。	—
495-2 223	縄文式土 器 深鉢	II-E-1 破片	—	白色粒子 細粒砂	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。地文に節目条痕を施し、ボタン状・棒状貼付文を施す。	—
495-3 223	縄文式土 器 深鉢	土坑 破片	—	白色粒子	酸化焰	鈍橙	4単位の波状口縁と考えられる。隆帯文を施文し地文に縄文R-1を施す。	—
495-4 223	縄文式土 器 深鉢	V層 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄褐	把手部、地文にR1の縄文を施文する。	—
495-5 223	縄文式土 器 深鉢	V層 破片	—	白色粒子 細粒砂	酸化焰	鈍黄橙	把手部。地文にR・1の縄文を施文する。	—
495-6 223	縄文式土 器 深鉢	B区内 破片	—	白色鉍物粒子 細粒砂	酸化焰	鈍褐	4単位の波状口縁を呈すると考えられる。地文にR1の縄文を施文し、隆帯文を施す。	—
495-7 223	縄文式土 器 台付鉢	IV層 破片	底 5.2	白色粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	浅黄橙	底部は丸く、脚を有する。器外面は篋撫でを施す。	—
495-8 223	縄文式土 器 深鉢	V層 破片	—	白色粒子 細粒砂	酸化焰	褐	キャリパー状を呈す口縁部に隆帯文を施す。隆帯文間に稜杉文を施文する。	—
495-9 223	縄文式土 器 不詳	43-37III 層破片	—	細粒砂 白色粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。口縁部は受け口状を呈する。	—
495-10 223	縄文式土 器 不詳	覆土内 破片	厚 1.1	赤褐色粒子 透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	明黄橙	地文にRL原体の縄文を施文し二条の懸垂文を施す。	—
495-11 223	縄文式土 器 深鉢	79土坑 破片	底 (6.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍黄褐	地文にLR縄文を施文する。	—
495-12 223	土 師 器 坏	III層 破片	口 (10.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
495-13 223	土 師 器 坏	B区内 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
495-14 223	土 師 器 坏	III層 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
495-15 223	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (12.8)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
495-16 223	土 師 器 坏	覆土内 破片	口 (13.9)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
495-17 223	土 師 器 坏	B区内 破片	口 (16.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残す。底部は篋削り。	藤岡系
495-18 223	土 師 器 坏	表土 破片	口 (14.0)	微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
495-19 223	土 師 器 坏	III層 破片	口 (10.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
495-20 223	土 師 器 坏	III層 破片	口 (10.2)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。体部に型膚を残す。	藤岡系
495-21 223	土 師 器 坏	III層 破片	口 (14.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。器面全体に型膚を残す。	藤岡系
495-22 223	土 師 器 坏	表土 破片	口 (13.8)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
495-23 223	土 師 器 坏	B区内 破片	口 (10.0)	白色微粒子 黒色鉍物粒子 透明鉍物粒子	酸化焰	黄褐	型作り成形。口縁部は直立する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	不詳
495-24 219	土 師 器 坏	43-B-37 III層 破片	口 (11.0) 底 (6.0) 高 (3.0)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は横撫でを施す。体部・底部は型膚を残し未調整。器内面は横撫でを施す。	藤岡系
495-25 223	土 師 器 坏	表土 破片	口 (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
495-26 223	土 師 器 坏	40-B-42 III層 破片	口 (16.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系

## B 区 外

495-27 223	土 師 器 坏	III層 破片	口 (16.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
495-28 223	土 師 器 坏	III層 破片	口 (12.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-29 219	土 師 器 坏	III層 破片	口 (12.0) 高 4.5	赤褐色粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は横位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-30 223	土 師 器 坏	中世 ビット 破片	口 (17.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-31 223	土 師 器 坏	38-B-36 III層 破片	口 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面風化が著しいが放射状暗文を施したと考えられる。	藤岡系
495-32 223	土 師 器 坏	表土 破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-33 223	土 師 器 坏	III層 破片	口 (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-34 223	土 師 器 坏	表土 破片	口 (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-35 223	土 師 器 坏	表土 破片	口 (18.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。	藤岡系
495-36 223	土 師 器 内黒土器 坏	表土 破片	口 (12.0)	白色微粒子	酸化焰	内・黒外・鈍黄橙	型作り成形。口縁部は直立する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。口縁部・口縁直下に型膚を残す。	月夜野系
495-37 223	土 師 器 坏	III層 破片	—	白色微粒子 微粒雲母 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部は外傾し体部は斜位の篋削り、底部は篋削整形。口縁部器内面放射状暗文を施す。器内面に布目の圧痕が認められる。	藤岡系
496-1 224	須 恵 器 坏 蓋	41-B-42 覆土内 破片	摘 1.6 口 (11.8) 高 3.2	黒色粒子	還元焰	灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は擬宝珠を呈し貼り付け。	秋間系
496-2 224	須 恵 器 坏 蓋	41-B-42 III層 破片	摘 ( 4.8) 口 (16.0) 高 ( 2.8)	黒色粒子	還元焰	灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	東海系
496-3 224	須 恵 器 坏 蓋	III層 破片	摘 5.8 口 (13.0) 高 2.8	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。摘部は貼り付後轆轤整形。	藤岡系
496-4 219	須 恵 器 坏 蓋	III層 破片	摘 ( 4.0) 口 (14.0) 高 ( 3.2)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
496-5 224	須 恵 器 坏 蓋	III層 破片	口 (11.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	返りを有する。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。	秋間系
496-6 224	須 恵 器 坏 蓋	III層 破片	摘 ( 4.8) 口 (17.6) 高 ( 4.5)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。	秋間系
496-7 224	須 恵 器 坏 蓋	B区表土 破片	口 (19.0)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。摘部は貼り付け。器内面自然釉付着。	秋間系
496-8 224	須 恵 器 坏 蓋	B区内 破片	口 (14.0)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。摘部は貼り付け。	秋間系
496-9 224	須 恵 器 盖	表土 破片	口 (16.0) 高 ( 2.7)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。天上部は回転篋削り。	秋間系
496-10 224	須 恵 器 薬壺蓋	覆土内 破片	口 (13.8) 口 (12.8)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。罫は貼り付け。器外面に自然釉付着。	秋間系
496-11 224	須 恵 器 薬壺蓋	III層 破片	口 (12.0) 口 (11.4)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。罫は貼り付け。	秋間系



遺物一覧表

496-12 219	須惠器 葉壺蓋	表土 破片	鏝 口 (3.0) (13.0) 高 (3.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
496-13 224	須惠器 葉壺蓋	III層 破片	鏝 (13.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。鏝は貼り付け。	秋間系
496-14 224	須惠器 葉壺蓋	38-B-35 破片	鏝 (13.6)	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)。鏝は貼り付け。	乗附系
496-15 224	須惠器 葉壺蓋	III層 破片	口 (16.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。鏝は貼り付け。	秋間系
496-16 224	須惠器 葉壺蓋	38-B- 35-III層 破片	鏝 (14.0)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。鏝は貼り付け。	秋間系
496-17 224	須惠器 葉壺蓋	無注記 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。鏝は貼り付け。	秋間系
496-18 224	須惠器 葉壺蓋	表土 破片	鏝 (17.2)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。鏝は貼り付け。	秋間系
496-19 219	須惠器 坏	B区内 破片	口 (12.0) 底 (7.0) 高 3.7	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋起し。	秋間系
496-20 224	須惠器 坏	II層 覆土内 破片	口 (15.0) 底 (7.0) 高 (3.8)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は手持ち篋削り。	秋間系
496-21 219	須惠器 坏	III層 破片	口 (13.0) 高 3.4	白色粒子 微粒雲母 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は手持ち篋削り。	秋間系か
496-22 224	須惠器 坏	III層 破片	口 (13.0) 底 (9.6) 高 (3.7)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋起し。	秋間系
496-23 219	須惠器 坏	III層 ¼	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (3.7)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋起し。	乗附系
496-24 224	須惠器 坏	III層覆土 内 破片	口 (14.0) 底 (8.4) 高 (2.9)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋起し。	秋間系
496-25 219	須惠器 坏	覆土内 ½	口 (14.4) 底 10.6 高 3.2	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転篋起し。	乗附系か 藤岡系
496-26 224	須惠器 坏	V層 ¼	口 (8.0) 底 (6.0) 高 (3.1)	黒色粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	東海系
496-27 219	須惠器 坏	1溝 破片	口 (12.6) 底 (9.2) 高 (3.1)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。回転篋削り。	秋間系
496-28 224	須惠器 坏	III層 破片	口 (12.6) 底 (8.0) 高 (4.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
496-29 224	須惠器 坏	III層 破片	口 (10.4) 底 (7.6) 高 (2.7)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
496-30 219	須惠器 坏	B区内 破片	口 (12.0) 底 (6.0) 高 (3.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
497-1 219	須惠器 坏	III層覆土 内 ½	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (3.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
497-2 219	須惠器 坏	III層 破片	口 (13.8) 底 (7.0) 高 (3.3)	白色微粒子 透明鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	笠懸系
497-3 219	須惠器 坏	35-B-25 III層 破片	口 (14.0) 底 (9.8) 高 (3.5)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	吉井・藤 岡系か

## B 区 外

497-4 219	須恵器 坏	表土 %	口 (14.0) 底 8.4 高 3.1	白色微粒子	還元焰	紫灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転篋削り。器内面「+」の窯印。	搬入品
497-5 219	須恵器 皿	表土 破片	口 ( 8.5) 底 ( 5.0) 高 ( 2.0)	微粒雲母 デイサイト 細粒砂	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
497-6 219	須恵器 皿	III層 破片	口 (10.3) 底 ( 5.3) 高 ( 1.8)	微粒雲母 デイサイト 細粒砂	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
497-7 224	須恵器 黒色土器 坏	III層 %	口 ( 9.6) 底 ( 5.0) 高 ( 3.9)	白色微粒子 デイサイト 微粒雲母	酸化焰	斯・鈍褐 外・黒褐	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
497-8 219	須恵器 坏	III層 破片	底 (11.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転篋削り。	秋間系
497-9	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.9)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-10 219	須恵器 坏	III層 破片	口 ( 6.4) 底 ( 6.4) 高 ( 3.2)	微粒雲母 白色鉍物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
497-11 219	須恵器 坏	B区攪乱 破片	口 (11.6) 底 ( 6.0) 高 ( 3.8)	白色鉍物粒子 細粒砂	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
497-12 219	須恵器 坏	38-B-26 III層 %	口 (11.8) 底 6.8 高 3.8	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-13 219	須恵器 坏	II2-T P 溝 %	口 12.0 底 7.2 高 3.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-14 219	須恵器 坏	B区表土 %	口 (12.0) 底 ( 6.2) 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-15 219	須恵器 坏	B区内 破片	口 (12.2) 底 ( 6.0) 高 ( 2.8)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	笠懸系
497-16 219	須恵器 坏	表土 破片	口 (12.2) 底 ( 6.0) 高 4.1	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
497-17 219	須恵器 坏	II層覆土 内 破片	口 (12.0) 底 ( 7.0) 高 3.9	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-18 219	須恵器 坏	III層 破片	口 (12.6) 底 ( 6.0) 高 ( 3.3)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-19 220	須恵器 坏	II層 覆土内 %	口 (12.6) 底 6.2 高 3.3	白色粒子 微粒雲母 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
497-20 220	須恵器 坏	表土 %	口 12.8 底 7.4 高 4.0	白色微粒子	還元焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-21 224	須恵器 坏	40-B-40 III層破片	口 (13.0) 底 ( 7.4) 高 ( 3.9)	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
497-22 220	須恵器 坏	III層 破片	口 (13.0) 底 ( 7.0) 高 ( 4.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	東海系
497-23 220	須恵器 坏	III層 破片	口 (13.0) 底 ( 7.0) 高 ( 3.4)	黒色鉍物粒子 白色微粒子	酸化焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系か
497-24 220	須恵器 坏	表土 破片	口 (13.0) 底 ( 6.0) 高 ( 3.5)	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

497-25 220	須恵器 坏	1溝 破片	口 (13.4) 底 (6.8) 高 (3.8)	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	藤岡系
497-26 220	須恵器 坏	表土 %	口 13.2 底 6.2 高 4.2	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系 (蛇食か)
497-27 224	須恵器 坏	35-5-26 トレンチ 破片	口 (13.4) 底 (9.0) 高 (4.1)	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	東海系
497-28 220	須恵器 坏	表土 破片	口 (13.8) 底 (6.2) 高 (5.0)	白色微粒子 微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	褐灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	吉井系
497-29 220	須恵器 坏(塊)	表土 破片	口 14.4	白色鉱物粒子 微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。高台欠損後坏に転用する。	吉井・藤岡系
498-1 220	須恵器 坏	表土 破片	口 (15.0) 底 (6.2) 高 (5.6)	白色粒子 白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	北毛系
498-2 220	須恵器 坏(塊)	表土 %	口 14.8 底 7.0	白色粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。高台欠損後坏に転用する。	吉井・藤岡系
498-3	須恵器 坏	B区8土 坑 破片	口 (14.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤岡系
498-4 220	須恵器 坏(塊)	表土 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。高台欠損後坏に転用する。	吉井・藤岡系
498-5	須恵器 坏	覆土内 %	底 7.6	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
498-6 220	須恵器 坏	表土 破片	底 (9.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り。	秋間系
498-7 220	須恵器 高台付坏	表土 破片	底 (10.0)	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部回転篋削り。高台は削り出し。	秋間系
498-8 224	須恵器 高台付坏	破片	底 (10.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台は削り出し。	秋間系
498-9 220	須恵器 高台付坏	表土 破片	底 (10.4)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)、底部は回転糸切り後回転篋削り。	乗附系か
498-10 220	須恵器 高台付坏	表土 破片	底 (10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台の成形技法は不詳。	秋間系
498-11	須恵器 高台付坏	III層 破片	底 (11.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台は削り出し。	秋間系
498-12 220	須恵器 塊	III層 %	口 (14.6) 底 5.3 高 7.4	白色鉱物粒子 白色微粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井系
498-13 220 墨書-21	須恵器 塊	III層 破片	口 (12.0) 底 (6.8) 高 5.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。器外面に墨書が認められるが判読不能	秋間系
498-14 220	須恵器 塊	表土 %	口 (12.0) 底 7.2 高 5.0	赤褐色粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。器外面に墨書「企」か。	吉井系
498-15 220	須恵器 塊	35-B-32 III層 %	口 (10.0) 底 4.9 高 (6.0)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	断・黄灰 外・黒灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系
498-16 220	須恵器 塊	38-B-32 III層 破片	口 (15.0) 底 6.8 高 5.4	微粒雲母 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
498-17 224	須恵器 内黒土器 塊	B区8土 坑 破片	—	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	内・黒褐 外・鈍黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。器内面に暗文を施し吸炭させている。	笠懸系
498-18 224	須恵器 塊	B区4土 坑 破片	底 (8.0)	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒雲母	還元焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系

## B 区 外

498-19 220	須惠器 壺	19-B-42 IV層 破片	口 (15.0) 底 6.8 高 5.2	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井系
498-20 220	須惠器 壺	III層 破片	口 (15.0) 底 ( 8.8) 高 ( 7.8)	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系か 乗附系
498-21 220	須惠器 壺	36-B-40 III層 破片	底 ( 3.3)	透明鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	内・黒 外・鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	笠懸系
498-22	須惠器 壺	B区4土 坑 破片	底 ( 7.8)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
498-23 220	須惠器 黒色土器 壺	表土 破片	口 (17.0) 底 5.7 高 7.8	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
498-24 220	須惠器 壺	表土 破片	口 (17.0) 底 (10.0) 高 ( 7.1)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
499-1 220	須惠器 皿	42-B-43 III層 破片	口 (13.4) 底 7.2 高 ( 2.3)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
499-2 220	須惠器 皿	表土 破片	口 (15.0) 底 ( 7.8) 高 ( 3.1)	黒色粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か 藤岡系
499-3 220	土師器 甕	46-B-40 III層破片	口 (14.4)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
499-4 224	土師器 甕	46-B-35 III層破片	口 (15.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
499-5 224	土師器 甕	40-B-25 III層破片	口 (16.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰		口縁部は直立気味。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
499-6 224	土師器 壺	表土 破片	口 ( 9.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	体部は型作り成形。肩部に型膚を残し、下半 部は横位の篋削り。	藤岡系
499-7 220	土師器 甕	40-B-42 III層破片	口 (17.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部は強く外反し口唇部は直 立する。肩はやや強い稜を有し二種の刷毛目 の撫でを施す。器内面は横撫でを施す。	
499-8	土師器 甕	III層 破片	口 (17.2)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は短く外反する。型作り成形。外面胴 部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋 撫で。	藤岡系
499-9 224	土師器 甕	表土 破片	口 (18.4)	白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
499-10 224	土師器 甕	38-B-36 III層破片	口 (19.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で。	藤岡系
499-11 224	土師器 甕	43-B-37 III層破片	口 (20.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
499-12 225	土師器 甕	III層覆土 内 破片	口 (20.2)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	酸化焰	鈍赤褐	「コ」の字状口縁か。型作り成形。外面胴部 は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫 で。	藤岡系
499-13 225	土師器 甕	40-B-29 III層破片	口 (20.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
499-14 225	土師器 甕	表土 破片	口 (22.0)	黒色鉍物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
499-15 225	土師器 甕	42-B-39 III層 トレンチ 内 破片	口 (11.0)	微粒雲母 黒色鉍物粒子 細粒砂	酸化焰	淡黄	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は 篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
499-16 225	土師器 土 釜	43-B-37 III層破片	口 (18.0)	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	黄褐	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井系
499-17 225	土師器 土 釜	46-B-35 III層破片	口 (24.4)	透明鉍物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	断・鈍橙 外・黒褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋撫 で、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	月夜野系

## 遺物一覧表

499-18 225	土師器 土釜	V-B-1 破片	底 (9.6)	黒色鈳物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り成形。後縦位の篋削り成形。	吉井・藤岡系
499-19 225	土師器 土釜	42-B-37 III層破片	口 (18.0)	白色粒子 黒色鈳物粒子	酸化焰	赤褐	紐作り成形。後縦位の篋撫で整形。	吉井系
499-20 220	須恵器 土釜か	B区内 破片	底 (10.0)	黒色鈳物粒子 白色粒子	酸化焰	外・黒灰 内・褐	紐作り成形。器外面は縦位の篋削り整形。器内面は横撫でを施す。	吉井系
499-21 220	土師器 土釜	B区1溝 覆土内 破片	底 (6.6)	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	赤褐	紐作り成形。後篋削り成形。	吉井系
500-1 220	須恵器 脚付盤	III層 破片	底 (12.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
500-2 225	須恵器 盤	II層 覆土内 破片	底 (13.0)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鈳物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
500-3 225	須恵器 盤	表土 破片	底 (25.0)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	県外搬入
500-4 225	須恵器 高坏	III層 破片	口 (24.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
500-5 220	須恵器 高坏	42-B-33 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成・整形 (右回転)。脚部は貼付後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
500-6 225	須恵器 高坏脚部	表土 破片	—	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。窓を有する (二段か)。	乗附系
500-7 220	土師器 脚	表土 破片	底 (7.0)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形後回転整形。	藤岡系
500-8 225	須恵器 高坏	B区3号 井戸破片	—	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	太田系か
500-9 225	須恵器 鉢	表土 破片	口 (19.8)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
500-10 225	須恵器 鉢	43-B-37 III層破片	口 (17.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
500-11 225	須恵器 短頸壺	III層 破片	口 (6.0)	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。口縁部は紋りが認められる。	東海系
500-12 220	須恵器 短頸壺	III層 破片	口 (9.0) 底 (7.8) 高 (3.7)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台は削り出し。	秋間系
500-13 225	須恵器 短頸壺	表土 破片	口 (9.0)	黒色粒子	還元焰 焼締	白灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	東海系
500-14 225	須恵器 短頸壺	III層 破片	口 (10.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
500-15 225	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	口 (13.4)	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
500-16 225	須恵器 短頸壺	III層 破片	口 (12.0)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
500-17 225	須恵器 長頸壺	表土 破片	口 (7.0)	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。自然袖付着。	秋間系
500-18 225	須恵器 壺	表土 破片	口 (12.8)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。自然袖付着。	秋間系
500-19 225	須恵器	38-B-36 III層破片	口 (11.0)	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。自然袖付着。	東海系
500-20 225	須恵器	表土 破片	口 (13.0)	白色鈳物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系 乗附系
500-21 225	須恵器 壺	IV層 須恵器	口 (17.0)	白色鈳物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井系
500-22 225	須恵器 壺	表土 破片	口 (18.0)	微粒雲母 白色微粒子	中性焰	外・黒褐 斯・浅 黄橙	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井・藤岡系
500-23 225	須恵器 壺	フク土 破片	口 (17.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
500-24 221	須恵器 壺	B区表土 破片	口 (14.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。口縁部は轆轤整形。	秋間系

## B 区 外

500-25 225	須惠器 壺	Ⅲ層 破片	口 (20.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。自然袖付着。	乗附系
501-1 225	須惠器 壺	Ⅲ層 破片	口 (20.0)	白色鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
501-2 225	須惠器 壺	49-B-30 Ⅲ層破片	口 (20.0)	白色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
501-3 225	須惠器 壺	表土 破片	—	黒色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。器外面自然袖付着。	秋間系か 東海系
501-4 225	須惠器 短頸壺	Ⅲ層 破片	頸 (10.0)	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
501-5 225	須惠器 壺	表土 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形。詳細不詳。器外面に篋記号乃至篋描き文字「人」を刻書する。	秋間系
501-6	須惠器	表土 破片	厚 0.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。「□里。不得。」の4文字以上の篋描き文字がある。	秋間系
501-7 221	須惠器 壺	Ⅲ層 破片	最径 19.3	白色微粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井系
501-8 221	須惠器 壺	B区表土 ・Ⅲ層 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面斜格子叩き・内面宛具は青海波文) 縦上半分は轆轤再整形。	秋間系
501-9 221	須惠器 壺	表土 破片	底 (17.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は素文) 後轆轤再整形。	秋間系
501-10 225	須惠器 壺	表土 破片	底 (13.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤成・整形 (右回転)。器外面自然袖付着。	県外搬入 不詳
501-11 221	須惠器 壺	Ⅳ層 底部完存	底 (9.8)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
501-12 221	須惠器 壺	40-B-42 Ⅲ層破片	底 (5.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。外面自然袖付着。	東海系
501-13 221	須惠器 壺	42-B-37 Ⅲ層破片	底 11.8	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井・藤 岡系
501-14 221	須惠器 脚付壺	B区内 破片	底 (13.6)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。脚は貼付。	秋間系
501-15 225	須惠器 壺	Ⅲ層 破片	底 (7.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。自然袖付着。	秋間系
502-1 221	須惠器 壺	Ⅲ層 破片	底 (12.2)	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は素文)。	秋間系
502-2 226	須惠器 壺	表土 破片	口 (16.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。口縁部は紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
502-3 226	須惠器 壺	Ⅲ層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰黄	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
502-4 226	須惠器 壺	Ⅲ層 破片	厚 0.5	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
502-5 226	須惠器 壺	破片	—	白色鉾物粒子	還元焰 焼締		口縁部は外傾し、9本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
502-6 226	須惠器 壺	表土 破片	口 (18.4)	白色微粒子 微粒雲母 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。外面有機質付着。	藤岡系か
502-7 226	須惠器 壺	表土 破片	口 (26.0)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
502-8	須惠器 壺	Ⅲ層 破片	口 (23.4)	黒色粒子 白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。内外面に縦位に帯状に墨痕が認められる。	乗附系
502-9	須惠器 壺	Ⅲ層 破片	口 (24.0)	白色鉾物粒子 白色粒子 透明鉾物粒子	中性焰	黄灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。器内面に帯状墨痕を有する。	巻頭カラー 墨
502-10	須惠器 大壺	Ⅲ層 破片	口 (40.0)	白色鉾物粒子 黒色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。口縁部外面に帯状に墨痕があり内面は横位に墨痕がある。	乗附系か 藤岡系
502-11 226	須惠器 大壺	Ⅲ層 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	赤灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。口縁部は外反し、5本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系



遺物一覧表

502-12 226	須惠器 甕	III層 破片	厚 0.9	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
503-1	須惠器 大 甕	表土 破片	口 (22.0)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鉍物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
503-2 226	須惠器 甕	表土 破片	口 (32.0)	黒色粒子 白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
503-3 226	須惠器 大 甕	表土 破片	口 (36.0)	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
503-4 226	須惠器 甕	V層 破片	厚 0.6	白色微粒子	還元焰	浅黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
503-5 226	須惠器 甕	表土 破片	厚 (0.8)	白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外反し、13本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
503-6 226	須惠器 甕	III層 破片	厚 0.9	白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、6本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
503-7 226	須惠器 甕	III層 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、5本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
503-8 226	須惠器 甕	表土 破片	厚 0.9	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、9本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
503-9 226	須惠器 甕	III層 破片	原 0.9	黒色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、8本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
503-10 226	須惠器 甕	III層 破片	厚 0.9	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、6本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
503-11 226	須惠器 甕	表土 破片	厚 0.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
503-12 226	須惠器 大 甕	III層 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	暗灰	口縁部は外反し、7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
503-13 226	須惠器 甕	38-B-30 III層破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面自然釉付着。	秋間系
503-14 226	須惠器 甕	III層 破片	厚 1.1	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-1 226	須惠器 甕	表土 破片	厚 0.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-2 226	須惠器 甕	III層 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-3 226	須惠器 甕	II層 破片	厚 1.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-4 226	須惠器 甕	III層 破片	厚 0.8	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
504-5 226	須惠器 甕	45-B-30 III層 破片	厚 0.9	黒色鉍物粒子 赤褐色粒子	酸化焰 か二次 焼成	明黄褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-6 227	須惠器 大 甕	35-B-25 III層破片	厚 1.1	白色鉍物粒子	還元焰	赤灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。器面内外面自然釉付着。	乗附系
504-7 227	須惠器 甕	III層 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-8 221	須惠器 大 甕	表土 破片	厚 1.2	白色微粒子	中性焰	褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)後轆轤再整形。	乗附系
504-9 227	須惠器 大 甕	表土 破片	厚 1.0	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。内面は磨滅する。	秋間系
504-10 227	須惠器 甕	III層 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁部は外反し、7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
504-11 227	須惠器 大 甕	III層 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系

## B 区 外

504-12 227	須惠器 甕	表土 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。内面が磨滅する。	秋間系
504-13 227	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.0	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。内面が磨滅する。	乗附系
504-14 227	須惠器 甕	表土 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰 焼締	明赤灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。口縁部は外反し、7本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形（右回転）。内外面自然釉付着。	乗附系
505-1 227	須惠器 甕	表土 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。整形は不分明、唯器内面に撫でが認められる。又磨滅する。	秋間系
505-2 227	須惠器 甕	表土 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面宛具は素文）。	秋間系
505-3 227	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。内面が磨滅する。	藤岡系
505-4 227	須惠器 甕	1号溝覆 土内破片	厚 1.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）内面が磨滅する。	秋間系
505-5 227	須惠器 大甕	35-B-32 III層破片	厚 0.8	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面宛具は素文）内面が磨滅する。	乗附系
505-6 227	焼締陶器 大甕	38-B-30 III層破片	厚 1.3	白色鉾物粒子	還元焰 焼締	暗灰	紐作り。器外面に正格子の叩きを施こす。	不詳
505-7 227	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。内面が磨滅する。	乗附系
505-8 227	須惠器 大甕	III層 破片	厚 1.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。内面が磨滅する。	秋間系
505-9 227	須惠器 甕	表土 破片	厚 1.1	白色粒子 白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面宛具は素文）後面は撫再整形。内面は磨滅する。	秋間系
505-10 227	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。後叩整形か。器内面に轆轤の条痕もある。内面が磨滅する。	秋間系か
505-11 227	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）内面が磨滅する。	乗附系か 東海系
505-12 227	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。内面は磨滅する。	秋間系
506-1 227	須惠器 大甕	35-B-32 北III層 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰		紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）後面撫整形。内面が磨滅する。	秋間系
506-2 227	須惠器 甕	38-B-35 III層破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰		紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は木目）。外面に自然釉付着する。	秋間系
506-3 227	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）か。内面が磨滅する。	乗附系
506-4 227	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰		紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。内面が磨滅する。	乗附系か
506-5 227	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面正格子叩き・内面宛具は青海波文）。内面が磨滅する。	秋間系
506-6 227	須惠器 大甕	III層 破片	厚 0.7	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。内面が磨滅する。	秋間系
506-7 227	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.4	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）内面が磨滅する。	乗附系か 藤岡系
506-8	須惠器 甕	III層 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰 焼締	黄灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	東海系
506-9 228	須惠器 大甕	III層 破片	厚 0.7	黒色粒子 白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	吉井・藤岡系
506-10 228	須惠器 大甕	35-B-41 覆土内 破片	厚 1.0	白色鉾物粒子 白色粒子 デイスайト	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。内面が磨滅する。	吉井・藤岡系
506-11 228	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。内面が磨滅する。	秋間系
507-1 228	須惠器 大甕	47-B-42 破片	厚 1.1	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面宛具は素文）。内面が磨滅する。	乗附系か 藤岡系
507-2 228	須惠器 甕	III層 破片	厚 1.4	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	吉井系

遺物一覧表

507-3 228	須惠器 大甕	30-B-35 トレンチ 内付近 破片	厚 1.1	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面宛具は素文）。	乗附系
507-4 228	須惠器 大甕	II層 破片	厚 0.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	吉井系
507-5 228	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。内面が磨滅する。	秋間系
507-6 228	須惠器 大甕	B区内 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩きか・内面宛具は素文）後外面撫で整形。内面が磨滅する。	吉井・藤岡系
507-7 228	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面正格子叩き・内面宛具は素文）後内面は撫で再整形。	秋間系か
507-8 228	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.3	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）後撫で再整形。内面が磨滅する。	
507-9 228	須惠器 大甕	II層 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。内面が磨滅する。	吉井・藤岡系
507-10 228	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰		紐作り。後叩き整形。叩具・宛具は不詳。内面が磨滅する。	乗附系か 藤岡系
508-1 228	須惠器 大甕	表土 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰		紐作り。叩き整形（外面平行叩きか・内面宛具は素文）内面が磨滅する。	秋間系
508-2 228	須惠器 大甕	B区内 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系
508-3 228	須惠器 大甕	表土 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。内面が磨滅する。	乗附系
508-4 228	須惠器 大甕	III層 破片	厚 1.4	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不詳・内面宛具は素文）。内面が磨滅する。	藤岡系
508-5 228	焼締陶器 大甕	表土 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焰 焼締	赤褐	紐作り後叩き整形。自然釉が付着する。	常滑焼
509-1 228	須惠器 大甕	III層 破片	厚 1.2	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	乗附系
509-2	須惠器 風字硯	表土 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	粘土板と紐作りの併用。	秋間系
509-3 228	須惠器 器台か	III層 破片	厚 0.9	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。器外面に平行叩き？の痕跡が認められる。	乗附系
509-4 229	須惠器 羽釜	表土 破片	口 (18.0) 鏝 (21.4)	微粒雲母 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 乙壺 種伊類
509-5 229	須惠器 羽釜	38-B-35 III層破片	口 (19.0) 鏝 (21.1)	白色粒子 透明鉱物粒子	中性焰	灰褐	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形（右回転）。鏝は貼り付け。	月夜野型 羽釜
509-6 229	須惠器 羽釜	49-B-30 III層 破片	口 (20.6) 鏝 (23.6)	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黒褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
509-7 229	須惠器 羽釜	B-3 破片	口 (17.0) 鏝 (20.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	浅黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
509-8 229	須惠器 羽釜	B区III層 破片	口 (20.0) 鏝 (25.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
509-9 229	須惠器 羽釜	B-IV 破片	口 (20.0) 鏝 (22.8)	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜
509-10 229	須惠器 羽釜	表土 破片	口 (20.2) 鏝 (27.2)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 乙壺 種伊類
510-1 229	須惠器 羽釜	表土 破片	口 (21.0) 鏝 (25.0)	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種呂類
510-2 229	須惠器 羽釜	表土 破片	口 (22.0) 鏝 (27.0)	白色微粒子	中性焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形（右回転）。鏝は貼り付け。	吉井型羽釜 甲壺 種

## B 区 外

510-3 229	須 惠 器 羽 釜	表土 破片	口 (22.0) 鏝 (26.6)	白色粒子 白色鉍物粒子 微粒雲母	中性焰	黒褐	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲壹 種呂類
510-4 229	須 惠 器 羽 釜	表土 破片	口 (22.0) 鏝 (25.4)	白色微粒子 微粒雲母 白色鉍物粒子	中性焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲貳 種伊類
510-5 229	須 惠 器 羽 釜	III層 破片	口 (22.0)	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け。	吉井型羽 釜 甲貳 種伊類
510-6 229	須 惠 器 羽 釜	49-B-40 III層 破片	口 (23.4) 鏝 (26.4)	透明鉍物粒子 黒色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。鏝は貼り付け。	月夜野型 羽釜
510-7 229	瓦製円盤	表土 完存	厚 1.6	白色微粒子 黒色粒子 細粒砂	酸化焰	浅黄橙	女瓦 (縄叩) 片を転用し、縁辺を加瓦する。	笠懸系
510-8 229	土 師 器 円 盤	II層 完存	厚 0.4	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	土師器甕の胴部片を転用している。周辺は磨いている。	藤岡系
510-9 229	須 惠 器 円 盤	II層 完存	厚 0.8	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	須惠器壺類の胴部片を転用している。周辺を打ち欠いている。	乗附系
510-10 229	瓦製円盤	C区客土 完存	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦 (縄叩き (密)) 片を転用し、縁辺を加工している。	笠懸系
510-11 229	須 惠 器 円 盤	表土 完存	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	須惠器壺類の胴部を転用する。周辺を打ち欠き縁辺を磨いている。	秋間系
510-12 229	灰須惠器 円 盤	表土 完存	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰白	須惠器壺類の胴部片を転用する。周辺を打ち欠いている。	秋間系
510-13 229	瓦製円盤	III層 完存	厚 1.1	白色鉍物粒子	還元焰 焼締	灰	須惠器大甕片を転用する。縁辺を加工する。	乗附系
510-14 229	須 惠 器 円 盤	完存	厚 0.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	須惠器甕片を転用。周辺部を打ち欠き整形する。	秋間系
510-15 229	瓦製円盤	III層 1/2	厚 2.0	白色鉍物粒子	還元焰 焼締	白灰	一枚作り (縄叩き (密)) の女瓦片の縁辺を加工している。	不詳
511-1 229	瓦製円盤	表土 完存	厚 1.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作りの男瓦片を転用し、縁辺を加工している。	乗附系
511-2 229	瓦製円盤	III層 完存	厚 3.0	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	宇瓦の破片 (?) の縁辺を加工している。	笠懸系
511-3 230	土 製 品 羽 口	土坑 破片	—	植物繊維を含む	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	—
511-4 230	土 製 品 羽 口	III層 破片	厚 2.3	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。胎土中にスサを含有する。	—
511-5 230	土 製 品 羽 口	38-B-36 III層破片	厚 3.1	粗い	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	—
511-6 230	土 製 品 羽 口	C区内 破片	厚 2.0	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。胎土中にスサを含有する。	—
511-7 230	土 製 品 羽 口	III層 破片	厚 2.3	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	—
511-8 230	土 製 品 羽 口	38-B-30 III層破片	厚 2.6	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
511-9 230	土 製 品 羽 口	土坑 破片	—	植物の繊維を含む	—	—	511図-3と同一個体。	—
511-10 230	土 製 品 羽 口	B区内 1/2	厚 3.0	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。胎土中に植物繊維を多く含有する。	厚3.2cm
511-11 230	土 製 品 羽 口	46-B-40 III層 1/2	幅 7.6 孔径 2.5	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
511-12 230	土 製 品 羽 口	B区III層 破片	厚 3.1	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
511-13 230	土 製 品 土 錘	III層 完形	長 4.1 幅 1.4 孔 0.18	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	紡錘形状を呈し中央を穿孔する。	重8.0g

遺物一覧表

511-14 230	須恵器 転用 紡錘車	45-B-32 覆土内 底	—	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	須恵器坏の底部を転用する。周縁は擦る。	乗附系か
511-15 230	石製品 紡錘車	III層 底	厚 ( 1.1) 上径( 4.5) 孔径( 0.6)	滑石	—	—	遺存状態は欠損後の風化によりやや悪い。	—
511-16 221	土製品 紡錘車	表土 ほぼ完形	口 5.7 底 3.4 高 1.7	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	側部は篋削りを施す。全体に作りは丁寧で 轆轤成形の可能性がある。	藤岡系
512-1 221	施釉陶器 灰釉皿	表土 破片	口 (11.8) 底 6.6 高 ( 2.5)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	—
512-2 230	施釉陶器 灰釉皿	1号溝 破片	口 (12.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は不詳。	—
512-3 230	施釉陶器 灰釉段皿	1溝 覆土内 破片	口 (14.0)	やや粗い。	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は刷毛塗り。	—
512-4 230	施釉陶器 灰釉段皿	表土 破片	口 (15.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は不詳。	—
512-5 221	施釉陶器 灰釉皿	38-B-29 III層 底	口 (15.0) 底 7.4 高 ( 3.0)	粗	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉された釉は 残存しない。	—
512-6 230	施釉陶器 灰釉皿	表土 破片	—	密	二次焼 成を受 ける	白灰	轆轤成形(右回転)。輪花を有する。二次焼成 により釉が荒れる。貫入が著しい。	—
512-7 230	施釉陶器 灰釉皿	III層 破片	口 (15.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-8 230	施釉陶器 灰釉塊	III層 破片	口 (14.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-9 230	施釉陶器 灰釉塊	46-B-35 III層破片	口 (14.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-10 230	施釉陶器 灰釉塊	北南トレン チ破片	口 (14.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は不詳。	—
512-11 230	施釉陶器 灰釉塊	III層 破片	口 (14.0)	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-12 230	施釉陶器 灰釉塊	破片	口 (15.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-13 230	施釉陶器 灰釉塊	1溝 破片	口 (15.0)	密	良好 焼締	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛か。	—
512-14 230	施釉陶器 灰釉塊	III層 破片	口 (15.2)	やや粗	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛か。	猿投系
512-15 230	施釉陶器 灰釉塊	35-B-32 北 破片	口 (16.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は不詳。	—
512-16 230	施釉陶器 灰釉塊	表土 破片	口 (15.8) 底 ( 8.6) 高 ( 5.1)	やや粗	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	—
512-17 230	施釉陶器 灰釉塊	III層 破片	口 (16.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛か。	—
512-18 230	施釉陶器 灰釉塊	III層 破片	口 (16.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-19 230	施釉陶器 灰釉 輪花塊	表土 破片	口 (15.0)	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛か。口唇部に 輪花を施す。	—
512-20 230	施釉陶器 灰釉塊	40-B-29 III層破片	口 (16.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛か。	—
512-21 230	施釉陶器 灰釉塊	B区内 破片	口 (16.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。施釉は浸掛。	—
512-22 230	施釉陶器 灰釉 輪花塊	III層 破片	口 (17.0)	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。口唇部を内に返し輪花を 表出する。	—
512-23 230	施釉陶器 灰釉段皿	III層 破片	底 ( 7.0)	やや密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は刷毛塗り。	—

512-24 230	施釉陶器 灰釉段皿 破片	III層	底 ( 7.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は不分明。	—
512-25 221	施釉陶器 灰釉境	45-B-25 付近 底部完存	底 3.0	粗	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
512-26 221	施釉陶器 灰釉境 破片	表土	底 ( 6.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は没掛。	—
512-27 230	施釉陶器 灰釉境 破片	III層	底 ( 6.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
512-28 230	施釉陶器 灰釉境 破片	表土	底 ( 6.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉没掛。	—
512-29 230	施釉陶器 灰釉境 破片	表土	底 ( 6.8)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は没掛。	—
512-30 230	施釉陶器 灰釉境 破片	表土	底 ( 6.0)	やや密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は不詳。	—
512-31 221	施釉陶器 灰釉境	表土 底部完存	底 6.6	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
512-32 230	施釉陶器 灰釉境 破片	表土	底 ( 7.6)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉された釉は残存しない。	—
512-33 230	施釉陶器 灰釉境	40-B-42 III層破片	底 ( 7.0)	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は刷毛塗。	—
512-34 230	施釉陶器 灰釉境 破片	表土	底 ( 7.4)	密	良好	黄灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は没掛。	—
512-35 221	施釉陶器 灰釉境 破片	表土	底 7.0	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	—
513-1 231	施釉陶器 灰釉境 破片	表土	底 ( 8.0)	やや粗	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は没掛。	—
513-2 231	施釉陶器 灰釉境 破片	II層	底 ( 8.2)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は刷毛塗か。	—
513-3 231	施釉陶器 灰釉境	38-B-30 III層破片	底 ( 9.0)	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は没掛か。	—
513-4 221	施釉陶器 灰釉瓶	40-B-42 III層破片	底 ( 6.8)	やや密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。器内面はコテ痕が顕著。古期の灰釉。	—
513-5 221	施釉陶器 瓶	表土 破片	底 ( 8.0)	密	良好	灰白	紐作り後 — 整形 (右回転)。付高台。	—
513-6 221	施釉陶器 瓶	表土 破片	底 ( 9.0)	やや粗	良好	灰白	紐作り後轆轤整形 (右回転)。付高台。胴下半部は回転篋削り。	—
513-7 231	施釉陶器 瓶	38-B-30 III層破片	底 ( 9.0)	密	良好	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。付高台。	—
513-8 231	施釉陶器 灰釉長頸 瓶	B区III層 破片	最径 13.8	密	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は刷毛塗りか。	—
513-9 231	施釉陶器 灰釉双耳 瓶	III層 把手片	厚 2.6	やや粗	良好	灰白	粘土板を接合し内側を削り抜いている。外面は無で整形。	—
513-10	施釉陶器 瓶	表土	—	黒色粒子 粗い	良好	白灰	紐作り後轆轤整形。	瀬戸系
513-11	三探陶器 坏	35-B-28 破片	口 (13.0)	密	良好	露胎は 灰	轆轤成形 (右回転) か。全体に銀化状になり、赤色変化する部分がある。	—
513-12 231	施釉陶器 灰釉梅瓶	表土 破片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (左回転)。	瀬戸系
513-13	施釉陶器 緑釉稜碗	表土	—	密	良好	灰	轆轤成形。外面に稜を有する。	—
513-14	施釉陶器 緑釉稜皿	B区III層 破片	口 (13.0)	やや粗	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。	—
513-15 231	施釉陶器 緑釉稜碗	表土 破片	—	密	軟	黄橙	轆轤成形 (右回転)。体部に強い稜を有する。	—
513-16 231	施釉陶器 緑釉碗	III層 破片	—	密	硬	暗灰	轆轤成形 (右回転)。釉調は明るいのが、胎土の発色が暗いため全体に暗く見える。	—
513-17 231	施釉陶器 緑釉境	III層 破片	—	密	硬	灰白	轆轤成形 (右回転)。釉調は淡く薄い。	—



遺物一覧表

513-18 231	石器 火打石	表土 完存	—	石英	—	—	片面に自然面を残し、他の面には一部使用痕が残っている。	—
513-19 231	石器 火打石	表土 完存	—	石英	—	—	打面以外自然面が残ってる。顕著なる使用痕は認められない。	—
513-20 231	石製品 不詳	表土 破片	厚 0.9	滑石	—	—	「V」字状の沈線が認められ、文様と考えられるものの全体文様等詳細は不分明。	—
513-21 231	石器 乳棒状 磨製石斧	B区内 %	幅 5.5 厚 2.6	変玄武岩	—	—	全体に凹凸が非常に著しい。	重 170g
513-22 231	石製品 石棒	土坑 破片	幅 4.9 厚 3.2	砂岩	—	—	先端側の破片である特徴的な加工痕は認められない。	重220g
513-23 231	礫器 敲石	79土坑 %	長 15.8 幅 5.9 厚 5.2	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重690g
513-24 231	礫器 敲石	No25 完存	長 11.5 幅 6.7 厚 4.1	—	—	—	小口・側部に敲打に伴う剥離が認められる。	重450g
513-25 231	礫器	79土坑 完存	長 10.6 幅 8.1 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重600g
514-1 231	石製品 砥石	B区表土 破片	残長 4.9 幅 2.5 厚 2.1	砥沢石	—	—	使用に伴ない4面磨滅するが、成形切り出し時の鋸目が残存する面もある。又、小口面も鋸目が残存する。手持砥。	—
514-2 231	石製品 砥石	III層 破片	幅 3.1 重 20.0	砥沢石	—	—	細片であるが小型の置砥と考えられる。上面に縦位に4条の条痕が認められる。	—
514-3 231	石製品 砥石	B区III層 表土 破片	幅 2.8 重 30.0	砥沢石	—	—	両端側を欠損する。使用痕から手持砥と考えられる。	—
514-4 231	砥石	38-B-35 III層破片	幅 3.4 重 50.	砥沢石	—	浅黄橙	欠損品を再加工したものと思われる。使用痕は旧状の状態でのものと思われる。手持砥。	—
514-5 231	石製品 砥石	B区表土 完存	幅 3.2 重 90.0	砂岩	—	—	目は粗い。小型であるが手持砥としての使用痕は顕著に残る。	—
514-6 231	石製品 砥石	III B-5 破片	7.3 4.8 3.9	粗粒安山岩	—	—	四面に使用が有る。手持ち砥。	重160g
514-7 231	石製品 砥石	1溝 破片	幅 2.3 重 140.0	砥沢石	—	—	使用面は面的に少ない。欠損部（使用時）に主体面が考えられる。また面取り加工が遺存する。手持砥。	—
514-8 231	石製品 砥石	IV-25 破片	幅 3.6 重 100.0	砥沢石	—	—	下面側を欠損する。他の3面に使用面が認められる。使用痕から手持砥と考えられる。	—
514-9 231	石製品 砥石	B区表土 破片	幅 4.7 重 280.0	砥沢石	—	—	4面に使用が認められ、2面で対面が著しく湾曲する状態で使用がある。置砥。	—
514-10 231	石製品 砥石	V-B-1 %	幅 2.0 重 40.0	砥沢石	—	—	使用に伴なう研ぎ減りが著しい。欠損面は少し磨いてある。手持ち砥。	—
514-11 231	石製品 砥石	1ミソ 5-F-B %位か	幅 2.3 重 45.	砥沢石	—	灰白	使用面は全体に多く、中世の刀剣用手持砥の形状に類似する。本品自体も使用痕から手持砥と考えられる。	—
514-12 231	石製品 砥石	B-V 完存	幅 1.3 重 15.0	砥沢石	—	灰	小型工具（調刻刀状の工具）の砥石である。	—
514-13 221	石製品 砥石	B区III層 %	幅 6.5 厚 6.1	砂岩	—	—	使用面は6面認められる。使用面は非常に滑らかである。	—
514-14 221	土師質土 器（カワ ラケ）	表土 %	口 (12.4) 底 7.0 高 2.6	黒色鉄粒子 赤褐色粒子	酸化焙	橙	轆轤成形（左回転）、底部は回転糸切り。	—
514-15 231	土師質土 器（カワ ラケ）	表土 破片	口 10.0 底 6.4 高 2.0	白色粒子	酸化焙	灰黄	轆轤成形（左回転）、底部は回転糸切り。	—
514-16 221	土師質土 器 皿 （カワラ ケ）	B区内 %	口 (11.3) 底 (6.0) 高 (2.8)	赤褐色粒子 微粒砂	酸化焙	明黄橙	轆轤成形（左回転）、底部は回転糸切り。	藤岡系か

## B 区 外

514-17 231	土師質土 器 皿 (カワラ ケ) 坏	45-B-32 付近III層 破片	口 (13.4) 底 (6.0) 高 (2.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (左回転)、底部は回転糸切り。	—
514-18 221	軟質陶器 不詳	V区1-E 破片	厚 1.4	中世瓦胎土の III類	還元焰	灰	三足の獣足を有し、底部を穿孔する。動物等 の瓦製品の可能性がある。	—
514-19 231	軟質陶器 植木鉢	表土 破片	底 (8.8)	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	鈍黄灰	轆轤成形か。	太田系か
514-20 222	古 銭	表土 完形	径 2.3	—	—	—	熙寧元寶。初鑄は熙寧元年 (1068)。	—
514-21 231	施釉陶器 青 磁	II層 破片	—	密	硬	乳白	口唇直下に片切りの横線二条を施す。	龍泉窯系
514-22 231	磁 器 青 磁	II層 破片	—	密	良好	灰	轆轤成形 (左回転)。鐏手蓮弁文碗。	龍泉窯系
515-1 221	礫 器	96土坑 破片	長 9.5 幅 8.1 厚 3.7	粗粒安山岩	—	—	顕著な使用痕は認められない。	重460g
515-2 222	礫 器	土坑 破片	—	粗粒安山岩	—	—	高熱により表面が融変している。	—
515-3 231	金属製品 銅 器	試掘トレン チ埋土 破片	厚 0.15	—	—	—	四角形状を呈する製品の断片である。	—
515-4 231	銅 器 不詳	表土層 破片	重 14.2	—	—	—	全体の遺存は比較的良好である。背面側に小 粒状の小突起が2ヶ所に認められるが錆化に 伴う可能性がある。	—
515-5 231	鉄 器 釘	B区内 両端欠損	重 1.2	—	—	—	全体に錆化が認められるが、旧状は良く遺存 する。断面正方形形状を呈する。	—
515-6 231	鉄 器 不詳	ピット群 底	厚 0.1 重 6.5	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面は、板状のものが 「J」の字状に屈曲する。	—
515-7 231	鉄 器 釘	試掘トレン チ先端欠損	厚 0.4 重 4.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面は正方形形状を呈す る。	—
515-8 231	鉄 器 釘	B区内 先端欠損	重 1.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は正方形形状を 呈する。	—
515-9 231	鉄 器 釘	表土 先端欠損	幅 0.5 重 4.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。頭部は折り曲げが認め られない。	—
515-10 231	鉄 器 釘	35-B-26 トレンチ 内	幅 0.35 重 2.1	—	—	—	全体に錆化が著しい。小型の釘の頭部、周辺 で頭部は折り曲げている。断面正方形形状を呈 する。	—
515-11 231	鉄 器 釘	II層土内 先端欠損	重 8.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。頭は折り曲げている。 断面正方形を呈する。	—
515-12 231	鉄 器 釘	D区内 先端欠損	重 8.1	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損がある。	—
515-13 231	鉄 器 釘	B区内 先端欠損	幅 0.6 重 4.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。先端側の欠損は調 査後の欠損。	—
515-14 231	鉄 器 釘	覆土内 破片	幅 0.45 重 6.1	—	—	—	全体に錆化が著しい。釘の頭部周辺と思われ る。	—
515-15 231	鉄 器 釘	III層土中 破片	重 4.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の破損が著 しい。頭は折り曲げ。	—
515-16 232	鉄 器 釘	表土層 先端欠損	幅 0.55 重 13.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形形状を呈 する。頭は折り返しが認められない。	—
515-17 232	鉄 器 釘	表土 両端欠損	幅 0.85 重 13.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。両端共に調査以前 の欠損である。	—
515-18 232	鉄 器 不詳	III層土内 破片	幅 0.8 重 8.2	—	—	—	調査後の錆化欠損により旧状を著しく失なっ ている。詳細不分明。	—
515-19 232	鉄 器 不詳	表土 先端欠損	幅 0.7 重 15.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。上端側は旧状の一部 が残存する。先端側は調査後の欠損により 不分明。	—
515-20 232	鉄 器 不詳	38-B-30 III層破片	幅 0.8 重 12.3	—	—	—	全体に錆化が著しい。頭部側は不分明全体に 棒状になっている。	—

遺物一覧表

515-21 232	鉄器 釘か	H区内 先端欠損	重 26.5	—	—	—	全体に錆化が非常に著しく調査後の欠損を含め遺存は不良である。	—
515-22 232	鉄器 不詳	30-B-35 ほぼ完存	長 7.9 幅 0.45 重 16.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。頭部周辺は調査後の欠損により不分明な部分がある。	—
515-23 232	鉄器 不詳	B区内 破片	重 0.7	—	—	—	全体に錆化が及ぶが比較的遺存良好である。断面は正方形を呈する。利器等の茎の可能性はある。	—
515-24 232	鉄器 釘か	III層土中 破片	幅 0.3 重 1.5	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形を呈する。	—
515-25 232	鉄器 釘か	III層土内 破片	幅 0.35 重 1.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形を呈する。	—
515-26 232	鉄器 不詳	表土層 破片	幅 0.4 重 3.1	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の錆化の進行により両端を欠損している。釘の可能性もある。	—
515-27 232	鉄器 釘か	B区内 破片	重 2.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。下端側は調査後の欠損。	—
515-28 232	鉄器 釘か	30-B-35 付近 トレンチ 内	重 2.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形を呈する。釘以外の製品の可能性がある。	—
515-29 232	鉄器 不詳	II層土内 両端欠損	重 4.6	—	—	—	全体に錆化が顕著である。断面正方形を呈する。	—
515-30 232	鉄器 不詳	B区内 破片	重 2.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は薄い長方形を呈する。	—
515-31 232	鉄器 不詳	III層土中 破片	幅 0.65 重 5.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形を呈する。	—
515-32 232	鉄器 不詳	II層土内 両端欠損	幅 0.4 重 3.3	—	—	—	全体に錆化が及び、調査後の欠損により詳細は不分明である。断面は正方形を呈する。	—
515-33 232	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.5 重 4.3	—	—	—	全体に錆化が著しい。両端は調査後の欠損。釘乃至「コ」の字に屈曲する金具と思われる。	—
515-34 232	鉄器 釘か	III層土内 破片	重 4.3	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損も著しく旧状を著しく失っている。断面正方形を呈する。	—
515-35 232	鉄器 釘	38-B-36 周辺III層 破片	重 12.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。遺存状態はやや不良。断面が正方形を呈する。	—
515-36 232	鉄器 不詳	49-B-30 破片	幅 0.7 重 3.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面長方形を呈する。	—
515-37 232	鉄器 釘か	表土 破片	幅 0.55 重 4.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形を呈する。	—
515-38 232	鉄器 不詳	表土層 破片	厚 0.45 重 11.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。「L」字状に屈曲している。下端は調査後の欠損。	—
515-39 232	鉄器 不詳	試掘トレン チ 破片	重 4.5	—	—	—	全体に錆化が非常に著しい。断面は長方形を呈する。	—
515-40 232	鉄器 不詳	表土層 先端欠損	幅 0.8 重 8.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損により詳細不分明。断面横長方形を呈する。	—
515-41 232	鉄器 不詳	33-B-42 破片	幅 0.5 重 2.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。鍵手状に屈曲する。断面は正方形。	—
515-42 232	鉄器 不詳	III層土 両端欠損	重 22.6	—	—	—	全体に錆化が及ぶが旧形状は良好なる状態で残存する。	—
515-43 232	鉄器 釘	38-B-36 周辺III層	重 17.1	—	—	—	全体に錆化が著しく、調査後の錆化破損が全体に及んでいる。	—
515-44 232	鉄器 釘	42-B-39 破片	幅 0.7 重 6.7	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後釘の片側面が剥落したものである。	—
515-45 232	鉄器 釘か	表土層 先端側	重 1.0	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形を呈する。釘とも、利器の茎とも考えられる。	—
515-46 232	鉄器 釘か	覆土内 先端部	重 1.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形を呈する。	—
515-47 232	鉄器 釘か	表土 頭部側欠 損	幅 0.5 重 3.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は正方形を呈する。	—

515-48 232	鉄 不 詳	器 表土 破片	重	1.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。形状から茎尻か釘等のものが考えられる。	—
515-49 232	鉄 釘	器 B区内 頭部欠損	重	4.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。頭部は調査以前の欠損。断面正方形を呈する。	—
515-50 232	鉄 釘	器 表土層 先端側	重	1.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが比較的古状を遺存する。全体が「S」字状に屈曲している。	—
515-51 232	鉄 釘	器 B区内 破片	重	2.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが比較的古状を遺存する。頭部側は調査後の欠損。断面正方形を呈する。	—
515-52 232	鉄 釘	器 表土 破片	幅 重	0.5 4.2	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形を呈する。	—
515-53 232	鉄 釘	器 表土 破片	重	6.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。上端部側は調査後の欠損であるが、釘の可能性が高い。	—
516-1 232	鉄 釘	器 III層土中 破片	幅 重	0.5 8.4	—	—	—	全体に錆化が非常に著しい。断面正方形を呈する。	—
516-2 232	鉄 釘	器 表土 破片	重	5.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面やや鶏卵状気味である。	—
516-3 232	鉄 不 詳	器 覆土内 II層土内 先端欠損	幅 重	0.55 6.8	—	—	—	全体に錆化が著しく旧状に就いては不明な部分がある。断面は正方形を呈する。	—
516-4 232	鉄 釘	器 B区内 頭部欠損	重	8.1	—	—	—	全体に錆化が顕著である。頭部は調査以前に欠損している。断面正方形を呈する。	—
516-5 232	鉄 釘	器 30-B-35	長 幅 厚	7.2 1.0 0.15	—	—	—	全体に錆化が著しい。全体に作りが薄い。釘以外の製品の可能性が高い。	重11.7g
516-6 232	鉄 釘	器 33-B-42 一部欠損	幅 重	0.55 13.7	—	—	—	全体に錆化が顕著である。下端は調査以前に欠損しているのか、製品としての形状なのかは不明。	—
516-7 232	鉄 不 詳	器 46-B-35 不詳	重	21.4	—	—	—	調査後の欠損が著しく詳細不明。	—
516-8 232	鉄 不 詳	器 46-B-35 不詳	重	25.3	—	—	—	調査後の欠損が非常に著しく詳細不明である。	—
516-9 232	鉄 刃	器 調査区内 破片	重	6.2	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。鋒側は調査以前の欠損で、関側は調査後の欠損である。	—
516-10 232	鉄 刀 子	器 表土 破片	重ね 重	0.25 1.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。刀子の茎の破片と考えられる。	—
516-11 232	鉄 刀 子	器 III層土内 破片	重ね 重	0.2 3.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。茎尻側と鋒側は調査後の欠損。全体から極度に使い減りした刀子と考えられる。	—
516-12 232	鉄 刀 子	器 表土層 破片	重	16.7	—	—	—	全体は錆化及び、調査後の錆化により破損が非常に著しい。断片的な破片であるが、錆身での状況から刀子乃至小刀と思われる。	—
516-13 232	鉄 刀 子	器 III層土内 破片	重ね 重	0.3 7.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。鋒側は調査後の欠損。茎は廃棄以前に折り曲げられて欠損。	—
516-14 232	鉄 刀 子	器 III層土内 破片	重ね 重	0.25 4.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。茎尻側・鋒側が調査後欠損している。関は棟関は無く刃関だけである。	—
516-15 232	鉄 刃	器 表土層 破片	重ね 重	0.4 12.1	—	—	—	全体に錆化が顕著である。調査後茎側・鋒側を欠損する。	—
516-16 232	鉄 不 詳	器 II層土内 破片	重	7.7	—	—	—	全体に錆化が顕著で器種の特定が出来ない。利器とも思われるが、刃部の断面形状に疑問が残る。	—
516-17 232	鉄 鎌	器 表土層 断片欠損	重	8.9	—	—	—	全体に錆化が非常に顕著である。又、調査後の錆化により全体的に欠損する。旧状はほぼ完存状態であったと思われる。有茎平根三角形広鋒腹袂篋被式	—
516-18 232	鉄 不 詳	器 表土 ほぼ完存	重	9.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。刀子の破片とも思われるが不明。	—
516-19 232	鉄 鎌	器 調査区内 茎欠損	重	17.9	—	—	—	全体に錆化が顕著。雁叉式鎌で茎を欠損する。	—

遺物一覧表

516-20 232	鉄器 鎌	Ⅲ層土中 破片	厚 0.15 重 22.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。刃の部分は廃棄時に折り曲でとられている。	—
516-21 232	鉄器 不詳	Ⅲ層土中 破片	厚 0.1 重 14.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。薄い円盤状である。	—
516-22 232	鉄器 不詳	Ⅲ層土中 一部欠損	厚 0.15 径 6.5 重 28.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。円盤状の薄い板状である。中心には孔は認められない。	—
516-23 232	鉄器 紡錘車か	Ⅲ層土中 破片	厚 0.1 重 6.7	—	—	—	全体に錆化が著しい。欠損部は全て調査後の欠損である。平面形状は不整形を呈すると考えられ、中央に正方形の孔を有する。	—
516-24 232	鉄器 火打鎌	Ⅲ層土中 破片	厚 0.2 重 18.6	—	—	—	全体の錆化は比較になく、旧状を態し保っている。全体に片側に若干湾曲している。	—
516-25 232	鉄器 不詳	Ⅲ層 破片	重 11.7	—	—	—	全体に錆化が著しい。断面正方形を呈する。環状製品の部分と考えられる。	—
516-26 232	鉄器 不詳	表土層 完存	幅 0.7 重 15.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが遺存状態は良好であった。しかし、調査後の錆化により破損が多い。断面正方形を呈する。	—
516-27 232	鉄器 不詳	Ⅲ層土内 完存	径 1.0 重 44.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は円形状で先端側が平たく尖る状態になっている。	—
516-28 232	鉄器 不詳	Ⅳ層 破片	重 4.3	—	—	—	調査後の錆化欠損により旧状を著しく失っている。頭部側は環状を呈すると考えられる。	—
516-29 232	鉄器 不詳	表土層 破片	厚 0.1 重 2.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。板状の製品であるが断片である為詳細不明。	—
516-30 232	鉄器 不詳	表土層 先端欠損	重 48.7	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の錆化の進行が著しく破損している。	—
516-31 232	鉄器 釘	49-B-30 先端欠損	幅 0.5 重 5.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の錆化により破損が著しい。断面正方形を呈し、頭は折り曲げている。	—
516-32 232	鉄器 不詳	覆土内 破片	幅 0.5 重 6.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損も著しいものがある。全体形状は「I」の字状に屈曲し両端部を欠損する。断面は正方形を呈する。	—
516-33 232	鉄器 鑄鉄	表土 不詳	厚 0.4 重 7.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆化の状態から鑄鉄と考えられる。	—
516-34 232	鉄器 不詳	Ⅲ層中 破片	重 9.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損は無い。断面は「L」字状に折れた状態である。形状等は不明な点が多い。	—
516-35 232	鉄器 不詳	Ⅲ層土中 破片	重 1.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。中央に正方形の孔を有する。上半は球体状のものが付く。下半は薄い板状である。	—
516-36 232	鉄器 不詳	B区内 破片	重 9.1	—	—	—	全体に錆化が顕著で、調査後の欠損により旧状は不明な点がある。	—
516-37 232	鉄器 不詳	B表土 破片	厚 0.1 重 4.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。小さい鉄片である。	—
516-38 232	鉄器 不詳	Ⅲ層土内 破片	厚 0.2 重 4.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損も著しい。薄い板状の製品であるが器種の特定は不能である。	—
516-39 232	鉄器 不詳	B区内 両端欠損	幅 1.3 厚 0.3 重 21.8	—	—	—	全体に錆化が著しい。薄い棒状の製品。調査後の欠損がやや多い。	—
516-40 232	鉄器 不詳	D区内 破片	重 7.4	—	—	—	全体に錆化が非常に著しい。詳細は不明である。	—
516-41 232	鉄器 不詳	表土層 破片	幅 0.45 重 10.3	—	—	—	全体に錆化が顕著である。「T」字状を呈する形状であるが、器種は不明である。断面は正方形を呈する。	—
516-42 232	鉄器 刀子か	覆土内 茎破片	重 2.2	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面梯形状を呈する。刀子の茎と考えられる。	—
516-43 232	鉄器 刀子か	試掘トレンチ 茎残存	厚 0.15 重 4.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査以前の欠損。茎尻が残存する。	—

516-44 232	鉄 器 釘	45-B-32 一部欠損	幅 0.6 重 17.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。上端側は「L」字状にほぼ直角に屈曲している。断面は正方形状を呈する。	—
516-45 232	鉄 器 不詳	F区内 両端欠損	重 8.5	—	—	—	全体に錆化は及んでいるが比較的良く形状を残している。錆の質感から中世の所産と考えられる。	中世
516-46 232	鉄 器 釘	38-B-36 周辺 III層	重 33.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。頭部側を欠損する。断面正方形。	—
516-47 232	鉄 器 釘	III層 両端欠損	重 11.0	—	—	—	全体が調査後の錆化により剥落している。	—
516-48 232	鉄 器 釘	D区内 中央部・ 先端欠損	重 17.3	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが、旧状はある程度判断出来、頭部が非常に大きいことが認められる。断面は正方形状を呈する。	—
516-49 232	鉄 器 不詳	III層 断片	重 24.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面は正方形を呈する。	—
516-50 232	鉄 器 不詳	45-B-39 完存	幅 0.5 重 21.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の錆化に伴ない剥落している部分がある。全体形は先端側がフック状になっている。	—
516-51 232	鉄 器 錠	III層土内 欠	重 142.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の錆化による破損が非常に著しい。先端側はほぼ直角に屈曲し「T」字状になっている。手元側は「V」字状になっている。	—
516-52 232	鉄 器 鑄鉄 破片	表土 破片	厚 0.8 重 88.2	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆化の状態から鑄鉄と考えられる。	—
516-53 232	鉄 器 鉄塊 不分明	III層土中 不分明	重 5.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。質量はある。	—
516-54 232	鉄 器 不詳	46-B-35 不分明	重 10.1	—	—	—	全体に錆化が非常に著しい。断面正方形状と思われる。詳細不詳。	—
516-55 232	鉄 器 鑄鉄片 不分明	表土 不分明	厚 0.7 重 19.8	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。錆化の状態から鑄鉄と考えられる。	—
516-56 232	鉄 器 鉄塊 トレンチ 内	35-B-26	重 24.8	—	—	—	鉄製品ではない。体積に比較し質量がやや少ない感がある。	—
516-57 232	鉄 器 鉄塊 不分明	38-B-30 III層 不分明	高 28.0	—	—	—	鉄製品ではない。質量は鉄製品並である。	—
516-58 232	鉄 器 鉄塊 不分明	III層土中 不分明	重 42.0	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。質量重い。	—
516-59 232	鉄 器 不詳	調査区内 完存	重 18.4	—	—	—	全体に錆化が著しい。上面に孔を有する。火打ち鎌か？	—
516-60 232	鉄 器 蝶番 完存	G区内 完存	重 12.5	—	—	—	全体的に錆化は著しくない。旧状は非常によく留めている。	—
516-61 232	鉄 器 蝶番 完存	G区内 完存	重 13.1	—	—	—	全体的に錆化は著しくない。旧状は非常に良く留めている。	—
516-62 232	鉄 器 鎌	表土 ほぼ完存	重 17.1	—	—	—	全体に錆化が及ぶが比較的遺存は良好。刃部は錆化により失っている。	—
516-63 232	鉄 器 鉄	表土層 1/2	重 3.4	—	—	—	全体が錆化する。小型の握り鉄と考えられる。	—
516-64 232	銃 火 器 弾 頭	表土層 1/2	径 0.77 重 5.9	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。形状は比較的良く残存する。口径7.7mmの小銃弾頭と思われる。	—

## A区外

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
517-1 233	縄文式土 器 深鉢	覆土内 破片	口 (24.0)	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。器内面に研磨を施す。内面口唇部直下に沈線を施す。	
517-2 233	石 器 スクレク パ ー	表土 完存	長 6.5 幅 5.8 厚 1.3	細粒安山岩	—	—	礫面を一部に残す。全体を粗く剥離する。	重65g



遺物一覧表

517-3 233	石器 ドリル	V層 完存	長 5.8 幅 1.9 厚 0.6	黒色頁岩	—	—	先端を欠損する。周縁に剥離が及んでいる。	重 6g
517-4 233	石器 敲石	1井戸 完存	長 7.8 幅 6.4 厚 3.1	黒色頁岩	—	—	自然面は認められない。表面側は全体に剥離が及んでいる。	重200g
517-5 233	石器 不定形石器	XⅡ (遺構外)	長 16.4 幅 7.8	黒色頁岩	—	—	全体に粗い剥離が施されている。部分的に小単位の剥離が認められる。	重 250.5g
517-6 233	石器 剥片石器	A区V層 完存	長 12.6 幅 6.5 厚 1.7	黒色頁岩	—	—	一側面に小単位の剥離が認められる。	重110g
517-7 233	石器 打製石斧	1溝 完存	長 6.2 幅 3.0 厚 1.0	細粒安山岩	—	—	基部中位で欠損後、欠損部を刃部に再加工する。	重40g
517-8 233	石器 打製石斧	覆土内 完形	長 10.2 幅 3.2 厚 0.9	輝緑岩	—	—	全体に小身の薄め作りである。剥離も工程数とすれば少ない。	重50g 短冊形
517-9 233	石器 打製石斧	表土 完形	長 14.1 幅 5.7 厚 1.7	黒色頁岩	—	—	先端側に使用痕が認められるが、裏面側は認められない。又、この使用痕より新しい剥離が多い。	重180g
517-10 233	石器 打製石斧	表土 完形	長さ 9.7 幅 4.9	黒色頁岩	—	—	被熱により欠損。	重70.0g
517-11 233	石器 打製石斧	表土 完形	長 14.4 幅 4.6 厚 2.0	黒色頁岩	—	—	基部の稜は比較的しっかりしている。先端は磨滅が顕著である。	重150g
518-1 233	石器 打製石斧	V層 後端欠損	長 (10.9) 幅 4.4 厚 1.2	灰色安山岩	—	—	後端を欠損する短冊形の打製石斧。刃部側は非常に磨滅している。	重150g
518-2 233	石器 打製石斧	㊦攪乱 破片	幅 7.1	閃緑岩	—	—	端部側を欠損する。片面は自然面を多く残こす。	重 400.0g
518-3 233	石器 打製石斧	1井戸 完形	長 12.2 幅 4.4 厚 1.5	細粒安山岩	—	—	片面側に礫面を残こす。先端側が少し磨滅する。	短冊形 重120g
518-4 233	礫器 敲石	埋土内 完存	長 (14.5) 幅 6.5 厚 5.4	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められ、敲打に伴う剝落が多い。	重945g
518-5 233	礫器 敲石	VI層 完存	長 12.9 幅 6.9 厚 3.6	粗粒安山岩	—	—	小口・側部には敲打痕が顕著に認められ、平坦面は磨滅する。表裏面には凹みがある。	重600g
518-6 233	礫器 敲石	V層 ½	長 8.0 幅 7.6 厚 4.7	粗粒安山岩	—	—	518図-5に同じ。	重435g
518-7 233	礫器 擦石	1溝 完形	長 3.6 幅 3.0 厚 2.7	粗粒安山岩	—	—	全体が丸く、全面が磨滅する。	重40g
518-8 233	石器 定角形 磨製石斧	A区内 ½	長 5.7 幅 3.3 厚 1.4	変玄武岩	—	—	粗作り時の剥離痕が残こす。	重50g
518-9 233	礫器 擦石	A区内 完存	長 6.0 幅 5.6 厚 4.3	粗粒安山岩	—	—	上面が使用に伴ない磨滅する。	重90g
518-10 233	礫器 擦石	表土 完存	長 5.2 幅 5.0 厚 4.0	石英閃緑岩	—	—	上面が使用に伴ない磨滅する。	重150g
518-11 233	石製品 擦石	V層 ½	幅 5.0 厚 2.2	二ツ岳軽石	—	—	三角形を呈し、片側のみに磨滅が認められる。	重100g
518-12 233	礫器 擦石	表土 完存	長 6.2 幅 5.8 厚 5.5	粗粒安山岩	—	—	全体が使用に伴ない磨滅する。	重280g

## A 区 外

519-1 233	土師器 坏	表土 破片	口 (12.4)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り。口縁部内湾する。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。体部に型膚を残し器内面に暗文を施す。	藤岡系か
519-2 233	土師器 坏	表土 破片	口 (12.6)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	519図-1に同じ	藤岡系
519-3 233	土師器 坏	III層 破片	口 (13.2)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り。口縁部内湾する。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。体部に型膚を残し、器内面に暗文を施す。	西毛系
519-4 233	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.6)	白色微粒子 シルト質	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反し、沈線を施す。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系か
519-5 233	土師器 坏	III層 破片	口 13.0	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部篋状工具の横撫により直立気味。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	西毛系
519-6 233	須恵器 内黒土器 坏 蓋	1号溝 破片	口 (14.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	端部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。器内面に暗文を施し吸炭させている。	笠懸系
519-7 233	須恵器 蓋	表土 破片	口 (19.0)	黒色粒子	還元焰	褐灰	轆轤成形(右回転)。	不詳
519-8 233	須恵器 蓋	表土 1/2	口 ( 8.0)	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。天上部は手持ち篋削り。滴を欠損する。	秋間系
519-9 233	須恵器 蓋	表土 破片	口 (16.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	東海系か
519-10 233	須恵器 葉壺・蓋	表土 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。罫は貼付後轆轤整形。器外面に自然袖付着。	秋間系
519-11	須恵器 坏	A区内 破片	口 (11.0)	白色微粒子	中性焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は手持ち篋削り。	秋間系
519-12 233	須恵器 坏	表土 破片	口 (12.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。口縁直下に稜を有し底部は手持ち篋削り。	秋間系か
519-13 233	須恵器 坏	III層 破片	口 (13.2)	白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外傾する。口縁直下に稜を有する。底部は手持ち篋削り。	秋間系
519-14 233	須恵器 坏	表土 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	東海系か
519-15 233	須恵器 坏	7-A-23 III層 細片	口 (16.0)	密	還元焰 焼締め	灰	口縁部は長く内傾する。	東海系か
519-16 233	須恵器 坏	表土 破片	口 (14.0)	白色微粒子	還元焰 焼締め	灰	轆轤成形(右回転)。	乗附系か 東海系
519-17 233	須恵器 耳皿	攪乱 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
519-18 233	須恵器 片口か	攪乱 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
519-19 233	須恵器 耳皿	表土 破片	口 10.0 底 6.0 高 1.6	微粒雲母 白色微粒子 デイサイト	還元焰	黄灰	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り後両側を摘み耳皿成形する。	藤岡系
519-20	土師器 高坏脚	表土 破片	底 ( 8.8)	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。坏部外面は篋削。脚部は撫で後外面に暗文を施す。	西毛系
519-21 234	土師器 高坏脚	表土 破片	—	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	紐作り。外面は篋撫でにより粘土紐を撫で付ける、内面は粘土紐の輪積みの単位を残す。	藤岡系
519-22 222	土師器 台付甕	覆土内 破片	—	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作りか。型作り成形。器外面は斜位乃至横位の篋削りを施す。	藤岡系
519-23 234	須恵器 壙	A区内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。底部に墨書が認められるが判読不能。	不詳 墨書-22
519-24 222	須恵器 高台付坏	1/2	口 (18.0) 底 5.3 高 (12.2)	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	信州系か
519-25 234	須恵器 高台付坏	表土 破片	底 (10.4)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台は削り出し。	秋間系
519-26 234	須恵器 高坏	1号溝 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。見込部は平坦である。	乗附系か 藤岡系

遺物一覧表

519-27 234	土師器か 甕	表土 破片	厚 0.4	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	器面轆轤痕が見られ、轆轤回転を用い横位の 条痕を施す。胎土は藤岡系土師器のものである が、轆轤を使用することから須恵工人による 作陶の可能性はある。	藤岡系
519-28 222	須恵器 高坏	C区暗渠 片	—	白色粒子	還元焰	灰	脚部は角柱状の工具を芯にしている。	不詳
519-29 234	須恵器 短頸壺	III層 破片	口 ( 8.0)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形か (右回転)。	秋間系
519-30 234	須恵器 壺	表土 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
519-31 234	須恵器 壺	攪乱 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
519-32 234	須恵器 壺	攪乱 破片	厚 0.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
519-33 234	須恵器 短頸壺	35住(縄 文)破片	頸 ( 8.8)	白色微粒子	還元焰	褐灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
519-34 234	須恵器か 壺	表土 破片	最径 11.0	黒色粒子	還元焰	黄灰	轆轤成形? (右回転)。灰釉の可能性はある。	東海系
520-1 234	須恵器 壺	表土 破片	肩 (18.3)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
520-2 234	須恵器 壺	表土 破片	最径 16.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。肩部に耳を有す る (貼り付)。	秋間系
520-3 234	須恵器 壺	表土 破片	底 17.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
520-4 222	須恵器 壺	4土坑No1 破片	底 ( 8.6)	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
520-5 234	須恵器 壺	表土 破片	高 ( 3.5)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	不詳
520-6 222	須恵器 提瓶	1溝 覆土内 破片	最径 20.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。底部周辺は叩き 整形。	乗附系
520-7 234	須恵器 甕	表土 破片	厚 0.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
520-8 234	須恵器 甕	1号溝 破片	厚 1.2	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。器内外面に自然 釉付着。	乗附系
520-9 234	須恵器 甕	表土 破片	厚 0.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
520-10 234	須恵器 大甕	III層 破片	厚 1.3	暗赤紫褐色粒 子	還元焰 焼締	黄灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。口縁部は外傾し、 6本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤 整形 (右回転)。	東海系か
520-11 234	須恵器 甕	表土 破片	厚 0.9	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文) 後印毛目による轆轤回転撫で。	搬入品 東海系か
520-12 234	須恵器 甕	表土 破片	厚 0.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面米格子叩き・内面宛 具は素文)。	不詳
520-13 234	須恵器 甕	表土 破片	厚 0.8	白色微粒子	中性焰	灰黄	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は木目)。	秋間系
520-14 234	須恵器 甕	表土 破片	厚 1.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	乗附系
521-1 234	須恵器 甕	1溝 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
521-2 234	須恵器 甕	表土 破片	厚 0.6	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は不詳)。後内面撫で整形。	乗附系
521-3 234	須恵器 甕	表土 破片	厚 1.1	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
521-4 234	須恵器 甕	III層 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は素文)。	秋間系
521-5 234	須恵器 大甕	表土 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
522-1 235	須恵器 大甕	表土 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	乗附系
522-2 235	須恵器 大甕	表土 破片	厚 1.3	黒色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。下半部の胎土は砂質が多い。	乗附系か 東海系

## A 区 外

522-3 235	転用硯	1溝 部分欠損	長 11.7 幅 12.2 厚 1.2	白色微粒子 微粒雲母	還元焰	灰	須恵器大甕の胴部片を転用。周辺を打ち欠き磨き整形する。使用痕は顕著な状態である。	藤岡系
523-1 235	羽口	1溝 破片	厚 2.1 孔径 1.0	粗・細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	—
523-2 235	土製品 羽口	A区表土 破片	厚 2.1 孔径 1.3	細粒砂	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	—
523-3 222	石造品	埋土内 破片	厚 (9.5)	二ツ岳軽石	—	—	国分寺の堂宇の基壇化粧の東石か。3面に加工痕を残す。	—
523-4 222	石造品	1溝	長 (16.3) 幅 (8.8) 厚 (7.5)	二ツ岳軽石	—	—	国分寺の堂宇等の基壇化粧に用いたか。外面はやや粗い研き整形している。	—
523-5 235	鉄器 釘	表土 頭部 先端欠損	幅 0.4 重 2.2	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。頭部折り曲げている。断面正方形を呈する。	—
523-6 235	鉄器 釘	表土 先端欠損	重 16.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。頭部には折り曲げの痕跡は認められない。断面正方形を呈する。	—
523-7 235	鉄器 釘	表土 先端欠損	幅 0.9 重 29.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。遺存は比較的良好である。頭部は折り曲げの痕跡がない。断面長方形を呈する。	—
523-8 235	鉄器 釘	表土 先端欠損	幅 0.7 重 13.1	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損により全体が損傷している。又、頭部の状態が通常の釘とは異なっている。	—
523-9 235	鉄器 釘	V層 破片	幅 0.6 重 2.7	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。調査後の欠損も著しい為詳細不詳。	—
523-10 235	鉄器 釘	表土 破片	幅 0.7 重 5.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。断面正方形を呈する。	—
523-11 235	鉄器 釘	III層土 両端欠損	幅 0.5 重 11.5	—	—	—	全体に錆が顕著である。調査後の欠損も多い。	—
523-12 235	鉄器 釘	表土 両端欠損	幅 0.8 重 23.6	—	—	—	全体に錆化が及んでいるが比較的状态は良好である。断面正方形を呈する。	—
523-13 235	鉄器 鋸先	表土 破片	厚 0.2 重 47.9	—	—	—	全体に錆化が著しい。鋸先の一部で破損後に廃棄されている。破損時は先端部分も磨滅している。	—
523-14 235	鉄器 刀子	表土 茎尻?	重 2.5	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。先端側は、旧状を遺存している。断面長方形を呈する。	—
523-15 235	鉄 大刀子	不明 ほぼ完存	全長 17.3 身長 11.4 重 37.6	—	—	—	全体に錆化が著しい。刀身中央部に鍛造時の折があり、この部分から錆化破損している。	重ね0.3 茎長5.8 +α
523-16 235	鉄器 蓋?	A区内 破片	32.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。鑄鉄と考えられブロック状に錆化が認められる。	—
523-17 235	鉄器 不詳	表土 破片	幅 1.1 重 9.3	—	—	—	全体に錆化が著しく、調査後の錆化欠損も多く遺存は非常に悪い。断面は長方形を呈し、全体は棒状を呈する。	—
523-18 235	鉄 不詳	表土 破片	重 3.4	—	—	—	全体に錆化が及んでいる。細片のため詳細不詳。	—
523-19 235	鉄器 不詳	表土 先端欠損	幅 1.1 重 4.2	—	—	—	全体に錆化が著しい。調査後の欠損も著しい。形状は棒状の製品を熱により折り曲げている。	—
524-1 222	石造品	III層 破片	長 (15.0) 幅 (13.2) 厚 (10.4)	角閃右安山岩	—	—	国分寺の堂宇の基壇化粧に用いられたと考えられる。3面に加工面が残存する。	—
524-2 235	土製品 土錘	表土層 %	長 (4.6) 幅 2.1	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紡錘形状を呈し中央を穿孔する。	重15.1g
524-3 235	土製品 耳栓	4溝 完形	長 3.2 狭 1.8 広 2.4	細粒砂	酸化焰	橙	小形の滑車形耳栓と考えられる。両端に渦巻文を施す。	—
524-4 235	土製品 円盤	48住 覆土内 完存	厚 0.9	細粒砂	酸化焰	橙 黄橙	無文部片の縁辺を丁寧に磨き加工している。	—

遺物一覧表

524-5 235	土製 円盤	83住 覆土内 完存	厚 0.6	細粒砂	酸化焰	橙	懸垂文と地文(縄文LR)部の破片を転用し、 縁辺を加工する。	—
524-6 235	土製 円盤	1溝 完存	厚 0.8	細粒砂	酸化焰	橙	懸垂文と縄文(LR)部片を転用し、縁辺を 加工している。	—
524-7 235	須恵器 転用円盤	表土 完存	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	器種不明、縁辺を磨き加工している。	不詳
524-8 235	須恵器 転用円盤	表土 完存	厚 1.2	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	須恵器大甕の胴部片を転用する。	乗附系
524-9 235	土製 円盤	85住 覆土内 完存	厚 1.1	細粒砂	酸化焰	黄橙	無文部片を転用し縁辺を加工している。	—
524-10 235	土師器 不詳	III層 破片	口 (4.2)	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	紐作成形。内外面は撫で整形。	不詳
524-11 222	石製品 不詳	III層 完存	長 3.3 幅 4.3 厚 0.6	頁岩	—	—	剥片状の石片を用いる。縁辺を磨き、平面磨 いているが、全体に粗雑である。	縄文時代の所産か
524-12 235	施釉磁器 白磁塊	1溝 破片	—	密	良好	白	口縁部は平縁で口唇部はやや尖っている。釉 調はやや陰沈に傾く。気泡は肉眼では認めら れない。近世の可能性はある。	—
524-13 235	施釉陶器 灰釉塊	覆土内 破片	底 (6.4) 高 (0.9)	やや粗い	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛けか。	—
524-14 235	施釉陶器 灰釉塊	1溝 破片	—	やや密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛け。	—
524-15 235	施釉陶器 灰釉壺	III層 破片	—	やや密	良好	灰褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。	—
524-16 235	施釉陶器 緑釉塊	1溝 破片	底 (7.2)	密	硬	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。釉調は淡く薄い。	—
524-17 235	施釉陶器 灰釉塊	1溝 破片	—	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	—
524-18 235	土師質土 器皿 (カワラ ケ)	表土 %	口 (7.0) 底 4.0 高 1.8	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(左回転)、底部は回転糸切り。	15世紀 在地系
524-19 235	石製品 石白 (下白)	A区内 破片	口 (31.3) 高 (4.9)	粗粒安山岩	—	—	下白のはんぎり部分。敲打整形後研ぎ整形を している。	—
524-20 235	軟質陶器 内耳鍋	表土 破片	口 (31.8)	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	オリ ーブ黒	紐作り後轆轤整形(左回転)。	在地系
525-1 235	軟質陶器 鉢	表土 破片	口 (29.4)	微粒雲母 白色微粒子	還元焰	灰オリ ーブ	紐作り後轆轤整形(左回転)。	在地系
525-2 235	軟質陶器 鉢	107住 覆土内 破片	口 (29.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。	在地系
525-3 235	軟質陶器 播鉢	表土 破片	口 (32.6)	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰オリ ーブ	紐作り後轆轤整形(左回転)。	在地系
525-4 235	軟質陶器 播鉢	72住 破片	口 (36.8)	白色微粒子 赤褐色粒子	還元焰	鈍褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。	在地系
525-5 222								重8200g
525-6	土製品 不詳	不明 ほぼ完形	上面径2.2 最大径4.9 高 5.4	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙 黄橙	下膨れ状の球体を呈し、上面が平坦になっ ている。この上面から、球体の中心まで孔を有 する。分銅(おもり)の可能性はある。	孔径8.0 重110g

B区外

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
526-1 236 瓦-743	瓦 鍍瓦	III層 破片	—	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は面遠鋸歯文複弁8葉蓮華文瓦であ り、太田市寺井廃寺の瓦と考えられる。	太田系

## B 区 外

526-2 236 瓦-744	瓦 鏡 瓦	5トレンチ 破片	—	白色微粒子	中性焰	黄灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。一本作り。	笠懸系
526-3 236 瓦-745	瓦 鏡 瓦	III層 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰 焼締	暗灰	1本作り、瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。国分寺創建統一意匠。	笠懸系
526-4 236 瓦-746	瓦 鏡 瓦	表土	1.7	白色微粒子	還元焰	黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文と考えられる。	笠懸系
526-5 236 瓦-747	瓦 鏡 瓦	B区内 破片	—	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は山王秋間系複弁7葉蓮華文の抽象化した意匠。	秋間系
526-6 236 瓦-748	瓦 鏡 瓦	表土 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は不詳。	秋間系
526-7 236 瓦-749	瓦 鏡 瓦	表土 破片	—	白色鈹物粒子	中性焰	黄灰	一本作り。単弁4葉蓮華文。中房子葉は弁の中央に珠点を配する。	吉井系
526-8 236 瓦-750	瓦 鏡 瓦	B区内 破片	—	白色鈹物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
526-9 236 瓦-751	瓦 鏡 瓦	B区内 破片	—	白色鈹物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は不詳。	吉井系
526-10 236 瓦-752	瓦 鏡 瓦	表土 破片	—	白色鈹物粒子	還元焰	灰	一本作り。単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
526-11 236 瓦-753	瓦 鏡 瓦	III層 破片	厚 1.6 (女瓦部)	白色鈹物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一本作り。瓦当意匠は単弁5葉蓮華文か。	吉井系
526-12 236 瓦-754	瓦 鏡 瓦	III層 破片	—	白色鈹物粒子	還元焰	褐灰	一本作り。瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。	吉井系
526-13 236 瓦-755	瓦 鏡 瓦	III層 男瓦部欠 損	面径 15.3	白色鈹物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。	吉井系
526-14 236 瓦-756	瓦 鏡 瓦	表土 破片	厚 1.8	白色鈹物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁4葉。	吉井系
526-15 236 瓦-757	瓦 鏡 瓦	III層 破片	厚 2.5	白色鈹物粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。一本作り。	吉井系
526-16 236 瓦-758	瓦 鏡 瓦	表土 破片	—	白色鈹物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。	吉井系
526-17 236 瓦-759	瓦 鏡 瓦	表土 破片	厚 1.7	黒色粒子 白色粒子 白色鈹物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁5葉蓮華文と考えられる。男瓦部は半截作り。	吉井系
526-18 236 瓦-760	瓦 鏡 瓦	2号溝 破片	厚 1.6	白色鈹物粒子	還元焰 焼締	灰	単弁8葉蓮華文。内区全体の肉置きがやや高い。	吉井系
526-19 236 瓦-761	瓦 鏡 瓦	III層 破片	—	白色鈹物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。背面は篋撫で整形。	吉井系
526-20 237 瓦-762	瓦 鏡 瓦	表土 破片	—	白色鈹物粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
526-21 237 瓦-763	瓦 鏡 瓦	1号土坑 破片	—	白色鈹物粒子	還元焰	灰白	一本作り。瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。	吉井系



遺物一覧表

526-22 237 瓦-764	瓦 鏡瓦	38-B-30 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。瓦当部は印籠付。	吉井系
527-1 237 瓦-765	瓦 鏡瓦	表土 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。弁間に珠点を配す。	吉井系
527-2 237 瓦-766	瓦 鏡瓦	III層 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房は珠点中房。	吉井系 瓦-98と 同範か。
527-3 237 瓦-767	瓦 鏡瓦	表土 破片	—	白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	一本作り。単弁6葉蓮華文。中房は珠点中房。	吉井系
527-4 237 瓦-768	瓦 鏡瓦	表土 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一本作り。単弁4葉蓮華文。中房の子葉は4。	吉井系
527-5 237 瓦-769	瓦 鏡瓦	表土 破片	—	白色粒子 白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	一本作り。単弁4葉蓮華文。中房は珠点中房。弁間に珠文を配する。	吉井系
527-6 237 瓦-770	瓦 鏡瓦	表土 破片	—	黒色粒子 シルト粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁6葉蓮華文と考えられる。	吉井系
527-7 237 瓦-771	瓦 鏡瓦	IV-B-34 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は不詳。	不詳
527-8 237 瓦-772	瓦 鏡瓦	35-B-86 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は不詳。	笠懸系
527-9 237 瓦-773	瓦 鏡瓦	B区表土 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当意匠は不詳。	不詳
527-10 237 瓦-774	瓦 鏡瓦	表土 破片	—	白色鉍物粒子	中性焰	黄灰	瓦当意匠は不詳。	吉井系
527-11 237 瓦-775	瓦 鏡瓦	47-B-42 III層 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰	意匠は不詳。	吉井系
527-12 237 瓦-776	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰	鏡瓦の瓦当部と男部のおさえの粘土。	吉井系
527-13 237 瓦-780	瓦 宇瓦	5号井戸 破片	—	白色微粒子 透明鉍物粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は飛雲文。外区に珠文を配する。	笠懸系
527-14 237 瓦-781	瓦 宇瓦	表土 破片	高 4.0	白色微粒子 透明鉍物粒子	酸化焰 か	鈍褐	右扁行唐草文。国分寺創建統一意匠。女瓦部は一枚作りか。凹面布目擦り消し。	笠懸系
527-15 瓦-782	瓦 宇瓦	35-B-36 III層 破片	厚 2.6	白色粒子 細粒砂	還元焰	灰白	国分寺創建統一意匠。右扁行唐草文を意匠とし、外区に珠文を配す。	笠懸系
527-16 237 瓦-783	瓦 宇瓦	表土 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右扁行唐草文。瓦当部は印籠付。女瓦部は一枚作り。	笠懸系
527-17 238 瓦-784	瓦 宇瓦	表土 破片	厚 2.8 幅 4.8	白色粒子	還元焰 焼締	灰	右扁行唐草文。凹面布目擦り消し、凸面縦位の寛撫で整形。	笠懸系
527-18 237 瓦-785	瓦 宇瓦	表土 破片	—	白色微粒子	中性焰	鈍黄橙	瓦当意匠は右扁行唐草文。	笠懸系
527-19 237 瓦-786	瓦 宇瓦	III層 破片	厚 2.5	白色鉍物粒子	酸化焰 か	黄橙	右扁行唐草文。国分寺創建統一意匠。頸は段頸。凹面布目擦り消し。	笠懸系

## B 区 外

527-20 238 瓦-787	瓦 字 瓦	表土 破片	高 ( 5.4)	白色微粒子	還元焰	灰	右扁行唐草文。肉置きが浅い。	笠懸系
527-21 238 瓦-788	瓦 字 瓦	表土 破片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰 か	鈍橙	意匠不詳。女瓦部は1枚作り。凹面布目擦り 消し。	笠懸系
528-1 238 瓦-789	瓦 字 瓦	表土 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は不詳。	笠懸系
528-2 238 瓦-790	瓦 字 瓦	B 5 井戸 破片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右扁行唐草文か。顎は段顎。	吉井系
528-3 237 瓦-791	瓦 字 瓦	B区内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は不詳。範型の木目が顕著。	笠懸系か
528-4 238 瓦-792	瓦 字 瓦 か	表土 破片	—	シルト粒子	還元焰	灰白	字瓦の顎部の剥脱部分と考えられる。女瓦部 は凸面平行叩き。	秋間系
528-5 238 瓦-793	瓦 字 瓦	40-B-32 III層土 破片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は不明。女瓦部を欠損する。	吉井系か
528-6 238 瓦-794	瓦 字 瓦	44-B-35 III層 破片	厚 1.4	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は重郭文。女瓦部は一枚作りか。凹 面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
528-7 238 瓦-795	瓦 字 瓦	1号溝 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子	酸化焰	黄橙	瓦当意匠は唐草文の抽象文。女瓦部は桶巻き 造りか。	吉井系
528-8 238 瓦-796	瓦 字 瓦	B区内 破片	厚 3.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	瓦当意匠は重郭文。瓦当接合部は芋付。女瓦 部は桶巻き造り。凸面縦位の撫で整形。側部 面取り2回。	吉井系
528-9 238 瓦-797	瓦 字 瓦	B区内 破片	厚 2.7	白色微粒子 白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当面欠損。女瓦部は一枚作りか。側部面取 り2回。	吉井系
528-10 238 瓦-798	瓦 字 瓦	表土 破片	厚 2.6	白色鉍物粒子	還元焰 焼締	灰	瓦当意匠は重郭文。顎部に赤色顔料が付着。 女瓦部は一枚作りか。粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
528-11 238 瓦-799	瓦 字 瓦	表土 破片	厚 2.1	白色鉍物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は重郭文。女瓦部は一枚作り。側部 面取り2回。	吉井系
528-12 238 瓦-800	瓦 字 瓦	表土 細片	—	白色粒子 白色鉍物粒子	還元焰	褐灰	字瓦の顎部の細片。瓦当意匠不詳。	吉井系
528-13 238 瓦-801	瓦 字 瓦	表土 細片	—	白色鉍物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠不詳。	吉井系
528-14 238 瓦-778	瓦 鏡 瓦	B区内 細片	—	白色鉍物粒子 白色粒子	中性焰	灰褐	単弁系の瓦当意匠と考えられる。	吉井系
528-15 238 瓦-663	瓦 鏡 瓦	A区1号 井戸 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	国分寺創建統一意匠。単弁5葉蓮華文。背面 撫で整形。	笠懸系
528-16 238	瓦 女 瓦	B区試掘 トレンチ 破片	厚 1.3	白色鉍物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	作り不詳。凸面米格子叩き。凹面縦位の鏡撫 で。	吉井系
528-17 238 瓦-742	瓦 女 瓦	僧寺南門 附近破片	厚 2.1	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「子・二」(凸面)。	笠懸系
529-1 239 瓦-779	瓦 鏡 瓦	表土層 細片	—	白色粒子	酸化焰	赤褐	瓦当意匠は不詳。背面は布目、布目の状態か ら一本作りと考えられる。	吉井系

## 遺物一覧表

529-2 瓦-803	瓦 字瓦	43-B-37 III層 破片	厚 2.8	白色微粒子	還元焰	灰	右扁行唐草文。国分寺創建統一意匠。女瓦部は一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面縦位の篋撫で整形。	笠懸系
529-3 239 瓦-804	瓦 字瓦	調査区内 破片	厚 2.6	白色微粒子	還元焰	灰	右扁行唐草文。外区に珠文を配する。女瓦部は一枚作り。凹面粘土板剥き取り痕。側部面取り3回。	笠懸系
529-4 239 瓦-802	瓦 字瓦	B区内 瓦当面破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は飛雲文である。残存部の断面は粘土紐の単位で剥脱している。	笠懸系
529-5 239	瓦 玉縁付	B区内 破片	厚 1.2	白色鉾物粒子 ダイヤサイト	還元焰	灰	半載作り。凹面粘土板剥き取り痕。凸面轆轤整形。側部面取り2回・端部面取り3回。玉縁接合はA類。	吉井・藤岡系
529-6 239	瓦 男瓦	40-B-29 III層 破片	厚 1.6	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	半載作り。凸面縄叩き(密)縦位の篋撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。玉縁接合はA類。	吉井系
529-7 239	瓦 玉縁付	II層 破片	厚 2.4	白色粒子 白色鉾物粒子	還元焰 焼締	灰	半載作り。凸面縄叩き(密)轆轤整形。側部面取り2回。玉縁接合はA類。	吉井系
529-8 239	瓦 男瓦	46-B-32 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	半載作り。凸面正格子叩き。側部面取り3回・端部面取り3回。	乗附系
529-9 239	瓦 男瓦	A区表土 細片	厚 1.3	細粒砂	還元焰	灰黄	半載作り。凸面斜格子叩き。	不詳
530-1 239	瓦 女瓦	表土 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰褐	一枚作り。凸面粘土板剥き取り痕・斜格子叩き。側部面取り1回・端部面取り1回。側部喰出し段有り。	秋間系
530-2 239	瓦 女瓦	表土 破片	厚 1.7	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面平行叩き。	乗附系
530-3 239	瓦 女瓦	46-B-32 破片	厚 1.3	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面正格子叩き。側部面取り2回。	乗附系
530-4 239	瓦 女瓦	III層 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面木目叩き。端部面取り1回。	吉井系
530-5 239	瓦 女瓦	B区内土 坑破片	厚 1.5	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海波文)側部面取り1回。	吉井系
530-6 239	瓦 女瓦	表土 破片	厚 1.7	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面縄叩き。	笠懸系
530-7 239	瓦 女瓦	表土 破片	厚 1.8	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面平行叩き。側部面取り2回。	笠懸系
530-8 239	瓦 女瓦	III層 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥き取り痕。凸面縦位の撫で整形後斜格子叩き。側部面取り3回・端部面取り2回。	笠懸系
530-9 239	瓦 女瓦	III層 破片	厚 1.8	白色微粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面撫で整形後斜格子叩き整形。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
531-1 240	瓦 女瓦	III層 破片	厚 2.5	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造りか。凹面粘土板剥き取り痕。凸面轆轤整形後斜格子叩き。側部面取り3回・端部面取り1回。	不詳
531-2 240	瓦 女瓦	46-B-42 III層 破片	厚 1.1	白色微粒子 透明鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し。凸面粘土板剥き取り痕。斜格子叩き整形後縄叩き(密)。側部面取り2回・端部面取り2回。	笠懸系
531-3 240	瓦 女瓦	B区内 破片	厚 2.3	白色粒子 白色微粒子	還元焰 焼締	灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縄叩き。側部面取り3回・端部面取り1回。	北毛系
531-4 240 瓦-677	瓦 男瓦	45-B-40 II層 破片	厚 2.0	白色鉾物粒子 白色粒子 透明鉾物粒子	還元焰 焼締	灰	半載作り。凸面自然袖付着。側部面取り4回。篋描き文字瓦不詳(凸面)。	乗附系
531-5 240 瓦-678	瓦 女瓦	表土 破片	厚 1.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縄叩き(密)。篋描き文字瓦「大か木か夕」(凹面)。	秋間系
531-6 240 瓦-679	瓦 女瓦	III層 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 焼締	灰	一枚作り。凸面縄叩き(密)。篋描き文字瓦「大か木」(凹面)。	秋間系
531-7 240 瓦-680	瓦 女瓦	B区内 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回・端部面取り3回。篋描き文字瓦「入」(凸面)。	乗附系

## B 区 外

531-8	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.3	白色鉾物粒子 白色粒子 黒色鉾物粒子	酸化焰	明黄橙	一枚作り。凹面縦位の撫で整形(布目擦り消し)。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回・端部面取り3回。凸面墨書文字(不詳)。	吉井系
531-9 240 瓦-681	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.2	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。篋描き文字瓦「長一」(凸面)。	吉井系
532-1 240 瓦-682	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 1.8	白色微粒子 白色鉾物粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「子口」(凸面)。	吉井・藤岡系
532-2 240 瓦-683	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「織」か(凸面)。	吉井系
532-3 240 瓦-684	瓦 女 瓦	38-B-30 III層 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子 白色粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「織」(凸面)。	吉井系
532-4 240 瓦-685	瓦 男 瓦	40-B-42 III層 破片	厚 1.7	白色鉾物粒子 透明鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	灰褐	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「織」(凸面)。側部面取り2回。	吉井系
532-5 240 瓦-686	瓦 女 瓦	B区5井 戸 破片	厚 2.8	白色鉾物粒子 白色粒子 デイスait	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。篋描き文字瓦「尾か尼」(凸面)。	吉井・藤岡系
532-6 240 瓦-687	瓦 女 瓦	41-B-42 III層 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	一枚作り。凸面不定方向の撫で整形。篋描き文字瓦「當」(凸面)。	吉井・藤岡系
532-7 241 瓦-688	瓦 男 瓦	B3井戸 1/2	厚 2.2	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凸面篋描き文字「武」。側部面取り3回・端部面取り2回。	吉井系
532-8 240 瓦-689	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 1.2	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。篋描き文字瓦「力」(凸面)。	吉井系
533-1 241 瓦-690	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.2	白色鉾物粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「大」(凸面)。	吉井系か
533-2 241 瓦-691	瓦 男 瓦	III層	厚 2.2	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「下」(凸面)。	吉井系
533-3 241 瓦-692	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。両面粘土板剥ぎ取り痕。端部面取り2回。篋描き文字瓦「十」(凸面)。	吉井系
533-4 241 瓦-693	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子 黒色粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り1回。両面自然袖付着。篋描き文字瓦「十」(凸面)。	吉井系
533-5 241 瓦-694	瓦 男 瓦	表土 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	灰	紐作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。篋描き文字瓦「児か」(凸面)。	吉井系
533-6 241 瓦-695	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 2.3	白色鉾物粒子 白色粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「真」(凸面)。	吉井系
533-7 241 瓦-696	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.4	白色微粒子 デイスait	酸化焰	黒褐	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り1回。篋描き文字「山」。	吉井・藤岡系
533-8 241 瓦-697	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.3	白色鉾物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り3回。篋描き文字瓦「山」(凸面)。	吉井・藤岡系
533-9 241 瓦-698	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	褐灰	一枚作り。凸面木目叩き。側部面取り4回。篋描き文字「山」。	吉井系
533-10 241 瓦-699	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「入」(凹面)。	吉井系

遺物一覧表

534-1 241 瓦-700	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 1.2	白色鋇物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「見か児」(凸面)。	吉井系
534-2 241 瓦-701	瓦 女 瓦	近世島状 破片	厚 2.7	白色鋇物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側部面取り4回・端部面取り2回。	吉井系
534-3 241 瓦-702	瓦 男 瓦	41-B-42 III層 破片	厚 1.8	白色鋇物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凸面轆轤整形。側部面取り1回。篋描き文字瓦「里」(凸面)。	吉井系
534-4 242 瓦-703	瓦 女 瓦	II層 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦不詳(凹面)。	笠懸系
534-5 242 瓦-704	瓦 女 瓦	II層 破片	—	白色微粒子 透明鋇物粒子	酸化焰	黒褐	一枚作りか。篋描き文字瓦か篋傷(凹面)。	笠懸系
534-6 241 瓦-705	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 2.1	白色鋇物粒子 白色微粒子 透明鋇物粒子	還元焰	黄灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。篋描き文字瓦「力」(凸面)。	笠懸系
534-7 241 瓦-706	瓦 女 瓦	B区内 破片	厚 2.2	白色鋇物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
534-8 241 瓦-707	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.1	白色鋇物粒子 透明鋇物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面斜位の撫で整形。篋描き文字瓦「子か」(凸面)。	吉井系
534-9 241 瓦-708	瓦 男 瓦	表土 破片	厚 1.5	白色鋇物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作りか。篋描き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
534-10 242 瓦-709	瓦 女 瓦	II層 破片	厚 1.8	白色微粒子 白色鋇物粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。篋描き文字瓦不詳(凸面)。	吉井・藤岡系
534-11 242 瓦-710	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 2.2	白色鋇物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作りか。凸面撫で整形。篋描き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
534-12 242 瓦-711	瓦 女 瓦	35-B-32 III層 破片	厚 2.0	白色鋇物粒子 白色粒子 デイサイト	中性焰 か二次 焼成	灰	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦不詳(凹面)。	吉井・藤岡系
534-13 242 瓦-712	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 1.7	白色鋇物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦「田か」(凸面)。	吉井系
534-14 242 瓦-713	瓦 女 瓦	II層 破片	厚 2.0	白色鋇物粒子 微粒雲母 白色粒子	還元焰	浅黄橙	一枚作りか。凸面斜位の撫で整形。側部面取り2回。篋描き文字瓦か(凸面)。	吉井系
535-1 242 瓦-714	瓦 女 瓦	42-B-33 III層 破片	厚 2.2	白色鋇物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
535-2 242 瓦-715	瓦 女 瓦	40-B-29 III層 破片	厚 2.8	白色鋇物粒子 デイサイト	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回・端部面取り2回。凸面篋記号。	吉井・藤岡系
535-3 242 瓦-716	瓦 男 瓦	B区内 破片	厚 2.3	白色鋇物粒子 白色粒子	還元焰	褐	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り3回。篋描き文字瓦か篋傷(凸面)。	吉井系
535-4 242 瓦-717	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 1.8	白色粒子 白色鋇物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面不定方向の撫で整形。側部面取り2回。篋描き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
535-5 242 瓦-718	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 1.4	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作りか。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。面篋描き文字「不詳」。	吉井・藤岡系
535-6 242 瓦-719	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縄叩き。端部面取り2回。	笠懸系

## B 区 外

535-7 242 瓦-720	瓦 男 瓦	30-B-35 表土 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 3回。篋描き文字か篋記号(凸面)。	吉井系
535-8 242 瓦-721	瓦 男 瓦	表土 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰 焼締	暗灰黄	半截作り。凸面縦位の撫で整形。凹面縦位の 篋撫で整形。端部面取り2回。	乗附系
535-9 242 瓦-722	瓦 男 瓦	B区内 破片	厚 2.2	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤痕・篋描き文字「不詳」。	吉井系
535-10 242 瓦-723	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 2.1	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰 焼締	暗灰	一枚作りか。凸面撫で整形。篋描き文字瓦不 詳(凸面)。	吉井系
535-11 242 瓦-724	瓦 女 瓦	B区内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面縦位の撫で整形。凸面轆 轤整形。篋描き文字か篋傷(凸面)。	乗附系
535-12 242 瓦-725	瓦 女 瓦	III層 破片	厚 1.8	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。篋描き文字 瓦不詳(凸面)(二文字以上)。	吉井系
535-13 242 瓦-726	瓦 女 瓦	B区内 破片	厚 1.7	白色粒子 透明鉾物粒子	酸化焰	断・橙 外・黒灰	一枚作り。凸面縄叩き後撫で整形。篋描き文 字か篋傷(凸面)。	笠懸系
535-14 242 瓦-727	瓦 女 瓦	40-B-42 III層 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り 3回。篋描き文字瓦不詳(凸面)。	吉井系
535-15 242 瓦-728	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子 白色粒子	還元焰	灰	作り不詳。篋描き文字か篋傷(凸面)。	吉井系
535-16 242 瓦-729	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 3.0	白色鉾物粒子 白色粒子 デイスait	酸化焰	橙	一枚作りか。凹面布目撫で消し。凸面縦位の 撫で整形。篋描き文字瓦か(凸面)。	吉井系
536-1 243 瓦-730	瓦 女 瓦	43-B-37 破片	厚 2.6	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面叩き整形。刻印文字瓦「勢」 (凸面)。凸面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
536-2 242 瓦-731	瓦	III層 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目擦り消し・粘土板剥ぎ取 り痕・篋記号。凸面斜格子叩き。	笠懸系
536-3 242 瓦-732	瓦 女 瓦	43-B-37 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面正格子叩き。刻印文字瓦「藪 田」(凸面)。	笠懸系
536-4 242 瓦-733	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凸面正格子叩き。刻印文字瓦「藪 田」(凸面)。	笠懸系
536-5 242 瓦-734	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 1.6	白色微粒子	中性焰 か	外・灰 断・鈍 黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。刻印文字瓦「佐 位」(凸面)。	笠懸系
536-6 243 瓦-735 瓦-736	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰 か	黄橙	一枚作り。篋描き文字瓦「井」(凹面)。刻印 文字瓦「山田」(凸面)。	笠懸系
536-7 243 瓦-737	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 1.7	白色鉾物粒子	酸化焰 か	橙	一枚作り。凹面の布目は非常に細かい。刻印 文字瓦「多・大」(凸面)。	吉井系
536-8 243 瓦-738	瓦 女 瓦	B区内 破片	厚 1.9	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「方」(凸面)。凸面縦 位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井系
536-9 243 瓦-739	瓦 女 瓦	B区内 破片	厚 2.5	白色鉾物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面篋描き文字「大」と刻印文 字「當」。	吉井・藤 岡系
536-10 243 瓦-740	瓦 女 瓦	表土 破片	厚 2.4	白色鉾物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	一枚作りか。篋描き文字瓦「山」(凸面)。端 部面取り3回。	吉井系



遺物一覧表

536-11 243 瓦-741	瓦 男 瓦	表土 ¼	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰 気味	鈍褐	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り 2回・端部面取り2回。凹面粘土板剥ぎ取り 痕。	吉井系
536-12 243 瓦-777	瓦 鏡 瓦	III層 破片	—	白色微粒子	還元焰 焼締	暗灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。一本 作り。	笠懸系
537-1 243 瓦-805	瓦 鏡 瓦	埋土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	暗灰	複弁七葉蓮華文の抽象意匠の細片である。	秋間系
537-2 瓦-806	瓦 鏡 瓦	覆土内 ¼	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	黒灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。同范 の完存例は希少。	笠懸系
537-3 瓦-807	瓦 鏡 瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	暗灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。	笠懸系
537-4 瓦-808	瓦 鏡 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は単弁五葉蓮華文。	笠懸系
537-5 瓦-809	瓦 鏡	フク土 30-B-38 III層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は 1+5。瓦当面自然釉付着。	笠懸系 B-外 22094と 接合
537-6 243	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 ダイサイト	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	101図-4・5の接合したもの。	吉井系
537-7	瓦 玉縁付男 瓦	床直 ¼	厚 2.1	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	5-22-10・11の接合。	雷電山
538-1	瓦 男 瓦	覆土内 ¼	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰	23図-1・22図-12の接合。	笠懸系 (雷電山 か)
538-2 244	瓦 男 瓦	床直 一部欠損	長 42.5 幅 15.8 広 17.2	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	24図-1と接合。	吉井系
539-1 瓦-573	瓦 男 瓦	カマド内 一部欠損	長 34.0 幅 16.6 広 18.8	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	22図-9の接合図。	吉井系
539-2	瓦 女 瓦	床直 ¼	厚 1.4	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	25-3と図上復元。	笠懸系
540-1 244	瓦 女 瓦	床直 ¼	長 41.8 厚 2.1	白色微粒子	酸化焰 か二次 焼成	鈍橙	27図-5・26図-4・5の接合図。	笠懸系
540-2	瓦 女 瓦	床直 ¼	厚 2.7	白色微粒子	酸化焰 か	暗橙	26図-1の接合図。	笠懸系
541-1 243	瓦 女 瓦	カマド内 ¼	厚 1.7					
541-2	瓦 女 瓦	床直層 ¼	厚 2.0	白色鉱物粒子 ダイサイト	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。凹面粘土板 剥ぎ取り痕。側部面取り3回・端部面取り2 回。	吉井系
542-1	軟質陶器 擂 鉢	A区1号 溝 破片	長 30.0 厚 (5.2)	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。	乗附系か 藤岡系
542-2	軟質陶器 有孔盤形 鉢	A区1号 溝 破片	口 (30.6)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	灰橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。口縁部に孔を有 し花菱の印刻文を押捺する。	乗附系か 藤岡系
542-3	軟質陶器 擂 鉢	A区1号 溝 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(左回転)。	藤岡系
542-4	軟質陶器 擂 鉢	A区1号 溝 破片	底 (10.0)	白色微粒子	中性焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)。	吉井・藤 岡系
542-5	軟質 鉢	A区1号 溝 破片	底 (5.0)	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(左回転)後窺削りを施す。	乗附系か 藤岡系

## B 区 外

542-6	施釉陶器 灰釉瓶子	A区1号 溝 破片		やや粗い。	良好や や焼締	灰	轆轤成形（右回転）。	瀬戸系
542-7	施釉陶器 鉄絵皿	A区1号 溝 破片	口 (12.0) 底 (7.0) 高 (2.5)	やや軟質	良好	白	器面全体に長い釉を施す。見込みには鉄絵を施す。	美野大窯
542-8	円 盤	A区1号 溝 完存	長 4.2 幅 3.9 厚 1.0	白色鉍物粒子 白色粒子	還元焰 焼締め	灰	常滑焼大甕の胴部片を転用する。周辺を打ち欠き成形。整形はなし。	常滑系
542-9	円 盤	A区1号 溝 完存	長 4.3 幅 4.0 厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰褐	軟質陶器内耳鍋の胴部を転用する。周辺を打ち欠き、縁辺を磨き整形している。	乗附系か 藤岡系
542-10	円 盤	A区1号 溝 完存	長 3.8 幅 4.0 厚 1.1	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰	軟質陶器播鉢。底部片を転用。周辺を打ち欠き成形。整形はなし。	乗附系か 藤岡系
542-11	須恵器 円 盤	A区1号 溝 完存	長 4.6 幅 5.0 厚 1.0	白色微粒子 微粒雲母	還元焰 焼締	灰	須恵器胴部片を転用する。周辺を打ち欠き成形。整形はなし。	乗附系
542-12	瓦 製 円 盤	A区1号 溝 完存	長 5.5 幅 5.0 厚 1.3	白色鉍物粒子	細粒砂	黄橙	女瓦片を転用する。	吉井系
542-13	石 製 品 砥 石	A区1号 溝 完形	長 14.7 幅 4.5 厚 2.3	—	—	—	中央が高く、両端側が研減っている。刀剣用の手持砥か。	重280g
542-14	石 製 品 砥 石	A区1号 溝 破片	長 (5.4) 幅 3.2 厚 2.0	—	—	—	両側部に成形時の削り条痕が残る。手持砥か。	重60g
543-1	軟質陶器 鉢	A区1号 井戸 破片	口 30.0	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	外黒褐 断浅黄 橙	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系
543-2	軟質陶器 鉢	A区1号 井戸 破片	口 30.0	白色微粒子	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系
543-3	軟質陶器 鉢	A区1号 井戸 破片	口 31.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系
543-4	軟質陶器 鉢	A区1号 井戸 破片	口 26.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系
543-5	軟質陶器 鉢	A区1号 井戸 破片	口 28.0	白色微粒子 赤褐色粒子	中性焰	外黒褐 断鈍黄 橙	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系
543-6	軟質陶器 内耳鍋	A区1号 井戸 破片	底 22.0	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形乃至紐作り。後轆轤整形（右回転）。	在地系
543-7	土師器 鉢	A区1号 井戸 破片	底 (14.0)	白色微粒子 細粒砂	中性焰	外黒褐 断浅黄 橙	轆轤成形（左回転）、底部は回転糸切り。	在地系
543-8	土師質土 器カワラ ヶ皿	A区1号 井戸 ½	底 5.2	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形（右回転）、底部は回転糸切り。	在地系
543-9	石 製 品 播 鉢	A区1号 井戸 破片	口 37.0	粗粒安山岩	—	—	内面はよく磨減する。外面ははつり成形後研き整形を施している。	—
544-1 245	軟質陶器 内耳鍋	B区3号 井戸 ½	口 (28.0) 底 16.6 高 15.5	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形（左回転）。底部は離砂。	在地系
544-2 245	軟質陶器 播 鉢	埋土内 B区3号 井戸 ½	口 (33.2) 底 (13.6) 高 13.8	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	暗灰	紐作り後轆轤整形（左回転）。	在地系

遺物一覧表

544-3	軟質陶器 鉢	B区1号 溝 破片	底 (12.0)	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り後轆轤整形。	在地系
544-4	無釉陶器 壺	B区1号 溝 破片	厚 0.9	密	良女子	—	紐作り後轆轤整形。	—
544-5	石造品 凹石	B区1号 溝 覆土内 1/2	長 8.2 幅 11.0 厚 5.3	粗粒安山岩	—	—	地山粗粒質の礫の中央を凹ませる。	重 500.0g
544-6	石製品 茶白	B区1号 溝 破片	—	粗粒安山岩	—	—	ハンギリ部分の破片。	—
544-7	金属製品 鉄器	B区1号 溝	—	—	—	—	断面三角形を呈する。器種は不分明。	—
544-8	焼締陶器 大甕	B区1号 溝 破片	厚 0.9	白色鈹物粒子	良好	茶褐	大甕の肩部片で、正格子の叩き痕がある。	常滑系
545-1 245	土師質土 器(カワ ラケ)	B区3号 土塚墓 完形	口 15.4 底 8.6 高 3.1	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(左回転)。目込み部に撫でを施す。	—
545-2 245	磁器 碗	B区20号 土坑 1/2	口 9.8 底 3.2 高 3.9	密	良好	乳白	型作り。絵付けは梅花文で赤絵である。つぼみのガクは銅釉を用いる。	瀬戸系
545-3 245	磁器 そば猪口	B区攪乱 1/2	口 7.8 底 5.4 高 6.0	密	良好	乳白	楼閣山水文を施し、口紅も施す。	瀬戸系
545-4	石製品 石鉢	B区20号 土坑	口 (25.0)	粗粒安山岩	—	—	外面は突打ち整形後研いている。内面は使用に伴ない磨滅している。	—
545-5	石造品 宝篋印塔 基礎部	B区20号 土坑	—	粗粒安山岩	—	—	高座間の部分は周縁を平ノミ状工具で区画して内側を彫り、研ぎ整形している。	—
545-6	鉄製品 にぎり鉄	B区20号 土坑 1/2	長 14.8	—	—	—	半分を欠損する。刃部の鑄は明後稜に認められる。	—
545-7	鉄製品 火打金	B区20号 土坑 完存	長 (5.4)	—	—	—	木質は残存しない。	—
545-8	須恵器 大甕	B区20号 土坑 破片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は格子文)内面が磨滅する。	秋間系
545-9 245	軟質陶器 内耳鍋形 土器	B区21号 土坑 破片	底 (15.0)	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(左回転)。	近世
545-10	軟質陶器 香炉	B区61号 土坑 破片	厚 0.7	黒色鈹物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	帯状に雷文を押捺施文する。	—
545-11	焼締陶器 大甕	B区33号 土坑	厚 0.9	白色鈹物粒子	酸化焰	赤橙	紐作り成形。	常滑系
545-12	銅製品 飾り金具 か	B区土坑 群 破片	厚 0.5~7 重 1.0	—	—	—	断面形状が台形状をなし、突出側が外面である。又、内外面に鉄錆が付着する。	—
545-13 245	軟質陶器 植木鉢	B区21号 土坑 破片	底 (6.0)	黒色鈹物粒子 白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	橙・灰	器内外面は轆轤整形。	小泉焼か
545-14	軟質陶器 焙烙	B区21号 土坑 破片	口 (28.0)	白色粒子	酸化焰	黄橙	底部は型作り成形。口縁部は紐作り後轆轤整形。	在地系
545-15	軟質陶器 焙烙	B区21号 土坑 破片	口 (30.0)	黒色鈹物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	545-14に同じ。	在地系

## B 区 外

546-1 246	石製品 石白 (茶白上 白)	C区表土 片	径 (19.8) 厚 13.3 ふくみ0.13	粗粒安山岩	—	—	目は8分割と考えられる。上面・側部は水研 き仕上げ。芯棒受部も全体に磨かれている。 外面を著しく欠損する。	重 2,650g
546-2 246	石製品 石白 (上白)	C区4号 井戸 一部欠損	径 (26.6) 高 9.3 ふくみ0.4	粗粒安山岩	—	—	使用面は6分割に目が刻まれている。目は左 回りである。	重 7,300g
546-3 247	石製品 上白	C区集石 破片	径 30.0 高 11.4 ふくみ0.35	粗粒安山岩	—	—	目は6分割と考えられる。ふくみは浅いが使用 に伴う「クセ」により底面が歪んでいる。	重 2,670g
546-4 247	石製品 石白 (上白)	C区表土 破片	径 35.4 高 9.2 ふくみ 0	粗粒安山岩	—	—	目は6分割と思われる。芯棒受の孔は遺存し ない。下面中央は誘導孔の一部である。	重 2,100g
546-5 247	石製品 石白 (上白)	3-0-B 表土 破片	—	粗粒安山岩	—	—	上白の把手の装着部と考えられる。正面形は 正方形状を呈する。加工面は遺存しない。人 工的に破壊された可能性がある。	重400g
547-1 245	土製品 耳 栓	B区155 号址 完形	長 3.4 幅 1.4 厚 1.2	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	筒状を呈する。外面は縦位の篋撫でを施す。	孔径0.5 cm
547-2 246	土器器 埴 埴	A区148 号住 片	底 ( 3.0)	白色微粒子	酸化焰	明黄橙	型作り乃至紐作り成形。器内外面は無で整形 後篋撫きを施す。	古墳時代 前期
547-3	鉄器 紡錘車	D号1号 住 先端欠損	重 54.1	—	—	—	全体に錆化が顕著で図中左中央部は調査後の 欠損により失っている。棒軸は断面正方形 に近い。	—
547-4	縄文土器 深鉢	B区155 号土坑 破片	厚 1.4	白色粒子 赤褐色粒子 細粒砂	酸化焰	橙	隆帯区画に縄文RLを施文する部分と研磨を 施す部分がある。	—
547-5	須恵器 坏	D区土坑 ほぼ完形	口 9.2 底 5.2 高 2.8	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
547-6	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 0.4 0.8	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系
548-1 246	土器器 坏	B区3号 溝 完形	口 10.3 高 3.4	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部 は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
548-2 246	須恵器 埴	B区3号 溝 片	口 13.6 底 6.4 高 4.5	白色微粒子	還元焰	灰黄 灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
548-3 246	須恵器 坏	覆土内 B区3号 溝 片	底 ( 6.6)	白色微粒子 黒色粒子	中性焰	断・黄灰 外・黒灰	轆轤成形(右回転)。	吉井系
548-4 246	土器器 甕	B区3号 溝 片	底 9.6	微粒雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り成形後篋削り整形。	藤岡系
548-5	須恵器 甕	B区3号 溝 破片	口 15.0	白色微粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)後轆轤再整形。	秋間系
548-6	須恵器 大甕	B区3号 溝 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	断・暗紫 外・暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	乗附系
548-7	須恵器 甕	B区3号 溝 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	断・暗紫 外・暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)後轆轤再整形。	乗附系 548図-8 と同一個 体
548-8	須恵器 甕	B区3号 溝 破片	厚 0.7	白色微粒子	還元焰	断・暗紫 外・暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)後轆轤再整形。	乗附系

遺物一覧表

548-9	須惠器 大 甕	B区3号 溝 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	断・暗紫 外・暗灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系
549-1	須惠器 大 甕	B区3号 溝 破片	厚 1.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系
549-2	須惠器 大 甕	B区3号 溝 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	断・暗紫 外・灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	乗附系
549-3	石製品 砥 石	B区3号 溝 破片	厚 2.5	砂岩	—	—	大型の砥石と思われる。使用面は平坦ではない。置砥と考えられる。	重120g
549-4	鉄 器 釘	覆土内 先端欠損	長 17.5 幅 1.3~0.6 重 101.0	—	—	—	先端側が曲がり尖端部を欠損する。頭部のつぶれは少なく、1回程度の使用が考えられる。	鍛造はやや雑
549-5 247	須惠器 火 舎	覆土内 破片	口 (18.2) 底 (16.4) 高 5.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤整形(右回転)。体部に格子文等を篋描きする。	秋間系か

B区住居追補

挿図番号 図版番号	種 別 器 種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
550-1	須惠器 高台付埴	B区51号 住 破片	底 ( 8.7)	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
550-2 247	施釉陶器 緑 釉 埴	B区51号 住 破片	厚 0.35	軟質	良好	浅黄	轆轤成形(右回転)。	—
550-3 249	滑 石 片	B区57号 住 破片	長 2.4 幅 1.6 厚 0.6	滑石	—	—	製品とは思われない。剥片状で礫面を残している。	重1.2g
550-4 249	内黒土器 坏	B区61号 住 埴	口 (11.6) 底 ( 7.0) 高 ( 4.3)	白色微粒子 微粒雲母 黒色鋳物粒子	酸化焰	外・橙 内・黒灰	成形不詳、器内面磨きを施し吸炭させている。	藤岡系
550-5 249	紡 錘 車 須惠器転 用	B区61号 住 完形	長 7.7 幅 7.4 厚 0.6	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	須惠器の底部を転用する。中央に孔を施し縁辺は磨き整形している。	孔径0.8cm 乗附系か
550-6	土 師 器 甕	B区73号 住 破片	底 ( 8.7)	白色微粒子 黒色鋳物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り成形。胴部は斜位の篋削り。内面は縦位・斜位の篋撫で。	藤岡系
550-7 249	須惠器 埴	B区78号 住 完形	口 13.2 底 8.4 高 6.4	白色鋳物粒子 微粒雲母 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
550-8	石製品 砥 石	B区77号 住 破片	重 690g	牛伏砂岩	—	淡黄	砥面は緩やかな曲面である。	—
550-9 249	須惠器 埴	B区78号 住 破片	底 ( 7.8)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
550-10 249	土 師 器 小型甕	B区78号 住 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
550-11 249	土 師 器 小型甕	B区78号 住 破片	口 (12.0)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁部内外面は横撫でを施す。	藤岡系
550-12 249	土 師 器 甕	B区78号 住 破片	口 (18.4)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。型作り成形。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
550-13 249	土 師 器 甕	B区78号 住 破片	底 ( 6.0)	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。外面は縦位の篋削り。器面は篋撫後手等による横撫でを施す。	藤岡系

## B区住居追補

551-1	硯か 転用硯	B区78号 住 完存	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	須恵器大甕の転用。紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	秋間系
551-2	転用硯か	B区78号 住 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	須恵器大甕の転用か？。紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	秋間系
551-3	硯か 転用硯	B区78号 住 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	須恵器横瓮の転用か。紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	秋間系
552-1	須恵器 大甕	B区78号 住 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	褐灰 灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。自然釉付着。	東海系か
552-2	鉄器 小型塊状 鉄滓	B区78号 住 破片	厚 1.3	—	—	—	鉄滓の中では最小単位のものである。植物繊維は認められない。	重43.7g
552-3	鉄器 不詳	B区78号 住 破片	厚 0.5	—	—	—	両端及び側部の縁を欠損する。平たい棒状製品の断片と考えられる。鍛えは通有。	重9.8g
552-4	鉄器 不詳	B区78号 住 破片か	厚 1.0	—	—	—	断面正形状を呈する。棒状製品とは考えられるが器種の特定は不能である。鍛えは通有。	重5.9g
552-5	鉄器 不詳	B区78号 住 完存	厚 1.0	—	—	—	完存品であるが器種の特定は不能である。鍛えは通有であるが、比重はやや軽い。	重22.7g
552-6	鉄器 不詳	B区78号 住 部分欠損	厚 1.6	—	—	—	比重は軽い。先端側を欠損する。棒状製品と考えられるが不明。鍛えは粗い。	重12.5g
552-7	鉄器 不詳	B区78号 住 破片か	厚 1.1	—	—	—	棒状製品の端部側片である。鍛えは通有。	重18.5g
552-8	鉄器 不詳	B区78号 住 完存	厚 1.4	—	—	—	断面長方形基調。釘の頭部側とも思われるが、頭部形態が異なる。	重14.9g
552-9	鉄器 不詳	B区78号 住 一部欠損	厚 1.1	—	—	—	比重は軽い。棒状製品であるが詳細不分明。	重12.7g
552-10	鉄器 不詳	B区78号 住 破片か	厚 1.7	—	—	—	上端側は丸い棒状製品の断片か。鍛えは粗く、鍛目で剥離する状である。	重34.5g
552-11 249	石製品 紡錘車	B区78号 住 完存	長 5.1 幅 5.1 厚 1.5	蛇紋岩	—	—	器面全体に磨き整形の整形痕が多量に認められる。	重60g
552-12 249	灰釉 長頸壺 (首)	B区79号 住 破片	口 (10.0)	白色微粒子	還元焰 焼締	灰	轆轤整形（右回転）。器内外面自然釉付着。	東海系か
552-13	須恵器 瓶	B区85号 住 破片	厚 0.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。	秋間系
552-14	須恵器 大甕	B区86号 住 破片	厚 1.0	白色微粒子	酸化焰 か	橙	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海撫で整形）。	不詳
553-1	須恵器 大甕	B区86号 住 破片	厚 1.0	白色微粒子	酸化焰 か	橙	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	不詳
553-2	土師器 甕	B区87号 住 破片	最径 (29.9)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り成形乃至型作り成形。器外面は斜位の篋削り整形。器内面は撫で整形。	藤岡系
553-3	須恵器 大甕	B区87号 住 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	東海系か



遺物一覧表

554-1	須惠器 広口壺	B区89号 住 破片	底 (17.2)	白色鈹物粒子 黒色鈹物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井系
554-2	土師器 甕	B区90号 住 破片	底 (8.2)	白色鈹物粒子 黒色鈹物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。外面は縦位の篋撫で、内面は撫整形を施す。	吉井系
554-3 249	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.2)	黒色鈹物粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁部・器内面は横撫で、底部は篋削り。体部に型膚を残す。	藤岡系
554-4 249	須惠器 塊	覆土内 破片	底 (7.2)	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
554-5	須惠器 内黒土器 盤	覆土内 破片	—	透明鈹物粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	外・黄橙 内・黒	轆轤成形 (右回転)。器内面は吸炭させ器内面に暗文を施す。	太田系か 笠懸系
554-6	須惠器 甕	B区92号 住 破片	厚 1.2	白色微粒子 白色鈹物粒子	還元焰	黒灰	10本1単位の波状を廻らした後、2条の沈線を施す。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
555-1	須惠器 甕	B区92号 住 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	乗附系
555-2	須惠器 大甕	覆土内 破片	厚 1.2	白色鈹物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	秋間系
555-3	須惠器 大甕	B区93号 住 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	東海系か
555-4	鉄器? 不詳	覆土内 完存	長 2.2 幅 0.6 厚 0.7	—	—	—	比重は軽い。法師鉄状である。	重1.4g
555-5	石製品 紡錘車	B区95号 住 ほぼ完形	上径 4.2 下径 2.7 厚 1.6	蛇紋岩	—	—	側面整形は多面体整形でやや荒く単位が明稜に視認される。上面・下面は丁寧な磨き整形が施されている。	孔径 0.8cm
555-6	須惠器 壺	B区96号 住 破片	口 (22.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	秋間系
556-1	礫器 砥石	B区96号 住 1/2	幅 10.3 厚 5.3	二ツ岳軽石	—	—	五面に使用面が認められる。置砥と思われる。	重730g
556-2	礫器 擦石	B区98号 住 完存	長 12.9 幅 6.3 厚 4.9	粗粒安山岩	—	—	礫の上面が使用に伴ない磨滅する。	重 670.0g
556-3	礫器 擦石	B区98号 住 完存	長 8.2 幅 7.9 厚 3.8	粗粒安山岩	—	—	礫の上面が使用に伴ない磨滅する。	重 370.0g
556-4	礫器 敲石	B区96号 住 完存	長 10.0 幅 4.3 厚 3.8	変質安山岩	—	—	小口の両端に敲打痕が認められる。	重280g
556-5	礫器 擦石	B区98号 住 完存	長 8.3 幅 9.5 厚 4.2	石英閃緑岩	—	—	礫の上面が使用に伴ない磨滅する。	重 480.0g
556-6	須惠器 大甕	B区99号 住 破片	厚 0.8	密	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	東海系
557-1	須惠器 大甕	B区100 号住 破片	厚 1.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	東海系
557-2	須惠器 甕	B区104 号住 破片	厚 1.0	白色鈹物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形 (外面板叩き・内面宛具は素文)。	乗附系
557-3	土師器 坏	B区106 号住 一部欠損	口 12.3 底 8.6 高 3.3	微粒雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。口縁直下に型膚を残し、底部は篋削り。	藤岡系

## B区住居追補

557-4	土師器 坏	B区107 号住 片	口 高	12.6 3.1	微粒雲母 黒色鈹物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は内湾する。器厚は薄く、 体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
557-5	土師器 坏	B区107 号住 完形	口 高	12.8 3.3	白色微粒子 微粒雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は直立気味。器厚は薄く、 体部に型膚を残し底部は篋削り。	藤岡系
557-6	土師器 境	B区107 号住 破片	口	(14.1)	微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	内湾気味の口縁は緩やかに立ち上がり、内・ 外面共に横撫でを施す。体部は篋削りを施す。	藤岡系
557-7	土師器 坏	B区107 号住 破片	口	(14.2)	微粒雲母 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に弱い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
557-8	土師器 坏	B区107 号住 破片	口	(15.1)	微粒雲母 黒色鈹物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直 下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系
557-9	土師器 甕	B区107 号住 破片	口	(25.2)	微粒雲母 白色微粒子 黒色鈹物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
558-1	土師器 甕	B区107 号住 片	口	(24.5)	微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
558-2	須恵器 短頸壺	B区107 号住 片	口	(18.4)	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
558-3	須恵器 大甕	B区107 号住 破片	厚	0.8	白色鈹物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	乗附系
558-4	土師器 坏	B区110 号住 破片	口 底	(12.3) (6.8)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	暗黄橙	型作り成形か。口縁部・器内面は横撫で。体 部は篋削り。	藤岡系
558-5	土師器 甕	B区110 号住 破片	口	(18.9)	微粒雲母 細粒砂	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外傾する。	藤岡系
558-6	蓋	B区110 号住 破片	口	(18.6)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。端部は折り曲げ。	秋間系
558-7	須恵器 蓋	B区110 号住 破片	摘	2.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。天井部は回転篋削り。摘 部は貼り付け。	秋間系
558-8	土師器 台付甕	B区111 号住 破片			微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り成形。脚部を貼付後縦位の篋削り整形。	藤岡系
558-9	須恵器 甕	B区111 号住 破片	厚	0.6	黒色粒子 白色鈹物粒子 白色粒子	還元焰		紐作り。叩き整形(外面木目叩き・内面宛具 は素文)。	乗附系 吉井系
559-1	須恵器 甕	B区111 号住 破片	厚	1.0	黒色粒子 白色鈹物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面木目叩き・内面宛具 は素文)。	乗附系か 吉井系
559-2	礫 擦石	B区114 号住 完存	長 幅 厚	5.2 4.9 1.8	流紋岩	—	—	礫の上面が磨滅する。	重60.0g
559-3 250	石製品 紡錘車	B区115 号住 完形	長 幅 厚	4.0 3.9 1.6	滑石	—	—	全体にずんぐりしている。外面側は磨き整形 痕が顕著に認められる。	重40g
559-4 250	施釉陶器 緑釉境	B区115 号住 破片	厚	0.28	やや粗い。	良好	灰	轆轤成形(右回転)。	—
559-5 250	鉄器 不詳	B区115 号住 破片	厚	0.6	—	—	—	「L」字に屈曲する。断面長方形状を呈する。 詳細不明。	重1.9g

遺物一覧表

559-6	鉄器 不詳	B区115号住破片	厚 0.2	—	—	—	細い棒状製品であるが器種の特定は不能。断面正方形を呈する。	重0.7g
559-7	鉄器 不詳	B区115号住破片	厚 0.2	—	—	—	細い棒状製品であるが器種の特定は不能。頭部側は片刃箭状になる。	重1.0g
559-8	須恵器 甕	B区116号住破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	黒灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は素文）。	乗附系
559-9	須恵器 埴	B区164号住破片	底 (12.0)	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転筧起し。	秋間系

A区住居追補

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
592-1	土師器 甕	覆土内破片	口 (21.0)	黒色鉍物粒子 白色粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。型作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
592-2	土師器 坏	覆土内破片	口 (11.4)	白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
592-3	礫器	覆土内 完存	長幅厚 18.4 11.5 4.2	粗粒安山岩	—	—	器面全体が荒れている。	重 1,440.0g
592-4	礫器 敲石	床直 完存	長幅厚 13.4 6.5 4.5	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重 600.0g
593-1	礫器	床直 完存	長幅厚 17.9 19.4 6.5	粗粒安山岩	—	—	形状は扁平であるが、特別な使用痕は認められない。	重 3,500.0g
593-2	礫器	床直 完存	長幅厚 18.1 6.7 4.9	溶結凝灰岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重 1,220.0g
593-3	礫器	床直 完存	長幅厚 13.5 6.7 5.1	石英閃緑岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重 710.0g
593-4	礫器 敲石	床直 完存	長幅厚 15.6 7.0 4.2	粗粒安山岩	—	—	小口側に敲打痕が認められる。	重 800.0g
593-5	礫器	床直 完存	長幅厚 15.2 5.7 4.5	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	重 580.0g
593-6	土師器 坏	覆土内破片	口 (12.0)	赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	東毛系
593-7	土師器 坏	覆土内破片	口 (12.0)	白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	不詳
593-8	土師器 坏	覆土内破片	口 (13.0)	微粒雲母 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	東毛系か
593-9	土師器 坏	床直層 1/2	口高 12.6 4.6	白色微粒子 黒色鉍物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部は段を有する。器厚は薄く、体部に型膚を残し底部は篋削り。口縁直下に型膚を残す。	不詳
593-10	土師器 坏	覆土内 一部欠損	口高 12.3 4.0	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。口縁部は外反する。外面口縁直下に強い稜を有する。底部は篋削り。	藤岡系か
594-1	土師器 坏	床直層 1/2	口高 (14.6) (4.9)	黒色鉍物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	橙褐	型作り成形。口縁部は内傾し底部は丸い。口縁直下に型膚を残し底部は篋削り、器内面は撫後暗文を施す。	藤岡系
594-2	土師器 坏	覆土内破片	口 (14.0)	黒色鉍物粒子 微粒雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。体部に型膚を残す。	藤岡系

## A区住居追補

594-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.0)	赤褐色粒子 白色微粒子 微粒雲母	酸化焰	黄橙	型作り。口縁部直立気味。体部・底部は篋削り整形。器内面は撫で整形。体部に型膚を残す。	藤岡系
594-4	土師器 小型甕	床直 %	口 13.3 底 5.0 高 13.2	白色粒子 細粒砂	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は直立する。下半は型作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
594-5	土師器 台付甕	覆土内 %	口 12.7 底 10.0 高 15.4	白色鉍物粒子 デイサイト 微粒雲母	酸化焰	赤褐	口縁部は短かく直立する。紐作りか。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。脚は貼り付け。	藤岡系
594-6	土師器 甕	覆土内 %	口 (20.5)	白色粒子 白色鉍物粒子 デイサイト	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
594-7	土師器 甕	カマド内 %	底 4.0	白色鉍物粒子 粗粒砂 微粒雲母	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
594-8	土師器 坏	覆土内 破片	口 (19.2)	赤褐色粒子 シルト粒子	酸化焰	浅黄橙	成形不詳。器面は風化が著しく整形不詳。	不詳
594-9	土師器 甕	覆土内 %	口 22.2 孔 3.1 高 13.7	白色粒子 微粒雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り乃至型作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
594-10	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	秋間系
594-11	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面宛具は青海波文）。	秋間系



（助）群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第117集  
上野国分僧寺・  
尼寺中間地域(5)

《図表編》

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵  
文化財発掘調査報告書第36集—

---

平成3年3月15日印刷

平成3年3月20日発行

編集／（助）群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橘村下箱田784番地の2  
電話(0279)52-2511(代表)

群馬県教育委員会  
前橋市大手町1丁目1番1号  
電話(0272)23-1111

発行／群馬県考古資料普及会  
勢多郡北橘村下箱田784番地の2  
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

---